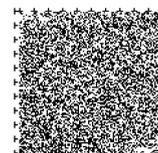
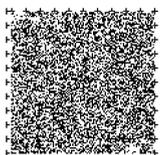


台東区障害者実態調査 報告書

令和7年12月

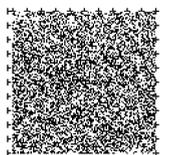
台東区



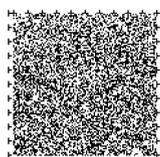


目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査概要	3
(1) 調査対象	3
(2) 調査方法	3
(3) 調査期間	3
(4) 調査票回収数及び回収率	3
3. 報告書の見方	4
(1) 百分率について	4
(2) 単純集計及び分析について	4
(3) クロス集計及び分析について	4
(4) 令和4年度調査との比較について	4
(5) 音声の読み上げについて	4
第2章 調査の結果	5
I 障害者調査	7
1. 基本属性	7
(1) 調査回答者	7
2. あなた自身について	8
(1) 年齢	8
(2) 障害の種類	9
(3) 難病医療費助成受給者の権利認知	9
(4) 手帳の種類と等級	10
(5) 手帳の取得年齢	12
3. 暮らし方について	14
(1) 現在の暮らし方	14
(2) 将来希望する暮らし方	15
(3) 共同生活住居希望時期	17
(4) 台東区在住の有無	18
(5) 現在の居住地	19
(6) 将来希望する居住地	20
4. 日常生活について	21
(1) 生活の支援者	21

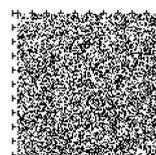


(2) 生活の支援者の年齢	23
(3) 支援が必要な時間帯	25
(4) 支援が必要な日数	26
(5) 支援の内容	27
(6) 悩みごと・困りごと	29
(7) 悩みごと・困りごとの相談先	32
(8) 現在の平日日中の過ごし方	35
(9) 希望する平日日中の過ごし方	37
(10) 外出頻度	40
(11) 外出における困りごと	41
(12) まちのバリアフリー対応の満足度	44
5. 仕事について	45
(1) 現在の就労状況	45
(2) 働き方	46
(3) 1週間の就労時間	47
(4) ひと月あたりの平均収入	48
(5) 仕事における悩みごと・困りごと	49
(6) 職場や作業所のバリアフリー対応の満足度	51
(7) 希望する働き方	52
(8) 仕事をしていない理由	54
(9) 障害者が働きやすい環境	56
6. コミュニケーション・意思疎通について	58
(1) コミュニケーションの頻度	58
(2) コミュニケーションに困った場所や場面	59
(3) 利用する意思疎通手段・支援	60
(4) 充実を希望する情報媒体	61
7. 障害福祉サービスについて	63
(1) 障害福祉サービスの利用状況	63
(2) 障害福祉サービスを利用していない理由	64
(3) 障害支援区分の認定状況	66
(4) サービスの申請手続き等を行っている人	68
(5) サービス等利用計画の作成者	69
(6) 相談支援事業所利用の満足度	70
(7) セルフプランを選んだ理由	71
(8) 障害福祉サービスの支給決定内容（量）の満足度	72
(9) 事業者の対応の満足度	73

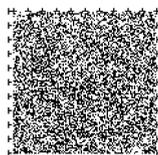


(10) 苦情や不満があったときの事業者の対応状況	74
(11) 今後、充実を希望するサービス	75
(12) 介護保険サービスの利用状況	77
(13) 介護保険サービスの満足度	79
8. 医療的ケアについて	80
(1) 必要とする医療的ケア	80
(2) 医療的ケアの充実に必要な支援	83
9. 障害者の権利擁護、虐待、差別について	85
(1) 成年後見制度の認知度	85
(2) 成年後見制度の利用意向	86
(3) 虐待を受けた経験	87
(4) 虐待の内容	88
(5) 虐待を受けた人（誰から虐待を受けたか）	89
(6) 虐待を受けた際の相談先	91
(7) 虐待場面に遭遇した経験	94
(8) 障害者虐待防止法の認知度	95
(9) 障害者虐待防止センターの認知度	96
(10) 障害者差別解消法の認知度	97
(11) 障害を理由とする差別を受けた経験	98
(12) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面	99
(13) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先	100
10. 災害・緊急時のことについて	101
(1) 災害時の困難・不安	101
(2) 災害時の避難方法の理解・把握	103
(3) 災害時の希望避難場所	104
(4) 災害対応用の備蓄物資	105
(5) 避難行動要支援者名簿の登録状況	107
(6) 個別支援計画の作成状況	108
11. 台東区への要望等について	109
(1) 障害者が地域で安心して暮らすために重要だと思う施策	109
(2) 自由意見	112

II 障害児調査	119
1. 基本的属性	119
(1) 調査回答者	119
2. お子さん自身について	120

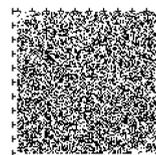


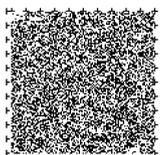
(1) 年齢	120
(2) 手帳の種類と等級	121
(3) 手帳の取得年齢	123
(4) 障害の種類	125
3. 暮らし方について	126
(1) 現在の暮らし方	126
(2) 将来希望する暮らし方	127
4. 日常生活について	128
(1) 生活の支援者	128
(2) 生活の支援者の年齢	130
(3) 支援の内容	132
(4) 外出頻度	134
(5) 外出における困りごと	135
(6) まちのバリアフリー対応の満足度	137
5. 生活を支援している方の仕事について	138
(1) 支援者の現在の就業状況	138
(2) 支援者の週の就労時間	141
6. 療育・教育について	144
(1) 日中の活動の場	144
(2) 放課後の過ごし方	146
(3) 休日や余暇時間の過ごし方	147
(4) 成長や発達について気がかり・心配になったきっかけ	149
(5) 成長や発達について気がかり・心配になった時期	150
(6) 成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先	151
(7) 育児における悩みや不安	153
(8) 育児における悩みや不安の相談先	156
7. コミュニケーション・意思疎通について	158
(1) 利用する意思疎通手段・支援	158
(2) 充実を希望する情報媒体	159
8. 福祉サービスについて	161
(1) 福祉サービスの利用状況	161
(2) 福祉サービスを利用していない理由	162
(3) サービスを利用するための支援者	163
(4) 障害児支援利用計画の作成者	164
(5) 相談支援事業所利用の満足度	165
(6) セルフプランを選んだ理由	166



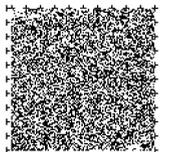
(7) 事業者の対応の満足度	167
(8) 苦情や不満があったときの事業者の対応状況	168
(9) 今後、充実を希望するサービス	169
9. 医療的ケアについて	172
(1) 必要とする医療的ケア	172
(2) 医療的ケアの充実に必要な支援	174
10. 障害者の権利擁護、虐待、差別について	175
(1) 虐待を受けた経験	175
(2) 虐待の内容	176
(3) 虐待を受けた人（誰から虐待を受けたか）	177
(4) 虐待を受けた際の相談先	178
(5) 虐待場面に遭遇した経験	180
(6) 障害者虐待防止法の認知度	181
(7) 障害者虐待防止センターの認知度	182
(8) 障害者差別解消法の認知度	183
(9) 障害を理由とする差別を受けた経験	184
(10) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面	185
(11) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先	187
11. 災害・緊急時のことについて	188
(1) 災害時の困難・不安	188
(2) 災害時の避難方法の理解・把握	190
(3) 災害時の希望避難場所	191
(4) 災害対応用の備蓄物資	192
(5) 避難行動要支援者名簿の登録状況	194
(6) 個別支援計画の作成状況	195
12. 台東区への要望等について	196
(1) 障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策	196
(2) 自由意見	199
第3章 調査票	205
1. 障害者調査票	207
2. 障害児調査票	221

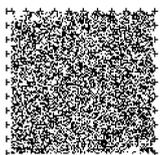
本書は、「台東区カラーユニバーサルデザインガイドライン」に基づき、より多くの人に見やすく、読みやすいようにデザインされた書体である「ユニバーサルデザインフォント」を使用しています。





第1章 調査の概要





1. 調査目的

本調査は、障害者（児）の生活実態及び要望等を把握し、「第8期台東区障害福祉計画」（令和9年度～令和11年度）を策定するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査概要

(1) 調査対象

障害者（18歳以上）1,100件

障害児（18歳未満）450件

区分	対象	抽出方法	対象者数
身体障害者	①身体障害者手帳所持者	無作為抽出	600人
知的障害者	②愛の手帳（療育手帳）所持者	無作為抽出	100人
精神障害者	③精神障害者保健福祉手帳所持者	無作為抽出	200人
難病患者等	④難病医療費等助成の受給者	無作為抽出	200人
障害児等	上記①～④または障害児通所支援利用者	無作為抽出	450人
合計			1,550人

(2) 調査方法

配布：郵送配布

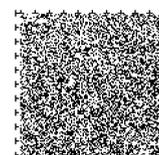
回答：郵送、訪問またはインターネット回答（無記名回答）

(3) 調査期間

令和7年8月27日（水）～令和7年9月30日（火）

(4) 調査票回収数及び回収率

A：対象者数	B：回収数	C：回収率（ $B/A \times 100$ ）
障害者：1,100人	631人	57.4%
障害児：450人	307人	68.2%
合計：1,550人	938人	60.5%



3. 報告書の見方

(1) 百分率について

調査結果の比率は、その設問の回答数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合があります。

(2) 単純集計及び分析について

設問ごとに「単純集計」を行い、その特徴等を記述しています。

(3) クロス集計及び分析について

設問の回答者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、障害別等を分析の柱とするクロス集計表を掲載し、分析を行っています。

クロス集計表においては、障害別は複数回答項目であり、また障害の種別で「無回答」は含まないため、分析軸（縦軸）の回答者数の合計値と「全体」の数値は一致しません。

また、特定の選択肢を選んだ回答者だけに質問するなどの質問の流れによっては、質問の回答者数が少なくなる場合があります。回答者が30人未満の場合、有効な分析をする回答者数を満たしているとは言えませんが、参考として図表並びに分析を掲載しています。

障害児のクロス集計の障害別の区分は、身体障害者手帳、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを持っていると回答した方（問3）の障害の種類（問3-2）を基に集計しています。

障害児の年齢別クロス集計における年齢層の区分は、以下のように定めています。

（未就学児：0～5歳、就学期：6～11歳、中高生：12～17歳）

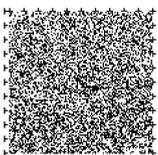
※クロス集計…障害別の調査回答者など、2つの項目に着目してデータの集計や分析を行うこと。

(4) 令和4年度調査との比較について

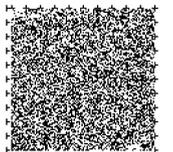
令和4年度に実施した障害福祉アンケート調査（以下、「令和4年度」という）と同様の調査項目については、時系列の変化について特徴等を記述しています。

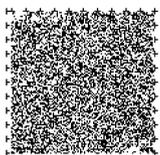
(5) 音声の読み上げについて

一部の表及び第3章調査票の内容については、音声の読み上げを省略しています。内容について知りたい場合は、障害福祉課（03-5246-1206）までお問い合わせください。



第2章 調査の結果





I 障害者調査

1. 基本属性

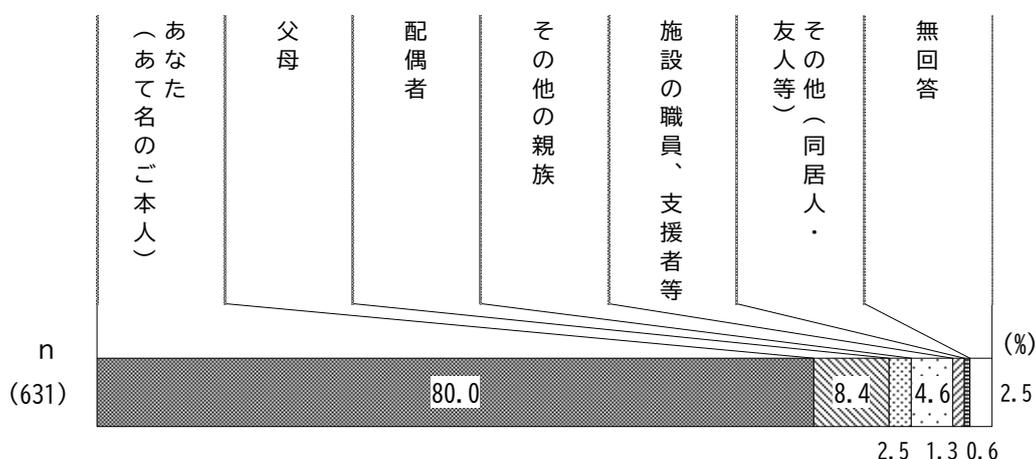
(1) 調査回答者

問1 はじめに、このアンケートにご回答いただく方はどなたですか。(1つに○)

調査回答者は、「あなた（あて名ご本人）」が80.0%を占めている。

障害別にみると、身体障害、発達障害、精神障害、難病（特定疾病）では「あなた（あて名ご本人）」が最も高くなっており、知的障害では「父母」が最も高くなっている。

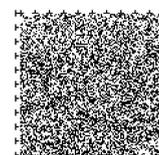
<図表 I - 1 - 1 調査回答者（全体）>



<図表 I - 1 - 2 調査回答者（障害別）>

	回答者数 (n)	あなた（あて名ご本人）	父母	配偶者	その他の親族	施設の職員・支援者等	その他（同居人・友人等）	無回答
全体	631	80.0	8.4	2.5	4.6	1.3	0.6	2.5
身体障害	303	81.2	8.9	1.7	4.0	1.3	0.7	2.3
知的障害	70	28.6	50.0	-	8.6	4.3	1.4	7.1
発達障害	51	86.3	7.8	3.9	-	-	-	2.0
精神障害	115	87.8	3.5	3.5	2.6	1.7	0.9	-
高次脳機能障害	14	50.0	28.6	14.3	7.1	-	-	-
難病（特定疾病）	165	89.1	3.0	3.0	4.2	-	-	0.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



2. あなた自身について

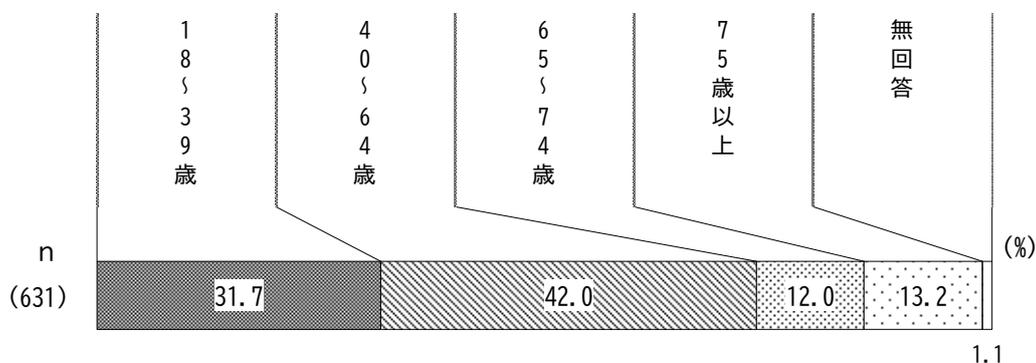
(1) 年齢

問2 あなたの令和7年9月1日現在の年齢をお答えください。(記入回答)

年齢は「40～64歳」の42.0%が最も高く、「18～39歳」が31.7%、「75歳以上」が13.2%で続いている。

障害別にみると、知的障害と発達障害では「18～39歳」が最も高く、他の障害では「40～64歳」が最も高くなっている。

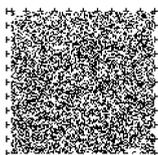
<図表 I - 2 - 1 年齢 (全体) >



<図表 I - 2 - 2 年齢 (障害別) >

障害別	回答者数 (n)	年齢				
		18～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
全体	631	31.7	42.0	12.0	13.2	1.1
身体障害	303	30.7	45.9	9.6	13.2	0.7
知的障害	70	54.3	34.3	7.1	2.9	1.4
発達障害	51	62.7	27.5	5.9	2.0	2.0
精神障害	115	33.0	36.5	21.7	7.8	0.9
高次脳機能障害	14	28.6	42.9	14.3	14.3	-
難病 (特定疾病)	165	32.1	43.6	8.5	15.8	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

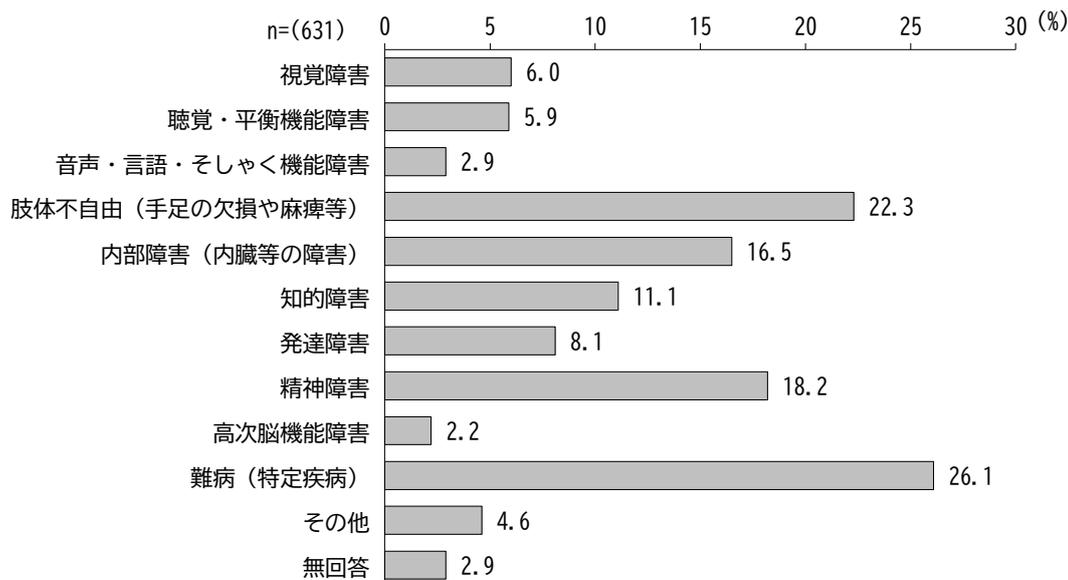


(2) 障害の種類

問3 あなたの障害は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

障害の種類は、「難病（特定疾病）」が26.1%で最も高く、「肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）」が22.3%、「精神障害」が18.2%が続いている。

<図表 I - 3 - 1 障害の種類（全体）>



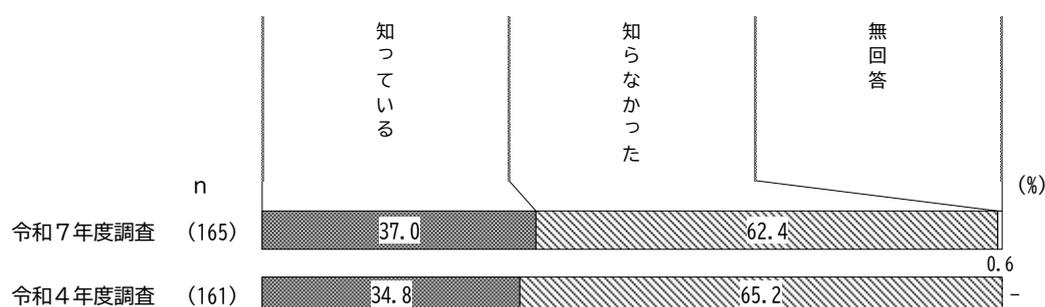
(3) 難病医療費助成受給者の権利認知

【問3で「10. 難病（特定疾病）」に○をした方におたずねします。】

問3-1 難病医療費助成を受けている方は、身体障害者手帳を持っていなくても、必要と認められた障害福祉サービス等の利用が可能です。あなたはこのことを知っていますか。(1つに○)

難病医療費助成受給者の権利認知は、「知らなかった」が62.4%を占めている。前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

<図表 I - 4 - 1 難病医療費助成受給者の権利認知（全体）>



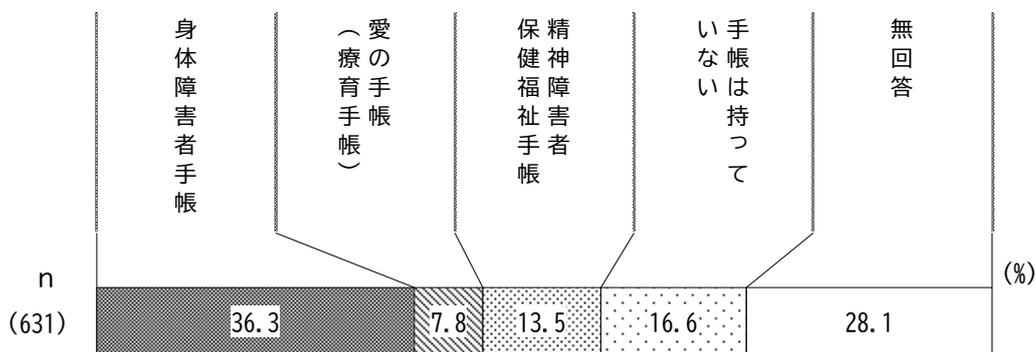
(4) 手帳の種類と等級

問4 あなたがお持ちの手帳の等級はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

手帳の種類は、「身体障害者手帳」が36.3%で最も高くなっている。

障害別にみると、難病（特定疾病）では「手帳は持っていない」が60.0%、発達障害では「精神障害者保健福祉手帳」が49.0%となっている。

<図表 I - 5 - 1 手帳の種類（全体）>

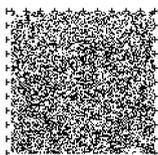


<図表 I - 5 - 2 手帳の種類（障害別）>

	回答者数 (n)	身体障害者手帳	愛の手帳 (療育手帳)	精神障害者保健福祉手帳	手帳は持っていない	無回答
全体	631	36.3	7.8	13.5	16.6	28.1
身体障害	303	66.3	3.6	1.7	1.7	31.0
知的障害	70	17.1	60.0	-	-	37.1
発達障害	51	11.8	19.6	49.0	-	29.4
精神障害	115	3.5	3.5	66.1	3.5	26.1
高次脳機能障害	14	35.7	7.1	35.7	-	21.4
難病 (特定疾病)	165	21.8	1.8	1.8	60.0	15.8

単位：%

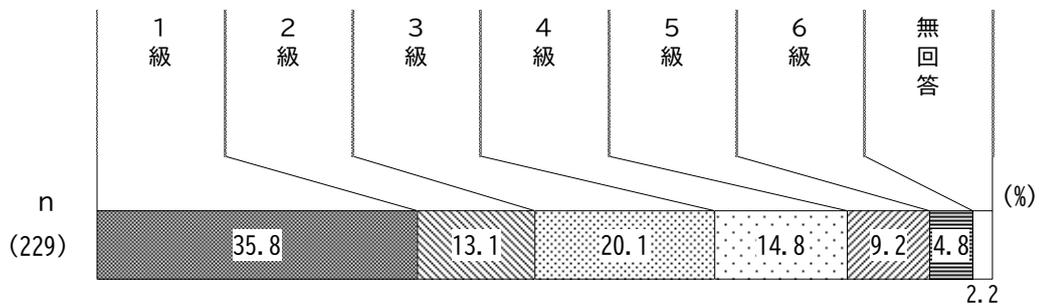
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



身体障害者手帳

身体障害者手帳の等級は、「1級」が35.8%で最も高く、「3級」が20.1%、「4級」が14.8%で続いている。

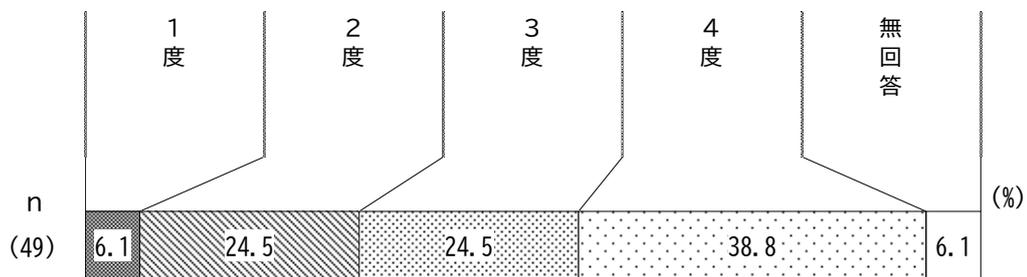
<図表 I - 5 - 3 身体障害者手帳の等級 (全体) >



愛の手帳 (療育手帳)

愛の手帳の等級は、「4度」が38.8%で最も高く、次いで「2度」と「3度」が共に24.5%となっている。

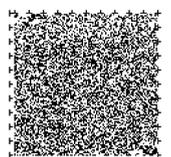
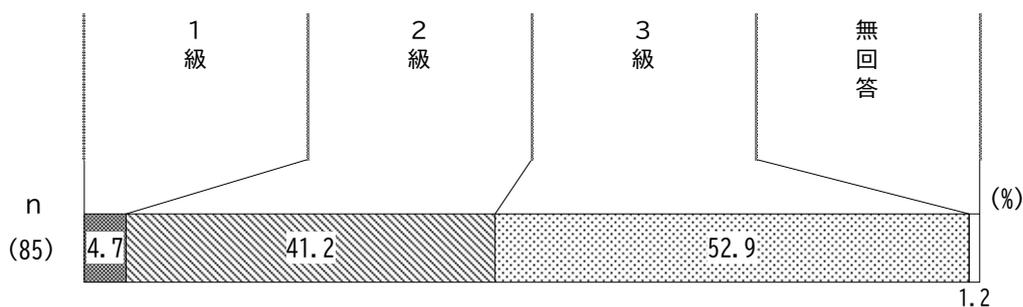
<図表 I - 5 - 4 愛の手帳の等級 (全体) >



精神障害者福祉手帳

精神障害者福祉手帳は、「3級」が52.9%で最も高く、次いで「2級」が41.2%となっている。

<図表 I - 5 - 5 精神障害者福祉手帳の等級 (全体) >



(5) 手帳の取得年齢

【問4で「1」～「3」(手帳を持っている)に○をした方におたずねします。】

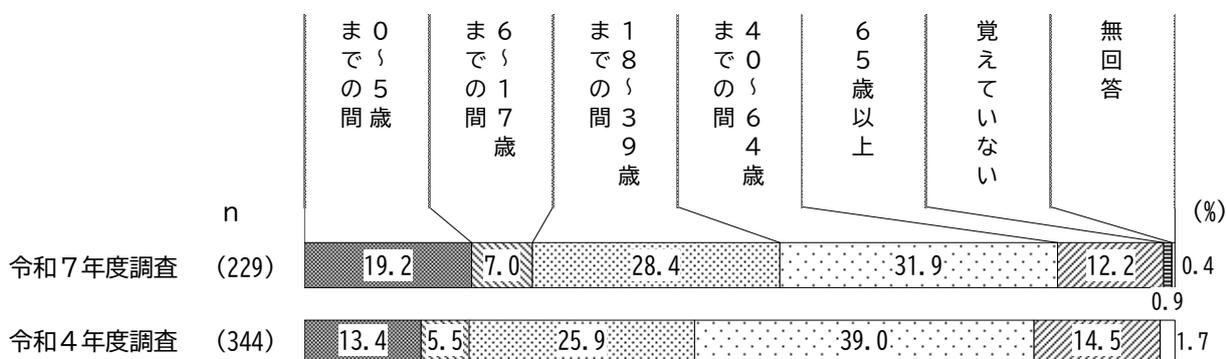
問4-1 あなたがはじめて手帳を取得したのは何歳のときですか。(手帳ごと、1つに○)

身体障害者手帳

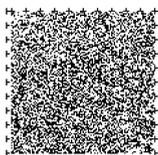
身体障害者手帳は、「40～64歳までの間」が31.9%で最も高く、「18～39歳までの間」が28.4%、「0～5歳までの間」が19.2%で続いている。

前回調査と比較すると、「40～64歳までの間」が7.1ポイント減少している。

<図表 I - 6 - 1 身体障害者手帳の取得時期 (全体) >



※令和7年度調査より、選択肢「覚えていない」が追加された。

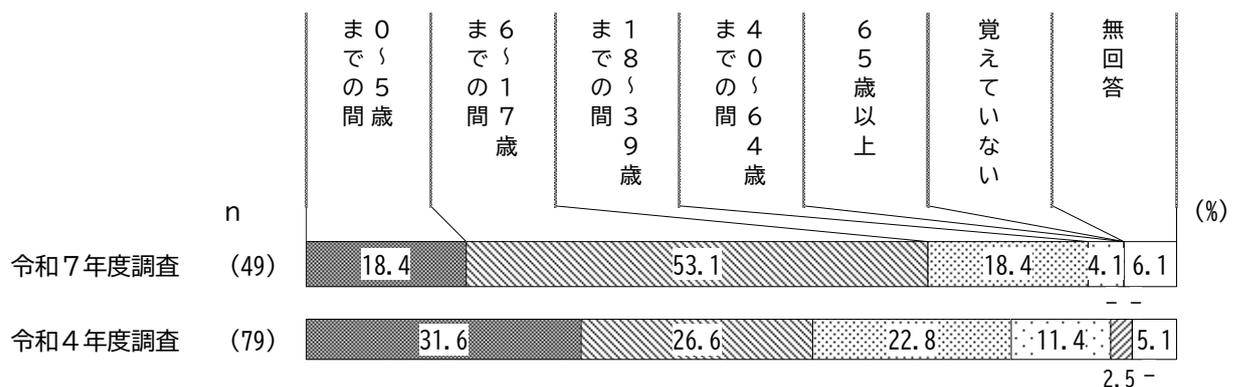


愛の手帳(療育手帳)

愛の手帳(療育手帳)は、「6～17歳までの間」が53.1%で最も高く、次いで「0～5歳までの間」と、「18～39歳までの間」が18.4%となっている。

前回調査と比較すると、「6～17歳までの間」が26.5ポイント増加している。

<図表 I - 6 - 2 愛の手帳(療育手帳)の取得時期(全体)>



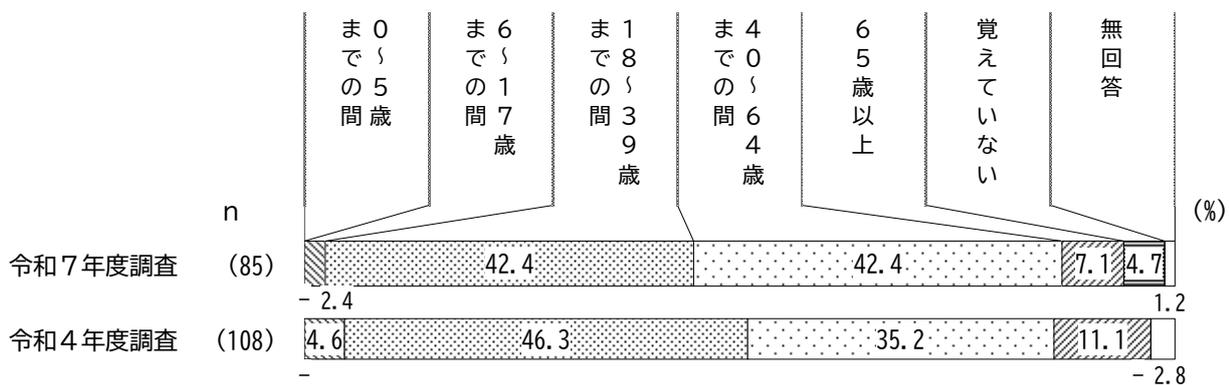
※令和7年度調査より、選択肢「覚えていない」が追加された。

精神障害者保健福祉手帳

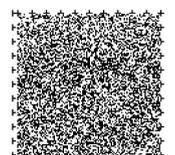
精神障害者保健福祉手帳は、「18～39歳までの間」と「40～64歳までの間」が共に42.4%で最も高く、次いで「65歳以上」が7.1%となっている。

前回調査と比較すると、「40～64歳までの間」が7.2ポイント増加している。

<図表 I - 6 - 3 精神障害者保健福祉手帳の取得時期(全体)>



※令和7年度調査より、選択肢「覚えていない」が追加された。



3. 暮らし方について

(1) 現在の暮らし方

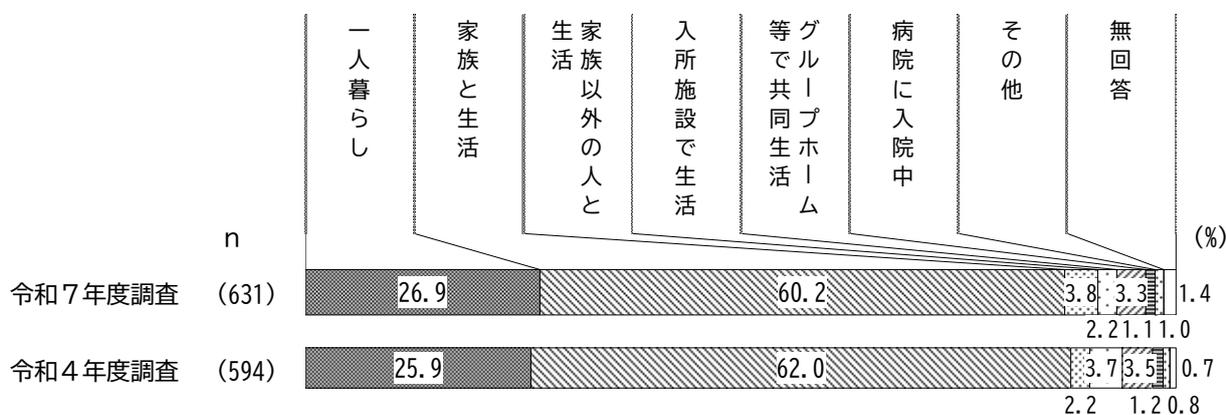
問5 あなたは現在、どのような暮らし方をしていますか。(1つに○)

現在の暮らし方は、「家族と生活」が60.2%と最も高く、次いで「一人暮らし」が26.9%となっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、いずれの障害も「家族と生活」が最も高いが、精神障害では「家族と生活」に次いで「一人暮らし」が40.9%と他の障害よりも高くなっている。

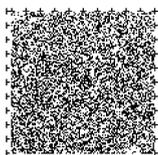
<図表 I-7-1 現在の暮らし方 (全体)>



<図表 I-7-2 現在の暮らし方 (障害別)>

	回答者数 (n)	一人暮らし	家族と生活	家族以外のひと生活	入所施設で生活	グループホーム等で共同生活	病院に入院中	その他	無回答
全体	631	26.9	60.2	3.8	2.2	3.3	1.1	1.0	1.4
身体障害	303	28.4	61.1	3.6	2.0	2.3	1.3	1.0	0.3
知的障害	70	1.4	62.9	-	7.1	27.1	-	-	1.4
発達障害	51	29.4	58.8	7.8	-	3.9	-	-	-
精神障害	115	40.9	50.4	3.5	1.7	0.9	-	1.7	0.9
高次脳機能障害	14	14.3	78.6	-	-	-	7.1	-	-
難病 (特定疾病)	165	23.6	66.1	4.2	3.6	0.6	0.6	1.2	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 将来希望する暮らし方

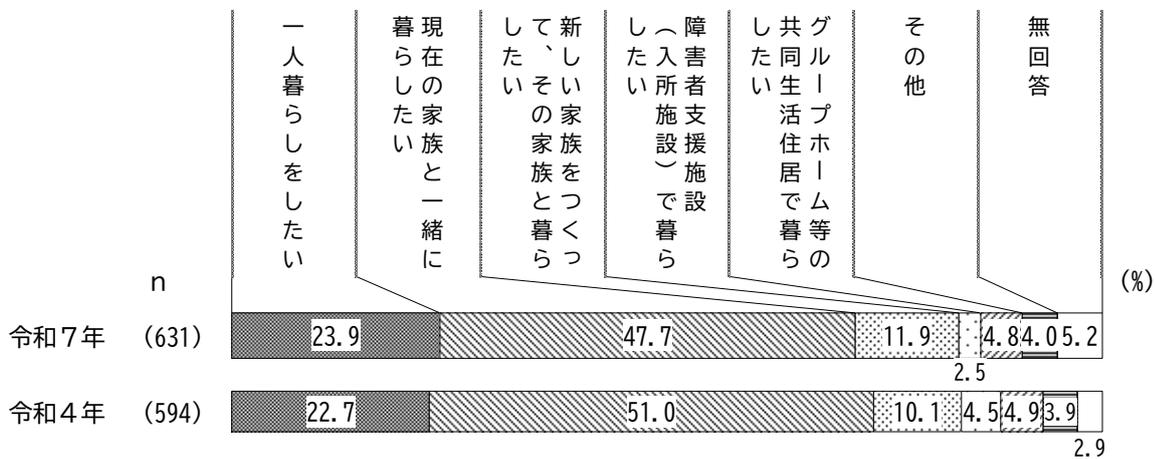
問6 あなたは将来、どのような暮らし方を望んでいますか。(1つに○)

将来希望する暮らし方は、「現在の家族と一緒に暮らしたい」が47.7%で最も高く、「一人暮らしをしたい」が23.9%、「新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい」が11.9%が続いている。前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、知的障害では「グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」が30.0%と他の障害よりも高くなっている。

生活形態別にみると、引き続き現在の暮らし方を続けたいと望んでいる人が多い。

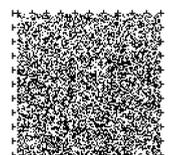
<図表 I - 8 - 1 将来希望する暮らし方 (全体) >



<図表 I - 8 - 2 将来希望する暮らし方 (障害別) >

	回答者数 (n)	一人暮らしをしたい	現在の家族と一緒に暮らしたい	新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい	障害者支援施設(入所施設)で暮らしたい	グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい	その他	無回答
単位: %								
全体	631	23.9	47.7	11.9	2.5	4.8	4.0	5.2
身体障害	303	24.1	49.2	11.6	1.7	4.0	4.6	5.0
知的障害	70	12.9	32.9	1.4	10.0	30.0	1.4	11.4
発達障害	51	41.2	33.3	17.6	-	3.9	2.0	2.0
精神障害	115	40.0	30.4	13.0	3.5	2.6	7.0	3.5
高次脳機能障害	14	7.1	64.3	7.1	-	-	7.1	14.3
難病(特定疾病)	165	15.8	60.6	15.8	2.4	1.2	2.4	1.8

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

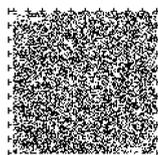


第2章 調査の結果

<図表 I - 8 - 3 将来希望する暮らし方（生活形態別）>

	回答者数（n）	一人暮らしをしたい	現在の家族と一緒に暮らしたい	新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい	障害者支援施設（入所施設）で暮らしたい	グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい	その他	無回答
単位：%								
全体	631	23.9	47.7	11.9	2.5	4.8	4	5.2
一人暮らし	170	57.6	2.4	25.3	1.8	2.9	5.3	4.7
家族と生活	380	11.8	73.4	5.5	2.4	2.4	2.1	2.4
家族以外の人と生活	24	12.5	29.2	45.8	-	-	12.5	-
入所施設で生活	14	7.1	35.7	-	21.4	-	14.3	21.4
グループホーム等で共同生活	21	4.8	-	-	-	76.2	-	19
病院に入院中	7	-	57.1	-	-	-	28.6	14.3
その他	6	33.3	16.7	-	16.7	-	16.7	16.7

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(3) 共同生活住居希望時期

【問6で「4. 障害者支援施設（入所施設）で暮らしたい」、「5. グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」に○をした方におたずねします。】

問6-1 いつから障害者支援施設（入所施設）、グループホーム等の共同生活住居で暮らしたいですか。（1つに○）

共同生活住居希望時期は、「現在住んでいる障害者支援施設、グループホーム等の共同生活住居に住み続けたい」が43.5%で最も高く、次いで「5～9年以内に入居したい」が26.1%となっている。

前回調査と比較すると、「5～9年以内に入居したい」が22.7ポイント増加している。

<図表 I-9-1 共同生活住居希望時期（全体）>

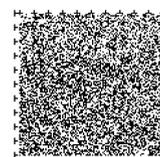


※令和7年度調査より、選択肢「現在住んでいる障害者支援施設、グループホーム等の共同生活住居に住み続けたい」が追加された。

<図表 I-9-2 共同生活住居希望時期（障害別）>

障害別	回答者数 (n)	今すぐに入居したい (%)	1～2年以内に入居したい (%)	3～4年以内に入居したい (%)	5～9年以内に入居したい (%)	10年以上先で入居したい (%)	現在住んでいる障害者支援施設等に住み続けたい (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	46	2.2	6.5	4.3	26.1	6.5	43.5	8.7	2.2
身体障害	17	-	17.6	11.8	17.6	11.8	29.4	5.9	5.9
知的障害	28	3.6	10.7	3.6	21.4	3.6	53.6	-	3.6
発達障害	2	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-
精神障害	7	14.3	-	-	42.9	-	28.6	14.3	-
高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	6	-	-	-	33.3	-	50.0	16.7	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

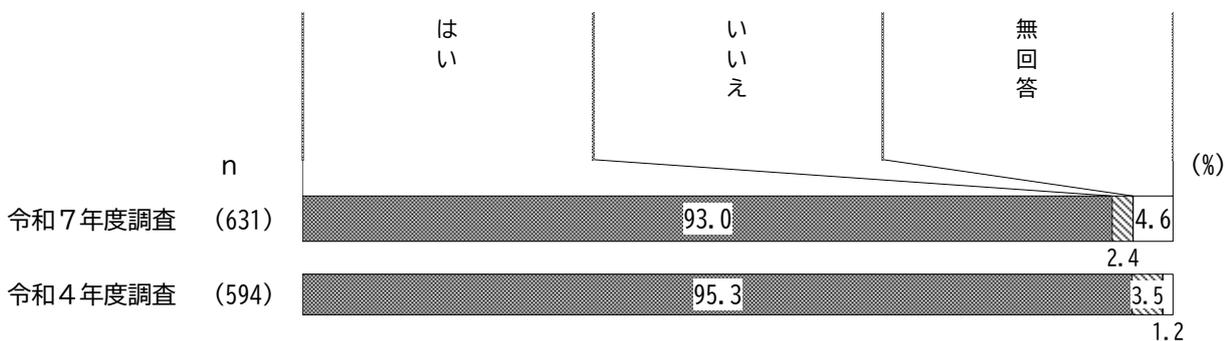


(4) 台東区在住の有無

問7 あなたは現在、台東区に住んでいますか。(1つに○)

台東区在住の有無は、「はい」が93.0%を占めている。
 前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。
 障害別にみると、いずれの障害も「はい」が90%を超えている。

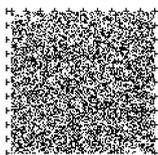
<図表 I-10-1 台東区在住の有無(全体)>



<図表 I-10-2 台東区在住の有無(障害別)>

単位：%	回答者数 (n)	はい	いいえ	無回答
全体	631	93.0	2.4	4.6
身体障害	303	94.4	1.7	4.0
知的障害	70	91.4	4.3	4.3
発達障害	51	96.1	2.0	2.0
精神障害	115	94.8	0.9	4.3
高次脳機能障害	14	92.9	-	7.1
難病(特定疾病)	165	94.5	3.0	2.4

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



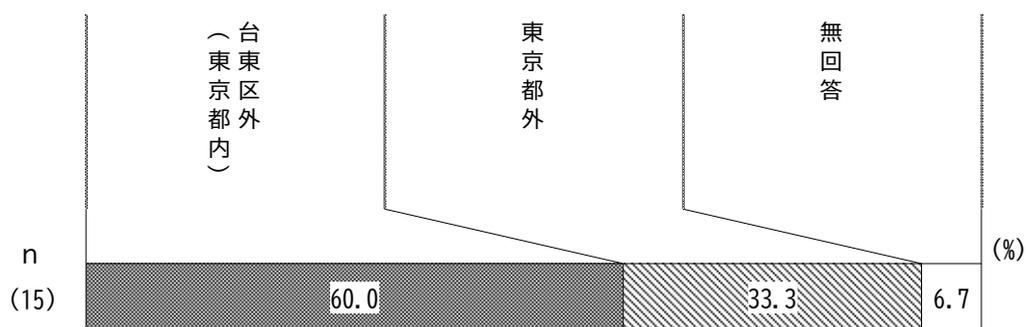
(5) 現在の居住地

【問7-1は、問7で「2.いいえ」に○をした方におたずねします。】

問7-1 あなたは現在、どちらに住んでいますか。(1つに○)

現在の居住地は、「台東区外（東京都内）」が60.0%、東京都外が33.3%となっている。

<図表 I -11-1 現在の居住地（全体）>



<図表 I -11-2 現在の居住地（障害別）>

	回答者数 (n)	(台東区外内)	東京都外	無回答
全体	15	60.0	33.3	6.7
身体障害	5	80.0	20.0	-
知的障害	3	66.7	33.3	-
発達障害	1	-	100.0	-
精神障害	1	-	100.0	-
高次脳機能障害	-	-	-	-
難病（特定疾病）	5	80.0	20.0	-

単位：%

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) 将来希望する居住地

【問7-2は、問7で「1.はい」または「2.いいえ」に○をした方におたずねします。】

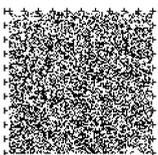
問7-2 将来、住みたい地域はどこですか。(1つに○)

将来希望する居住地を台東区在住の有無別で見ると、台東区に在住している方、台東区以外に在住している方ともに「今住んでいるところ」が最も高くなっている。

<図表 I-12-1 将来希望する居住地（台東区在住の有無別）>

	回答者数 (n)	今住 んでいる ところ	台 東 区	そ の 他	無 回 答
単位：%					
全体	631	42.0	32.6	18.2	7.1
はい（台東区に在住）	587	42.8	34.1	19.1	4.1
いいえ（台東区以外に在住）	15	53.3	13.3	13.3	20.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



4. 日常生活について

(1) 生活の支援者

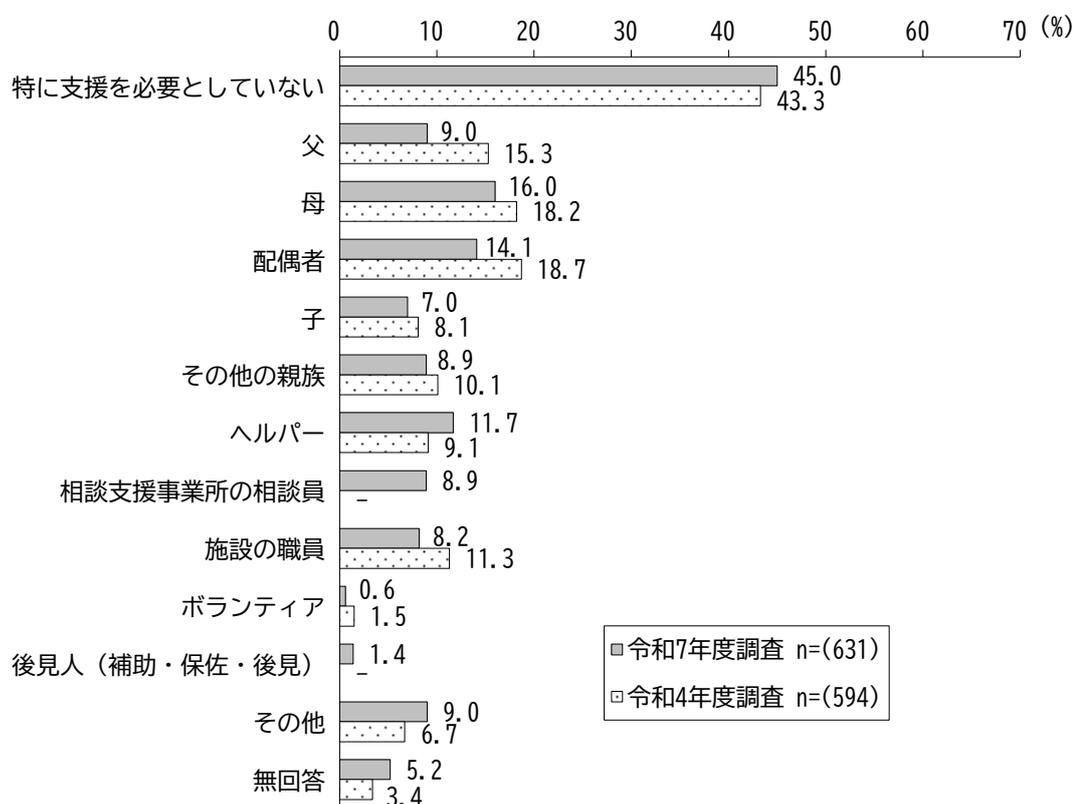
問8 日常生活を送るうえで、あなたの生活の支援をしている方はいますか。
(あてはまるものすべてに○)

生活の支援者は、『支援者がいる』割合（全体から「特に支援を必要としていない」と「無回答」を除いたもの）は49.8%となっている。具体的な支援者は、「母」が16.0%で最も高くなっている。

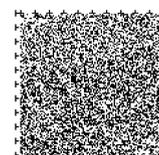
前回調査と比較すると、「ヘルパー」の割合が増加しており、それ以外の支援者の割合は減少している。

障害別にみると、知的障害では『支援者がいる』割合が90.0%と他の障害よりも高くなっている。

<図表 I -13-1 生活の支援者（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「相談支援事業所の相談員」、「後見人（補助・保佐・後見）」が追加された。



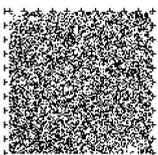
第2章 調査の結果

<図表 I -13-2 生活の支援者（障害別）>

	回答者数（n）	特に支援を必要と していない	父	母	配偶者	子	その他の親族	ヘルパー	相談支援事業所の 相談員	施設の職員	ボランティア
全体	631	45.0	9.0	16.0	14.1	7.0	8.9	11.7	8.9	8.2	0.6
身体障害	303	44.9	10.6	17.2	17.5	7.3	9.2	15.2	7.9	6.9	0.3
知的障害	70	5.7	38.6	60.0	2.9	1.4	22.9	32.9	35.7	47.1	1.4
発達障害	51	29.4	19.6	37.3	9.8	2.0	9.8	11.8	13.7	9.8	5.9
精神障害	115	32.2	12.2	16.5	11.3	3.5	10.4	9.6	10.4	7.8	1.7
高次脳機能障害	14	-	7.1	42.9	42.9	21.4	28.6	28.6	21.4	14.3	-
難病（特定疾病）	165	66.7	3.0	7.9	12.1	9.1	4.8	8.5	6.7	4.2	0.6

	回答者数（n）	後見人（補助・ 保佐）	その他	無回答
全体	631	1.4	9.0	5.2
身体障害	303	0.7	8.9	5.0
知的障害	70	7.1	10.0	4.3
発達障害	51	2.0	19.6	2.0
精神障害	115	0.9	15.7	4.3
高次脳機能障害	14	7.1	7.1	-
難病（特定疾病）	165	-	5.5	1.8

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



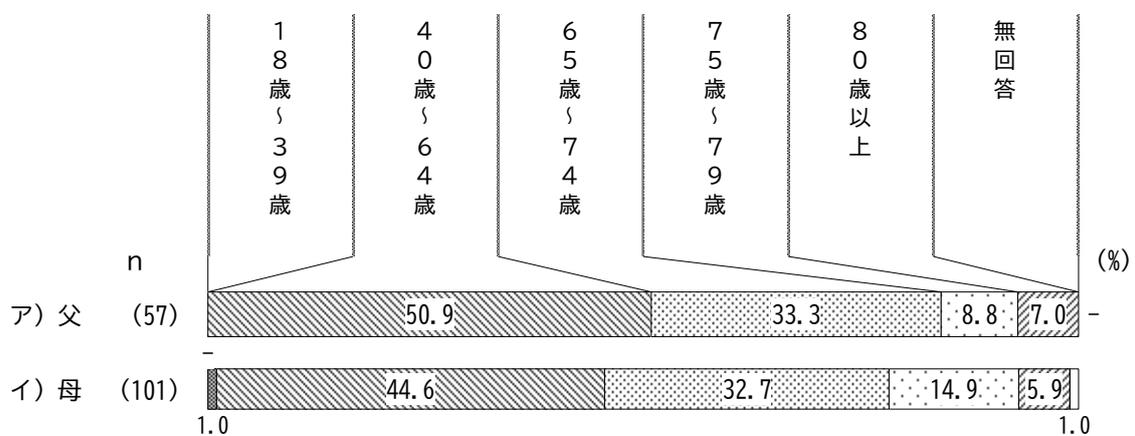
(2) 生活の支援者の年齢

【問8-1から問8-4は、問8で「2」～「12」（支援者がいる）に○をした方におたずねします。】

問8-1 あなたの生活の支援をしている方の年齢はいくつですか。
 (問8で○をした支援者についてあてはまるもの1つに○)

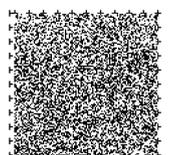
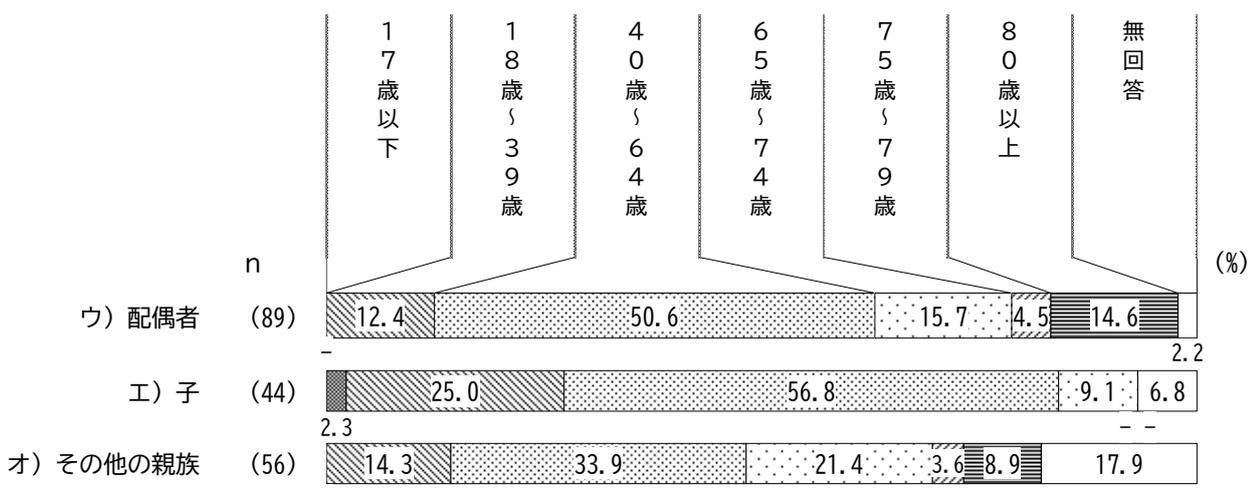
生活の支援者の年齢は、父、母でみると、「40歳～64歳」が最も高く、次いで「65歳～74歳」となっている。

<図表 I -14-1 生活の支援者の年齢（全体）>



配偶者、子、その他の親族でみると、「40歳～64歳」が最も高くなっている。

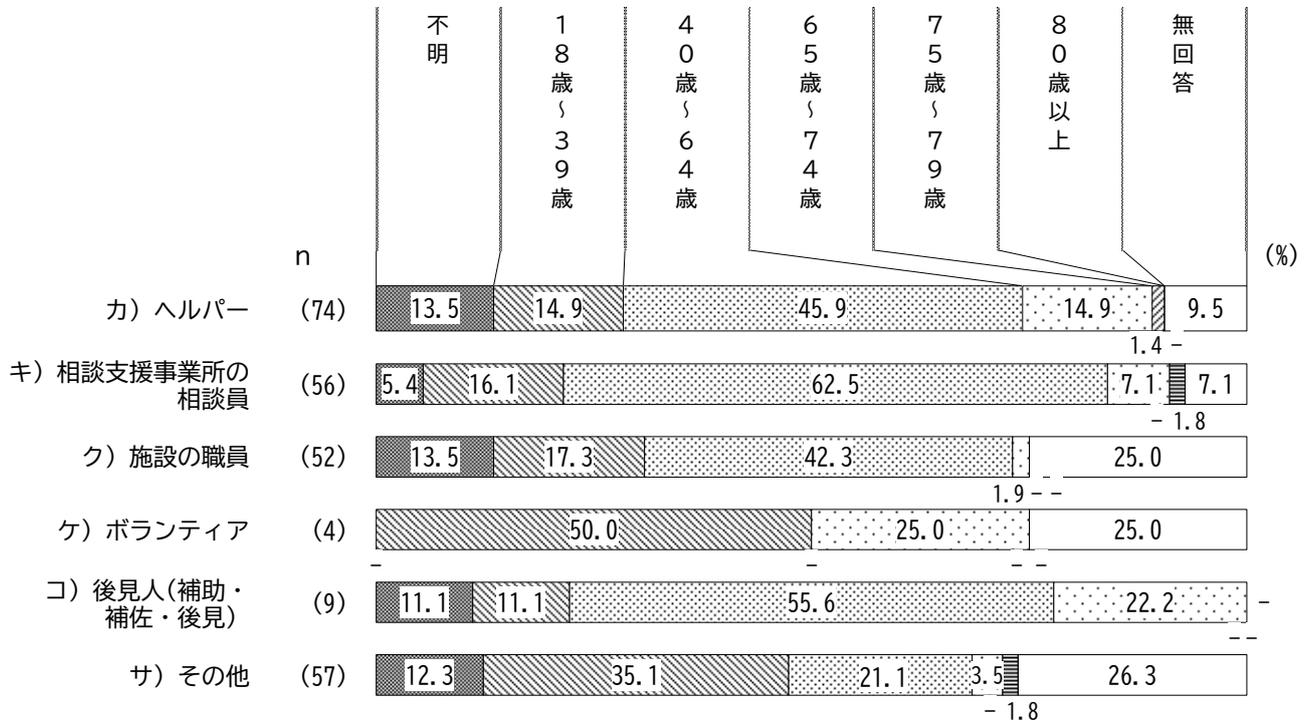
<図表 I -14-2 生活の支援者の年齢（全体）>



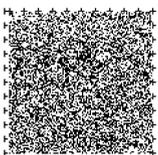
第2章 調査の結果

親族以外の支援者でみると、ヘルパー、相談支援事業所の相談員、施設の職員では「40歳～64歳」が最も高くなっている。

<図表 I-14-3 生活の支援者の年齢（全体）>



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

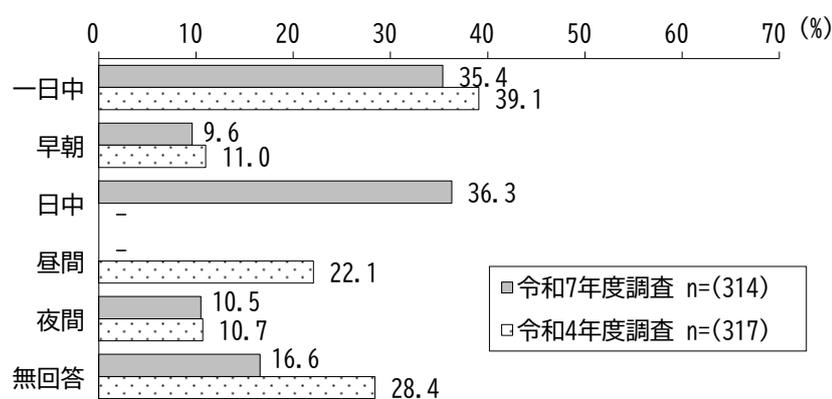


(3) 支援が必要な時間帯

【問8-1から問8-4は、問8で「2」～「12」（支援者がいる）に○をした方におたずねします。】
 問8-2 支援が必要な時間帯はいつですか。（あてはまるものすべてに○）

支援が必要な時間帯は、「日中」が36.3%で最も高く、次いで「一日中」が35.4%となっている。障害別にみると、知的障害の「一日中」42.9%と、精神障害の「日中」41.1%が他の障害よりも高くなっている。

<図表 I -15-1 支援が必要な時間帯（全体）>

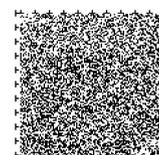


※令和7年度調査より、選択肢「昼間」が「日中」に変更された。

<図表 I -15-2 支援が必要な時間帯（障害別）>

	回答者数 (n)	一日中	早朝	日中	夜間	無回答
全体	314	35.4	9.6	36.3	10.5	16.6
身体障害	152	36.8	9.9	36.8	11.2	15.1
知的障害	63	42.9	14.3	31.7	11.1	15.9
発達障害	35	37.1	11.4	34.3	14.3	14.3
精神障害	73	38.4	4.1	41.1	9.6	8.2
高次脳機能障害	14	64.3	7.1	28.6	7.1	-
難病（特定疾病）	52	36.5	13.5	32.7	11.5	19.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(4) 支援が必要な日数

【問8-1から問8-4は、問8で「2」～「12」（支援者がいる）に○をした方におたずねします。】

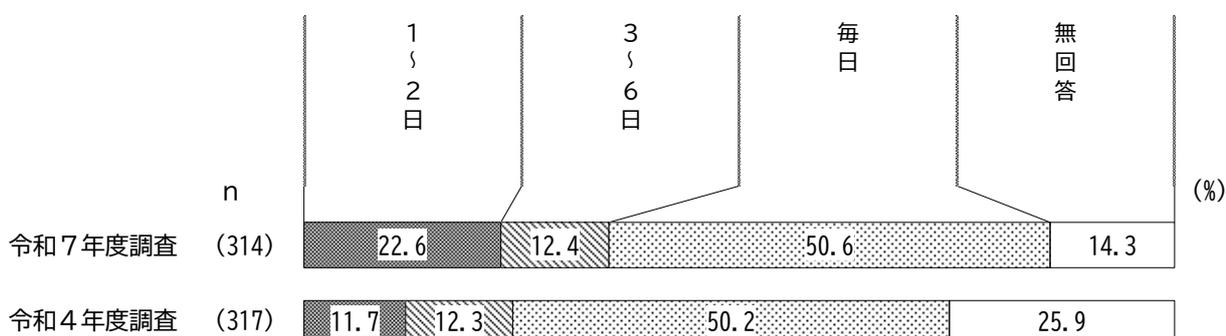
問8-3 支援が必要となるのは週に何日くらいですか。（1つに○）

支援が必要な日数は、「毎日」が50.6%で最も高くなっている。

前回調査と比較すると、「1～2日」が10.9ポイント増加している。

障害別にみると、知的障害では「毎日」が76.2%で最も高くなっている。

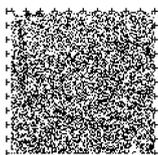
<図表 I -16-1 支援が必要な日数（全体）>



<図表 I -16-2 支援が必要な日数（障害別）>

障害別	回答者数 (n)	1 ～ 2 日	3 ～ 6 日	毎日	無 回 答
		単位：%			
全体	314	22.6	12.4	50.6	14.3
身体障害	152	21.1	13.2	52.6	13.2
知的障害	63	9.5	3.2	76.2	11.1
発達障害	35	28.6	8.6	51.4	11.4
精神障害	73	28.8	16.4	46.6	8.2
高次脳機能障害	14	28.6	7.1	64.3	-
難病（特定疾病）	52	26.9	13.5	42.3	17.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(5) 支援の内容

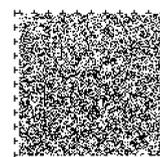
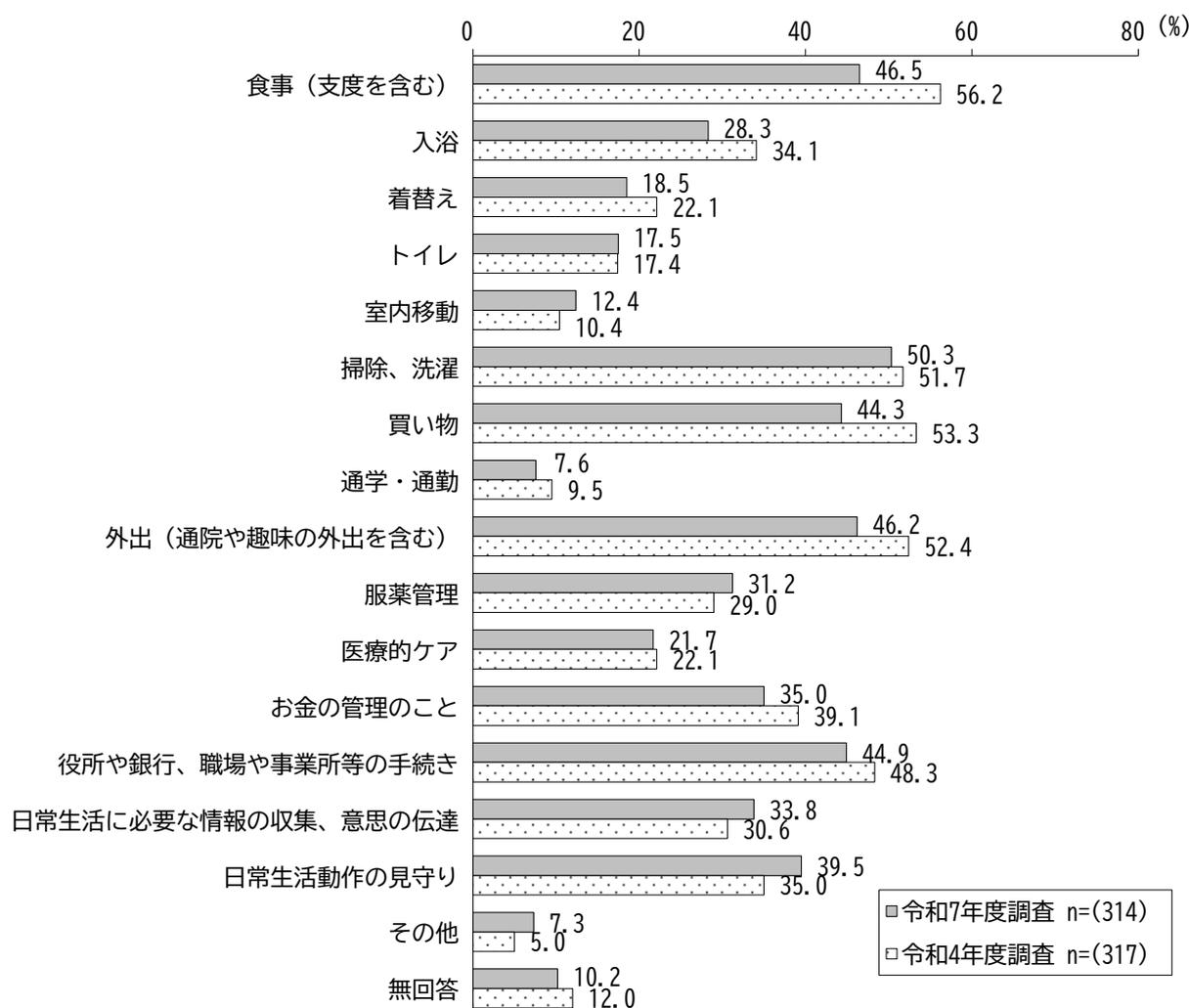
【問8-1から問8-4は、問8で「2」～「12」（支援者がいる）に○をした方におたずねします。】
 問8-4 支援の内容はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

支援の内容は、「掃除、洗濯」の50.3%が最も高く、「食事（支度を含む）」が46.5%、「外出（通院や趣味の外出を含む）」が46.2%で続いている。

前回調査と比較すると、「トイレ」、「室内移動」、「服薬管理」、「日常生活に必要な情報の収集、意思の伝達」、「日常生活動作の見守り」が増加しているが、それ以外は減少している。

障害別にみると、知的障害では「食事（支度を含む）」、「外出（通院や趣味の外出含む）」、「お金の管理のこと」、「役所や銀行、職場や事業所等の手続き」がいずれも70%を超え高くなっている。

<図表 I-17-1 支援の内容（全体）>



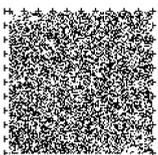
第2章 調査の結果

<図表 I-17-2 支援の内容（障害別）>

	回答者数 (n)	食事 (支度を含む)	入浴	着替え	トイレ	室内移動	掃除、洗濯	買い物	通学・通勤	外出 (通院や趣味の 外出を含む)	服薬管理
全体	314	46.5	28.3	18.5	17.5	12.4	50.3	44.3	7.6	46.2	31.2
身体障害	152	44.7	33.6	25.0	22.4	17.1	53.3	50.7	8.6	52.0	28.3
知的障害	63	73.0	52.4	36.5	44.4	27.0	61.9	58.7	30.2	73.0	69.8
発達障害	35	40.0	20.0	8.6	11.4	5.7	40.0	28.6	11.4	31.4	31.4
精神障害	73	42.5	16.4	5.5	6.8	4.1	49.3	41.1	6.8	30.1	26.0
高次脳機能障害	14	50.0	42.9	28.6	28.6	7.1	50.0	42.9	-	42.9	42.9
難病（特定疾病）	52	38.5	32.7	19.2	25.0	23.1	46.2	36.5	3.8	48.1	32.7

	回答者数 (n)	医療的ケア	お金の管理のこと	役所や銀行、 事業所等の 手続きや 職場や	日常生活に 必要な 情報の 収集、 意思の 伝達	日常生活 動作の 見守り	その他	無回答
全体	314	21.7	35.0	44.9	33.8	39.5	7.3	10.2
身体障害	152	17.8	29.6	43.4	28.3	39.5	7.9	8.6
知的障害	63	42.9	74.6	77.8	63.5	65.1	3.2	6.3
発達障害	35	11.4	45.7	48.6	57.1	40.0	8.6	2.9
精神障害	73	16.4	37.0	41.1	42.5	39.7	6.8	6.8
高次脳機能障害	14	42.9	42.9	57.1	42.9	78.6	7.1	-
難病（特定疾病）	52	28.8	21.2	30.8	17.3	30.8	3.8	15.4

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) 悩みごと・困りごと

問9 悩みごとや困りごとはありますか。(あてはまるものすべてに○)

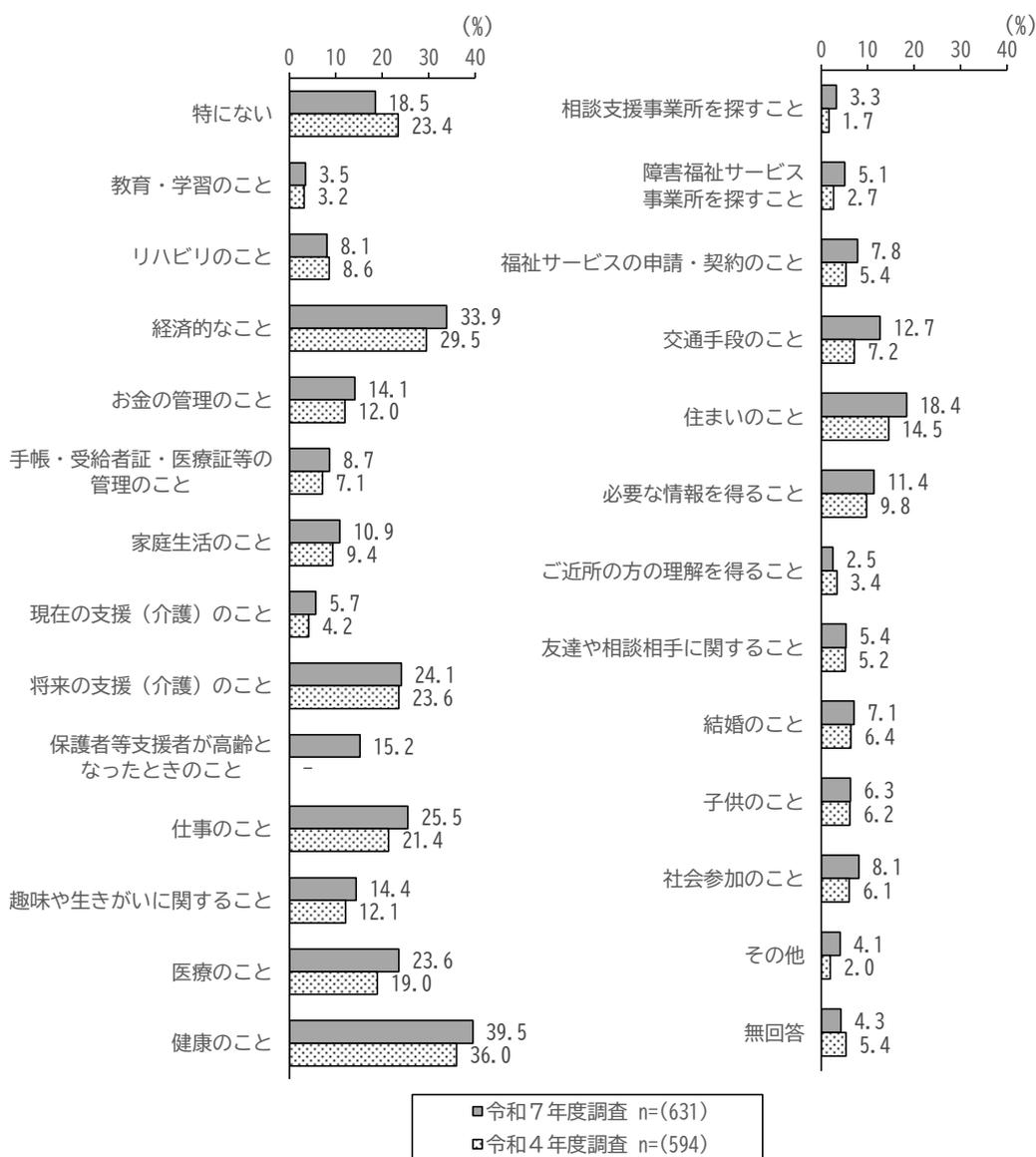
悩みごと・困りごとは、「健康のこと」が39.5%で最も高く、「経済的なこと」が33.9%、「仕事のこと」が25.5%で続いている。

前回調査と比較すると、「特にない」を除き、「リハビリのこと」、「ご近所の理解を得ること」が減少しているが、それ以外の項目は増加している。

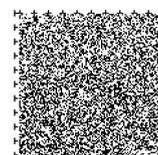
障害別にみると、知的障害では「保護者等支援者が高齢となったときのこと」が50.0%で最も高くなっている。

年齢別にみると、40～64歳の「健康のこと」が44.5%で最も高くなっている。

<図表 I-18-1 悩みごと・困りごと (全体) >



※令和7年度調査より、選択肢「保護者等支援者が高齢となったときのこと」が追加された。



第2章 調査の結果

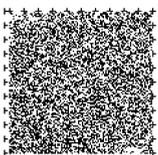
<図表 I-18-2 悩みごと・困りごと（障害別）>

	回答者数 (n)	特 に ない	教 育 ・ 学 習 の こ と	リ ハ ビ リ の こ と	経 済 的 な こ と	お 金 の 管 理 の こ と	証 手 帳 ・ 受 給 者 証 ・ 医 療 等 の 管 理 の こ と	家 庭 生 活 の こ と	現 在 の 支 援 (介 護) の こ と	将 来 の 支 援 (介 護) の こ と	保 護 者 等 支 援 者 が 高 齢 と な っ た と き の こ と
全体	631	18.5	3.5	8.1	33.9	14.1	8.7	10.9	5.7	24.1	15.2
身体障害	303	16.5	4.0	11.2	32.0	11.6	7.3	8.9	6.9	25.4	15.2
知的障害	70	18.6	4.3	11.4	22.9	40.0	27.1	14.3	12.9	35.7	50.0
発達障害	51	11.8	5.9	3.9	47.1	31.4	19.6	25.5	5.9	23.5	23.5
精神障害	115	10.4	6.1	3.5	50.4	19.1	12.2	20.9	2.6	20.9	13.9
高次脳機能障害	14	21.4	14.3	35.7	64.3	28.6	21.4	21.4	14.3	28.6	28.6
難病（特定疾病）	165	22.4	0.6	7.3	34.5	9.7	6.7	9.7	4.8	27.3	9.1

	回答者数 (n)	仕 事 の こ と	趣 味 や 生 き が い に 関 す る こ と	医 療 の こ と	健 康 の こ と	相 談 支 援 事 業 所 を 探 す こ と	障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業 所 を 探 す こ と	福 祉 サ ー ビ ス の 申 請 ・ 契 約 の こ と	交 通 手 段 の こ と	住 ま い の こ と	必 要 な 情 報 を 得 る こ と
全体	631	25.5	14.4	23.6	39.5	3.3	5.1	7.8	12.7	18.4	11.4
身体障害	303	24.8	12.9	25.1	39.3	2.3	5.3	6.9	16.5	18.5	10.9
知的障害	70	20.0	18.6	27.1	38.6	5.7	11.4	15.7	22.9	15.7	18.6
発達障害	51	43.1	29.4	17.6	45.1	7.8	9.8	17.6	17.6	23.5	21.6
精神障害	115	30.4	20.9	21.7	40.0	7.8	7.8	12.2	10.4	27.0	15.7
高次脳機能障害	14	14.3	14.3	28.6	28.6	-	-	7.1	-	14.3	14.3
難病（特定疾病）	165	26.1	15.2	26.7	47.3	1.8	3.0	7.3	9.7	13.9	10.3

	回答者数 (n)	ご 近 所 の 方 の 理 解 を 得 る こ と	友 達 や 相 談 相 手 に 関 す る こ と	結 婚 の こ と	子 供 の こ と	社 会 参 加 の こ と	そ の 他	無 回 答
全体	631	2.5	5.4	7.1	6.3	8.1	4.1	4.3
身体障害	303	2.3	4.3	7.6	5.6	7.9	4.3	3.6
知的障害	70	4.3	7.1	7.1	2.9	8.6	1.4	2.9
発達障害	51	9.8	17.6	19.6	5.9	13.7	3.9	-
精神障害	115	5.2	11.3	11.3	7.0	16.5	6.1	7.0
高次脳機能障害	14	-	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	-
難病（特定疾病）	165	1.8	2.4	5.5	6.1	5.5	4.8	2.4

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



<図表 I-18-3 悩みごと・困りごと（年齢別）>

	回答者数（n）	特 に ない	教 育 ・ 学 習 の こ と	リ ハ ビ リ の こ と	経 済 的 な こ と	お 金 の 管 理 の こ と	手 帳 ・ 受 給 者 証 ・ 医 療 証 等 の 管 理 の こ と	家 庭 生 活 の こ と	現 在 の 支 援 （ 介 護 ） の こ と	将 来 の 支 援 （ 介 護 ） の こ と	保 護 者 等 支 援 者 が 高 齢 と な っ た と き の こ と
全体	631	18.5	3.5	8.1	33.9	14.1	8.7	10.9	5.7	24.1	15.2
18～39歳	200	17.0	8.5	8.5	36.5	24.0	12.5	16.5	6.0	20.0	20.5
40～64歳	265	18.5	1.9	6.4	39.2	11.7	7.2	9.8	3.8	25.7	12.8
65～74歳	76	22.4	-	10.5	27.6	6.6	5.3	3.9	5.3	25.0	6.6
75歳以上	83	16.9	-	10.8	15.7	6.0	8.4	8.4	12.0	28.9	16.9

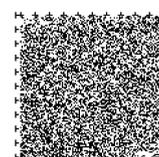
単位：%

	回答者数（n）	仕 事 の こ と	趣 味 や 生 き が い に 関 す る こ と	医 療 の こ と	健 康 の こ と	相 談 支 援 事 業 所 を 探 す こ と	障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業 所 を 探 す こ と	福 祉 サ ー ビ ス の 申 請 ・ 契 約 の こ と	交 通 手 段 の こ と	住 ま い の こ と	必 要 な 情 報 を 得 る こ と
全体	631	25.5	14.4	23.6	39.5	3.3	5.1	7.8	12.7	18.4	11.4
18～39歳	200	36.0	21.0	18.5	33.0	5.0	7.0	11.0	15.5	16.5	13.5
40～64歳	265	30.2	12.5	25.3	44.5	2.3	4.9	6.8	11.3	21.5	11.3
65～74歳	76	9.2	13.2	26.3	39.5	2.6	3.9	6.6	9.2	23.7	9.2
75歳以上	83	-	7.2	28.9	41.0	3.6	2.4	4.8	14.5	7.2	9.6

単位：%

	回答者数（n）	ご 近 所 の 方 の 理 解 を 得 る こ と	友 達 や 相 談 相 手 に 関 す る こ と	結 婚 の こ と	子 供 の こ と	社 会 参 加 の こ と	そ の 他	無 回 答
全体	631	2.5	5.4	7.1	6.3	8.1	4.1	4.3
18～39歳	200	3.5	8.5	15.5	9.0	14.0	3.5	4.0
40～64歳	265	2.3	4.2	4.5	6.4	7.2	4.5	3.4
65～74歳	76	2.6	6.6	1.3	2.6	5.3	6.6	2.6
75歳以上	83	1.2	-	-	2.4	-	2.4	8.4

単位：%



(7) 悩みごと・困りごとの相談先

問10 悩みや困りごとを相談する相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

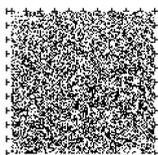
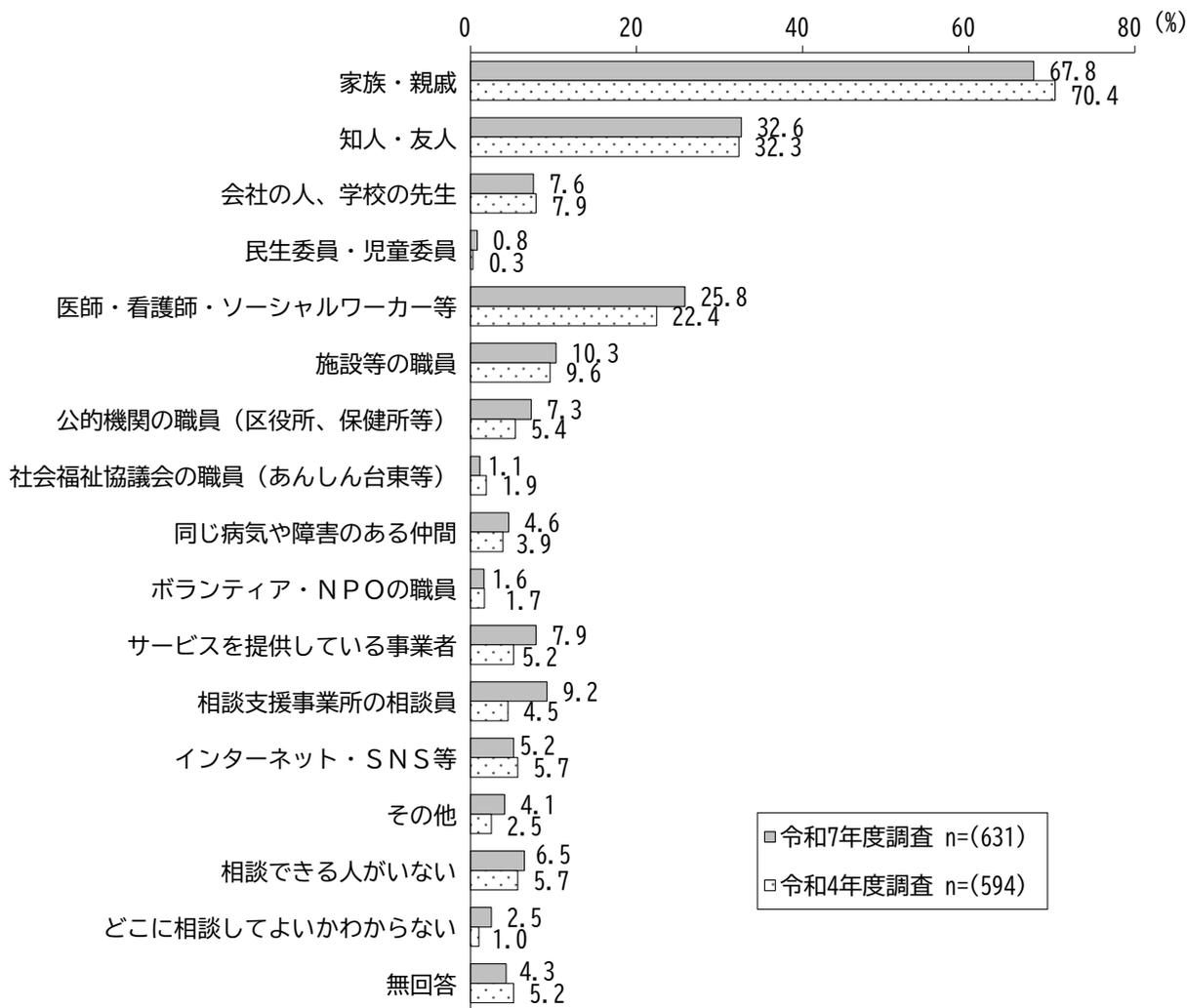
悩みごと・困りごとの相談先は、「家族・親戚」が67.8%で最も高く、「知人・友人」が32.6%、「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」が25.8%で続いている。

前回調査と比較すると、「相談支援事業所の相談員」や「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」などが増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「家族・親戚」が最も高い。知的障害の「施設等の職員」と「相談支援事業所の相談員」は他の障害よりも高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢も「家族・親戚」が最も高くなっている。

<図表 I-19-1 悩みごと・困りごとの相談先 (全体) >



<図表 I -19-2 悩みごと・困りごとの相談先（障害別）>

	回答者数（n）	家族・親戚	知人・友人	会社の人、学校の先生	民生委員・児童委員	医師・看護師・ソーシャルワーカー等	施設等の職員	公的機関の職員（区役所、保健所等）	社会福祉協議会の職員（あんしん台東等）	同じ病気や障害のある仲間	ボランティア・NPOの職員
単位：%											
全体	631	67.8	32.6	7.6	0.8	25.8	10.3	7.3	1.1	4.6	1.6
身体障害	303	71.6	37.6	5.6	1.0	28.1	7.6	6.9	0.7	5.0	1.0
知的障害	70	71.4	15.7	11.4	-	35.7	50.0	12.9	-	11.4	2.9
発達障害	51	62.7	35.3	15.7	-	37.3	9.8	13.7	3.9	7.8	5.9
精神障害	115	46.1	27.0	3.5	0.9	31.3	12.2	11.3	1.7	7.8	2.6
高次脳機能障害	14	92.9	28.6	14.3	-	64.3	14.3	14.3	-	7.1	7.1
難病（特定疾病）	165	77.0	40.6	9.1	0.6	23.6	3.0	4.2	0.6	2.4	-

	回答者数（n）	サービスを提供している事業者	相談支援事業所の相談員	Sインターネット・SN等	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいかわからない	無回答
単位：%								
全体	631	7.9	9.2	5.2	4.1	6.5	2.5	4.3
身体障害	303	8.6	7.3	6.9	3.3	5.9	2.0	3.3
知的障害	70	27.1	41.4	1.4	2.9	1.4	-	4.3
発達障害	51	9.8	15.7	7.8	5.9	7.8	2.0	2.0
精神障害	115	7.0	9.6	7.8	7.8	9.6	6.1	5.2
高次脳機能障害	14	14.3	28.6	7.1	-	-	-	-
難病（特定疾病）	165	3.6	5.5	4.2	1.8	6.7	2.4	3.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

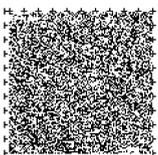


第2章 調査の結果

<図表 I-19-3 悩みごと・困りごとの相談先（年齢別）>

	回答者数（n）	家族・親戚	知人・友人	会社の人、学校の先生	民生委員・児童委員	医師・看護師・ソーシャルワーカー等	施設等の職員	公的機関の職員（区役所、保健所等）	社会福祉協議会の職員（あんしん台東等）	同じ病気や障害のある仲間	ボランティア・NPOの職員
単位：%											
全体	631	67.8	32.6	7.6	0.8	25.8	10.3	7.3	1.1	4.6	1.6
18～39歳	200	75.0	38.5	15.0	-	24.5	11.0	8.0	0.5	6.0	2.0
40～64歳	265	64.9	35.5	6.4	0.4	23.8	9.4	7.5	0.8	4.9	1.1
65～74歳	76	53.9	25.0	1.3	1.3	26.3	13.2	7.9	2.6	5.3	3.9
75歳以上	83	73.5	15.7	-	3.6	34.9	8.4	3.6	2.4	-	-

	回答者数（n）	サービスを提供している事業者	相談支援事業所の相談員	等インターネット・SNS	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいかわからない	無回答
単位：%								
全体	631	7.9	9.2	5.2	4.1	6.5	2.5	4.3
18～39歳	200	10.5	13.0	9.0	7.0	4.0	2.5	5.0
40～64歳	265	4.9	8.3	4.5	3.0	7.9	3.0	3.0
65～74歳	76	6.6	7.9	3.9	1.3	10.5	2.6	3.9
75歳以上	83	13.3	4.8	-	3.6	4.8	1.2	6.0



(8) 現在の平日日中の過ごし方

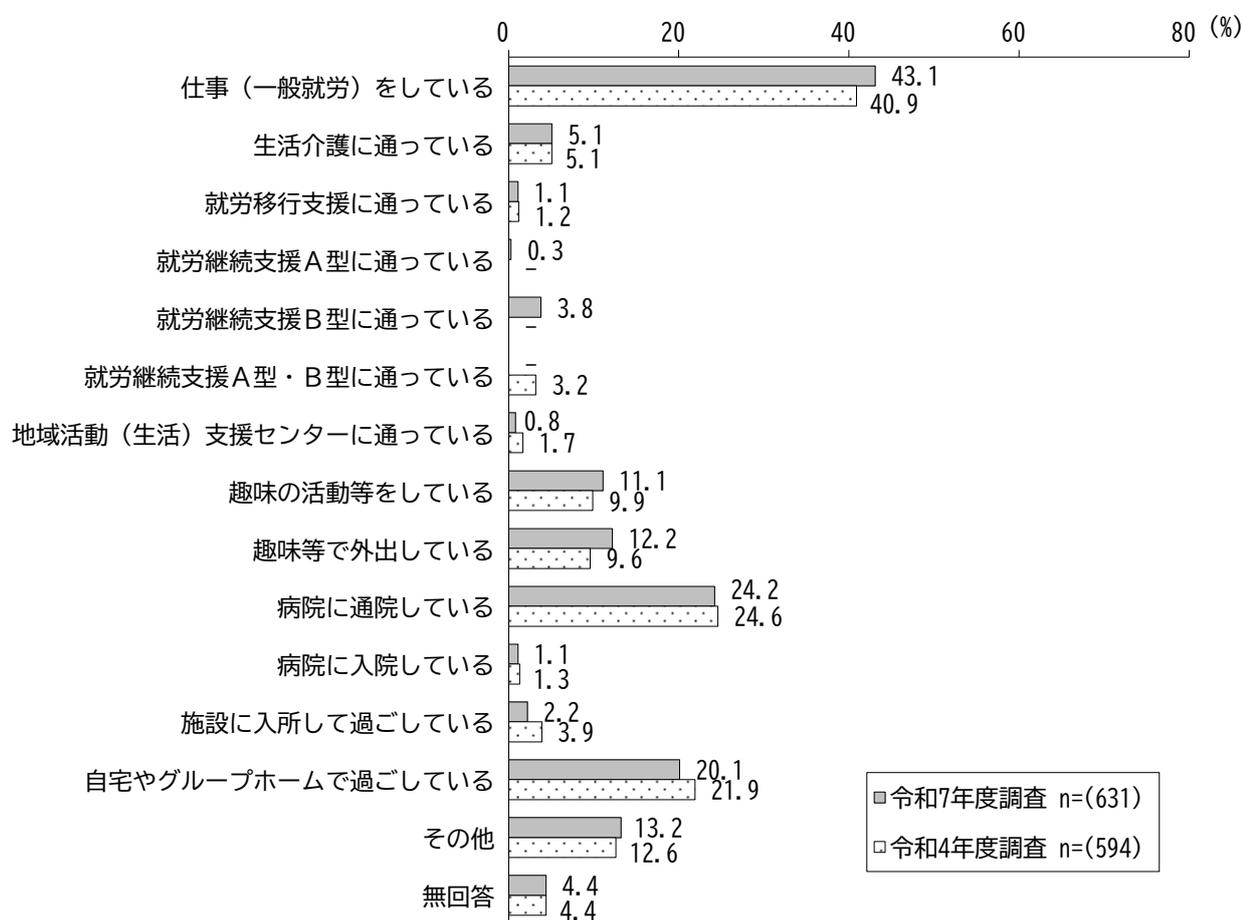
問11 平日（月曜日から金曜日）の日中は、主にどのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

現在の平日日中の過ごし方は、「仕事（一般就労）をしている」が43.1%で最も高く、「病院に通院している」が24.2%、「自宅やグループホームで過ごしている」が20.1%が続いている。

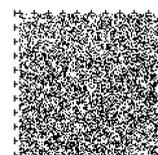
前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、知的障害では「生活介護に通っている」が34.3%と他の障害よりも高くなっている。

<図表 I-20-1 現在の平日日中の過ごし方（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「就労継続支援A型・B型に通っている」が「就労継続支援A型に通っている」と「就労継続支援B型に通っている」に変更された。



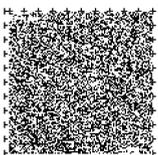
第2章 調査の結果

<図表 I -20-2 現在の平日日中の過ごし方（障害別）>

	回答者数 (n)	仕事（一般就労）をしている	生活介護に通っている	就労移行支援に通っている	就労継続支援 A型に通っている	就労継続支援 B型に通っている	地域活動（生活センター）に通っている	趣味の活動等をしている	趣味等で外出している	病院に通院している	病院に入院している
単位：%											
全体	631	43.1	5.1	1.1	0.3	3.8	0.8	11.1	12.2	24.2	1.1
身体障害	303	46.9	6.9	1.0	-	1.0	0.3	13.5	13.5	24.1	1.3
知的障害	70	20.0	34.3	1.4	1.4	17.1	-	7.1	5.7	12.9	-
発達障害	51	47.1	3.9	2.0	-	5.9	3.9	19.6	15.7	35.3	-
精神障害	115	22.6	1.7	3.5	-	7.0	1.7	11.3	20.0	37.4	0.9
高次脳機能障害	14	35.7	-	7.1	-	7.1	-	7.1	21.4	14.3	7.1
難病（特定疾病）	165	53.3	2.4	-	-	-	-	12.7	7.9	26.7	0.6

	回答者数 (n)	施設に入所して過ごしている	自宅やグループホームで過ごしている	その他	無回答
単位：%					
全体	631	2.2	20.1	13.2	4.4
身体障害	303	1.3	18.8	13.5	3.6
知的障害	70	10.0	15.7	7.1	2.9
発達障害	51	-	31.4	11.8	2.0
精神障害	115	1.7	33.0	15.7	5.2
高次脳機能障害	14	-	21.4	14.3	7.1
難病（特定疾病）	165	3.0	19.4	12.1	3.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(9) 希望する平日日中の過ごし方

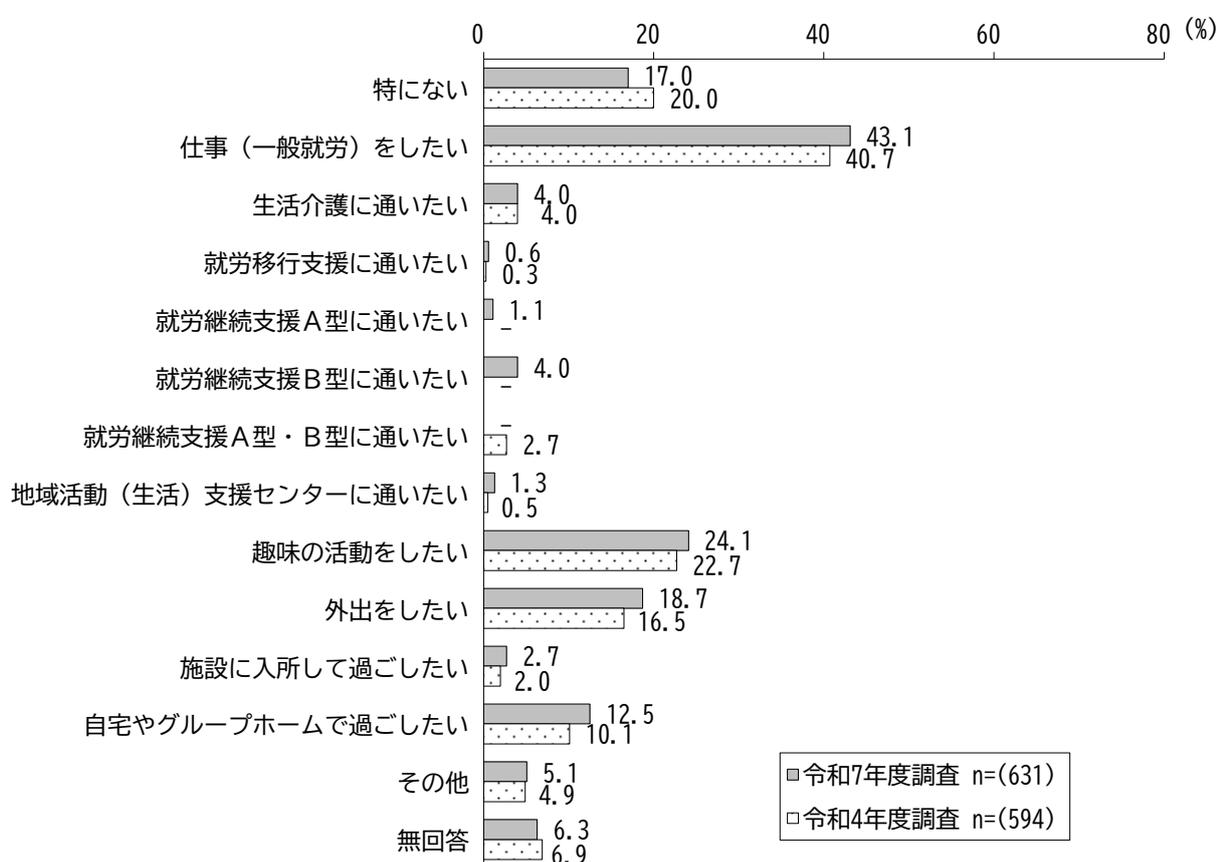
問12 今後、平日（月曜日から金曜日）の日中は、主にどのように過ごしたいですか。
（あてはまるものすべてに○）

希望する平日日中の過ごし方は、「仕事（一般就労）をしたい」が43.1%で最も高く、「趣味の活動をしたい」が24.1%、「外出をしたい」が18.7%で続いている。

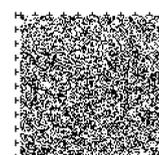
前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、知的障害では「生活介護に通いたい」が最も高くなっている。その他の障害は「仕事（一般就労）をしたい」が最も高くなっている。

<図表 I -21-1 希望する平日日中の過ごし方（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「就労継続支援A型・B型に通いたい」が「就労継続支援A型に通いたい」と「就労継続支援B型に通いたい」に変更された。



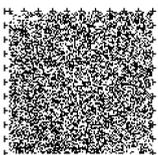
第2章 調査の結果

<図表 I -21-2 希望する平日日中の過ごし方（障害別）>

	回答者数 (n)	特 に な い	仕 事 (一 般 就 労) を し た い	生 活 介 護 に 通 い た い	就 労 移 行 支 援 に 通 い た い	就 労 継 続 支 援 A 型 に 通 い た い	就 労 継 続 支 援 B 型 に 通 い た い	地 域 活 動 (生 活) 支 援 セ ン タ ー に 通 い た い	趣 味 の 活 動 を し た い	外 出 を し た い	施 設 に 入 所 し て 過 ご し た い
全体	631	17.0	43.1	4.0	0.6	1.1	4.0	1.3	24.1	18.7	2.7
身体障害	303	16.2	46.9	5.0	0.3	0.7	1.7	1.0	24.8	18.5	2.6
知的障害	70	17.1	20.0	30.0	-	1.4	20.0	1.4	8.6	10.0	10.0
発達障害	51	7.8	56.9	5.9	2.0	5.9	3.9	2.0	31.4	23.5	5.9
精神障害	115	15.7	34.8	0.9	2.6	2.6	6.1	2.6	28.7	32.2	5.2
高次脳機能障害	14	28.6	42.9	-	-	7.1	-	7.1	21.4	7.1	7.1
難病（特定疾病）	165	13.9	50.3	3.0	-	-	-	0.6	24.8	18.2	1.2

	回答者数 (n)	自 宅 や グ ル ー プ ホ ー ム で 過 ご し た い	そ の 他	無 回 答
全体	631	12.5	5.1	6.3
身体障害	303	11.2	5.9	5.9
知的障害	70	17.1	1.4	4.3
発達障害	51	21.6	2.0	5.9
精神障害	115	15.7	6.1	8.7
高次脳機能障害	14	7.1	-	7.1
難病（特定疾病）	165	15.2	2.4	5.5

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

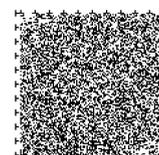


<図表 I-21-3 希望する平日日中の過ごし方（現在の過ごし方別）>

	回答者数 (n)	特 に な い	仕 事 (一 般 就 労) を	生 活 介 護 に 通 い た い	就 労 移 行 支 援 に 通 い た い	就 労 継 続 支 援 A 型 に 通 い た い	就 労 継 続 支 援 B 型 に 通 い た い	地 域 活 動 (生 活) 支 援 セ ン タ ー に 通 い た い	趣 味 の 活 動 を し た い	外 出 を し た い	施 設 に 入 所 し て 過 ご し た い
全体	631	17.0	43.1	4.0	0.6	1.1	4.0	1.3	24.1	18.7	2.7
仕事（一般就労）をしている	272	15.8	73.2	-	-	0.4	-	0.4	26.8	14.7	0.7
生活介護に通っている	32	18.8	3.1	68.8	-	-	9.4	-	3.1	12.5	6.3
就労移行支援に通っている	7	-	71.4	14.3	-	-	14.3	-	28.6	14.3	-
就労継続支援A型に通っている	2	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-
就労継続支援B型に通っている	24	8.3	25.0	-	-	12.5	70.8	4.2	29.2	25.0	4.2
地域活動（生活）支援センターに通っている	5	-	40.0	-	-	20.0	-	40.0	20.0	20.0	20.0
趣味の活動等をしている	70	14.3	51.4	1.4	-	4.3	-	1.4	60.0	44.3	5.7
趣味等で外出している	77	11.7	40.3	2.6	2.6	5.2	5.2	1.3	61.0	45.5	1.3
病院に通院している	153	20.9	32.0	3.9	2.0	3.9	3.3	2.6	32.0	30.7	2.6
病院に入院している	7	-	14.3	-	14.3	-	-	-	14.3	28.6	-
施設に入所して過ごしている	14	14.3	-	-	-	-	7.1	-	7.1	7.1	50.0
自宅やグループホームで過ごしている	127	11.0	29.9	5.5	1.6	1.6	3.1	3.9	28.3	32.3	4.7
その他	83	20.5	30.1	1.2	2.4	1.2	3.6	1.2	19.3	24.1	2.4

	回答者数 (n)	自 宅 や グ ル ー プ ホ ー ム で 過 ご し た い	そ の 他	無 回 答
全体	631	12.5	5.1	6.3
仕事（一般就労）をしている	272	5.1	1.5	1.5
生活介護に通っている	32	15.6	3.1	3.1
就労移行支援に通っている	7	-	-	-
就労継続支援A型に通っている	2	-	-	-
就労継続支援B型に通っている	24	20.8	-	-
地域活動（生活）支援センターに通っている	5	20.0	20.0	20.0
趣味の活動等をしている	70	15.7	4.3	1.4
趣味等で外出している	77	15.6	9.1	1.3
病院に通院している	153	20.9	6.5	4.6
病院に入院している	7	42.9	14.3	14.3
施設に入所して過ごしている	14	7.1	-	14.3
自宅やグループホームで過ごしている	127	46.5	4.7	2.4
その他	83	4.8	22.9	9.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(10) 外出頻度

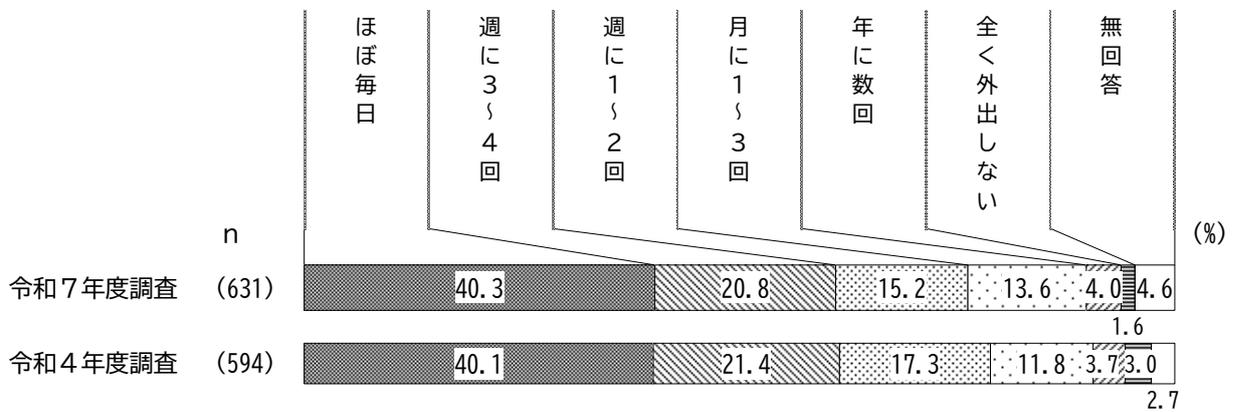
問13 通院を含め、外出の頻度は、どのくらいですか。(1つに○)

外出頻度は、「ほぼ毎日」が40.3%で最も高く、「週3～4回」が20.8%、「週1～2回」が15.2%で続いている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、精神障害では「ほぼ毎日」、「週に3～4回」、「週に1～2回」「月に1～3回」がいずれも20%台でおおむね同じ割合となっている。その他の障害は「ほぼ毎日」がいずれも40%台で最も高くなっている。

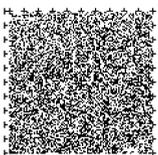
<図表 I -22-1 外出頻度 (全体) >



<図表 I -22-2 外出頻度 (障害別) >

	回答者数 (n)	ほぼ毎日 (%)	週に3～4回 (%)	週に1～2回 (%)	月に1～3回 (%)	年に数回 (%)	全く外出しない (%)	無回答 (%)
単位：%								
全体	631	40.3	20.8	15.2	13.6	4.0	1.6	4.6
身体障害	303	43.6	21.8	13.9	11.2	4.0	1.0	4.6
知的障害	70	44.3	5.7	17.1	21.4	2.9	1.4	7.1
発達障害	51	41.2	19.6	17.6	17.6	2.0	-	2.0
精神障害	115	25.2	24.3	22.6	20.0	2.6	1.7	3.5
高次脳機能障害	14	21.4	21.4	21.4	21.4	7.1	-	7.1
難病 (特定疾病)	165	47.9	22.4	12.1	9.1	2.4	3.0	3.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(11) 外出における困りごと

問14 あなたは、外出について困りごとはありますか。(あてはまるものすべてに○)

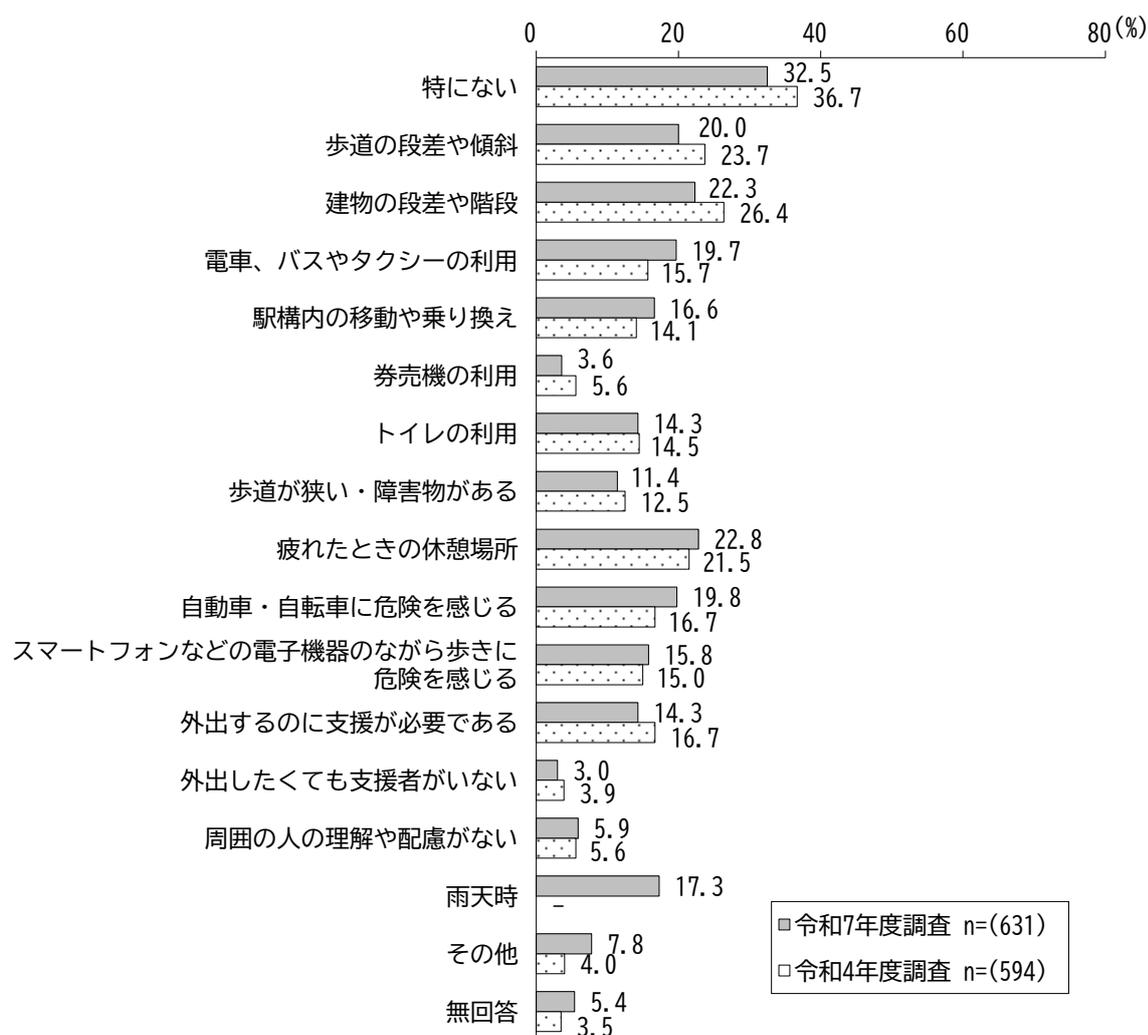
外出における困りごとは、『困りごとがある』割合（全体から「特にない」と「無回答」を除いたもの）は62.1%となっている。具体的な困りごとは「疲れたときの休憩場所」が22.8%で最も高く、「建物の段差や階段」が22.3%、「歩道の段差や傾斜」が20.0%で続いている。

前回調査と比較すると、「電車、バスやタクシーの利用」、「自動車・自転車に危険を感じる」などが増加している。

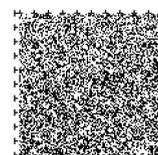
障害別にみると、身体障害では「建物の段差や階段」、知的障害では「外出するのに支援が必要である」、それ以外の障害では「疲れたときの休憩場所」が最も高くなっている。

外出頻度別にみると、週に1～2回の人で「疲れたときの休憩場所」が38.5%、週に3～4回の人で「歩道の段差や傾斜」が30.5%で高くなっている。

<図表 I-23-1 外出における困りごと（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「雨天時」が追加された。



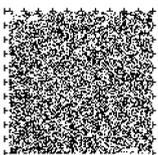
第2章 調査の結果

<図表 I - 23 - 2 外出における困りごと（障害別）>

	回答者数（n）	特 に な い	歩 道 の 段 差 や 傾 斜	建 物 の 段 差 や 階 段	電 車 、 バ ス や タ ク シ ー の 利 用	駅 構 内 の 移 動 や 乗 り 換 え	券 売 機 の 利 用	ト イ レ の 利 用	歩 道 が 狭 い ・ 障 害 物 が あ る	疲 れ た と き の 休 憩 場 所	自 動 車 ・ 自 転 車 に 危 険 を 感 じ る
単位：%											
全体	631	32.5	20.0	22.3	19.7	16.6	3.6	14.3	11.4	22.8	19.8
身体障害	303	28.1	29.7	33.3	20.5	22.1	3.0	16.5	17.2	20.8	24.4
知的障害	70	27.1	22.9	25.7	37.1	30.0	17.1	27.1	20.0	21.4	17.1
発達障害	51	33.3	5.9	13.7	15.7	11.8	2.0	9.8	7.8	39.2	15.7
精神障害	115	25.2	11.3	13.0	20.9	12.2	0.9	10.4	6.1	35.7	24.3
高次脳機能障害	14	21.4	21.4	28.6	21.4	14.3	-	-	7.1	28.6	28.6
難病（特定疾病）	165	41.2	18.2	19.4	15.8	11.5	0.6	15.2	7.3	20.0	12.7

	回答者数（n）	ス マ ー ト フ オ ン な ど の 電 子 機 器 の な が ら 歩 き に 危 険 を 感 じ る	外 出 す る の に 支 援 が 必 要 と す る	外 出 し た く て も 支 援 者 が い な い	周 圍 の 人 の 理 解 や 配 慮 が な い	雨 天 時	そ の 他	無 回 答
単位：%								
全体	631	15.8	14.3	3.0	5.9	17.3	7.8	5.4
身体障害	303	19.5	14.9	3.0	7.3	25.7	8.9	4.6
知的障害	70	11.4	38.6	8.6	8.6	18.6	4.3	5.7
発達障害	51	13.7	17.6	5.9	7.8	15.7	11.8	3.9
精神障害	115	17.4	13.9	7.0	8.7	13.0	12.2	5.2
高次脳機能障害	14	14.3	14.3	7.1	21.4	14.3	14.3	7.1
難病（特定疾病）	165	15.2	9.7	0.6	1.8	12.7	3.0	4.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

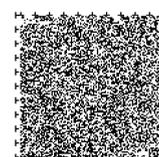


<図表 I-23-3 外出における困りごと（外出頻度別）>

	回答者数 (n)	特 に ない	歩 道 の 段 差 や 傾 斜	建 物 の 段 差 や 階 段	電 車 、 バ ス や タ ク シ ー の 利 用	駅 構 内 の 移 動 や 乗 り 換 え	券 売 機 の 利 用	ト イ レ の 利 用	歩 道 が 狭 い ・ 障 害 物 が あ る	疲 れ た と き の 休 憩 場 所	自 動 車 ・ 自 転 車 に 危 険 を 感 じ る
全体	631	32.5	20.0	22.3	19.7	16.6	3.6	14.3	11.4	22.8	19.8
ほぼ毎日	254	44.9	13.8	17.7	13.4	13.0	2.4	12.2	9.4	16.9	18.9
週に3～4回	131	32.8	30.5	29.8	26.0	19.1	3.8	16.0	15.3	26.0	23.7
週に1～2回	96	25.0	24.0	33.3	27.1	28.1	5.2	15.6	10.4	38.5	24.0
月に1～3回	86	20.9	25.6	24.4	27.9	15.1	4.7	22.1	12.8	29.1	17.4
年に数回	25	20.0	16.0	16.0	24.0	20.0	12.0	12.0	16.0	12.0	20.0
全く外出しない	10	10.0	-	-	-	-	-	-	10.0	10.0	10.0

	回答者数 (n)	ス マ ー ト フ ォ ン な ど の 電 子 機 器 の な が ら 歩 き の 危 険 を 感 じ る	外 出 す る の に 支 援 が 必 要 で あ る	外 出 し た く て も 支 援 者 が い な い	周 囲 の 人 の 理 解 や 配 慮 が な い	雨 天 時	そ の 他	無 回 答
全体	631	15.8	14.3	3.0	5.9	17.3	7.8	5.4
ほぼ毎日	254	16.1	7.1	2.4	7.9	13.4	5.5	-
週に3～4回	131	22.9	11.5	0.8	6.1	22.9	6.1	2.3
週に1～2回	96	13.5	22.9	5.2	2.1	24.0	7.3	2.1
月に1～3回	86	11.6	25.6	5.8	7.0	22.1	12.8	1.2
年に数回	25	16.0	36.0	4.0	4.0	8.0	20.0	8.0
全く外出しない	10	-	30.0	10.0	-	-	30.0	30.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(12) まちのバリアフリー対応の満足度

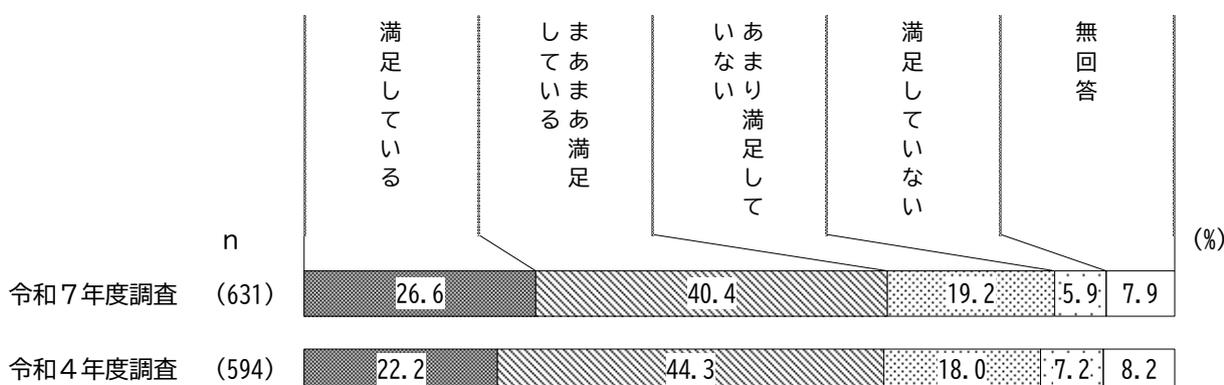
問15 あなたは区内の公共施設や道路などのバリアフリー対応について、満足していますか。
(1つに○)

まちのバリアフリー対応の満足度は、「満足している」の26.6%と「まあまあ満足している」の40.4%をあわせた『満足している』が67.0%となっている。

前回調査と比較すると、「満足している」が4.4ポイント増加している。

障害別にみると、『満足している』は、いずれの障害でも60%を超えて高くなっている。

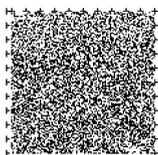
<図表 I -24-1 まちのバリアフリー対応の満足度 (全体) >



<図表 I -24-2 まちのバリアフリー対応の満足度 (障害別) >

	回答者数 (n)	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答
単位: %						
全体	631	26.6	40.4	19.2	5.9	7.9
身体障害	303	23.4	41.3	22.1	7.3	5.9
知的障害	70	28.6	34.3	20.0	5.7	11.4
発達障害	51	37.3	45.1	11.8	2.0	3.9
精神障害	115	27.8	37.4	19.1	6.1	9.6
高次脳機能障害	14	7.1	35.7	35.7	-	21.4
難病 (特定疾病)	165	24.2	47.9	18.8	4.2	4.8

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



5. 仕事について

(1) 現在の就労状況

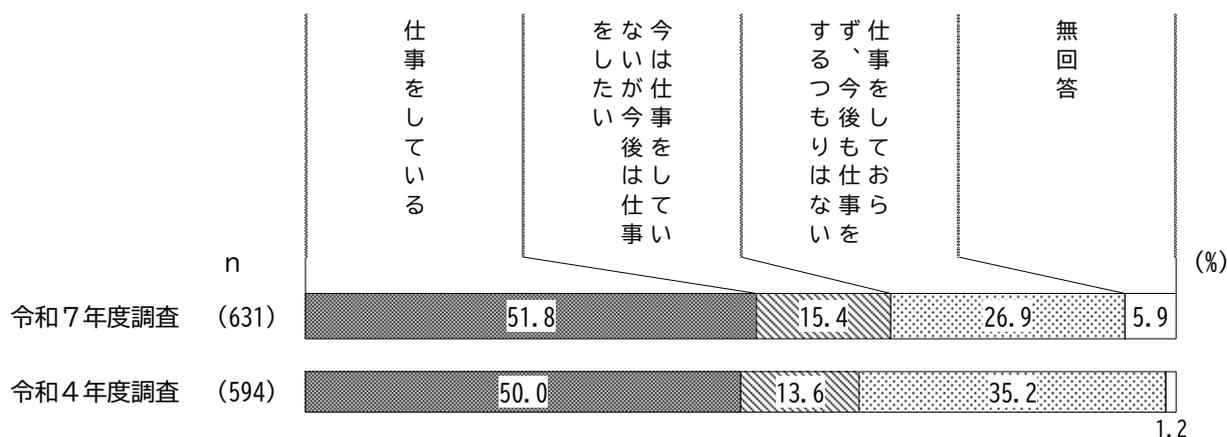
問16 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

現在の就労状況は、「仕事をしている」が51.8%で最も高く、次いで「仕事をしておらず、今後もし仕事をするつもりはない」が26.9%となっている。

前回調査と比較すると、「仕事をしておらず、今後もし仕事をするつもりはない」が8.3ポイント減少している。

障害別にみると、いずれの障害も「仕事をしている」が最も高くなっているが、知的障害の「仕事をしておらず、今後もし仕事をするつもりはない」が40.0%で他の障害よりも高くなっている。

<図表 I-25-1 現在の就労状況 (全体)>



<図表 I-25-2 現在の就労状況 (障害別)>

	回答者数 (n)	仕事をしている	今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい	仕事をしておらず、今後もし仕事をするつもりはない	無回答
単位: %					
全体	631	51.8	15.4	26.9	5.9
身体障害	303	51.5	14.2	28.7	5.6
知的障害	70	45.7	5.7	40.0	8.6
発達障害	51	58.8	23.5	15.7	2.0
精神障害	115	33.9	28.7	31.3	6.1
高次脳機能障害	14	50.0	-	42.9	7.1
難病 (特定疾病)	165	61.8	12.1	22.4	3.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 働き方

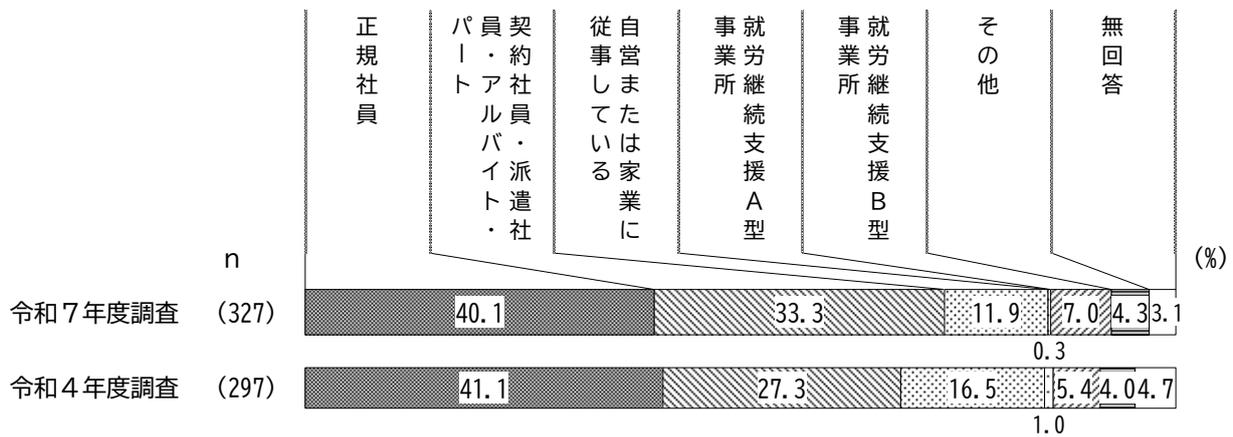
【問16-1から問16-5は、問16で「1. 仕事をしている」に○をした方におたずねします。】
 問16-1 どのような働き方をしていますか。(1つに○)

働き方は、「正規社員」が40.1%で最も高く、「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が33.3%、「自営または家業に従事している」が11.9%で続いている。

前回調査と比較すると、「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が6.0ポイント増加している。

障害別にみると、身体障害、難病（特定疾病）では「正規社員」、知的障害では「就労継続支援B型事業所」、発達障害、精神障害では「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が最も高くなっている。

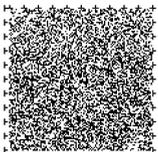
<図表 I-26-1 働き方（全体）>



<図表 I-26-2 働き方（障害別）>

	回答者数 (n)	正規社員	契約社員・派遣社員・アルバイト・パート	自営または家業に従事している	就労継続支援A型事業所	就労継続支援B型事業所	その他	無回答
単位：%								
全体	327	40.1	33.3	11.9	0.3	7.0	4.3	3.1
身体障害	156	51.9	26.3	12.8	-	1.9	3.8	3.2
知的障害	32	6.3	31.3	6.3	3.1	37.5	15.6	-
発達障害	30	23.3	46.7	13.3	-	10.0	3.3	3.3
精神障害	39	10.3	48.7	10.3	-	20.5	10.3	-
高次脳機能障害	7	28.6	57.1	-	-	14.3	-	-
難病（特定疾病）	102	48.0	35.3	11.8	-	-	2.9	2.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(3) 1週間の就労時間

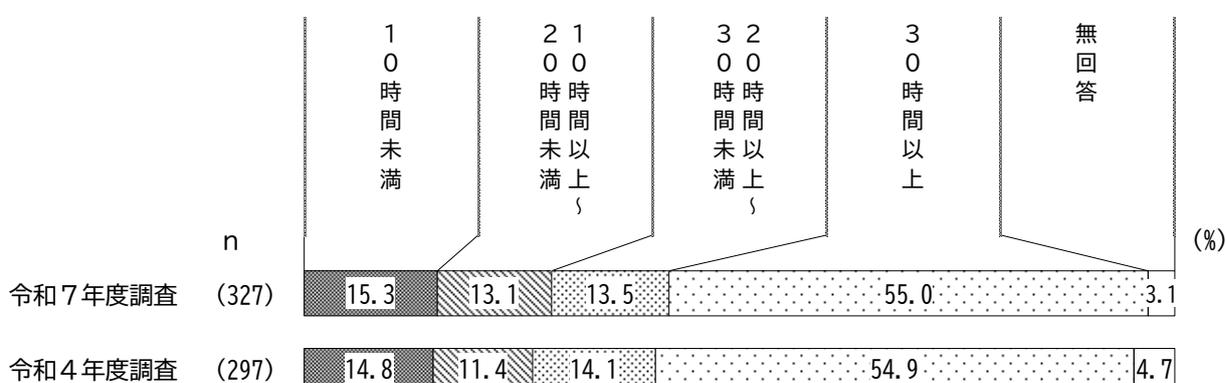
【問16-1から問16-5は、問16で「1. 仕事をしている」に○をした方におたずねします。】
 問16-2 働いているのは、週に何時間くらいですか。(1つに○)

1週間の就労時間は、「30時間以上」が55.0%で最も高く、「10時間未満」が15.3%、「20時間以上～30時間未満」が13.5%で続いている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、身体障害、発達障害、精神障害、難病（特定疾病）では「30時間以上」、知的障害では「10時間未満」が最も高くなっている。

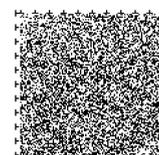
<図表 I -27-1 1週間の就労時間（全体）>



<図表 I -27-2 1週間の就労時間（障害別）>

障害別	回答者数 (n)	10時間未満 (%)	20時間未満～21時間以上 (%)	30時間未満～32時間以上 (%)	30時間以上 (%)	無回答 (%)
全体	327	15.3	13.1	13.5	55.0	3.1
身体障害	156	12.8	11.5	10.3	63.5	1.9
知的障害	32	34.4	18.8	25.0	21.9	-
発達障害	30	23.3	23.3	13.3	36.7	3.3
精神障害	39	23.1	23.1	15.4	35.9	2.6
高次脳機能障害	7	-	14.3	71.4	14.3	-
難病（特定疾病）	102	11.8	8.8	12.7	63.7	2.9

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(4) ひと月あたりの平均収入

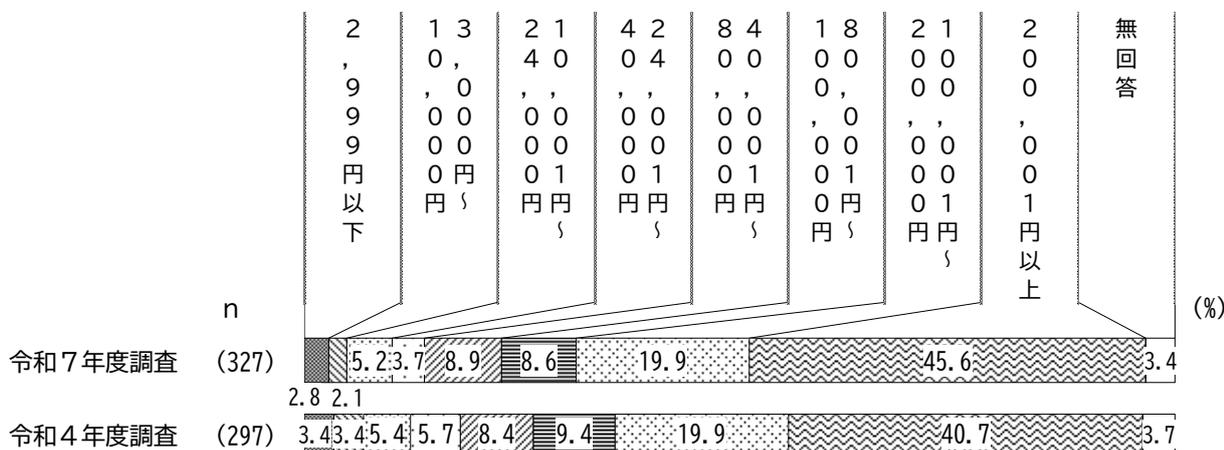
【問16-1から問16-5は、問16で「1. 仕事をしている」に○をした方におたずねします。】
 問16-3 ひと月あたりの仕事による収入は、平均してどれくらいですか。(1つに○)

ひと月あたりの平均収入は、「200,001円以上」が45.6%で最も高く、「100,001円～200,000円」が19.9%、「40,001円～80,000円」が8.9%で続いている。

前回調査と比較すると、「200,001円以上」が4.9ポイント増加している。

障害別にみると、身体障害、精神障害、難病（特定疾病）では「200,001円以上」、知的障害では「100,001円～200,000円」が最も高くなっている。発達障害では「200,001円以上」、「80,001円～100,000円」が同率で最も高くなっている。

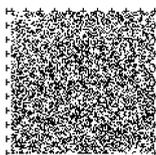
<図表 I-28-1 ひと月あたりの平均収入（全体）>



<図表 I-28-2 ひと月あたりの平均収入（障害別）>

	回答者数 (n)	2,999円以下	10,000円以下	20,001円以下	40,001円以下	80,001円以下	100,001円以下	200,001円以上	無回答	
全体	327	2.8	2.1	5.2	3.7	8.9	8.6	19.9	45.6	3.4
身体障害	156	1.9	1.3	3.8	1.3	8.3	6.4	16.0	59.0	1.9
知的障害	32	15.6	3.1	15.6	15.6	9.4	9.4	28.1	-	3.1
発達障害	30	6.7	3.3	13.3	6.7	13.3	20.0	13.3	20.0	3.3
精神障害	39	7.7	10.3	15.4	2.6	5.1	10.3	20.5	25.6	2.6
高次脳機能障害	7	-	-	14.3	14.3	-	42.9	14.3	14.3	-
難病（特定疾病）	102	-	-	-	4.9	7.8	10.8	22.5	52.0	2.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(5) 仕事における悩みごと・困りごと

【問16-1から問16-5は、問16で「1. 仕事をしている」に○をした方におたずねします。】

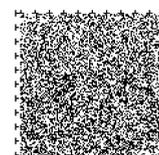
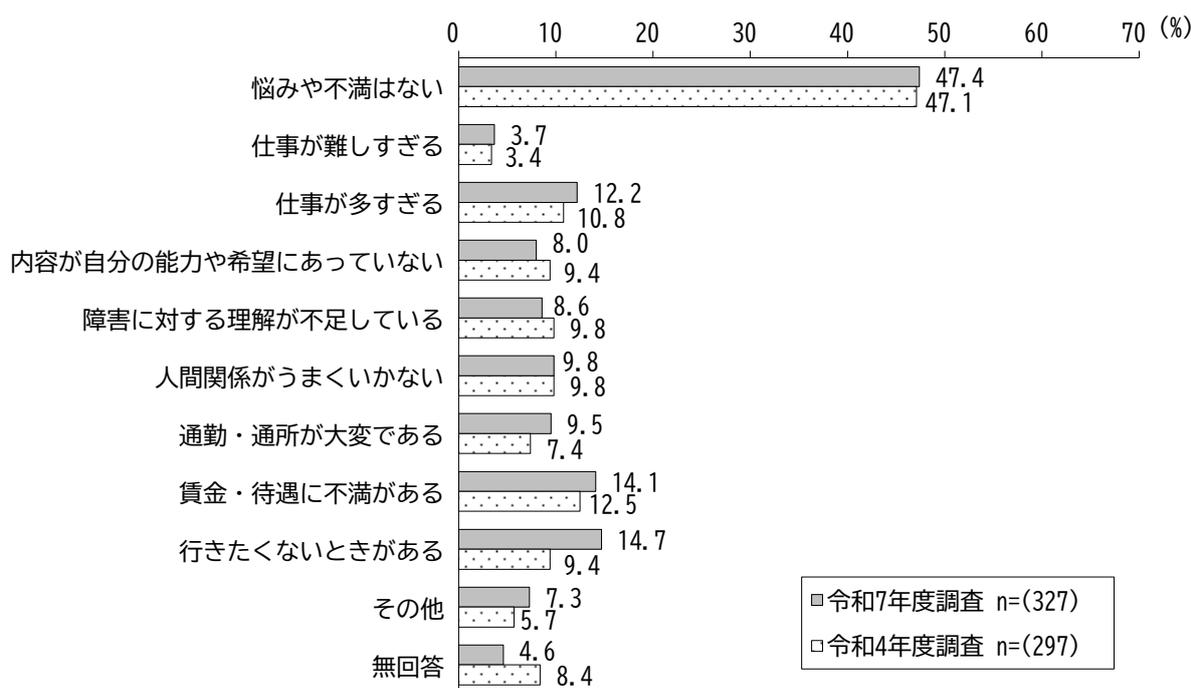
問16-4 今の仕事について、悩みごとや困りごとはありますか。(あてはまるものすべてに○)

仕事における悩みごと・困りごとは、『悩み事や困りごとがある』割合（全体から「悩みや不満はない」と「無回答」を除いたもの）は48.0%となっている。具体的な悩みごとや困りごとは「行きたくないときがある」が14.7%で最も高く、「賃金・待遇に不満がある」が14.1%、「仕事が多すぎる」が12.2%で続いている。

前回調査と比較すると、「行きたくないときがある」、「通勤・通所が大変である」などが増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「悩みや不満はない」が最も高くなっているが、発達障害と精神障害では「行きたくないときがある」が同率で最も高くなっている。

<図表 I -29-1 仕事における悩みごと・困りごと（全体）>



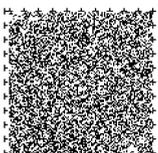
第2章 調査の結果

<図表 I-29-2 仕事における悩みごと・困りごと（障害別）>

	回答者数 (n)	悩みや不満はない	仕事 が難しすぎる	仕事 が多すぎる	内容が 自分の能力や 希望にあつて いない	障害に 対する理解が 不足している	人間 関係がうまく いかない	通勤・ 通所が大変 である	賃金・ 待遇に不満 がある	行き たくないとき がある	その他
単位：%											
全体	327	47.4	3.7	12.2	8.0	8.6	9.8	9.5	14.1	14.7	7.3
身体障害	156	49.4	4.5	12.2	11.5	10.3	7.7	13.5	15.4	10.9	6.4
知的障害	32	68.8	-	-	-	3.1	9.4	-	9.4	6.3	6.3
発達障害	30	36.7	3.3	13.3	-	10.0	30.0	-	16.7	36.7	-
精神障害	39	35.9	2.6	2.6	10.3	10.3	25.6	5.1	17.9	35.9	10.3
高次脳機能障害	7	42.9	-	-	-	14.3	-	28.6	14.3	14.3	28.6
難病（特定疾病）	102	49.0	2.9	16.7	6.9	4.9	6.9	6.9	11.8	9.8	9.8

	回答者数 (n)	無 回 答
単位：%		
全体	327	4.6
身体障害	156	3.8
知的障害	32	6.3
発達障害	30	3.3
精神障害	39	-
高次脳機能障害	7	-
難病（特定疾病）	102	3.9

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) 職場や作業所のバリアフリー対応の満足度

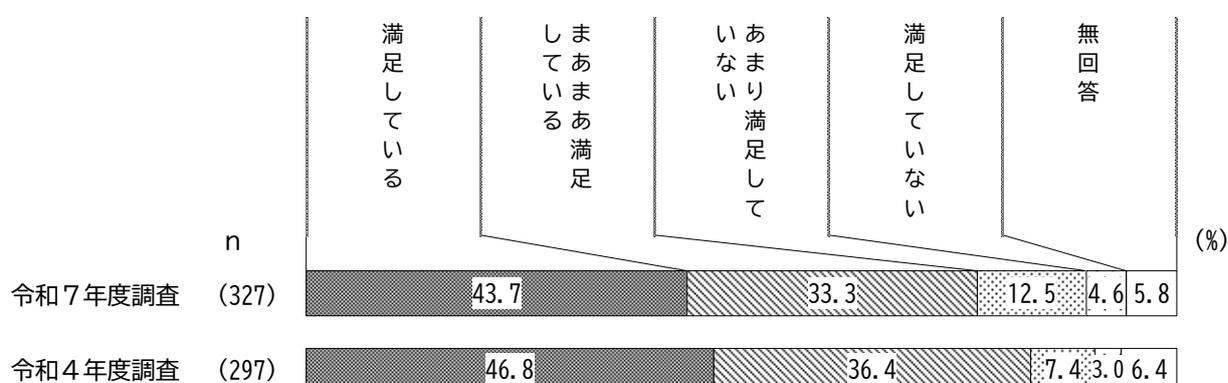
【問16-1から問16-5は、問16で「1. 仕事をしている」に○をした方におたずねします。】
 問16-5 あなたは、職場や作業所のバリアフリーについて満足していますか。(1つに○)

職場や作業所のバリアフリー対応の満足度は、「満足している」の43.7%と「まあまあ満足している」の33.3%をあわせた『満足している』が77.0%となっている。

前回調査と比較すると、「あまり満足していない」が5.1ポイント増加している。

障害別にみると、いずれの障害も『満足している』が70%を超えて高くなっている。

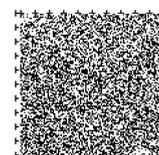
<図表 I-30-1 職場や作業所のバリアフリー対応の満足度(全体)>



<図表 I-30-2 職場や作業所のバリアフリー対応の満足度(障害別)>

	回答者数 (n)	満足している (%)	まあまあ満足している (%)	あまり満足していない (%)	満足していない (%)	無回答 (%)
全体	327	43.7	33.3	12.5	4.6	5.8
身体障害	156	41.0	38.5	13.5	3.8	3.2
知的障害	32	62.5	28.1	6.3	-	3.1
発達障害	30	46.7	26.7	13.3	3.3	10.0
精神障害	39	38.5	38.5	10.3	10.3	2.6
高次脳機能障害	7	85.7	-	14.3	-	-
難病(特定疾病)	102	42.2	35.3	12.7	2.9	6.9

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(7) 希望する働き方

【問16で「1. 仕事をしている」、または「2. 今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい」に○をした方におたずねします。】

問16-6 今後は、どのような働き方をしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

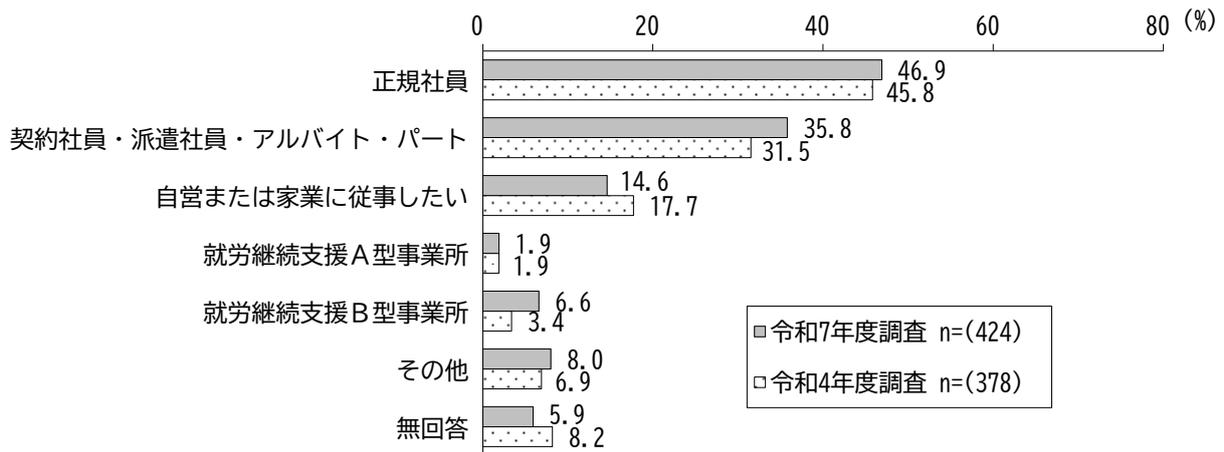
希望する働き方は、「正規社員」が46.9%で最も高く、「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が35.8%、「自営または家業に従事したい」が14.6%で続いている。

前回調査と比較すると、「自営または家業に従事したい」、「就労継続支援A型事業所」以外の項目で増加している。

障害別にみると、身体障害、発達障害、難病（特定疾病）では「正規社員」が、知的障害、精神障害では「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が最も高くなっている。

働き方別にみると、現在と同じ働き方を希望する人が多い。また、契約社員・派遣社員・アルバイト・パートの人では「正規社員」を希望する人が37.6%で比較的高くなっている。

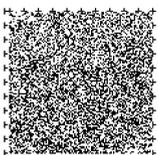
<図表 I -31-1 希望する働き方（全体）>



<図表 I -31-2 希望する働き方（障害別）>

	回答者数 (n)	正規社員	契約社員・派遣社員・パート	自営または家業に従事したい	就労継続支援A型事業所	就労継続支援B型事業所	その他	無回答
全体	424	46.9	35.8	14.6	1.9	6.6	8.0	5.9
身体障害	199	54.3	31.2	14.6	2.0	3.5	10.1	4.5
知的障害	36	19.4	33.3	2.8	-	27.8	11.1	11.1
発達障害	42	47.6	42.9	16.7	7.1	9.5	2.4	2.4
精神障害	72	40.3	47.2	19.4	2.8	12.5	9.7	1.4
高次脳機能障害	7	57.1	42.9	14.3	-	-	14.3	-
難病（特定疾病）	122	50.0	39.3	11.5	1.6	1.6	4.9	5.7

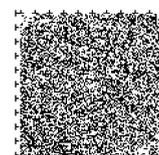
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



<図表 I -31-3 希望する働き方（働き方別）>

	回答者数 (n)	正規社員	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	自営または家業に 従事したい	事業所 就労継続支援A型	事業所 就労継続支援B型	その他	無回答
全体	327	52.0	25.7	15.0	0.9	5.8	7.0	6.7
正規社員	131	90.8	3.1	5.3	-	-	0.8	5.3
契約社員・派遣社員・ アルバイト・パート	109	37.6	66.1	8.3	1.8	1.8	7.3	0.9
自営または家業に従事 している	39	7.7	10.3	76.9	-	-	7.7	7.7
就労継続支援A型事業所	1	-	-	-	-	-	-	100.0
就労継続支援B型事業所	23	17.4	8.7	4.3	-	69.6	8.7	8.7
その他	14	14.3	-	-	-	-	64.3	21.4

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(8) 仕事をしていない理由

【問16で「3. 仕事をしておらず、今後も仕事をするつもりはない」に○をした方におたずねします。】

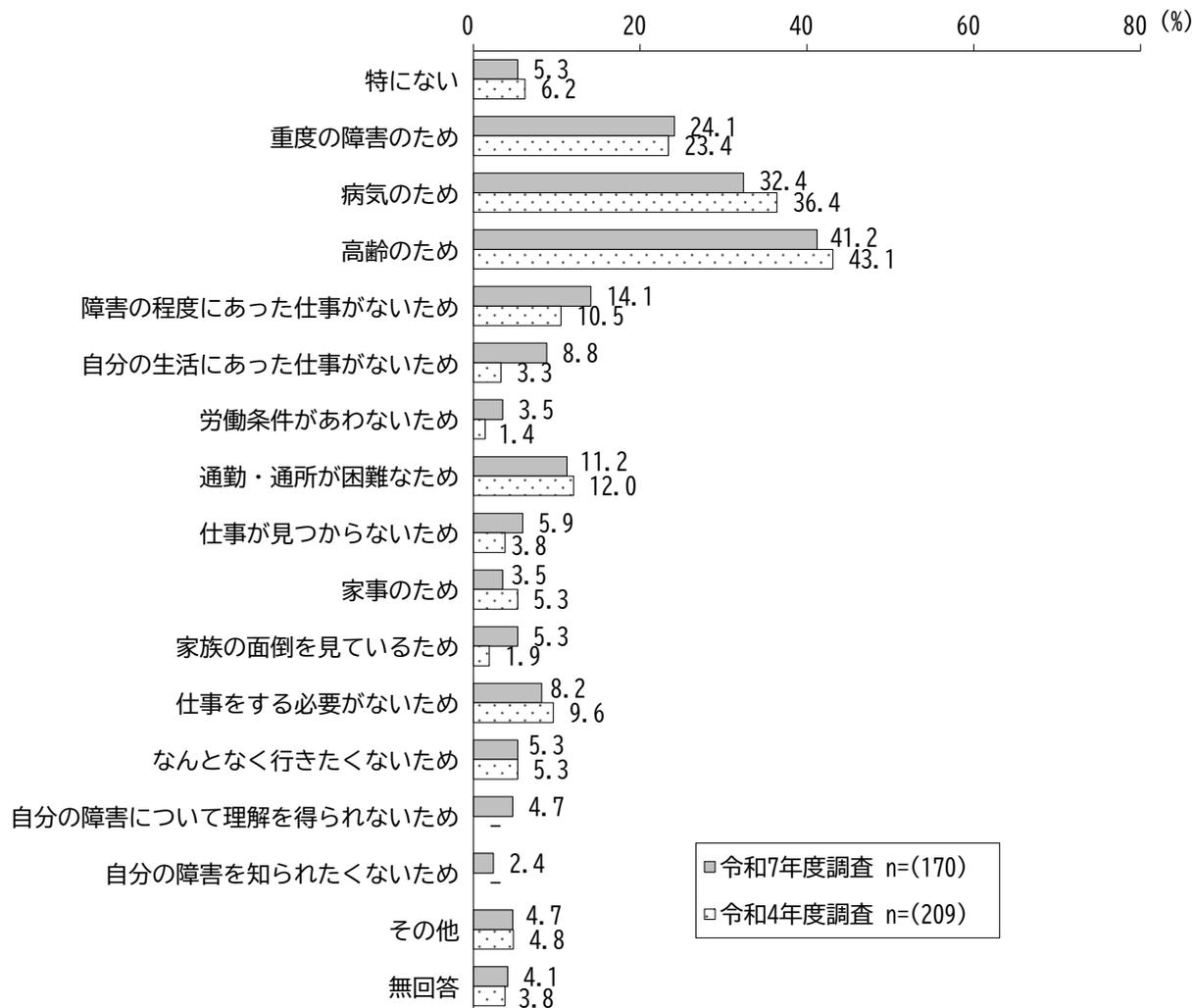
問16-7 理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

仕事をしていない理由は、「高齢のため」が41.2%で最も高く、「病気のため」が32.4%、「重度の障害のため」が24.1%が続いている。

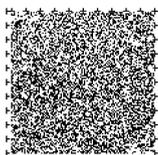
前回調査と比較すると、「自分の生活にあった仕事がないため」、「障害の程度にあった仕事がないため」などが増加している。

障害別にみると、身体障害、難病（特定疾病）では「高齢のため」、精神障害では「病気のため」が最も高くなっている。

<図表 I - 32 - 1 仕事をしていない理由（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「自分の障害について理解を得られないため」、「自分の障害を知られたくないため」が追加された。

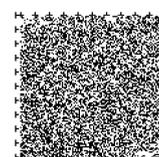


<図表 I-32-2 仕事をしていない理由（障害別）>

	回答者数 (n)	特 に ない	重 度 の 障 害 の た め	病 気 の た め	高 齢 の た め	障 害 の 程 度 に あ つ た 事 が な い た め	自 分 の 生 活 に あ つ た 事 が な い た め	労 働 条 件 が あ わ な い た め	通 勤 ・ 通 所 が 困 難 な た め	仕 事 が 見 つ か ら な い た め	家 事 の た め
全体	170	5.3	24.1	32.4	41.2	14.1	8.8	3.5	11.2	5.9	3.5
身体障害	87	3.4	29.9	27.6	37.9	14.9	8.0	3.4	13.8	6.9	3.4
知的障害	28	-	75.0	3.6	10.7	25.0	3.6	-	10.7	-	-
発達障害	8	-	50.0	50.0	25.0	12.5	12.5	-	12.5	-	12.5
精神障害	36	5.6	13.9	50.0	38.9	16.7	16.7	8.3	16.7	11.1	5.6
高次脳機能障害	6	-	50.0	33.3	16.7	33.3	16.7	-	16.7	16.7	16.7
難病（特定疾病）	37	5.4	16.2	40.5	45.9	13.5	13.5	2.7	8.1	5.4	5.4

	回答者数 (n)	家 族 の 面 倒 を 見 て い る た め	仕 事 を す る 必 要 が な い た め	な ん と な く 行 き た く な い た め	自 分 の 障 害 に つ い て 理 解 を 得 ら れ な い た め	自 分 の 障 害 を 知 ら れ な い た め	そ の 他	無 回 答
全体	170	5.3	8.2	5.3	4.7	2.4	4.7	4.1
身体障害	87	4.6	11.5	4.6	2.3	1.1	3.4	4.6
知的障害	28	-	10.7	-	3.6	-	-	3.6
発達障害	8	12.5	-	-	25.0	25.0	12.5	-
精神障害	36	5.6	2.8	13.9	16.7	8.3	11.1	2.8
高次脳機能障害	6	16.7	-	16.7	-	-	-	16.7
難病（特定疾病）	37	13.5	5.4	2.7	-	-	2.7	5.4

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(9) 障害者が働きやすい環境

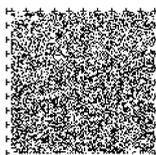
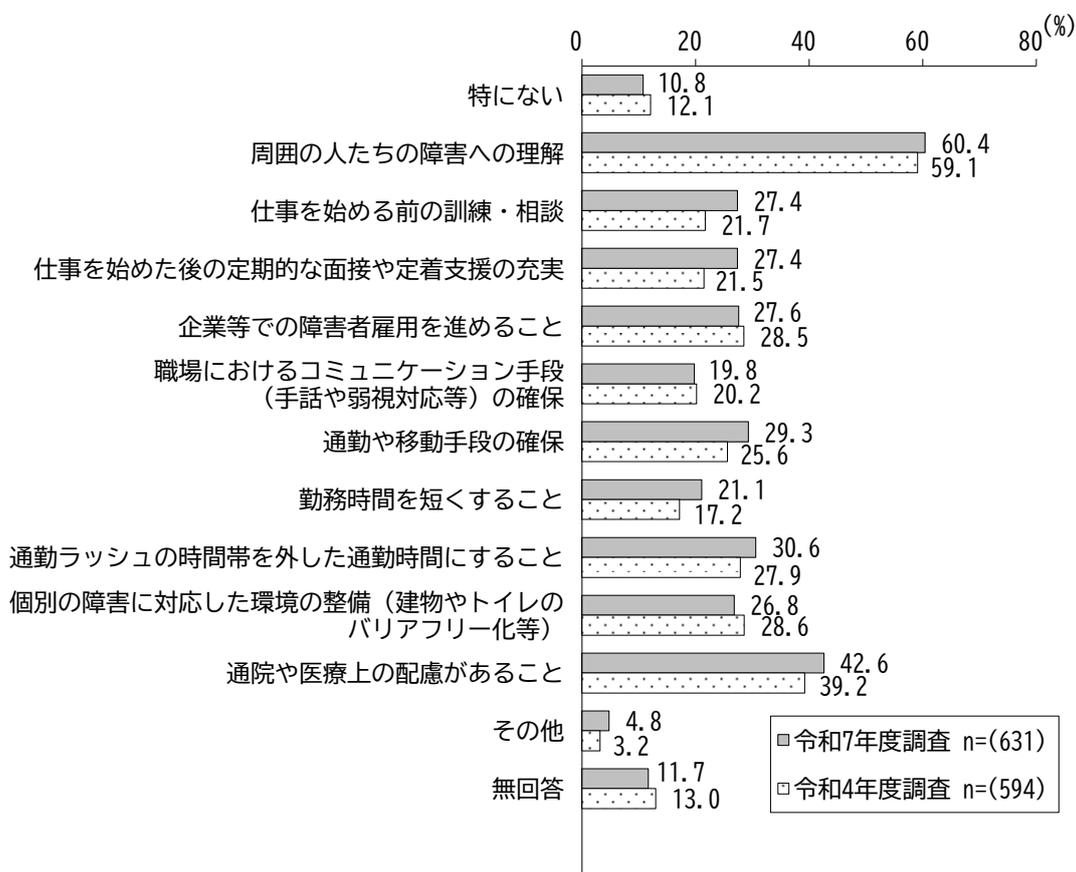
問17 障害がある方が働きやすい環境にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障害者が働きやすい環境は、「周囲の人たちの障害への理解」が60.4%で最も高く、「通院や医療上の配慮があること」が42.6%、「通勤ラッシュの時間帯を外した通勤時間にすること」が30.6%で続いている。

前回調査と比較すると、「仕事を始める前の訓練・相談」や「仕事を始めた後の定期的な面接や定着支援の充実」が増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「周囲の人たちの障害への理解」が最も高くなっている。

<図表 I - 33 - 1 障害者が働きやすい環境（全体）>

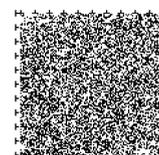


<図表 I -33-2 障害者が働きやすい環境（障害別）>

単位：%	回答者数（n）	特 に な い	周 圍 の 人 た ち の 障 害 へ の 理 解	仕 事 を 始 め る 前 の 訓 練 ・ 相 談	仕 事 を 始 め た 後 の 定 期 的 な 面 接 や 定 着 支 援 の 充 実	企 業 等 で の 障 害 者 雇 用 を 進 め る こ と	職 場 に お け る コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 手 段 （ 手 話 や 弱 視 対 応 等 ） の 確 保	通 勤 や 移 動 手 段 の 確 保	勤 務 時 間 を 短 く す る こ と	通 勤 ラ ッ シ ュ の 時 間 帯 と 外 した 通 勤 時 間 に す る こ と	個 別 の 障 害 に 対 応 し た 環 境 の 整 備 （ 建 物 や ト イ レ の バ リ ア フ リ ー 化 等 ）
全体	631	10.8	60.4	27.4	27.4	27.6	19.8	29.3	21.1	30.6	26.8
身体障害	303	11.9	56.8	25.4	22.8	30.7	22.1	35.3	17.8	32.3	29.7
知的障害	70	12.9	64.3	30.0	38.6	27.1	27.1	30.0	14.3	24.3	25.7
発達障害	51	2.0	76.5	37.3	47.1	41.2	21.6	19.6	21.6	41.2	29.4
精神障害	115	10.4	61.7	36.5	39.1	25.2	16.5	20.9	29.6	39.1	21.7
高次脳機能障害	14	7.1	57.1	42.9	21.4	21.4	21.4	28.6	14.3	50.0	35.7
難病（特定疾病）	165	4.2	69.7	26.1	28.5	24.2	21.8	33.3	20.0	29.1	29.1

単位：%	回答者数（n）	通 院 や 医 療 上 の 配 慮 が あ る こ と	そ の 他	無 回 答
全体	631	42.6	4.8	11.7
身体障害	303	42.9	6.3	10.9
知的障害	70	30.0	1.4	15.7
発達障害	51	45.1	3.9	5.9
精神障害	115	47.0	10.4	7.8
高次脳機能障害	14	71.4	14.3	14.3
難病（特定疾病）	165	54.5	1.8	12.7

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



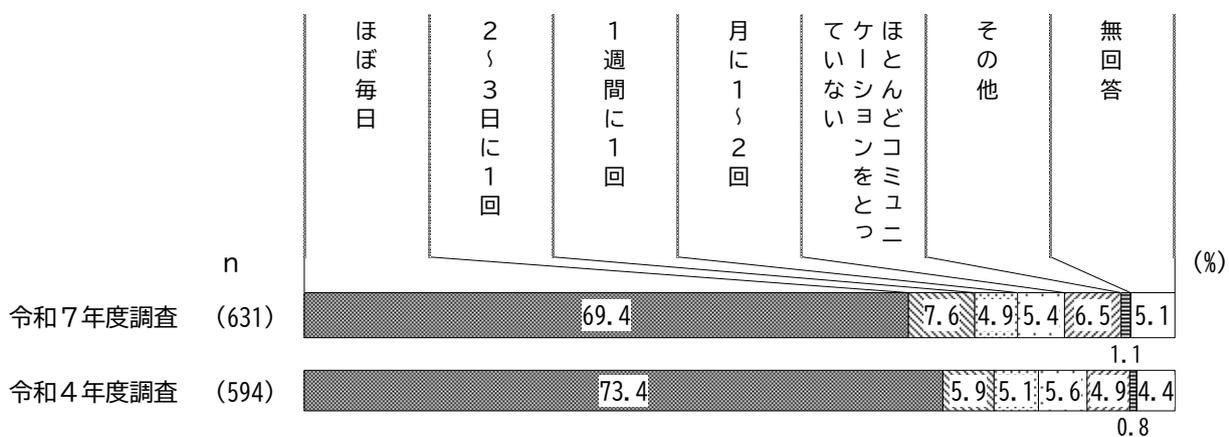
6. コミュニケーション・意思疎通について

(1) コミュニケーションの頻度

問18 あなたは、ふだん、どのくらい家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとっていますか。(電話やメール等を含む)(1つに○)

コミュニケーションの頻度は、「ほぼ毎日」が69.4%となっている。
 前回調査と比較すると、「ほぼ毎日」が4.0ポイント減少している。
 障害別にみると、いずれの障害も「ほぼ毎日」が高くなっている。

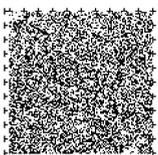
<図表 I-34-1 コミュニケーションの頻度(全体)>



<図表 I-34-2 コミュニケーションの頻度(障害別)>

	回答者数 (n)	ほぼ毎日	2〜3日に1回	1週間に1回	月に1〜2回	ケーシなどコミュニケーションをとっていない	その他	無回答
単位：%								
全体	631	69.4	7.6	4.9	5.4	6.5	1.1	5.1
身体障害	303	70.3	7.3	5.0	7.3	3.6	2.0	4.6
知的障害	70	80.0	-	2.9	5.7	1.4	4.3	5.7
発達障害	51	70.6	7.8	9.8	3.9	5.9	-	2.0
精神障害	115	54.8	12.2	9.6	4.3	13.9	-	5.2
高次脳機能障害	14	85.7	7.1	-	7.1	-	-	-
難病(特定疾病)	165	74.5	6.1	3.0	4.8	6.7	1.2	3.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

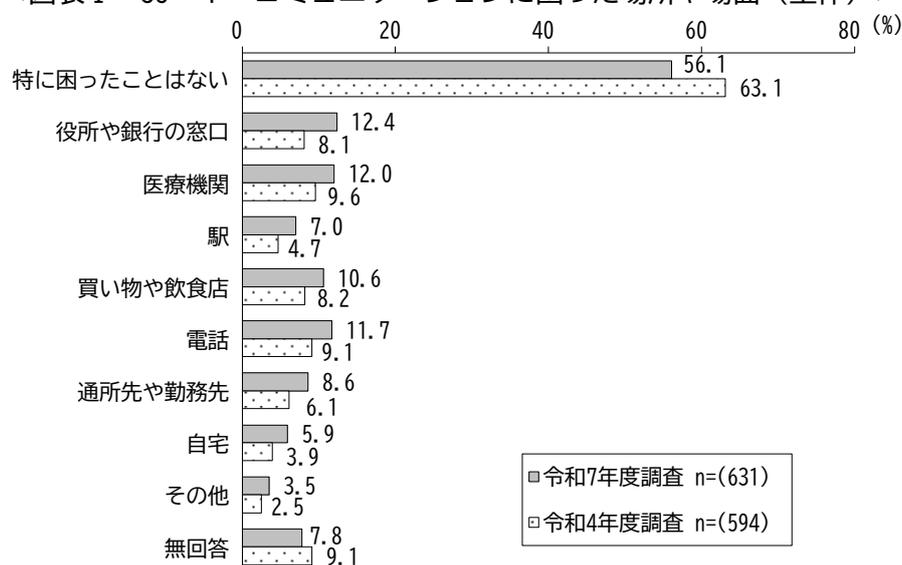


(2) コミュニケーションに困った場所や場面

問19 この1年間に、コミュニケーションに困った場所や場面はどこでしたか。
(あてはまるものすべてに○)

コミュニケーションに困った場所や場面は、『困ったことがある』割合（全体から「特に困ったことはない」と「無回答」を除いたもの）は36.1%となっている。具体的な困った場所や場面は「役所や銀行の窓口」が12.4%で最も高く、「医療機関」が12.0%、「電話」が11.7%で続いている。前回調査と比較すると、「特に困ったことはない」を除きすべての項目で増加している。障害別にみると、いずれの障害も「特に困ったことはない」が最も高くなっている。

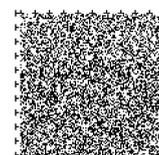
<図表 I-35-1 コミュニケーションに困った場所や場面（全体）>



<図表 I-35-2 コミュニケーションに困った場所や場面（障害別）>

	回答者数 (n)	特に困ったことはない	役所や銀行の窓口	医療機関	駅	買い物や飲食店	電話	通所先や勤務先	自宅	その他	無回答
単位：%											
全体	631	56.1	12.4	12.0	7.0	10.6	11.7	8.6	5.9	3.5	7.8
身体障害	303	55.4	14.2	12.5	10.6	12.5	12.2	8.3	6.3	4.0	6.9
知的障害	70	35.7	25.7	27.1	11.4	15.7	12.9	21.4	10.0	5.7	10.0
発達障害	51	41.2	21.6	23.5	11.8	19.6	21.6	21.6	11.8	3.9	3.9
精神障害	115	44.3	16.5	14.8	7.0	13.9	23.5	11.3	7.8	4.3	7.8
高次脳機能障害	14	28.6	-	14.3	7.1	28.6	21.4	14.3	7.1	-	21.4
難病（特定疾病）	165	69.7	7.3	6.1	2.4	4.8	5.5	4.2	5.5	3.0	5.5

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(3) 利用する意思疎通手段・支援

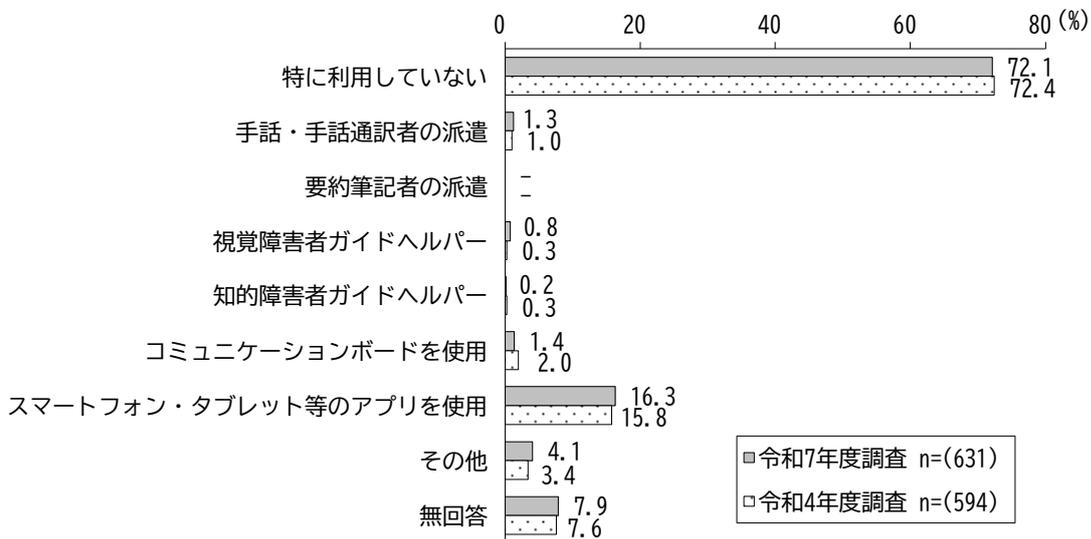
問20 あなたは、家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとるときに、どのような意思疎通手段・支援を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

利用する意思疎通手段・支援は、『利用している』割合（全体から「特に利用していない」と「無回答」を除いたもの）は20.0%となっている。具体的な意思疎通手段・支援は、「スマートフォン・タブレット等のアプリを使用」が16.3%で最も高くなっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、身体障害、発達障害、精神障害の「スマートフォン・タブレット等のアプリを使用」が比較的高くなっている。

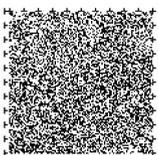
<図表 I -36-1 利用する意思疎通手段・支援（全体）>



<図表 I -36-2 利用する意思疎通手段・支援（障害別）>

	回答者数 (n)	特に利用していない	手話・手話通訳者の派遣	要約筆記者の派遣	視覚障害者ガイドヘルパー	知的障害者ガイドヘルパー	コミュニケーションボードを使用	スマートフォン・タブレット等のアプリを使用	その他	無回答
全体	631	72.1	1.3	-	0.8	0.2	1.4	16.3	4.1	7.9
身体障害	303	68.3	2.3	-	1.7	-	2.0	19.5	6.6	6.9
知的障害	70	72.9	-	-	-	1.4	1.4	8.6	11.4	8.6
発達障害	51	72.5	-	-	-	2.0	3.9	21.6	2.0	2.0
精神障害	115	69.6	0.9	-	-	-	2.6	19.1	1.7	8.7
高次脳機能障害	14	57.1	-	-	-	-	-	28.6	7.1	14.3
難病（特定疾病）	165	77.0	-	-	-	0.6	0.6	14.5	4.8	4.8

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(4) 充実を希望する情報媒体

問21 障害福祉に関する情報の入手方法について、今後、充実を希望するものは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

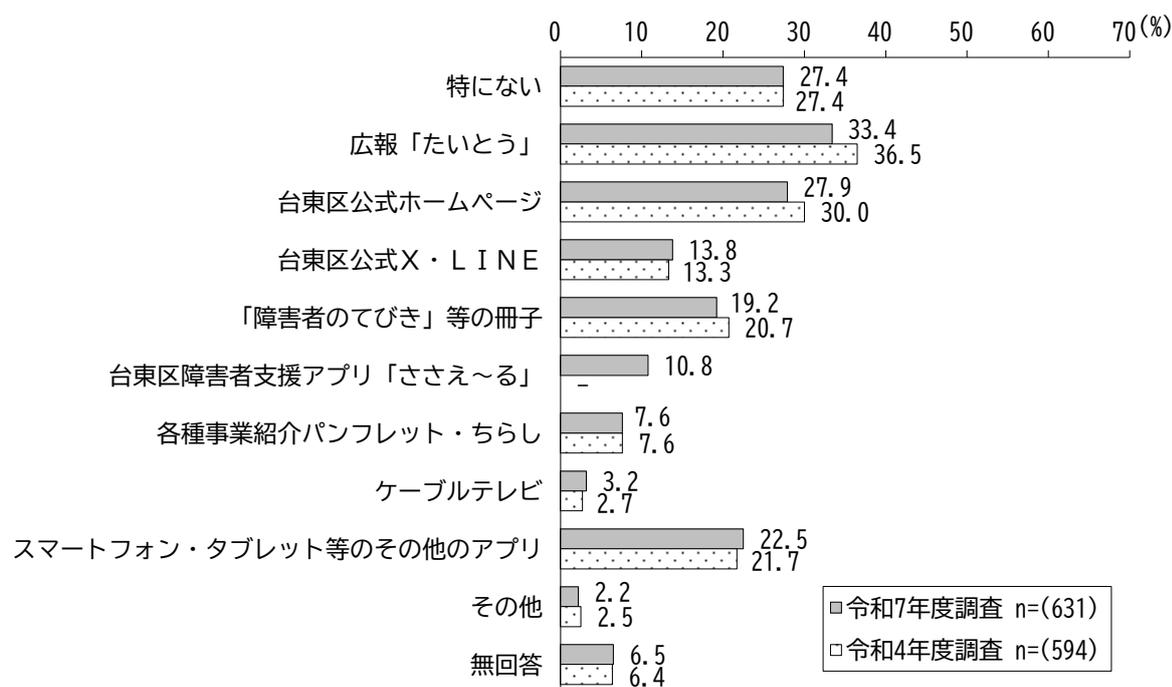
充実を希望する情報媒体は、「広報「たいとう」」が33.4%で最も高く、「台東区公式ホームページ」が27.9%、「スマートフォン・タブレット等のその他のアプリ」が22.5%で続いている。

前回調査と比較すると、「広報「たいとう」」、「台東区公式ホームページ」、「「障害者のてびき」等の冊子」が減少している。

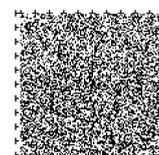
障害別にみると、発達障害では「スマートフォン・タブレット等のその他のアプリ」が37.3%で他の障害よりも高くなっている。

年齢別にみると、65～74歳と75歳以上では「広報「たいとう」」が、18歳～39歳と40～64歳では「台東区公式ホームページ」が高くなっている。

<図表 I-37-1 充実を希望する情報媒体（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「台東区障害者支援アプリ「ささえ～る」」が追加された。



第2章 調査の結果

<図表 I-37-2 充実を希望する情報媒体（障害別）>

	回答者数 (n)	特 に ない	広 報 「 た い と う 」	台 東 区 公 式 ホ ー ム ペ ー ジ	台 東 区 公 式 X ・ L I N E	「 障 害 者 の て び き 」 等 の 冊 子	台 東 区 障 害 者 支 援 ア プ リ 「 さ さ え く る 」	各 種 事 業 紹 介 パ ン フ レ ッ ト ・ ち ら し	ケ ー ブ ル テ レ ビ	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の そ の 他 の ア プ リ	そ の 他
全体	631	27.4	33.4	27.9	13.8	19.2	10.8	7.6	3.2	22.5	2.2
身体障害	303	25.4	34.0	32.3	16.8	21.8	10.6	5.6	3.0	21.5	2.3
知的障害	70	34.3	31.4	22.9	8.6	31.4	15.7	11.4	2.9	15.7	2.9
発達障害	51	29.4	23.5	19.6	19.6	23.5	15.7	7.8	2.0	37.3	2.0
精神障害	115	28.7	30.4	27.0	16.5	20.0	12.2	10.4	3.5	26.1	3.5
高次脳機能障害	14	21.4	21.4	7.1	-	35.7	7.1	14.3	-	28.6	-
難病（特定疾病）	165	23.6	33.9	29.1	12.7	16.4	12.1	7.9	1.8	26.1	1.8

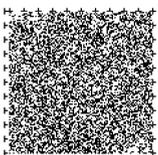
	回答者数 (n)	無 回 答
全体	631	6.5
身体障害	303	6.6
知的障害	70	7.1
発達障害	51	3.9
精神障害	115	7.0
高次脳機能障害	14	7.1
難病（特定疾病）	165	5.5

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

<図表 I-37-3 充実を希望する情報媒体（年齢別）>

	回答者数 (n)	特 に ない	広 報 「 た い と う 」	台 東 区 公 式 ホ ー ム ペ ー ジ	台 東 区 公 式 X ・ L I N E	「 障 害 者 の て び き 」 等 の 冊 子	台 東 区 障 害 者 支 援 ア プ リ 「 さ さ え く る 」	各 種 事 業 紹 介 パ ン フ レ ッ ト ・ ち ら し	ケ ー ブ ル テ レ ビ	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の そ の 他 の ア プ リ	そ の 他
全体	631	27.4	33.4	27.9	13.8	19.2	10.8	7.6	3.2	22.5	2.2
18～39歳	200	29.5	24.5	27.0	17.5	20.5	12.5	7.5	2.5	25.0	2.5
40～64歳	265	23.8	32.1	36.6	16.2	19.2	11.7	8.3	2.6	27.5	1.5
65～74歳	76	34.2	39.5	18.4	9.2	11.8	6.6	5.3	3.9	21.1	3.9
75歳以上	83	27.7	55.4	12.0	1.2	24.1	8.4	8.4	4.8	2.4	2.4

	回答者数 (n)	無 回 答
全体	631	6.5
18～39歳	200	6.5
40～64歳	265	6.8
65～74歳	76	3.9
75歳以上	83	7.2



7. 障害福祉サービスについて

(1) 障害福祉サービスの利用状況

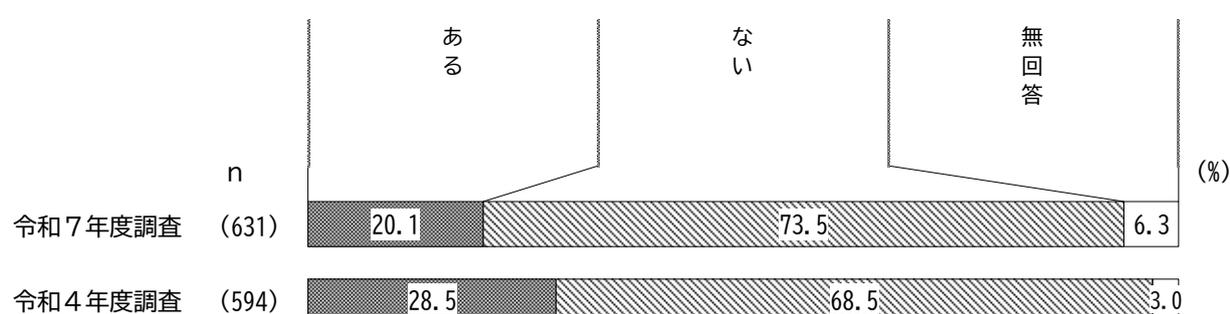
問22 あなたは現在、利用している障害福祉サービスはありますか。(1つに○)

障害福祉サービスの利用状況は「ない」が73.5%を占めている。

前回調査と比較すると、「ある」が8.4ポイント減少している。

障害別にみると、知的障害では「ある」が68.6%で他の障害よりも高くなっている。

<図表 I - 38 - 1 障害福祉サービスの利用状況 (全体) >

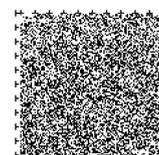


<図表 I - 38 - 2 障害福祉サービスの利用状況 (障害別) >

	回答者数 (n)	ある	ない	無回答
全体	631	20.1	73.5	6.3
身体障害	303	20.5	74.6	5.0
知的障害	70	68.6	22.9	8.6
発達障害	51	21.6	76.5	2.0
精神障害	115	18.3	73.0	8.7
高次脳機能障害	14	42.9	57.1	-
難病 (特定疾病)	165	12.1	81.8	6.1

単位：%

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 障害福祉サービスを利用していない理由

【問22で「2.ない」に○をした方におたずねします。】

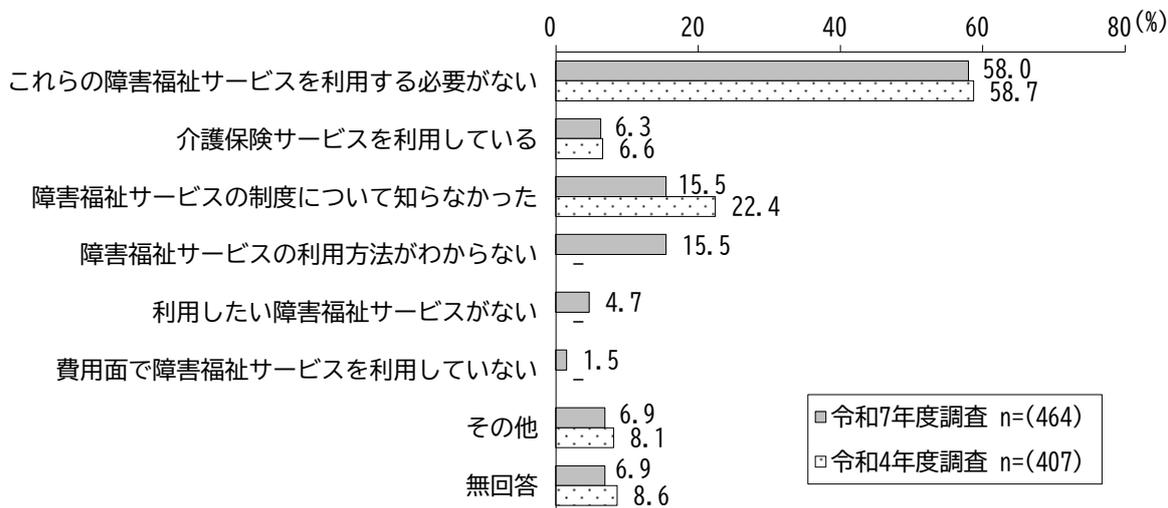
問22-1 利用していない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

障害福祉サービスを利用していない理由は、「これらの障害福祉サービスを利用する必要がない」が58.0%で最も高く、次いで「障害福祉サービスの制度について知らなかった」と「障害福祉サービスの利用方法がわからない」が共に15.5%となっている。

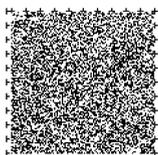
前回調査と比較すると、「障害福祉サービスの制度について知らなかった」が6.9ポイント減少している。

障害別にみると、いずれの障害も「これらの障害福祉サービスを利用する必要がない」が最も高くなっている。

<図表 I -39-1 障害福祉サービスを利用していない理由（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「障害福祉サービスの利用方法がわからない」、「利用したい障害福祉サービスがない」、「費用面で障害福祉サービスを利用していない」が追加された。



<図表 I-39-2 障害福祉サービスを利用していない理由（障害別）>

	回答者数 (n)	これらの障害福祉サービスを利用する必要がない	介護保険サービスを利用している	障害福祉サービスの制度について知らなかった	障害福祉サービスの利用方法がわからない	利用したい障害福祉サービスがない	費用面で障害福祉サービスを利用していない	その他	無回答
単位：%									
全体	464	58.0	6.3	15.5	15.5	4.7	1.5	6.9	6.9
身体障害	226	59.3	6.6	12.4	12.4	6.6	0.9	8.0	6.6
知的障害	16	68.8	-	18.8	6.3	-	-	-	18.8
発達障害	39	38.5	5.1	33.3	33.3	2.6	5.1	12.8	7.7
精神障害	84	38.1	4.8	26.2	28.6	3.6	4.8	13.1	4.8
高次脳機能障害	8	62.5	12.5	12.5	-	12.5	-	-	12.5
難病（特定疾病）	135	68.9	5.2	14.8	9.6	2.2	1.5	4.4	5.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(3) 障害支援区分の認定状況

【問22-2から問22-7は、問22で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

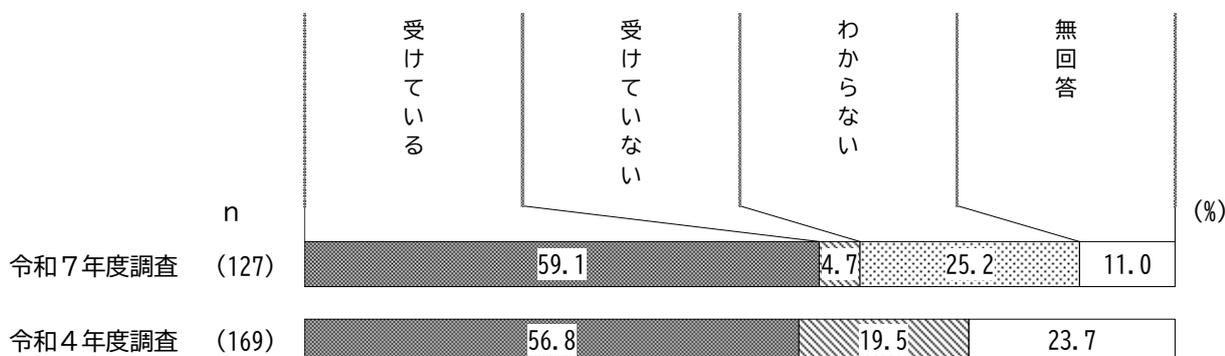
問22-2 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。受けている場合は、その区分にも○をしてください。(1つに○)

障害支援区分の認定状況は、「受けている」が59.1%を占めている。

前回調査と比較すると、「わからない」の追加により回答傾向に差が出ているが、「受けている」の割合は増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「受けている」が最も高くなっている。

<図表 I - 40 - 1 障害支援区分の認定状況 (全体) >

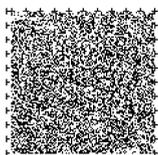


※令和7年度調査より、選択肢「わからない」が追加された。

<図表 I - 40 - 2 障害支援区分の認定状況 (障害別) >

	回答者数 (n)	受けている (%)	受けていない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	127	59.1	4.7	25.2	11.0
身体障害	62	62.9	1.6	22.6	12.9
知的障害	48	75.0	-	16.7	8.3
発達障害	11	54.5	-	27.3	18.2
精神障害	21	42.9	9.5	42.9	4.8
高次脳機能障害	6	66.7	-	16.7	16.7
難病 (特定疾病)	20	45.0	15.0	15.0	25.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



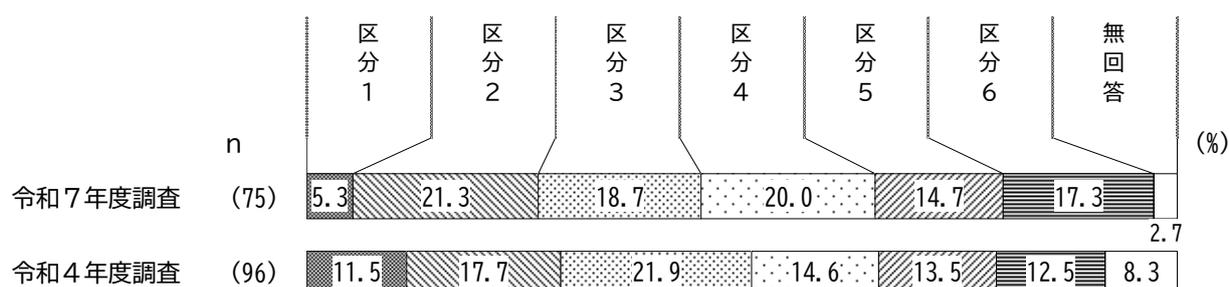
障害支援区分

障害支援区分の認定を受けている場合の区分は、「区分2」が21.3%で最も高く、「区分4」が20.0%、「区分3」が18.7%で続いている。

前回調査と比較すると、「区分1」、「区分3」が減少し、その他の区分は増加している。

障害別にみると、身体障害では「区分6」、知的障害では「区分4」が最も高くなっている。

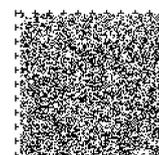
<図表 I - 40 - 3 障害支援区分 (全体) >



<図表 I - 40 - 4 障害支援区分 (障害別) >

	回答者数 (n)	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	無回答
全体	75	5.3	21.3	18.7	20.0	14.7	17.3	2.7
身体障害	39	7.7	17.9	17.9	12.8	7.7	30.8	5.1
知的障害	36	2.8	11.1	8.3	30.6	19.4	27.8	-
発達障害	6	-	66.7	-	16.7	16.7	-	-
精神障害	9	11.1	55.6	22.2	11.1	-	-	-
高次脳機能障害	4	25.0	-	50.0	-	-	25.0	-
難病 (特定疾病)	9	-	22.2	22.2	22.2	33.3	-	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(4) サービスの申請手続き等を行っている人

【問22-2から問22-7は、問22で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

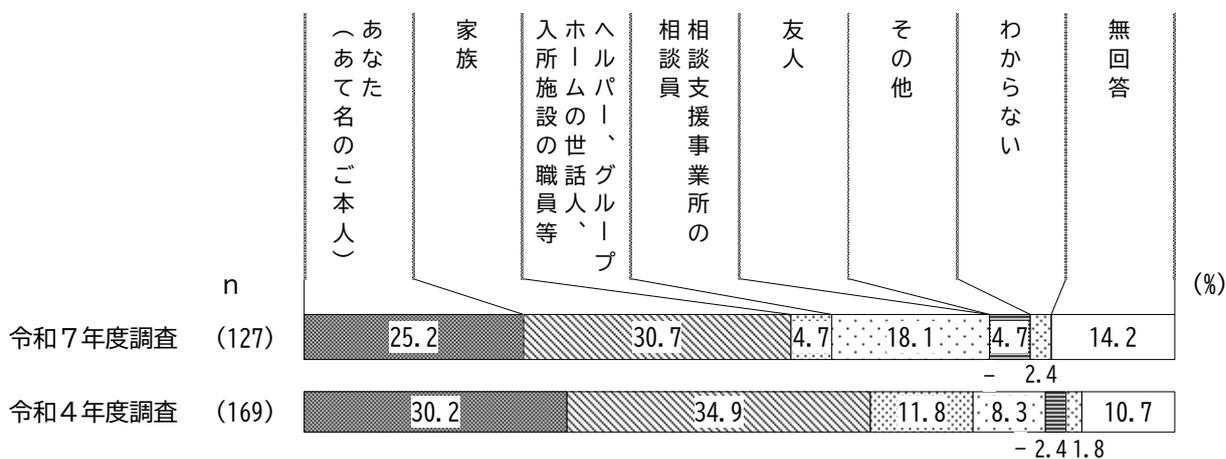
問22-3 あなたがサービスを利用するにあたって、申請手続きや事業者との連絡・調整を行っているのは主にどなたですか。(1つに○)

サービスの申請手続き等を行っている人は、「家族」が30.7%で最も高く、「あなた（あて名のご本人）」が25.2%、「相談支援事業所の相談員」が18.1%が続いている。

前回調査と比較すると、「相談支援事業所の相談員」が9.8ポイント増加している。

障害別にみると、身体障害と知的障害では「家族」が最も高くなっている。

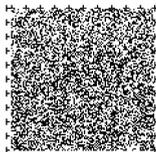
<図表 I-41-1 サービスの申請手続き等を行っている人（全体）>



<図表 I-41-2 サービスの申請手続き等を行っている人（障害別）>

	回答者数 (n)	あなた（あて名のご本人）	家族	相談支援事業所の相談員	友人	その他	わからない	無回答
全体	127	25.2	30.7	18.1	-	4.7	2.4	14.2
身体障害	62	25.8	30.6	21.0	-	4.8	1.6	14.5
知的障害	48	4.2	52.1	14.6	-	6.3	-	14.6
発達障害	11	9.1	45.5	27.3	-	9.1	-	9.1
精神障害	21	38.1	19.0	23.8	-	-	9.5	9.5
高次脳機能障害	6	-	16.7	33.3	-	16.7	-	33.3
難病（特定疾病）	20	20.0	35.0	25.0	-	-	-	20.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(5) サービス等利用計画の作成者

【問22-2から問22-7は、問22で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

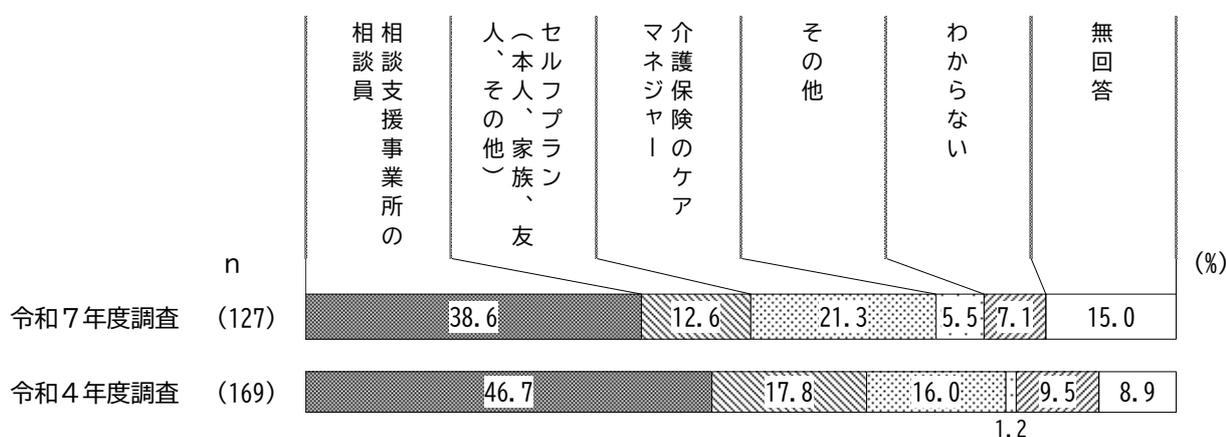
問22-4 あなたのサービス等利用計画は、どなたが作成していますか。(1つに○)

サービス等利用計画の作成者は、「相談支援事業所の相談員」が38.6%で最も高く、「介護保険のケアマネジャー」が21.3%、「セルフプラン（本人、家族、友人、その他）」が12.6%で続いている。

前回調査と比較すると、「相談支援事業所の相談員」、「セルフプラン（本人、家族、友人、その他）」は減少し、「介護保険のケアマネジャー」が増加している。

障害別にみると、身体障害と知的障害では「相談支援事業所の相談員」が最も高くなっている。

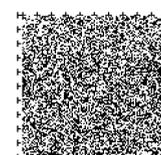
<図表 I-42-1 サービス等利用計画の作成者（全体）>



<図表 I-42-2 サービス等利用計画の作成者（障害別）>

	回答者数 (n)	相談支援事業所の相談員	セルフプラン（本人、家族、友人、その他）	介護保険のケアマネジャー	その他	わからない	無回答
全体	127	38.6	12.6	21.3	5.5	7.1	15.0
身体障害	62	37.1	9.7	25.8	4.8	4.8	17.7
知的障害	48	56.3	12.5	2.1	10.4	2.1	16.7
発達障害	11	45.5	9.1	-	18.2	9.1	18.2
精神障害	21	47.6	19.0	14.3	4.8	14.3	-
高次脳機能障害	6	50.0	16.7	33.3	-	-	-
難病（特定疾病）	20	15.0	5.0	35.0	5.0	5.0	35.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) 相談支援事業所利用の満足度

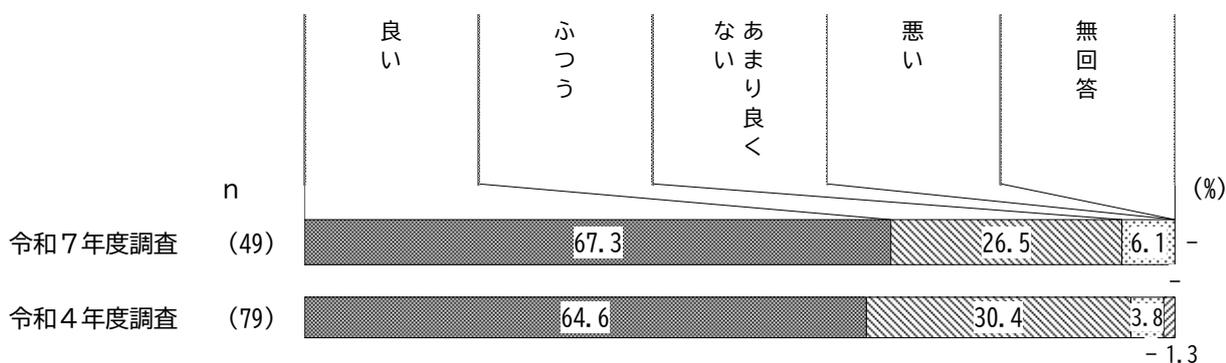
【問22-4で「1.相談支援事業所の相談員」に○をした方におたずねします。】

問22-4-1 相談支援事業所を利用して、どのように感じていますか。(1つに○)

相談支援事業所利用の満足度は、「良い」が67.3%で最も高く、「ふつう」が26.5%、「あまり良くない」が6.1%で続いている。

前回調査と比較すると、「良い」が2.7ポイント増加している。

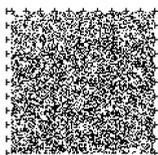
<図表 I - 43 - 1 相談支援事業所利用の満足度 (全体) >



<図表 I - 43 - 2 相談支援事業所利用の満足度 (障害別) >

	回答者数 (n)	良い	ふつう	あまり良くない	悪い	無回答
全体	49	67.3	26.5	6.1	-	-
身体障害	23	60.9	26.1	13.0	-	-
知的障害	27	70.4	22.2	7.4	-	-
発達障害	5	60.0	20.0	20.0	-	-
精神障害	10	60.0	40.0	-	-	-
高次脳機能障害	3	66.7	33.3	-	-	-
難病 (特定疾病)	3	66.7	33.3	-	-	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



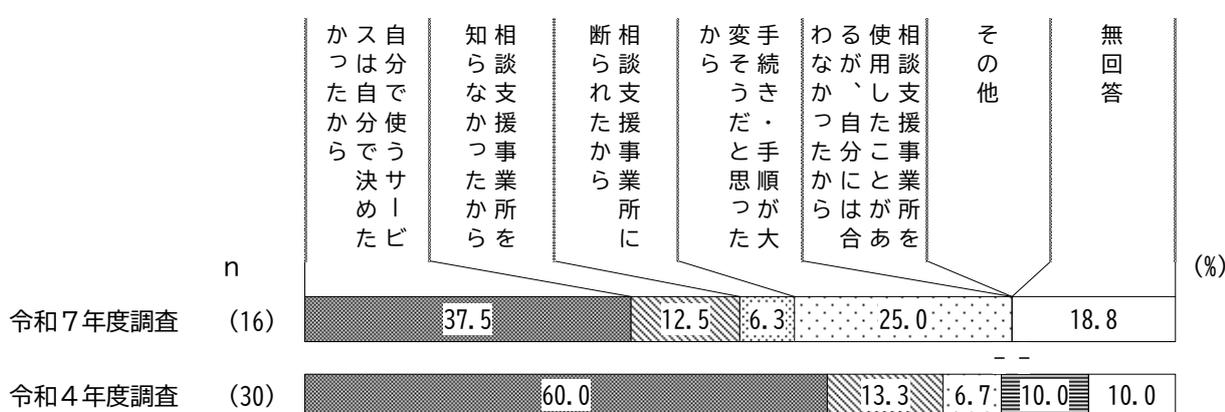
(7) セルフプランを選んだ理由

問22で「2.セルフプラン」に○をした方におたずねします。
 問22-4-2 なぜ、セルフプランを選びましたか。(1つに○)

セルフプランを選んだ理由は、「自分で使うサービスは自分で決めたかったから」が37.5%、次いで「手続き・手順が大変そうだったから」が25.0%となっている。

前回調査と比較すると、「自分で使うサービスは自分で決めたかったから」が22.5ポイント減少し、「手続き・手順が大変そうだったから」が18.3ポイント増加している。

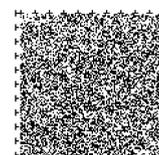
<図表 I-44-1 セルフプランを選んだ理由(全体)>



<図表 I-44-2 セルフプランを選んだ理由(障害別)>

	回答者数(n)	自分で使うサービスは自分で決めたかったから	相談支援事業所に断られたから	相談支援事業所を知らなかったから	手続き・手順が大変そうだったから	その他	無回答
全体	16	37.5	12.5	6.3	25.0	-	18.8
身体障害	6	33.3	-	16.7	16.7	-	33.3
知的障害	6	16.7	16.7	16.7	33.3	-	16.7
発達障害	1	-	-	100.0	-	-	-
精神障害	4	50.0	25.0	25.0	-	-	-
高次脳機能障害	1	-	-	-	-	-	100.0
難病(特定疾病)	1	100.0	-	-	-	-	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(8) 障害福祉サービスの支給決定内容（量）の満足度

【引き続き問22で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

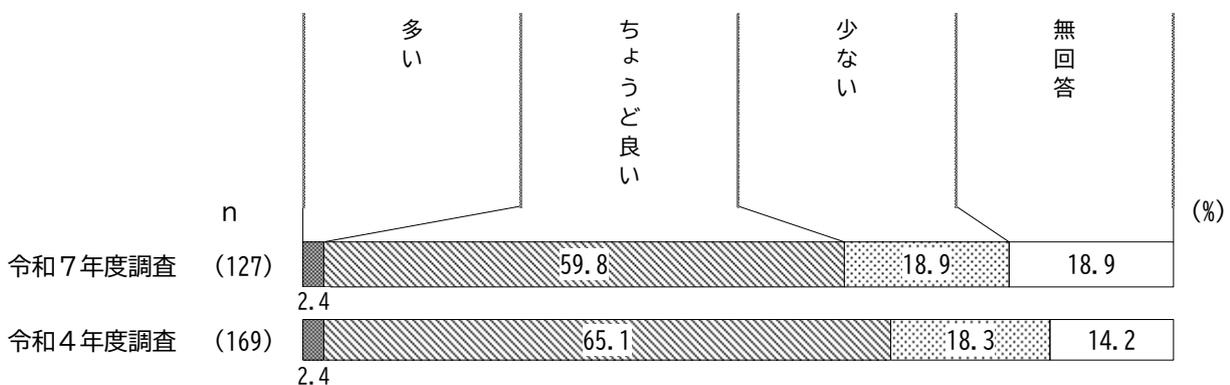
問22-5 あなたは、ご自身の障害福祉サービスの支給決定内容（量）について、どのように感じていますか。（1つに○）

障害福祉サービスの支給決定内容（量）の満足度は、「ちょうど良い」が59.8%で最も高く、次いで「少ない」が18.9%となっている。

前回調査と比較すると、「ちょうど良い」が5.3ポイント減少している。

障害別にみると、いずれの障害も「ちょうど良い」が最も高くなっている。

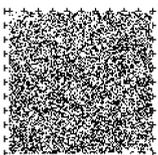
<図表 I -45-1 障害福祉サービスの支給決定内容（量）の満足度（全体）>



<図表 I -45-2 障害福祉サービスの支給決定内容（量）の満足度（障害別）>

	回答者数 (n)	多い	ちょうど良い	少ない	無回答
単位：%					
全体	127	2.4	59.8	18.9	18.9
身体障害	62	1.6	59.7	16.1	22.6
知的障害	48	2.1	75.0	12.5	10.4
発達障害	11	-	63.6	18.2	18.2
精神障害	21	4.8	47.6	33.3	14.3
高次脳機能障害	6	16.7	50.0	33.3	-
難病（特定疾病）	20	-	50.0	20.0	30.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(9) 事業者の対応の満足度

【引き続き問22で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

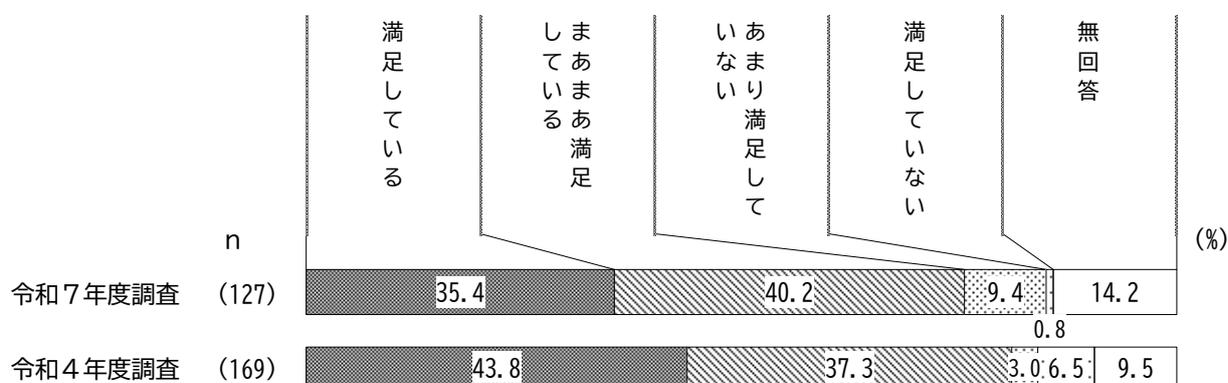
問22-6 あなたは、障害福祉サービス事業者の対応について、満足していますか。(1つに○)

事業者の対応の満足度は、「まあまあ満足している」の40.2%と、「満足している」の35.4%をあわせた『満足している』は、75.6%となっている。

前回調査と比較すると、『満足している』が5.5ポイント減少している。

障害別にみると、『満足している』は、身体障害と知的障害では、それぞれ64.5%、85.5%と高くなっている。

<図表 I -46-1 事業者の対応の満足度（全体）>

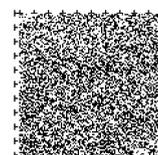


<図表 I -46-2 事業者の対応の満足度（障害別）>

	回答者数 (n)	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答
全体	127	35.4	40.2	9.4	0.8	14.2
身体障害	62	33.9	30.6	12.9	1.6	21.0
知的障害	48	41.7	43.8	6.3	-	8.3
発達障害	11	36.4	45.5	9.1	-	9.1
精神障害	21	33.3	57.1	9.5	-	-
高次脳機能障害	6	50.0	16.7	16.7	-	16.7
難病（特定疾病）	20	35.0	30.0	10.0	-	25.0

単位：%

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(10) 苦情や不満があったときの事業者の対応状況

【引き続き問22で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

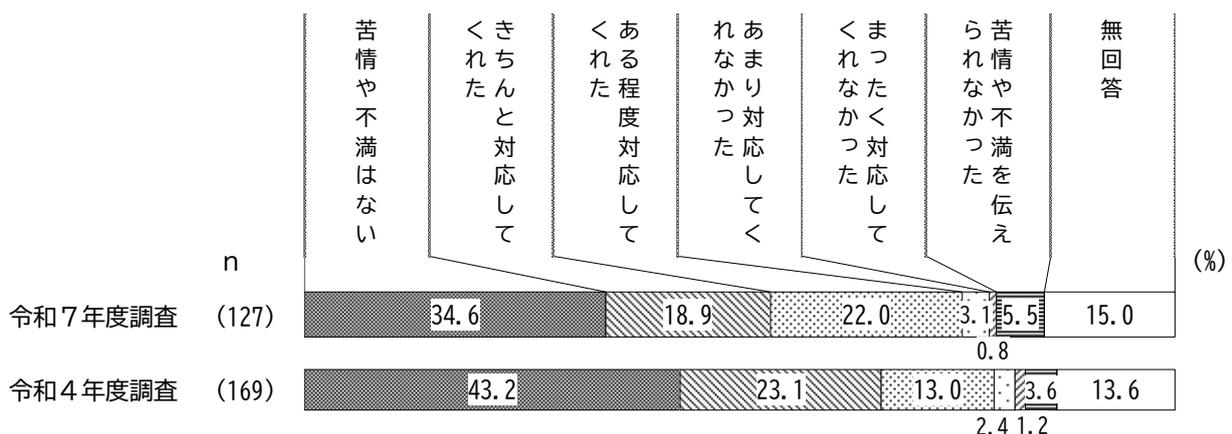
問22-7 障害福祉サービス事業者に苦情や不満を伝えたとき、その事業者は、十分に内容を聞き、あなたに何らかの対応をしてくれましたか。(1つに○)

苦情や不満があったときの事業者の対応状況は、「苦情や不満はない」が34.6%で最も高く、「きちんと対応してくれた」の18.9%と「ある程度対応してくれた」の22.0%をあわせた『対応してくれた』が40.9%となっている。

前回調査と比較すると、「苦情や不満はない」、「きちんと対応してくれた」が減少し、「ある程度対応してくれた」が9.0ポイント増加している。

障害別にみると、身体障害では「苦情や不満はない」、知的障害では「きちんと対応してくれた」が最も高くなっている。

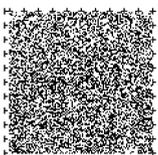
<図表 I-47-1 苦情や不満があったときの事業者の対応状況（全体）>



<図表 I-47-2 苦情や不満があったときの事業者の対応状況（障害別）>

障害別	回答者数 (n)	苦情や不満はない	きちんと対応してくれた	ある程度対応してくれた	あまり対応してくれなかった	まったく対応しなかった	苦情や不満を伝えられなかった	無回答
全体	127	34.6	18.9	22.0	3.1	0.8	5.5	15.0
身体障害	62	33.9	12.9	22.6	4.8	1.6	3.2	21.0
知的障害	48	29.2	33.3	18.8	2.1	2.1	6.3	8.3
発達障害	11	18.2	36.4	27.3	-	9.1	-	9.1
精神障害	21	28.6	23.8	33.3	-	-	9.5	4.8
高次脳機能障害	6	33.3	-	50.0	-	-	-	16.7
難病（特定疾病）	20	35.0	15.0	20.0	-	-	-	30.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(11) 今後、充実を希望するサービス

問23 今後、あなたが充実を希望するサービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

今後、充実を希望するサービスに関して、全体から「特にない」の36.8%と「無回答」を除いた53.1%が何らかのサービスの充実を希望している。「外出手段への支援」が19.8%で最も高く、「就職するための支援」が13.8%、「補装具の交付・修理」が11.7%で続いている。

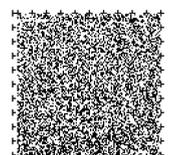
前回調査と比較すると「就職するための支援」、「就労継続支援B型事業所」などが増加している。

障害別にみると、身体障害では「外出手段への支援」と「補装具の交付・修理」、知的障害では「グループホーム」、発達障害と精神障害では「就職するための支援」が高くなっている。

<図表 I -48- 1 今後、充実を希望するサービス (全体) >



※令和7年度調査より、選択肢「通所の入浴サービス」、「通所先とは別施設での夕方支援」が追加された。



第2章 調査の結果

<図表 I-48-2 今後、充実を希望するサービス（障害別）>

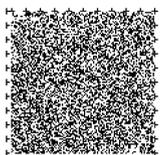
	回答者数 (n)	特 に な い	居 宅 介 護 、 重 度	訪 問 入 浴	通 所 の 入 浴 サ ー ビ ス	移 動 へ の 支 援	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン の 支 援	修 補 装 具 の 交 付 ・ 修 理	日 常 生 活 用 具 の 給 付	寝 具 乾 燥 ・ 消 毒 サ ー ビ ス	緊 急 時 通 報 機 器 の 支 給
全体	631	36.8	8.2	2.7	3.5	6.3	3.3	11.7	11.4	5.1	7.4
身体障害	303	33.0	9.9	3.6	4.6	6.9	4.6	20.8	16.8	4.3	8.9
知的障害	70	21.4	11.4	4.3	10.0	18.6	2.9	15.7	11.4	5.7	2.9
発達障害	51	33.3	5.9	2.0	-	5.9	2.0	5.9	7.8	9.8	7.8
精神障害	115	27.8	9.6	0.9	0.9	4.3	0.9	4.3	10.4	9.6	13.0
高次脳機能障害	14	28.6	21.4	7.1	-	7.1	-	7.1	7.1	-	28.6
難病（特定疾病）	165	48.5	7.9	3.0	2.4	3.6	1.2	8.5	7.9	2.4	3.6

	回答者数 (n)	成 費 ・ 自 動 車 改 造 運 転 費 の 支 助	外 出 手 段 へ の 支 援	所 に よ る 日 中 活 動 の 支 援	地 域 等 へ の 支 援	生 活 介 護	通 所 先 の 開 所 時 間 の 延 長	通 所 先 と は 別 支 援 施 設	日 中 一 時 支 援	一 短 期 入 所 ・ 緊 急 保 護	就 職 す る た め の 支 援	就 業 所 支 援 A
全体	631	3.0	19.8	4.3	7.1	2.7	2.5	4.6	7.1	13.8	1.7	
身体障害	303	3.3	25.7	3.6	6.9	3.3	2.3	3.6	6.6	11.6	1.3	
知的障害	70	1.4	21.4	8.6	22.9	12.9	10.0	11.4	24.3	7.1	4.3	
発達障害	51	3.9	11.8	7.8	9.8	3.9	3.9	5.9	11.8	31.4	5.9	
精神障害	115	1.7	14.8	7.0	8.7	1.7	1.7	5.2	6.1	27.0	2.6	
高次脳機能障害	14	-	35.7	7.1	7.1	-	-	7.1	14.3	14.3	-	
難病（特定疾病）	165	2.4	17.6	3.0	4.8	3.0	2.4	3.6	5.5	10.3	0.6	

	回答者数 (n)	就 業 所 支 援 B	就 業 移 行 支 援	就 業 定 着 支 援	そ の 他 の 就 業 に 関 する 支 援	施 設 入 所 支 援	グ ル ー プ ホ ー ム	賃 貸 住 宅 等 へ の 入 居 手 続 き の 支 援	自 立 生 活 体 験 事 業	住 宅 設 備 改 善 費	医 療 的 ケ ア 者 へ の 支 援
全体	631	4.1	3.8	5.9	6.5	4.8	5.5	7.6	1.7	7.3	10.8
身体障害	303	3.0	3.3	4.0	6.3	4.6	4.0	6.9	0.7	8.3	7.6
知的障害	70	14.3	1.4	7.1	4.3	15.7	28.6	4.3	4.3	2.9	8.6
発達障害	51	3.9	11.8	17.6	17.6	3.9	11.8	9.8	5.9	2.0	11.8
精神障害	115	6.1	11.3	15.7	13.9	5.2	6.1	12.2	3.5	9.6	15.7
高次脳機能障害	14	-	7.1	7.1	14.3	7.1	-	-	-	21.4	21.4
難病（特定疾病）	165	0.6	-	2.4	3.0	2.4	1.8	5.5	0.6	7.3	13.9

	回答者数 (n)	新 た に 希 望 す る サ ー ビ ス	無 回 答
全体	631	3.8	10.1
身体障害	303	3.3	10.9
知的障害	70	1.4	7.1
発達障害	51	11.8	2.0
精神障害	115	8.7	10.4
高次脳機能障害	14	7.1	7.1
難病（特定疾病）	165	1.8	10.9

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(12) 介護保険サービスの利用状況

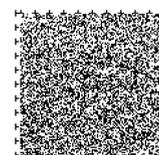
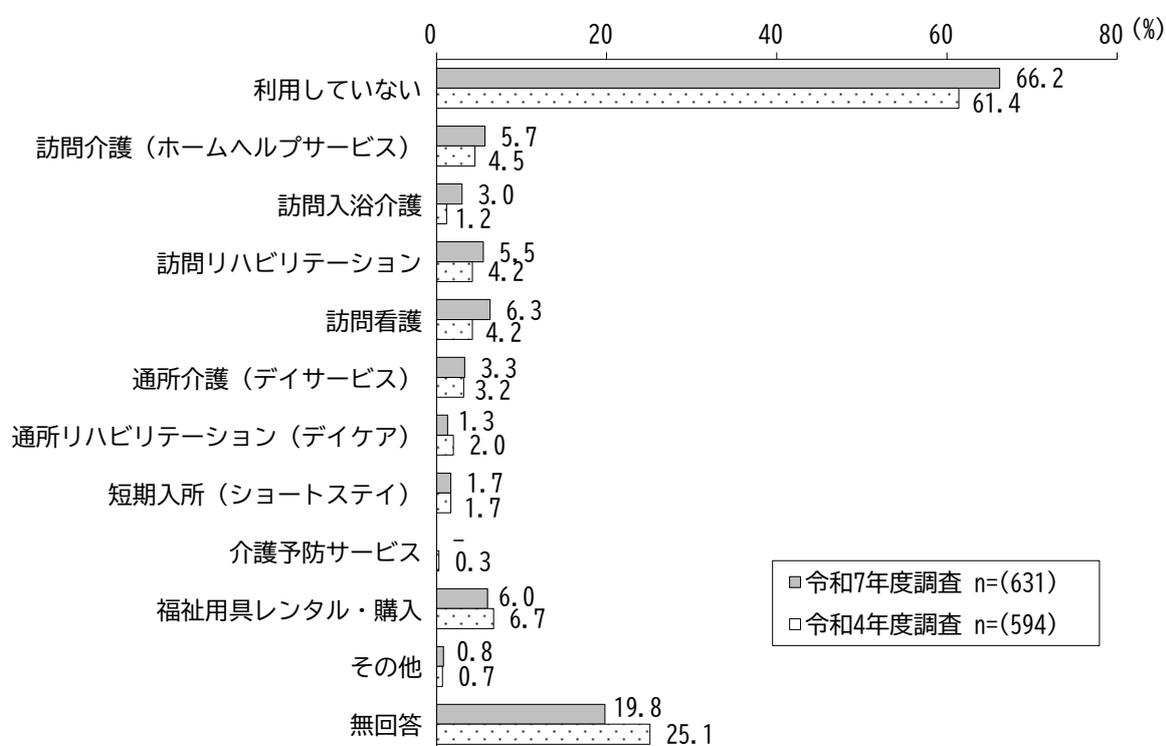
問24 介護保険サービスを利用している方はその内容を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスの利用状況の割合（全体から「利用していない」と無回答を引いたもの）は14.0%となっている。利用内容としては、「訪問看護」の6.3%が最も高くなっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、身体障害では「訪問リハビリテーション」と「福祉用具レンタル・購入」、知的障害では「訪問看護」と「短期入所（ショートステイ）」が高くなっている。

<図表 I - 49 - 1 介護保険サービスの利用状況（全体）>



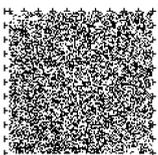
第2章 調査の結果

<図表 I - 49 - 2 介護保険サービスの利用状況（障害別）>

	回答者数 (n)	利用していない	訪問介護 (ホームヘルプサービス)	訪問入浴介護	訪問リハビリテーション	訪問看護	通所介護 (デイサービス)	通所リハビリテーション (デイケア)	短期入所 (ショートステイ)	介護予防サービス	福祉用具レンタル・購入
単位：%											
全体	631	66.2	5.7	3.0	5.5	6.3	3.3	1.3	1.7	-	6.0
身体障害	303	64.7	7.6	3.0	7.9	6.3	4.3	2.0	1.7	-	7.9
知的障害	70	60.0	2.9	1.4	4.3	7.1	5.7	-	7.1	-	4.3
発達障害	51	64.7	-	-	2.0	2.0	5.9	2.0	3.9	-	-
精神障害	115	69.6	2.6	0.9	3.5	7.0	2.6	0.9	1.7	-	2.6
高次脳機能障害	14	57.1	28.6	21.4	28.6	14.3	14.3	7.1	-	-	21.4
難病（特定疾病）	165	70.3	3.0	3.0	5.5	6.1	2.4	1.2	1.2	-	4.8

	回答者数 (n)	その他	無回答
単位：%			
全体	631	0.8	19.8
身体障害	303	0.3	18.8
知的障害	70	-	27.1
発達障害	51	-	27.5
精神障害	115	2.6	18.3
高次脳機能障害	14	-	14.3
難病（特定疾病）	165	-	18.8

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(13) 介護保険サービスの満足度

【問24で、「2」～「11」（利用している）に○をつけた方におたずねします。】

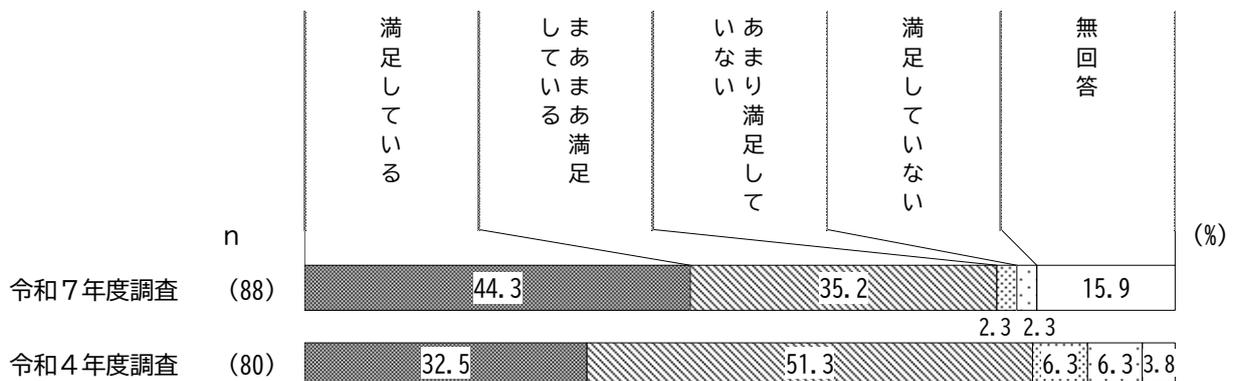
問24-1 あなたは、介護保険サービス移行後のサービス内容について満足していますか。
(1つに○)

介護保険サービスの満足度については、「満足している」の44.3%と「まあまあ満足している」の35.2%をあわせた『満足している』が79.5%を占めている。

前回調査と比較すると、「満足している」が11.8ポイント増加し、「まあまあ満足している」が16.1ポイント減少している。

障害別にみると、『満足している』は、身体障害が84.0%で最も高くなっている。

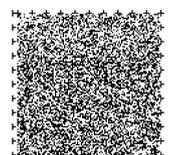
<図表 I-50-1 介護保険サービスの満足度（全体）>



<図表 I-50-2 介護保険サービスの満足度（障害別）>

	回答者数 (n)	満足している (%)	まあまあ満足している (%)	あまり満足していない (%)	満足していない (%)	無回答 (%)
全体	88	44.3	35.2	2.3	2.3	15.9
身体障害	50	44.0	40.0	-	2.0	14.0
知的障害	9	55.6	44.4	-	-	-
発達障害	4	50.0	-	-	-	50.0
精神障害	14	42.9	35.7	-	-	21.4
高次脳機能障害	4	25.0	75.0	-	-	-
難病（特定疾病）	18	44.4	33.3	5.6	5.6	11.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



8. 医療的ケアについて

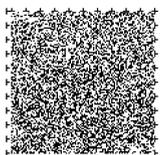
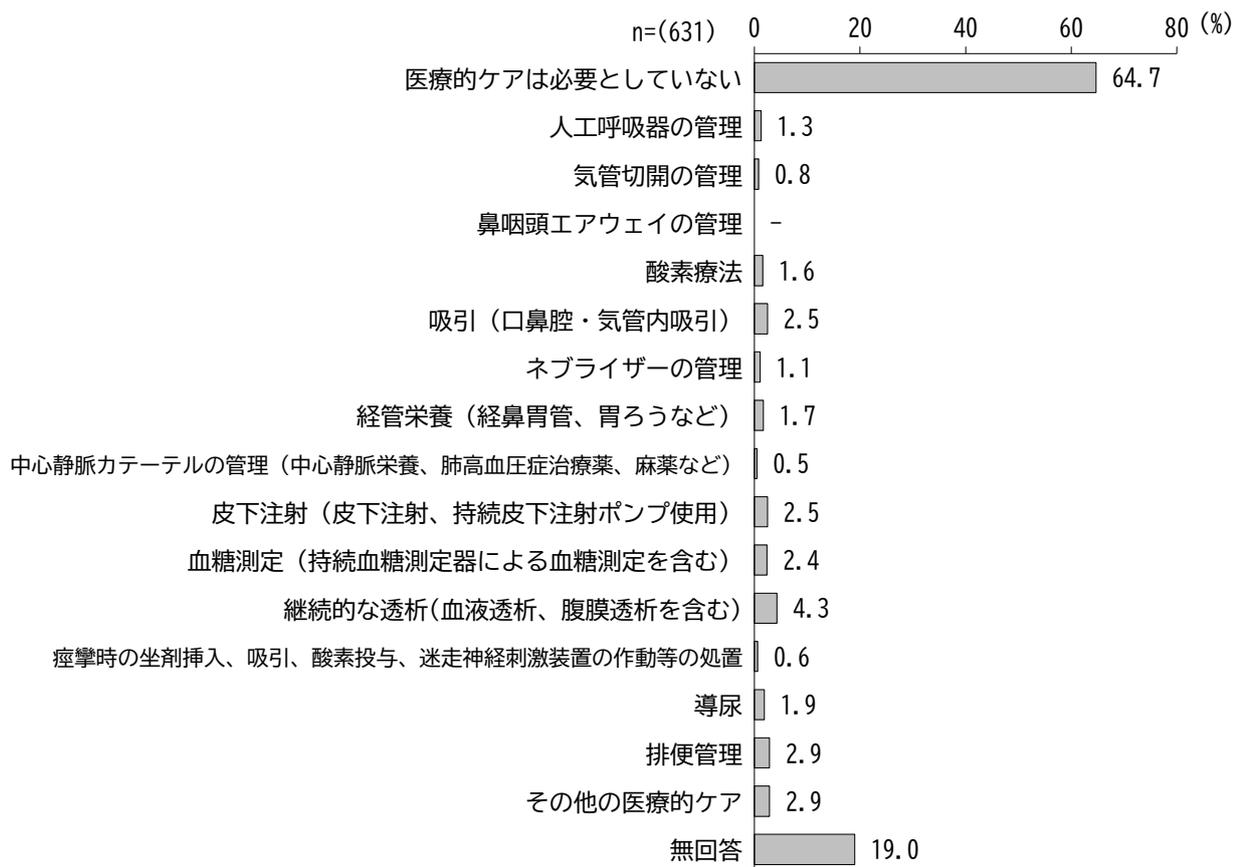
(1) 必要とする医療的ケア

問25 あなたは、次のような医療的ケアを必要としていますか。
(必要としているものすべてに○)

必要とする医療的ケアは、全体から「医療的ケアは必要としない」の64.7%と「無回答」の19.0%を除いた16.3%が何らかの医療的ケアを必要としている。「継続的な透析(血液透析、腹膜透析を含む)」が4.3%で最も高く、「排便管理」が2.9%、「吸引(口鼻腔・気管内吸引)」と「皮下注射(皮下注射(インスリン、麻薬など)、持続皮下注射ポンプ使用)」が共に2.5%で続いている。

障害別にみると、身体障害では「継続的な透析(血液透析、腹膜透析を含む)」が6.3%、知的障害では「吸引(口鼻腔・気管内吸引)」が8.6%となっている。

<図表 I -51-1 必要とする医療的ケア(全体)>

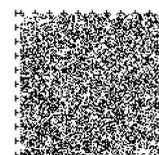


<図表 I-51-2 必要とする医療的ケア（障害別）>

回答者数（n）	医療的ケアは必要としていない	人工呼吸器の管理	気管切開の管理	鼻咽頭エアウェイの管理	酸素療法	吸引（口鼻腔・気管内吸引）	ネブライザーの管理	経管栄養（経鼻胃管、胃ろうなど）	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など）	皮下注射（皮下注射、持続皮下注射ポンプ使用）	
全体	631	64.7	1.3	0.8	-	1.6	2.5	1.1	1.7	0.5	2.5
身体障害	303	63.0	2.3	1.3	-	2.6	4.0	2.3	2.6	0.7	2.3
知的障害	70	60.0	5.7	1.4	-	4.3	8.6	5.7	5.7	-	-
発達障害	51	70.6	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0
精神障害	115	66.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7
高次脳機能障害	14	50.0	7.1	7.1	-	-	14.3	-	14.3	-	-
難病（特定疾病）	165	65.5	1.8	0.6	-	1.8	3.6	0.6	1.8	1.2	5.5

回答者数（n）	血糖測定（持続血糖測定器による血糖測定を含む）	継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）	痙攣時の坐剤挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置	導尿	排便管理	その他の医療的ケア	無回答
全体	631	2.4	4.3	0.6	1.9	2.9	19.0
身体障害	303	2.3	6.3	1.0	2.6	4.6	16.2
知的障害	70	-	-	2.9	2.9	7.1	25.7
発達障害	51	2.0	-	-	-	5.9	21.6
精神障害	115	4.3	-	0.9	-	6.1	21.7
高次脳機能障害	14	-	-	7.1	7.1	7.1	14.3
難病（特定疾病）	165	1.8	6.1	0.6	1.8	3.0	13.9

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

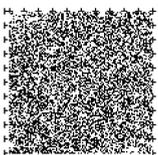


第2章 調査の結果

<図表 I - 51 - 3 必要とする医療的ケア（年齢別）>

	回答者数（n）	医療的ケアは必要としていない	人工呼吸器の管理	気管切開の管理	鼻咽頭エアウェイの管理	酸素療法	吸引（口鼻腔・気管内吸引）	ネブライザーの管理	経管栄養（経鼻胃管、胃ろうなど）	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など）	皮下注射（皮下注射、持続皮下注射ポンプ使用）
単位：%											
全体	631	64.7	1.3	0.8	-	1.6	2.5	1.1	1.7	0.5	2.5
18～39歳	200	78.5	2.5	1.0	-	1.5	3.5	2.5	2.5	-	1.5
40～64歳	265	64.9	0.4	0.8	-	1.1	1.1	0.8	0.8	0.4	3.4
65～74歳	76	47.4	-	-	-	2.6	1.3	-	1.3	-	2.6
75歳以上	83	47.0	2.4	1.2	-	2.4	6.0	-	3.6	2.4	2.4

	回答者数（n）	血糖測定（持続血糖測定器による血糖測定を含む）	継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）	痙攣時の坐剤挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置	導尿	排便管理	その他の医療的ケア	無回答
単位：%								
全体	631	2.4	4.3	0.6	1.9	2.9	2.9	19.0
18～39歳	200	0.5	0.5	1.5	1.5	4.0	2.0	12.0
40～64歳	265	2.6	6.8	0.4	1.1	1.1	3.4	17.4
65～74歳	76	7.9	6.6	-	1.3	5.3	3.9	26.3
75歳以上	83	1.2	3.6	-	6.0	3.6	2.4	32.5



(2) 医療的ケアの充実に必要な支援

【問25で、「2」～「16」（医療的ケアが必要）に○をつけた方におたずねします。】

問25-1 医療的ケアに関して、どのような支援の充実が必要だと思いますか。

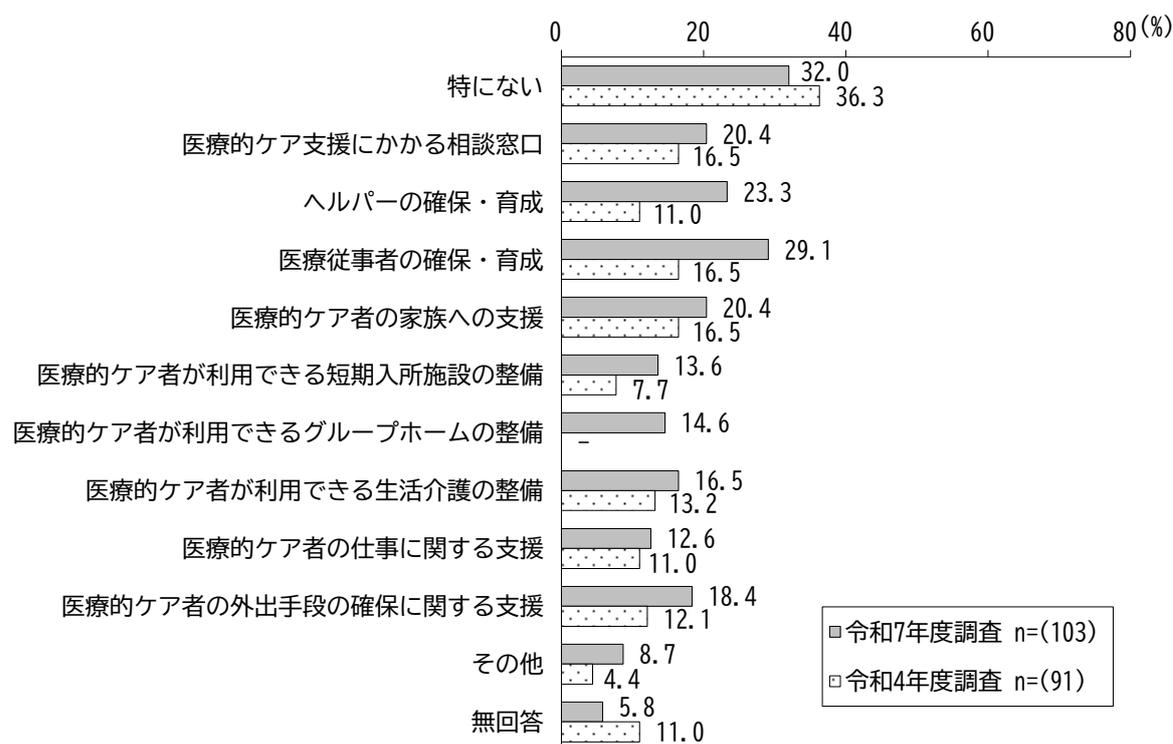
（あてはまるものすべてに○）

医療的ケアの充実に必要な支援は、「医療従事者の確保・育成」が29.1%で最も高く、「ヘルパーの確保・育成」が23.3%、「医療的ケア支援にかかる相談窓口」と「医療的ケア者の家族への支援」が共に20.4%で続いている。

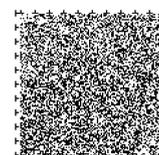
前回調査と比較すると、「特にない」を除きすべての項目で増加している。

障害別にみると、身体障害と難病（特定疾病）では「医療従事者の確保・育成」が他の支援よりも高くなっている。

<図表 I -52-1 医療的ケアの充実に必要な支援（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「医療的ケア者が利用できるグループホームの整備」が追加された。



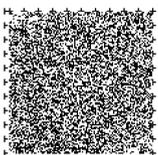
第2章 調査の結果

<図表 I - 52 - 2 医療的ケアの充実に必要な支援（障害別）>

単位：%	回答者数（n）	特 に な い	医 療 的 ケ ア 支 援 に か か る 相 談 窓 口	ヘルパーの確保・育成	医療従事者の確保・育成	医療的ケア者の家族への支援	医療的ケア者が利用できない短期入所施設の整備	医療的ケア者が利用できるグループホームの整備	医療的ケア者が利用できない生活介護の整備	医療的ケア者の仕事に関する支援	医療的ケア者の外出手段の確保に関する支援
全体	103	32.0	20.4	23.3	29.1	20.4	13.6	14.6	16.5	12.6	18.4
身体障害	63	28.6	19.0	27.0	31.7	20.6	15.9	15.9	17.5	12.7	15.9
知的障害	10	-	40.0	60.0	40.0	50.0	70.0	50.0	60.0	40.0	40.0
発達障害	4	25.0	25.0	25.0	25.0	-	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0
精神障害	14	35.7	14.3	14.3	21.4	28.6	7.1	7.1	14.3	14.3	35.7
高次脳機能障害	5	-	20.0	60.0	40.0	40.0	-	-	20.0	-	-
難病（特定疾病）	34	32.4	23.5	23.5	29.4	20.6	11.8	14.7	26.5	14.7	14.7

単位：%	回答者数（n）	そ の 他	無 回 答
全体	103	8.7	5.8
身体障害	63	9.5	6.3
知的障害	10	10.0	10.0
発達障害	4	25.0	-
精神障害	14	7.1	7.1
高次脳機能障害	5	-	20.0
難病（特定疾病）	34	8.8	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



9. 障害者の権利擁護、虐待、差別について

(1) 成年後見制度の認知度

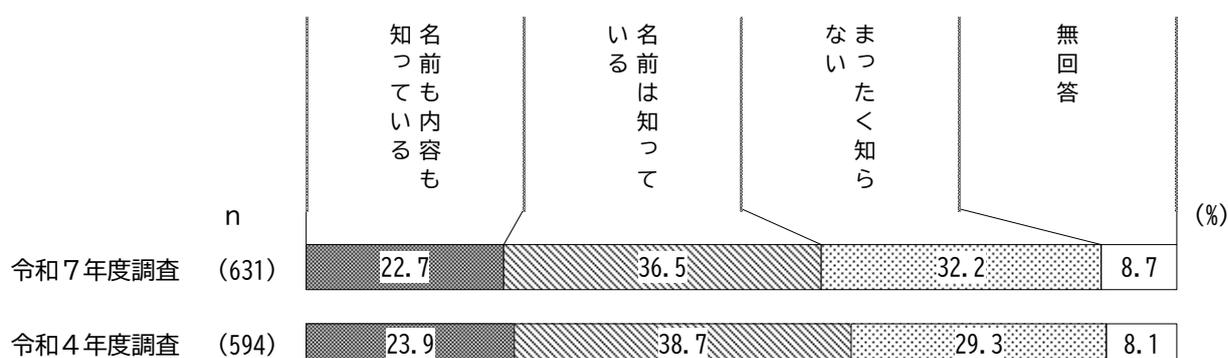
問26 あなたは、知的障害、精神障害、認知症等により、判断能力が十分ではない方の権利を守る「成年後見制度」について知っていますか。(1つに○)

成年後見制度の認知度は、「名前も内容も知っている」の22.7%と「名前は知っている」の36.5%をあわせた『知っている』は59.2%となっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、『知っている』は、難病（特定疾病）が69.1%で最も高く、身体障害が62.1%、知的障害が61.4%で続いている。

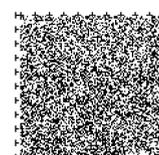
<図表 I - 53 - 1 成年後見制度の認知度（全体）>



<図表 I - 53 - 2 成年後見制度の認知度（障害別）>

	回答者数 (n)	知っている（名前も内容も知って）	名前は知っている	まったく知らない	無回答
単位：%					
全体	631	22.7	36.5	32.2	8.7
身体障害	303	25.1	37.0	30.0	7.9
知的障害	70	31.4	30.0	34.3	4.3
発達障害	51	13.7	31.4	49.0	5.9
精神障害	115	15.7	35.7	40.9	7.8
高次脳機能障害	14	21.4	42.9	35.7	-
難病（特定疾病）	165	23.6	45.5	25.5	5.5

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 成年後見制度の利用意向

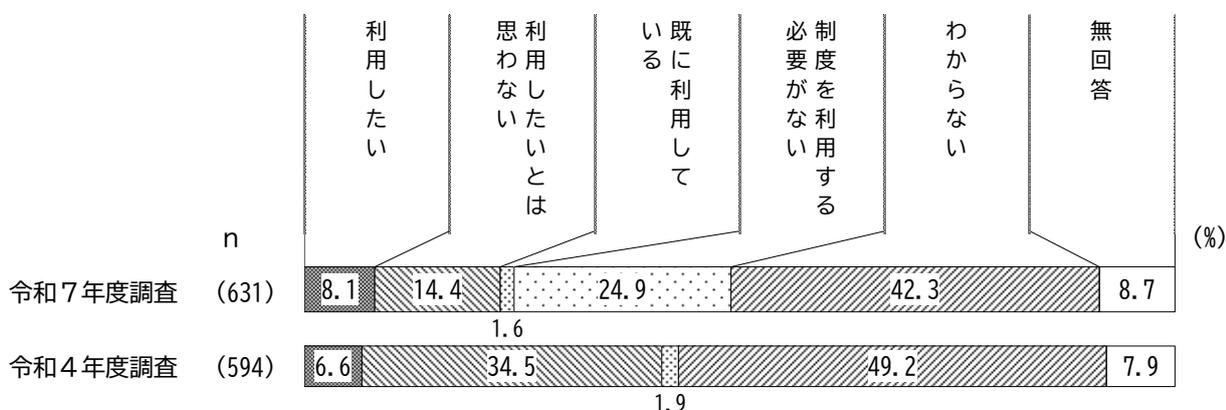
問27 あなたは、成年後見制度を利用したいですか。(1つに○)

成年後見制度の利用意向は、「わからない」が42.3%で最も高く、「制度を利用する必要がない」が24.9%、「利用したいとは思わない」が14.4%、「利用したい」が8.1%で続いている。

前回調査と比較すると、「利用したいとは思わない」が20.1ポイント減少している。

障害別にみると、「わからない」を除き、身体障害、難病（特定疾病）では「制度を利用する必要がない」、知的障害、発達障害では「利用したい」が最も高くなっている。

<図表 I-54-1 成年後見制度の利用意向（全体）>

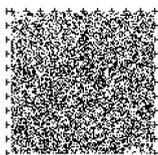


※令和7年度調査より、選択肢「制度を利用する必要がない」が追加された。

<図表 I-54-2 成年後見制度の利用意向（障害別）>

	回答者数 (n)	利用したい (%)	利用したいとは思わない (%)	既に利用している (%)	制度を利用する必要がない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	631	8.1	14.4	1.6	24.9	42.3	8.7
身体障害	303	5.9	14.9	0.3	30.4	40.9	7.6
知的障害	70	21.4	11.4	10.0	2.9	50.0	4.3
発達障害	51	25.5	7.8	-	9.8	51.0	5.9
精神障害	115	13.0	15.7	-	11.3	50.4	9.6
高次脳機能障害	14	14.3	21.4	14.3	7.1	42.9	-
難病（特定疾病）	165	5.5	14.5	-	33.3	40.6	6.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

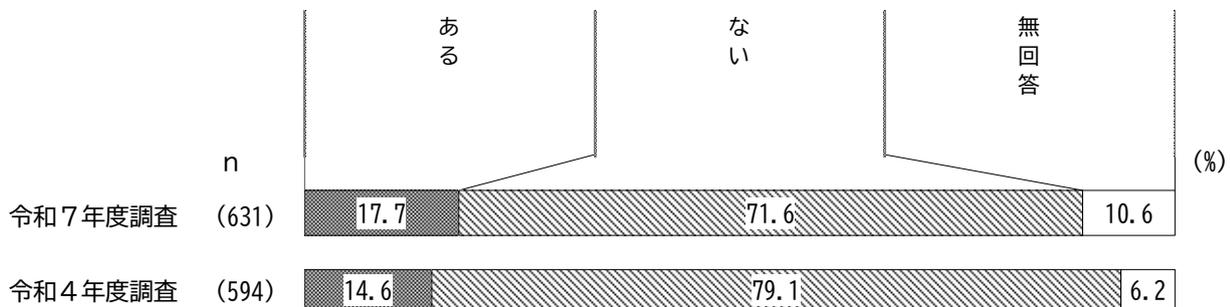


(3) 虐待を受けた経験

問28 あなたは、いままでに自分の体や心を傷つけられたことや財産を侵害されたこと（虐待されたこと）はありますか。（1つに○）

虐待を受けた経験は、「ある」が17.7%、「ない」が71.6%となっている。
 前回調査と比較すると、「ある」が3.1ポイント増加し、「ない」が7.5ポイント減少している。
 障害別にみると、いずれの障害も「ない」が高くなっている。
 年齢別にみると18～39歳と40～64歳では「ある」の割合が他の年齢よりも高くなっている。

<図表 I - 55 - 1 虐待を受けた経験（全体）>

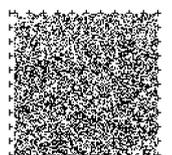


<図表 I - 55 - 2 虐待を受けた経験（障害別）> <図表 I - 55 - 3 虐待を受けた経験（年齢別）>

	回答者数 (n)	ある	ない	無回答
単位：%				
全体	631	17.7	71.6	10.6
身体障害	303	15.2	76.6	8.3
知的障害	70	7.1	80.0	12.9
発達障害	51	37.3	45.1	17.6
精神障害	115	40.9	47.0	12.2
高次脳機能障害	14	14.3	71.4	14.3
難病（特定疾病）	165	10.3	79.4	10.3

	回答者数 (n)	ある	ない	無回答
単位：%				
全体	631	17.7	71.6	10.6
18～39歳	200	21.5	69.5	9.0
40～64歳	265	21.9	68.3	9.8
65～74歳	76	9.2	78.9	11.8
75歳以上	83	3.6	83.1	13.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(4) 虐待の内容

【問28-1から問28-3は、問28で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

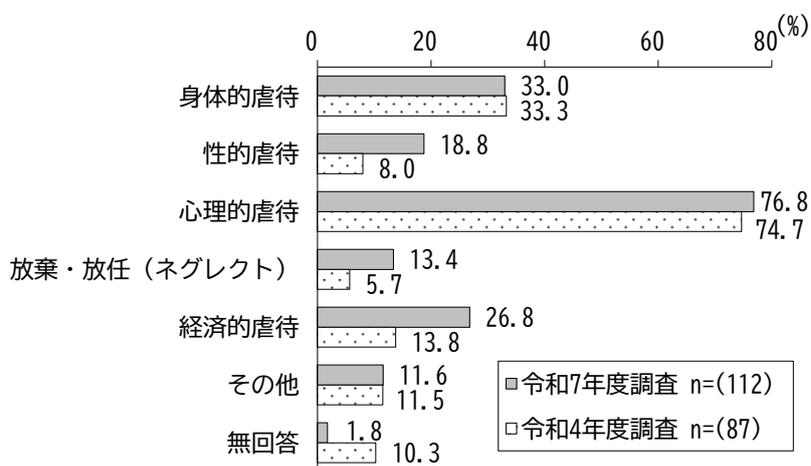
問28-1 虐待の内容は次のどれに当たりますか。(あてはまるものすべてに○)

虐待の内容は、「怒鳴る、悪口を言う、仲間に入れない、わざと無視するなど（心理的虐待）」が76.8%で最も高く、次いで「殴る、蹴る、縛り付ける、閉じ込める、必要のない薬を飲ませるなど（身体的虐待）」が33.0%となっている。

前回調査と比較すると、「身体的虐待」以外のすべての項目で増加しており、経済的虐待が13.0ポイント増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「心理的虐待」の割合が高くなっている。

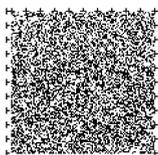
<図表 I -56- 1 虐待の内容（全体）>



<図表 I -56- 2 虐待の内容（障害別）>

	回答者数 (n)	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	(放棄・放任 ネグレクト)	経済的虐待	その他	無回答
全体	112	33.0	18.8	76.8	13.4	26.8	11.6	1.8
身体障害	46	30.4	13.0	73.9	13.0	32.6	15.2	-
知的障害	5	-	20.0	100.0	-	-	-	-
発達障害	19	42.1	21.1	100.0	15.8	15.8	-	-
精神障害	47	40.4	27.7	80.9	12.8	27.7	6.4	4.3
高次脳機能障害	2	50.0	-	100.0	-	-	-	-
難病 (特定疾病)	17	29.4	11.8	70.6	11.8	35.3	5.9	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(5) 虐待を受けた人（誰から虐待を受けたか）

【問28-1から問28-3は、問28で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

問28-2 誰から虐待を受けましたか。（あてはまるものすべてに○）

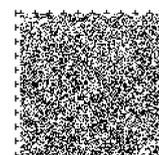
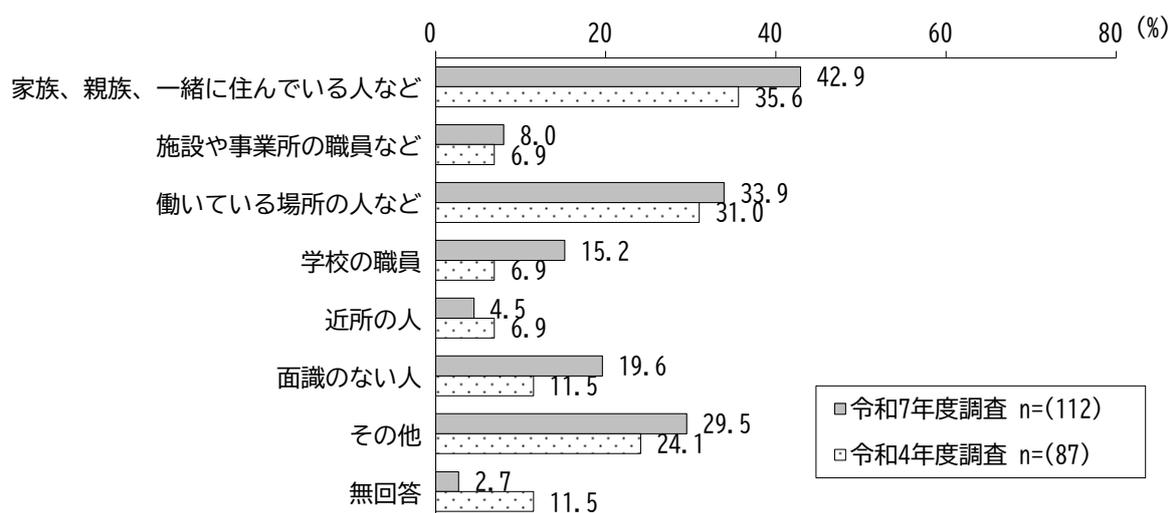
虐待を受けた人（誰から虐待を受けたか）は、「家族、親族、一緒に住んでいる人など」が42.9%で最も高く、「働いている場所の人など」が33.9%、「面識のない人」が19.6%で続いている。

前回調査と比較すると、「近所の人」以外のすべての項目で増加している。

障害別にみると、精神障害では「家族、親族、一緒に住んでいる人など」が48.9%で最も高くなっている。

虐待の内容別にみると、経済的虐待の「家族、親族、一緒に住んでいる人など」が73.3%で最も高くなっている。

<図表 I -57-1 虐待を受けた人（全体）>



<図表 I -57-2 虐待を受けた人（障害別）>

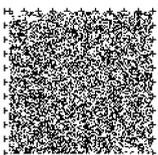
	回答者数（n）	家族、親族、一緒に住んでいる人など	施設や事業所の職員など	働いている場所の人など	学校の職員	近所の人	面識のない人	その他	無回答
単位：%									
全体	112	42.9	8.0	33.9	15.2	4.5	19.6	29.5	2.7
身体障害	46	34.8	10.9	34.8	15.2	4.3	28.3	30.4	2.2
知的障害	5	-	60.0	20.0	40.0	-	20.0	20.0	-
発達障害	19	36.8	15.8	36.8	26.3	5.3	10.5	21.1	-
精神障害	47	48.9	4.3	34.0	21.3	2.1	14.9	36.2	4.3
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	-	50.0	100.0	-
難病（特定疾病）	17	58.8	5.9	23.5	-	11.8	11.8	23.5	5.9

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

<図表 I -57-3 虐待を受けた人（虐待の内容別）>

	回答者数（n）	家族、親族、一緒に住んでいる人など	施設や事業所の職員など	働いている場所の人など	学校の職員	近所の人	面識のない人	その他	無回答
単位：%									
全体	112	42.9	8.0	33.9	15.2	4.5	19.6	29.5	2.7
身体的虐待	37	67.6	5.4	37.8	29.7	2.7	21.6	40.5	-
性的虐待	21	61.9	4.8	28.6	19.0	-	28.6	38.1	-
心理的虐待	86	45.3	9.3	40.7	19.8	4.7	18.6	31.4	-
放棄・放任・(ネグレクト)	15	86.7	6.7	66.7	26.7	-	13.3	13.3	-
経済的虐待	30	73.3	3.3	40.0	23.3	6.7	16.7	33.3	6.7
その他	13	7.7	15.4	23.1	-	7.7	30.8	46.2	7.7

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) 虐待を受けた際の相談先

【問28-1から問28-3は、問28で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

問28-3 虐待を受けたとき、だれ（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

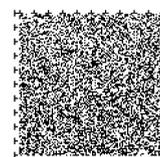
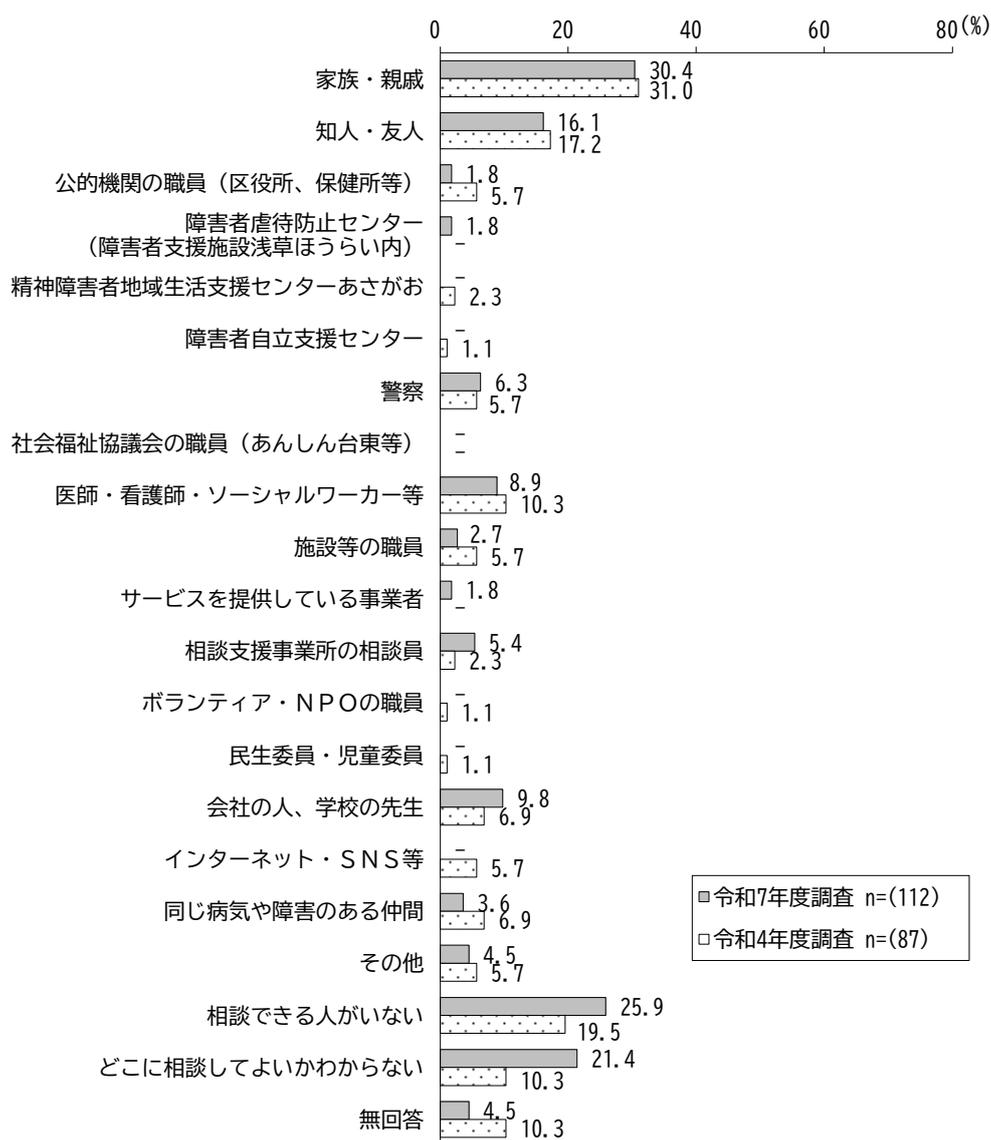
虐待を受けた際の相談先は、「家族・親戚」が30.4%で最も高く、「知人・友人」が16.1%、「会社の人、学校の先生」が9.8%で続いている。一方で、「相談できる人がいない」が25.9%、「どこに相談してよいかわからない」が21.4%となっている。

前回調査と比較すると、「警察」、「相談支援事業所の相談員」、「会社の人、学校の先生」が増加しているが、それ以外の相談先は減少している。

障害別にみると、身体障害と精神障害では「家族・親戚」が最も高くなっている。

虐待の内容別にみると、身体的虐待、心理的虐待、経済的虐待で「家族、親族」の割合が最も高くなっている。

<図表 I - 58 - 1 虐待を受けた際の相談先（全体）>



第2章 調査の結果

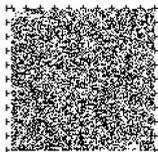
<図表 I -58-2 虐待を受けた際の相談先（障害別）>

	回答者数 (n)	家族・親戚	知人・友人	公的機関の職員 (区役所、保健所等)	障害者虐待防止センター (障害者支援施設浅草ほ うらい内)	精神障害者地域生活支援 センターあさがお	障害者自立支援センター	警察	社会福祉協議会の職員 (あんしん台東等)	医師・看護師・ ソーシャルワーカー等	施設等の職員
全体	112	30.4	16.1	1.8	1.8	-	-	6.3	-	8.9	2.7
身体障害	46	37.0	21.7	2.2	4.3	-	-	6.5	-	10.9	2.2
知的障害	5	80.0	-	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0
発達障害	19	31.6	10.5	-	-	-	-	-	-	5.3	5.3
精神障害	47	27.7	10.6	2.1	-	-	-	6.4	-	10.6	6.4
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	17	29.4	23.5	-	5.9	-	-	11.8	-	17.6	-

	回答者数 (n)	サービスを提供している 事業者	相談支援事業所の相談員	ボランティア・NPOの 職員	民生委員・児童委員	会社の人、学校の先生	インターネット・SNS 等	同じ病気や障害のある仲 間	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいかわ からない
全体	112	1.8	5.4	-	-	9.8	-	3.6	4.5	25.9	21.4
身体障害	46	4.3	6.5	-	-	17.4	-	6.5	8.7	21.7	17.4
知的障害	5	20.0	40.0	-	-	-	-	20.0	-	-	-
発達障害	19	-	5.3	-	-	5.3	-	5.3	-	36.8	26.3
精神障害	47	2.1	4.3	-	-	8.5	-	2.1	2.1	25.5	21.3
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-
難病(特定疾病)	17	-	-	-	-	5.9	-	-	11.8	29.4	11.8

	回答者数 (n)	無回答
全体	112	4.5
身体障害	46	2.2
知的障害	5	20.0
発達障害	19	5.3
精神障害	47	6.4
高次脳機能障害	2	-
難病(特定疾病)	17	11.8

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



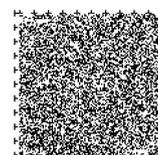
<図表 I - 58 - 3 虐待を受けた際の相談先（虐待の内容別）>

	回答者数（n）	家族・親戚	知人・友人	公的機関の職員 （区役所、保健所等）	障害者虐待防止センター （障害者支援施設浅草ほ うらい内）	精神障害者地域生活支援 センターあさがお	障害者自立支援センター	警察	社会福祉協議会の職員 （あんしん台東等）	医師・看護師・ソーシャル ワーカー等	施設等の職員
全体	112	30.4	16.1	1.8	1.8	-	-	6.3	-	8.9	2.7
身体的虐待	37	37.8	18.9	5.4	5.4	-	-	16.2	-	13.5	2.7
性的虐待	21	38.1	19.0	9.5	4.8	-	-	14.3	-	14.3	4.8
心理的虐待	86	34.9	18.6	2.3	2.3	-	-	7.0	-	10.5	2.3
放棄・放任・（ネグレクト）	15	20.0	20.0	6.7	6.7	-	-	6.7	-	6.7	6.7
経済的虐待	30	33.3	23.3	6.7	6.7	-	-	20.0	-	10.0	3.3
その他	13	23.1	23.1	-	-	-	-	7.7	-	7.7	7.7

	回答者数（n）	サービスを提供している 事業者	相談支援事業所の相談員	ボランティア・NPOの 職員	民生委員・児童委員	会社の人、学校の先生	インターネット・SNS 等	同じ病気や障害のある仲 間	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいかわ からない
全体	112	1.8	5.4	-	-	9.8	-	3.6	4.5	25.9	21.4
身体的虐待	37	-	5.4	-	-	10.8	-	-	8.1	29.7	13.5
性的虐待	21	-	-	-	-	14.3	-	-	4.8	23.8	23.8
心理的虐待	86	2.3	7.0	-	-	10.5	-	4.7	3.5	25.6	18.6
放棄・放任・（ネグレクト）	15	-	-	-	-	13.3	-	-	6.7	60.0	13.3
経済的虐待	30	-	6.7	-	-	10.0	-	6.7	6.7	30.0	13.3
その他	13	-	-	-	-	7.7	-	-	7.7	15.4	38.5

	回答者数（n）	無回答
全体	112	4.5
身体的虐待	37	2.7
性的虐待	21	4.8
心理的虐待	86	3.5
放棄・放任・（ネグレクト）	15	-
経済的虐待	30	3.3
その他	13	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(7) 虐待場面に遭遇した経験

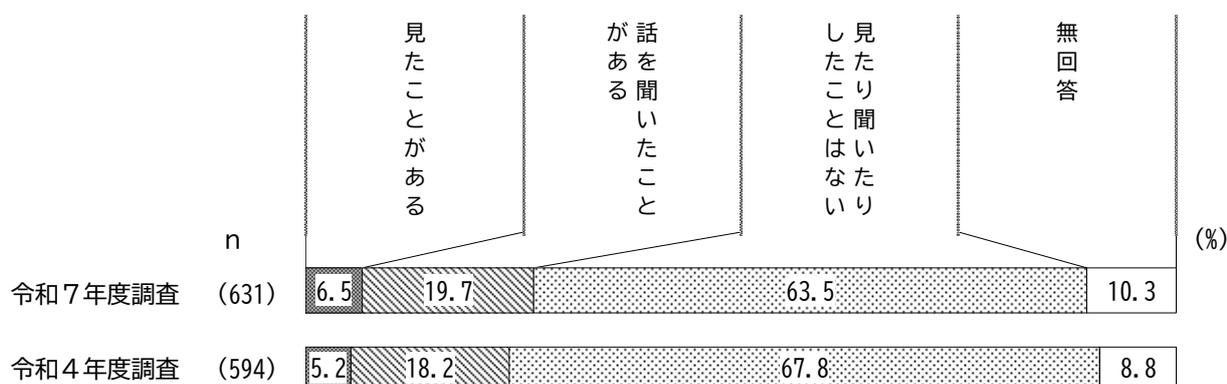
問29 あなたの身の回りで、障害者に対する虐待を見たり聞いたりしたことはありますか。
(1つに○)

虐待場面に遭遇した経験は、「見たり聞いたりしたことはない」が63.5%で最も高く、「話を聞いたことがある」が19.7%、「見たことがある」が6.5%が続いている。

前回調査と比較すると、「見たことがある」が1.3ポイント、「話を聞いたことがある」が1.5ポイント増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「見たり聞いたりしたことはない」が高くなっている。一方で、「話を聞いたことがある」が発達障害では31.4%と他の障害よりも高くなっている。

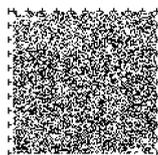
<図表 I-59-1 虐待場面に遭遇した経験（全体）>



<図表 I-59-2 虐待場面に遭遇した経験（障害別）>

	回答者数 (n)	見たり聞いたりしたことはない (%)	話を聞いたことがある (%)	見たことがある (%)	無回答 (%)
全体	631	63.5	19.7	6.5	10.3
身体障害	303	61.1	23.4	6.6	8.9
知的障害	70	57.1	27.1	5.7	10.0
発達障害	51	43.1	31.4	17.6	7.8
精神障害	115	62.6	16.5	9.6	11.3
高次脳機能障害	14	78.6	14.3	-	7.1
難病（特定疾病）	165	67.3	20.0	5.5	7.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(8) 障害者虐待防止法の認知度

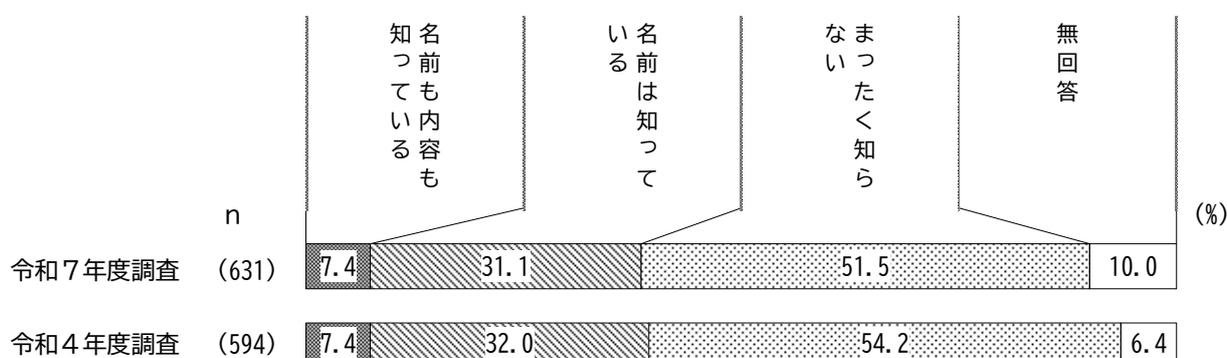
問30 あなたは、障害者への虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取り組み等を定めた「障害者虐待防止法」について知っていますか。(1つに○)

障害者虐待防止法の認知度は、「名前も内容も知っている」の7.4%と「名前は知っている」の31.1%をあわせた『知っている』が38.5%となっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、『知っている』は、発達障害が43.1%で最も高く、知的障害が42.9%、難病(特定疾病)が42.4%、身体障害が40.9%、精神障害が30.4%で続いている。

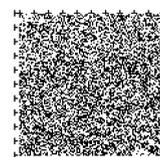
<図表 I - 60 - 1 障害者虐待防止法の認知度 (全体) >



<図表 I - 60 - 2 障害者虐待防止法の認知度 (障害別) >

	回答者数 (n)	名前も内容も知っている	名前は知っている	まったく知らない	無回答
全体	631	7.4	31.1	51.5	10.0
身体障害	303	10.2	30.7	48.2	10.9
知的障害	70	14.3	28.6	50.0	7.1
発達障害	51	7.8	35.3	51.0	5.9
精神障害	115	4.3	26.1	57.4	12.2
高次脳機能障害	14	-	21.4	71.4	7.1
難病 (特定疾病)	165	7.9	34.5	50.3	7.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(9) 障害者虐待防止センターの認知度

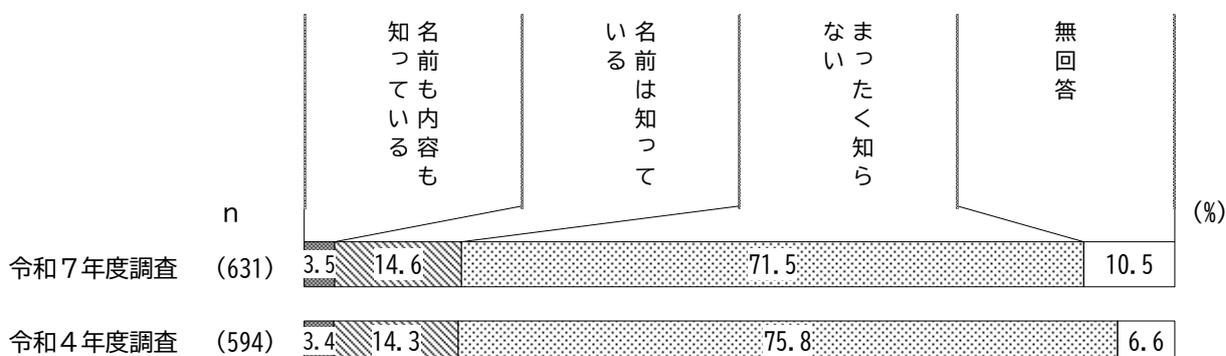
問31 「障害者虐待防止法」の施行をうけ、区では虐待防止に関する24時間対応の相談や一時的な保護の提供等を行う「障害者虐待防止センター」を開設しています。あなたはこのことについて知っていますか。(1つに○)

障害者虐待防止センターの認知度は、「名前も内容も知っている」の3.5%と「名前は知っている」の14.6%をあわせた『知っている』が18.1%となっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、いずれの障害も「まったく知らない」が60%を超えて最も高くなっている。

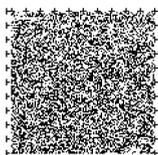
<図表 I -61-1 障害者虐待防止センターの認知度 (全体) >



<図表 I -61-2 障害者虐待防止センターの認知度 (障害別) >

	回答者数 (n)	知っている (名前も内容も)	知っている (名前は知っている)	まったく知らない	無回答
全体	631	3.5	14.6	71.5	10.5
身体障害	303	4.0	12.5	71.9	11.6
知的障害	70	5.7	24.3	60.0	10.0
発達障害	51	3.9	23.5	66.7	5.9
精神障害	115	2.6	11.3	75.7	10.4
高次脳機能障害	14	7.1	7.1	78.6	7.1
難病 (特定疾病)	165	4.2	15.8	73.9	6.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(10) 障害者差別解消法の認知度

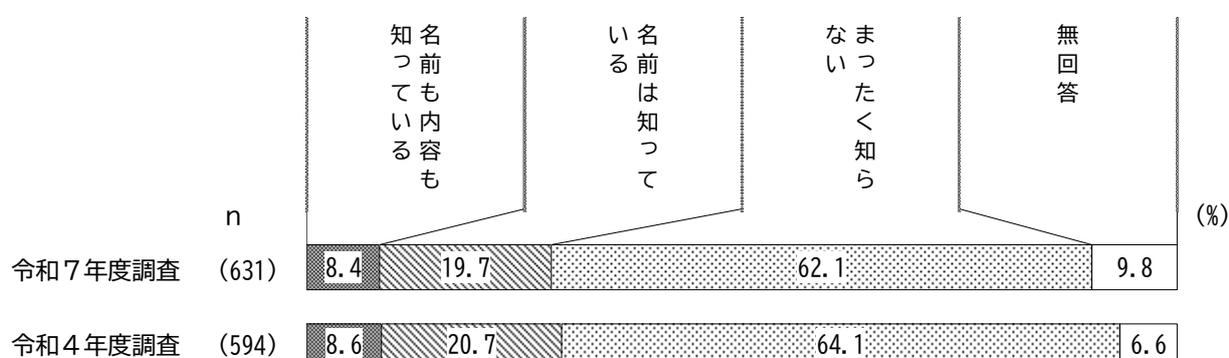
問32 あなたは、障害者に対する「不当な差別的取扱い」や「合理的配慮の不提供」の禁止について規定した「障害者差別解消法」を知っていますか。(1つに○)

障害者差別解消法の認知度は、「名前も内容も知っている」の8.4%と「名前は知っている」の19.7%をあわせた『知っている』が28.1%となっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、いずれの障害も「まったく知らない」が50%を超えて最も高くなっている。

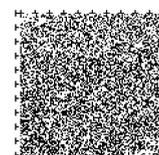
<図表 I - 62 - 1 障害者差別解消法の認知度 (全体) >



<図表 I - 62 - 2 障害者差別解消法の認知度 (障害別) >

	回答者数 (n)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
単位: %					
全体	631	8.4	19.7	62.1	9.8
身体障害	303	12.2	21.5	55.8	10.6
知的障害	70	12.9	20.0	58.6	8.6
発達障害	51	9.8	25.5	58.8	5.9
精神障害	115	4.3	14.8	71.3	9.6
高次脳機能障害	14	7.1	-	85.7	7.1
難病 (特定疾病)	165	7.9	18.8	66.7	6.7

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(11) 障害を理由とする差別を受けた経験

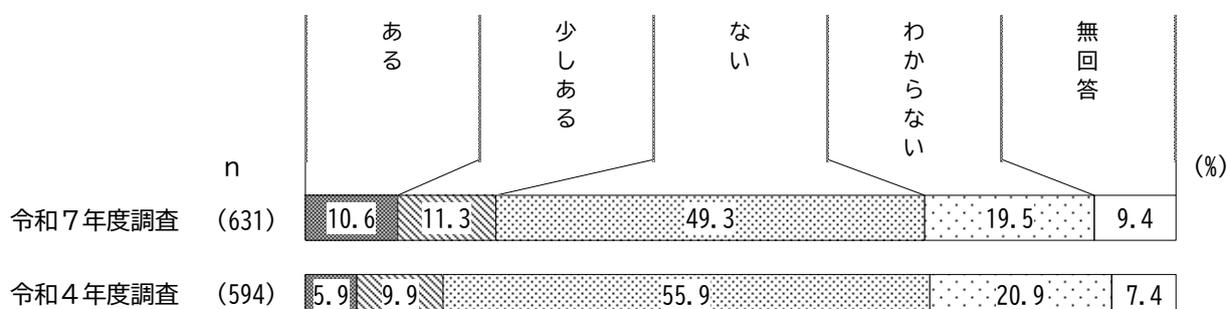
問33 あなたは、不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたことがありますか。
(1つに○)

障害を理由とする差別を受けた経験は、「ない」が49.3%、「ある」の10.6%と「少しある」の11.3%をあわせた『ある』が21.9%となっている。

前回調査と比較すると、『ある』が6.1ポイント増加している。

障害別にみると、『ある』は、精神障害が30.4%で最も高く、発達障害が29.4%、身体障害が26.4%、知的障害が22.9%、難病（特定疾病）が13.3%で続いている。

<図表 I - 63 - 1 障害を理由とする差別を受けた経験（全体）>

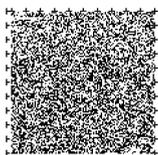


<図表 I - 63 - 2 障害を理由とする差別を受けた経験（障害別）>

	回答者数 (n)	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全体	631	10.6	11.3	49.3	19.5	9.4
身体障害	303	11.9	14.5	47.2	16.2	10.2
知的障害	70	14.3	8.6	38.6	28.6	10.0
発達障害	51	23.5	5.9	23.5	43.1	3.9
精神障害	115	16.5	13.9	32.2	26.1	11.3
高次脳機能障害	14	-	21.4	50.0	21.4	7.1
難病（特定疾病）	165	4.2	9.1	63.0	18.2	5.5

単位：%

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(12) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面

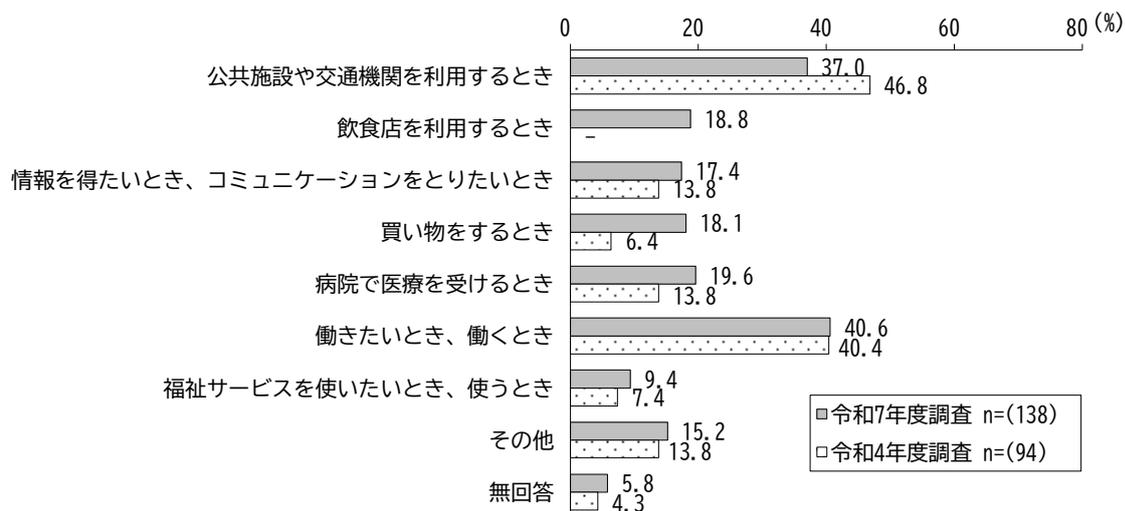
【問33-1と問33-2は、問33で「1.ある」または「2.少しある」に○をした方におたずねします。】
 問33-1 どのようなときに不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じましたか。
 (あてはまるものすべてに○)

不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面は、「働きたいとき、働くとき」が40.6%で最も高く、「公共施設や交通機関を利用するとき」が37.0%、「病院で医療を受けるとき」が19.6%で続いている。

前回調査と比較すると、「公共施設や交通機関を利用するとき」以外のすべての場面で増加している。

障害別にみると、身体障害では「公共施設や交通機関を利用するとき」が46.3%、精神障害では「働きたいとき、働くとき」が42.9%で最も高くなっている。

<図表 I -64-1 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面（全体）>

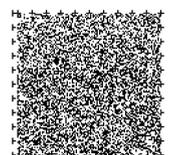


※令和7年度調査より、選択肢「飲食店を利用するとき」が追加された。

<図表 I -64-2 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面（障害別）>

	回答者数 (n)	公共施設や交通機関を利用するとき	飲食店を利用するとき	情報を得たいとき、コミュニケーションをとりたいとき	買い物をするとき	病院で医療を受けるとき	働きたいとき、働くとき	福祉サービスを使いたいとき、使うとき	その他	無回答
全体	138	37.0	18.8	17.4	18.1	19.6	40.6	9.4	15.2	5.8
身体障害	80	46.3	20.0	21.3	18.8	21.3	38.8	8.8	12.5	5.0
知的障害	16	31.3	31.3	12.5	12.5	18.8	18.8	6.3	18.8	12.5
発達障害	15	26.7	13.3	6.7	13.3	20.0	46.7	13.3	20.0	6.7
精神障害	35	22.9	11.4	14.3	14.3	17.1	42.9	5.7	17.1	11.4
高次脳機能障害	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3
難病（特定疾病）	22	31.8	22.7	9.1	18.2	27.3	36.4	9.1	4.5	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(13) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先

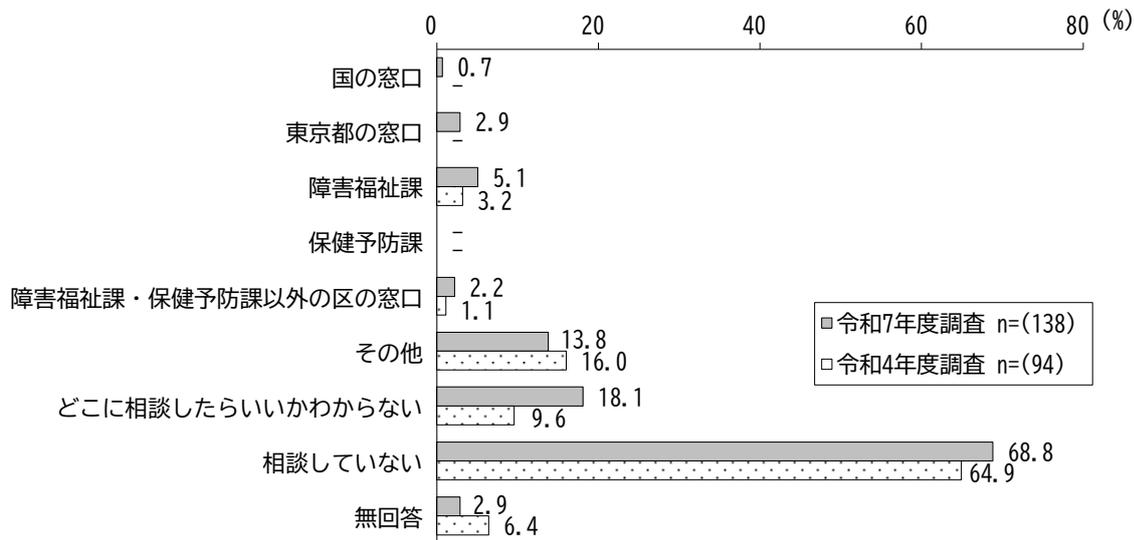
問33-2 あなたは、不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときに、どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先は、全体から「相談していない」の68.8%と「無回答」の2.9%を除いた28.3%が何らかの相談をしている。「障害福祉課」が5.1%で最も高く、「東京都の窓口」が2.9%、「障害福祉課・保健予防課以外の区の窓口」が2.2%で続いている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、精神障害では「どこに相談したらいいかわからない」が25.7%で他の障害よりも高くなっている。

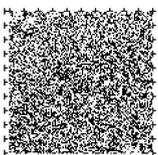
<図表 I - 65 - 1 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先（全体）>



<図表 I - 65 - 2 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先（障害別）>

	回答者数 (n)	国の窓口	東京都の窓口	障害福祉課	保健予防課	窓予障 口防害 課福 以社 外課 の・保 区健	その他	いどこに かかわ 相談 したら いい	相談して いない	無回答
単位：%										
全体	138	0.7	2.9	5.1	-	2.2	13.8	18.1	68.8	2.9
身体障害	80	1.3	3.8	7.5	-	3.8	10.0	13.8	73.8	1.3
知的障害	16	-	-	6.3	-	-	18.8	18.8	81.3	-
発達障害	15	-	-	6.7	-	-	26.7	13.3	73.3	-
精神障害	35	-	2.9	-	-	-	22.9	25.7	57.1	5.7
高次脳機能障害	3	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3
難病（特定疾病）	22	4.5	4.5	-	-	-	13.6	22.7	72.7	4.5

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



10. 災害・緊急時のことについて

(1) 災害時の困難・不安

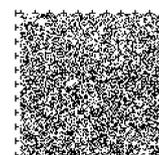
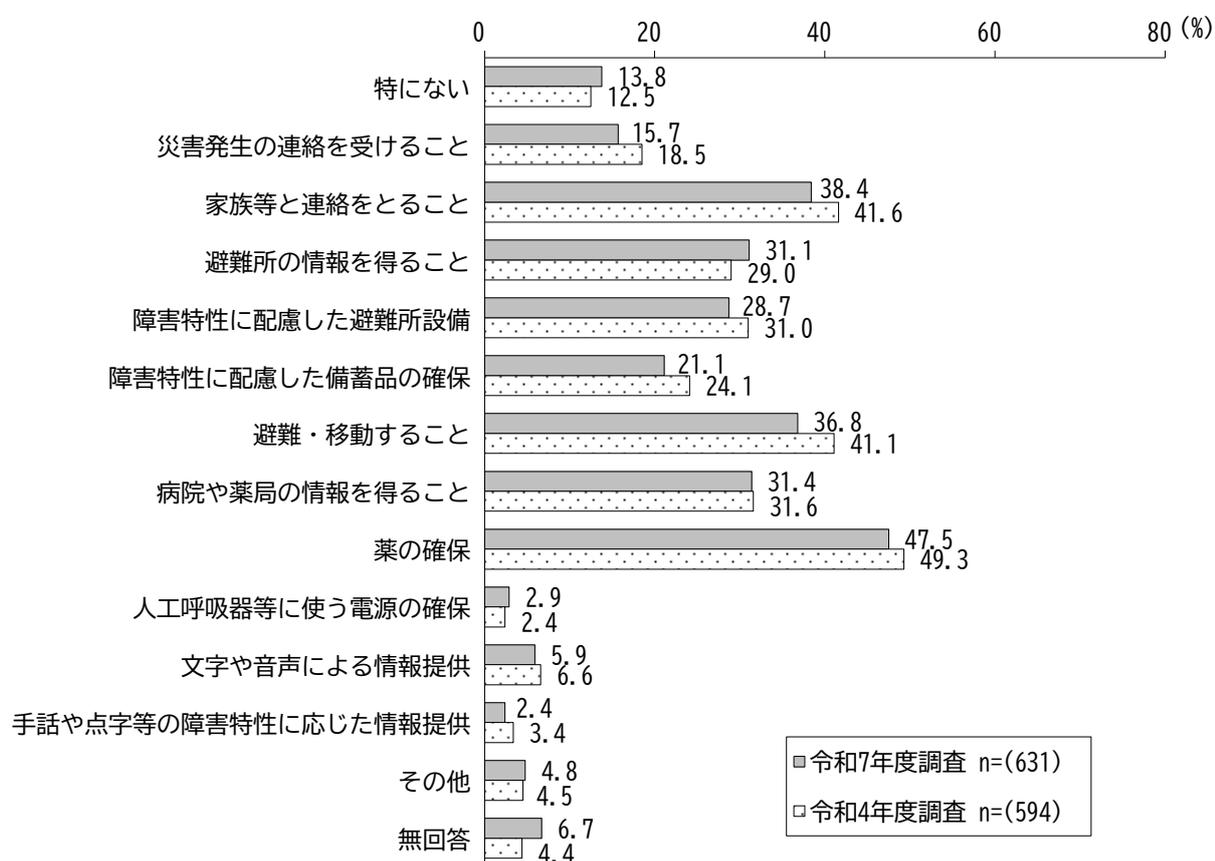
問34 災害（地震等）が発生したときに、あなたが困ることや不安に思うことは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

災害時の困難・不安は、「薬の確保」が47.5%で最も高く、「家族等と連絡をとること」が38.4%、「避難・移動すること」が36.8%で続いている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、知的障害では「家族等と連絡をとること」が62.9%、身体障害では「避難・移動すること」が41.3%で、その他の障害では「薬の確保」が最も高くなっている。

<図表 I - 66 - 1 災害時の困難・不安（全体）>



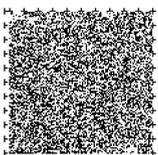
第2章 調査の結果

<図表 I -66-2 災害時の困難・不安（障害別）>

	回答者数 (n)	特 に な い	災 害 発 生 の 連 絡 を 受 け る こ と	家 族 等 と 連 絡 を と る こ と	避 難 所 の 情 報 を 得 る こ と	障 害 特 性 に 配 慮 し た 避 難 所 設 備	障 害 特 性 に 配 慮 し た 備 蓄 品 の 確 保	避 難 ・ 移 動 す る こ と	病 院 や 薬 局 の 情 報 を 得 る こ と	薬 の 確 保	人 工 呼 吸 器 等 に 使 う 電 源 の 確 保
全体	631	13.8	15.7	38.4	31.1	28.7	21.1	36.8	31.4	47.5	2.9
身体障害	303	11.6	15.2	38.0	28.7	33.0	25.4	41.3	30.4	40.3	4.0
知的障害	70	10.0	25.7	62.9	50.0	48.6	38.6	60.0	34.3	50.0	8.6
発達障害	51	23.5	17.6	43.1	51.0	31.4	27.5	29.4	31.4	58.8	2.0
精神障害	115	16.5	17.4	34.8	38.3	26.1	20.0	32.2	34.8	61.7	-
高次脳機能障害	14	14.3	42.9	71.4	42.9	35.7	35.7	57.1	57.1	64.3	-
難病（特定疾病）	165	9.7	12.1	38.2	21.8	27.9	18.8	33.3	37.6	59.4	4.2

	回答者数 (n)	提 供 文 字 や 音 声 に よ る 情 報	手 話 や 点 字 等 の 障 害 特 性 に 応 じ た 情 報 提 供	そ の 他	無 回 答
全体	631	5.9	2.4	4.8	6.7
身体障害	303	9.9	4.6	5.0	6.6
知的障害	70	5.7	1.4	5.7	4.3
発達障害	51	11.8	-	3.9	2.0
精神障害	115	3.5	-	5.2	7.8
高次脳機能障害	14	7.1	-	7.1	-
難病（特定疾病）	165	1.8	-	4.8	4.8

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 災害時の避難方法の理解・把握

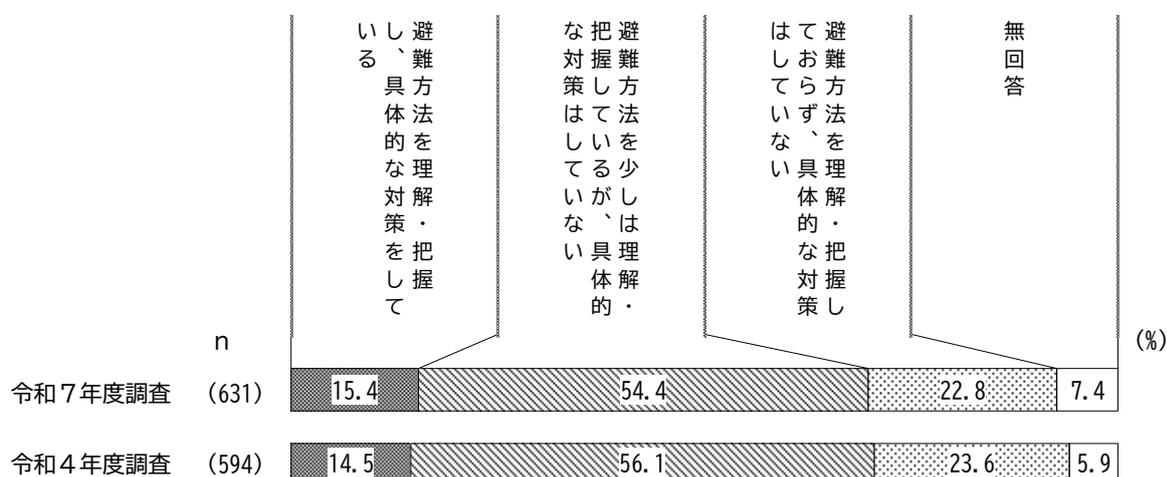
問35 あなたは、災害（地震等）が発生したときの避難方法を理解・把握していますか。
（1つに○）

災害時の避難方法の理解・把握は、「避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない」が54.4%で最も高く、「避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない」が22.8%、「避難方法を理解・把握し、具体的な対策をしている」が15.4%で続いている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、いずれの障害も「避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない」が最も高くなっている。

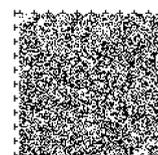
<図表 I -67- 1 災害時の避難方法の理解・把握（全体）>



<図表 I -67- 2 災害時の避難方法の理解・把握（障害別）>

	回答者数 (n)	いし避難方法の具体的な理解・把握	な把握避難方法は少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない	は避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない	無回答
単位：%					
全体	631	15.4	54.4	22.8	7.4
身体障害	303	14.9	55.4	21.5	8.3
知的障害	70	11.4	42.9	32.9	12.9
発達障害	51	19.6	45.1	35.3	-
精神障害	115	18.3	43.5	30.4	7.8
高次脳機能障害	14	14.3	50.0	35.7	-
難病（特定疾病）	165	15.8	65.5	14.5	4.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



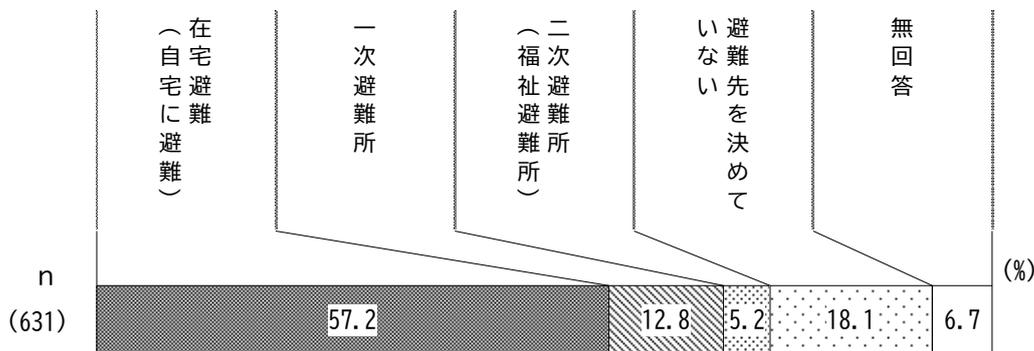
(3) 災害時の希望避難場所

問36 あなたは、災害（地震等）が発生した時に、どこに避難したいですか。（1つに○）

災害時の希望避難場所は、「在宅避難（自宅に避難）」が57.2%で最も高く、「避難先を決めていない」が18.1%、「一次避難所」が12.8%が続いている。

障害別にみると、いずれの障害も「在宅避難（自宅に避難）」が最も高い一方で、知的障害では「二次避難所（福祉避難所）」が17.1%と他の障害よりも高くなっている。

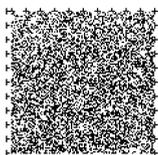
<図表 I - 68 - 1 災害時の希望避難場所（全体）>



<図表 I - 68 - 2 災害時の希望避難場所（障害別）>

	回答者数 (n)	在宅避難（自宅に避難）	一次避難所	二次避難所（福祉避難所）	避難先を決めていない	無回答
全体	631	57.2	12.8	5.2	18.1	6.7
身体障害	303	56.4	14.2	3.6	18.2	7.6
知的障害	70	47.1	12.9	17.1	17.1	5.7
発達障害	51	56.9	15.7	2.0	25.5	-
精神障害	115	66.1	6.1	2.6	18.3	7.0
高次脳機能障害	14	64.3	7.1	7.1	21.4	-
難病（特定疾病）	165	60.0	13.3	3.6	18.8	4.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



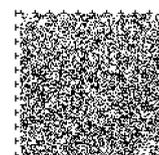
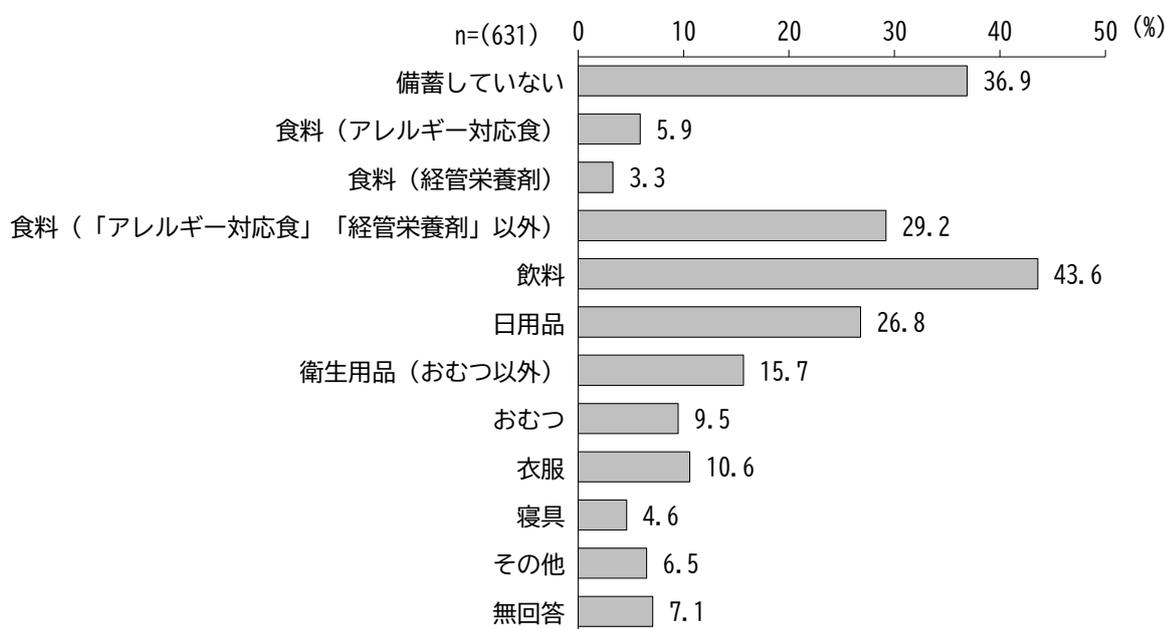
(4) 災害対応用の備蓄物資

問37 あなたは、災害（地震等）時に備えて、何を備蓄していますか。
（あてはまるものすべてに○）

災害対応用の物資を備蓄している割合（全体から「備蓄していない」と無回答を引いたもの）は56.0%となっている。備蓄物資としては、「飲料」が43.6%で最も高く、「食料（「アレルギー対応食」「経管栄養剤」以外）」が29.2%、「日用品」が26.8%が続いている。

障害別にみると、「飲料」では知的障害が54.3%、難病（特定疾病）が52.7%と高くなっている。一方で「備蓄していない」では発達障害が51.0%と他の障害よりも高くなっている。

<図表 I -69-1 災害対応用の備蓄物資（全体）>



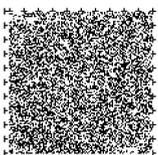
第2章 調査の結果

<図表 I - 69 - 2 災害対応用の備蓄物資（障害別）>

	回答者数（n）	備蓄していない	食料 （アレルギー対応食）	食料 （経管栄養剤）	食料 「アレルギー対応 食」 「経管栄養剤」 以外	飲料	日用品	衛生用品（おむつ以外）	おむつ	衣服	寝具
単位：%											
全体	631	36.9	5.9	3.3	29.2	43.6	26.8	15.7	9.5	10.6	4.6
身体障害	303	37.3	6.3	4.3	28.7	43.9	27.4	15.2	12.5	11.2	4.3
知的障害	70	22.9	4.3	4.3	35.7	54.3	24.3	11.4	20.0	18.6	8.6
発達障害	51	51.0	3.9	-	19.6	33.3	21.6	9.8	7.8	13.7	5.9
精神障害	115	41.7	6.1	1.7	22.6	38.3	27.8	17.4	5.2	11.3	4.3
高次脳機能障害	14	28.6	-	7.1	35.7	42.9	28.6	28.6	28.6	7.1	-
難病（特定疾病）	165	29.1	6.1	2.4	34.5	52.7	30.3	17.6	10.9	9.7	5.5

	回答者数（n）	その他	無回答
単位：%			
全体	631	6.5	7.1
身体障害	303	5.9	6.9
知的障害	70	11.4	8.6
発達障害	51	15.7	-
精神障害	115	9.6	7.8
高次脳機能障害	14	7.1	7.1
難病（特定疾病）	165	5.5	4.8

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



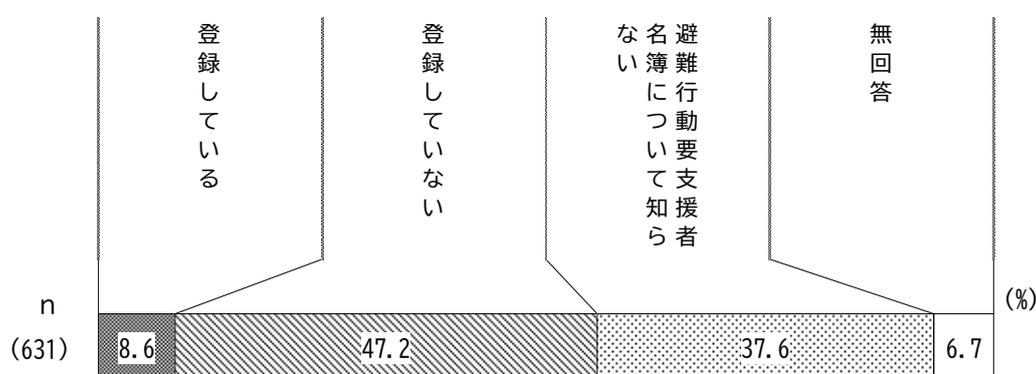
(5) 避難行動要支援者名簿の登録状況

問38 あなたは、避難行動要支援者名簿に登録していますか。(1つに○)

避難行動要支援者名簿の登録状況は、「登録していない」が47.2%、「避難行動要支援者名簿について知らない」が37.6%となっており、「登録している」は8.6%に留まっている。

障害別にみると、発達障害では「避難行動要支援者名簿について知らない」が51.0%、精神障害では「登録していない」が50.4%と高くなっている。

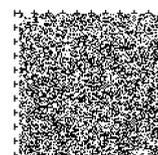
<図表 I -70-1 避難行動要支援者名簿の登録状況 (全体) >



<図表 I -70-2 避難行動要支援者名簿の登録状況 (障害別) >

	回答者数 (n)	登録している	登録していない	避難行動要支援者名簿について知らない	無回答
単位: %					
全体	631	8.6	47.2	37.6	6.7
身体障害	303	10.9	43.6	38.3	7.3
知的障害	70	20.0	34.3	38.6	7.1
発達障害	51	7.8	39.2	51.0	2.0
精神障害	115	6.1	50.4	36.5	7.0
高次脳機能障害	14	7.1	57.1	35.7	-
難病 (特定疾病)	165	6.1	48.5	40.0	5.5

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) 個別支援計画の作成状況

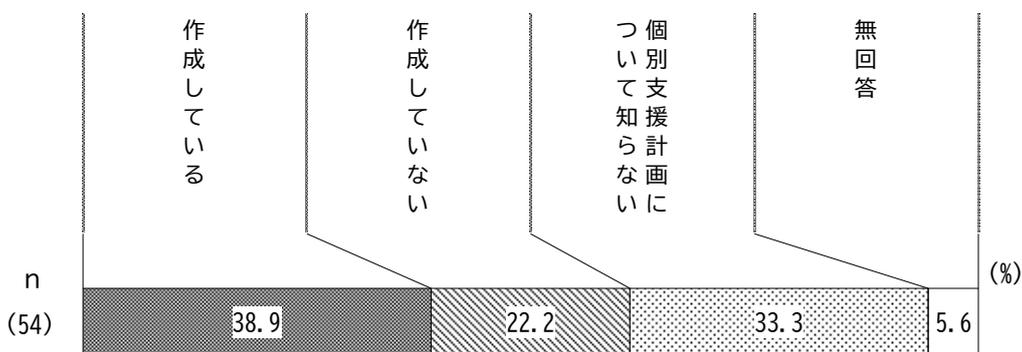
【問38で「1.登録している」に○をした方におたずねします。】

問38-1 あなたは、個別支援計画を作成していますか。(1つに○)

個別支援計画の作成状況は、「作成している」が38.9%、「作成していない」が22.2%、「個別支援計画について知らない」が33.3%となっている。

障害別にみると、身体障害では「作成している」が39.4%で最も高くなっている。

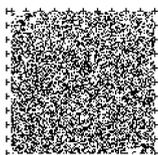
<図表 I-71-1 個別支援計画の作成状況 (全体)>



<図表 I-71-2 個別支援計画の作成状況 (障害別)>

障害別	回答者数 (n)	作成している (%)	作成していない (%)	個別支援計画について知らない (%)	無回答 (%)
全体	54	38.9	22.2	33.3	5.6
身体障害	33	39.4	18.2	33.3	9.1
知的障害	14	64.3	21.4	14.3	-
発達障害	4	50.0	-	50.0	-
精神障害	7	57.1	14.3	28.6	-
高次脳機能障害	1	-	-	100.0	-
難病 (特定疾病)	10	30.0	10.0	40.0	20.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



11. 台東区への要望等について

(1) 障害者が地域で安心して暮らすために重要だと思う施策

問39 障害者が地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

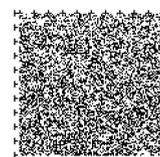
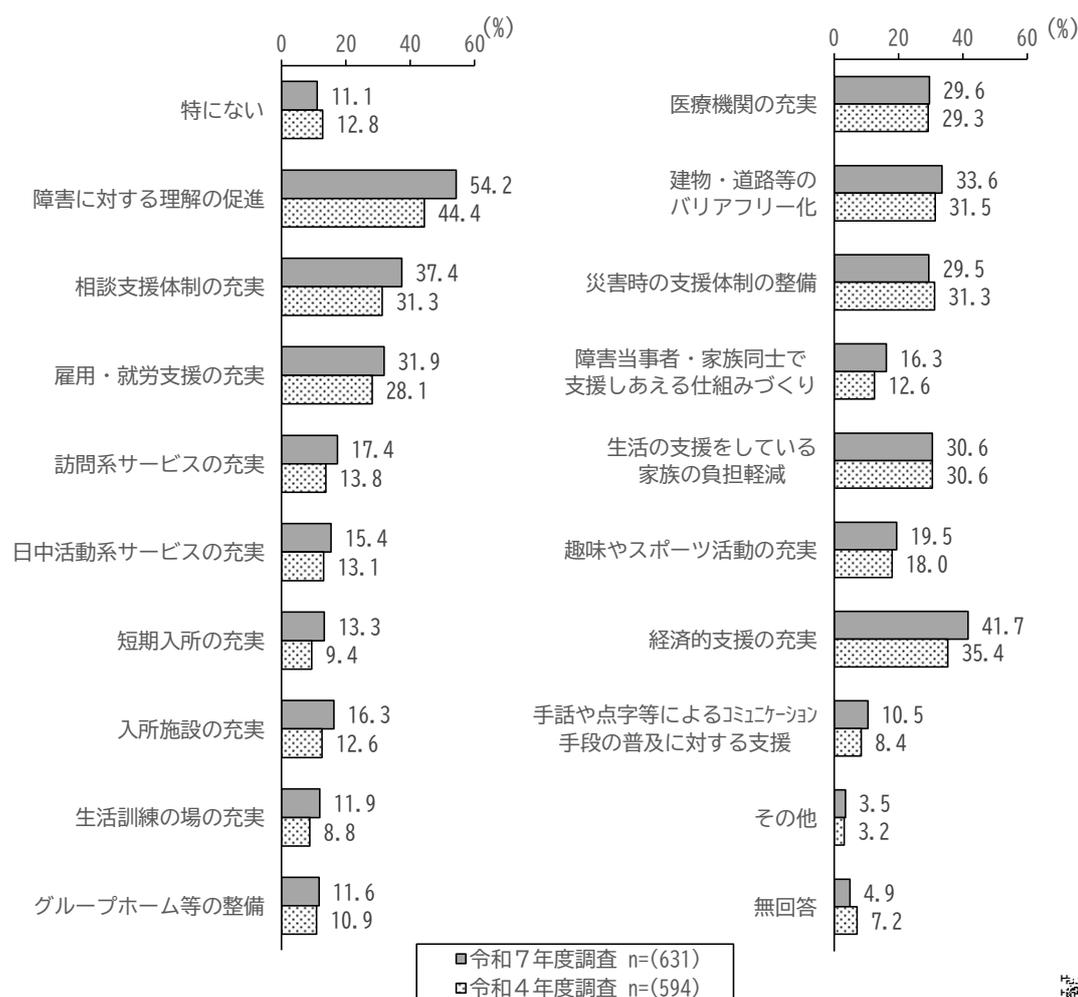
障害者が地域で安心して暮らすために重要だと思う施策は、「障害に対する理解の促進」が54.2%で最も高く、「経済的支援の充実」が41.7%、「相談支援体制の充実」が37.4%で続いている。

前回調査と比較すると、「障害に対する理解の促進」、「経済的支援の充実」、「相談支援体制の充実」などが増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「障害に対する理解の促進」が最も高くなっている。

年齢別にみると、18～39歳と40～64歳では「障害に対する理解の促進」が、65～74歳では「医療機関の充実」、75歳以上では「入所施設の充実」が、他の年齢よりも高くなっている。

<図表 I - 72 - 1 障害者が地域で安心して暮らすために重要だと思う施策（全体）>



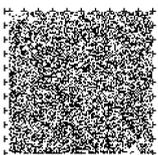
第2章 調査の結果

<図表 I -72-2 障害者が地域で安心して暮らすために重要だと思う施策（障害別）>

	回答者数 (n)	特 に な い	障 害 に 対 す る 理 解 の 促 進	相 談 支 援 体 制 の 充 実	雇 用 ・ 就 労 支 援 の 充 実	訪 問 系 サ ー ビ ス の 充 実	日 中 活 動 系 サ ー ビ ス の 充 実	短 期 入 所 の 充 実	入 所 施 設 の 充 実	生 活 訓 練 の 場 の 充 実	グ ル ー プ ホ ー ム 等 の 整 備
単位：%											
全体	631	11.1	54.2	37.4	31.9	17.4	15.4	13.3	16.3	11.9	11.6
身体障害	303	10.9	54.5	34.3	30.4	16.5	11.9	11.2	13.2	11.6	9.6
知的障害	70	10.0	72.9	52.9	30.0	22.9	37.1	27.1	35.7	21.4	35.7
発達障害	51	7.8	74.5	51.0	58.8	21.6	25.5	13.7	15.7	21.6	17.6
精神障害	115	11.3	55.7	41.7	38.3	18.3	19.1	9.6	14.8	15.7	13.9
高次脳機能障害	14	7.1	71.4	28.6	21.4	28.6	35.7	21.4	7.1	21.4	14.3
難病（特定疾病）	165	7.9	55.2	38.8	26.7	19.4	16.4	17.0	18.8	10.3	10.3

	回答者数 (n)	医 療 機 関 の 充 実	建 物 ・ 道 路 等 の バ リ ア フ リ ー 化	災 害 時 の 支 援 体 制 の 整 備	障 害 当 事 者 ・ 家 族 同 士 で 支 援 し あ え る 仕 組 み づ く り	生 活 の 支 援 を し て い る 家 族 の 負 担 軽 減	趣 味 や ス ポ ー ツ 活 動 の 充 実	経 済 的 支 援 の 充 実	手 話 や 点 字 等 に よ る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 手 段 の 普 及 に 対 す る 支 援	そ の 他	無 回 答
単位：%											
全体	631	29.6	33.6	29.5	16.3	30.6	19.5	41.7	10.5	3.5	4.9
身体障害	303	27.4	41.3	30.4	13.2	29.4	17.8	38.0	12.2	4.0	5.6
知的障害	70	31.4	34.3	41.4	27.1	32.9	32.9	31.4	8.6	1.4	2.9
発達障害	51	31.4	29.4	31.4	27.5	37.3	31.4	54.9	7.8	3.9	-
精神障害	115	33.0	21.7	24.3	20.0	27.8	21.7	52.2	8.7	7.8	2.6
高次脳機能障害	14	42.9	50.0	50.0	21.4	50.0	7.1	64.3	7.1	-	7.1
難病（特定疾病）	165	37.0	40.0	32.1	19.4	37.6	17.0	47.3	10.3	0.6	3.6

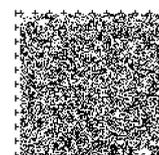
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



<図表 I -72-3 障害者が地域で安心して暮らすために重要だと思う施策（年齢別）>

	回答者数（n）	特 に な い	障 害 に 対 す る 理 解 の 促 進	相 談 支 援 体 制 の 充 実	雇 用 ・ 就 労 支 援 の 充 実	訪 問 系 サ ー ビ ス の 充 実	日 中 活 動 系 サ ー ビ ス の 充 実	短 期 入 所 の 充 実	入 所 施 設 の 充 実	生 活 訓 練 の 場 の 充 実	グ ル ー プ ホ ー ム 等 の 整 備
単位：%											
全体	631	11.1	54.2	37.4	31.9	17.4	15.4	13.3	16.3	11.9	11.6
18～39歳	200	8.5	61.0	38.0	39.5	16.5	21.5	14.0	15.5	15.0	15.5
40～64歳	265	10.2	59.2	41.5	35.8	14.7	14.3	11.7	15.8	11.3	10.9
65～74歳	76	15.8	40.8	36.8	19.7	19.7	11.8	10.5	10.5	11.8	9.2
75歳以上	83	16.9	33.7	24.1	9.6	26.5	8.4	18.1	24.1	7.2	6.0

	回答者数（n）	医 療 機 関 の 充 実	建 物 ・ 道 路 等 の バ リ ア フ リ ー 化	災 害 時 の 支 援 体 制 の 整 備	障 害 当 事 者 ・ 家 族 同 士 で 支 援 し あ え る 仕 組 み づ く り	生 活 の 支 援 を し て い る 家 族 の 負 担 軽 減	趣 味 や ス ポ ー ツ 活 動 の 充 実	経 済 的 支 援 の 充 実	手 話 や 点 字 等 に よ る コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 手 段 の 普 及 に 対 す る 支 援	そ の 他	無 回 答
単位：%											
全体	631	29.6	33.6	29.5	16.3	30.6	19.5	41.7	10.5	3.5	4.9
18～39歳	200	25.0	36.0	27.5	19.5	37.0	24.0	46.5	14.0	4.5	4.5
40～64歳	265	30.6	31.7	31.3	16.2	27.5	20.0	42.6	11.3	3.4	4.5
65～74歳	76	38.2	38.2	34.2	14.5	23.7	19.7	35.5	6.6	5.3	2.6
75歳以上	83	30.1	30.1	24.1	12.0	33.7	8.4	31.3	3.6	-	8.4



(2) 自由意見

問40 その他、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。※ご本人の意見以外にも、ご家族やお近くの方からお聞きしたことなど、どのようなことでもお書きください。

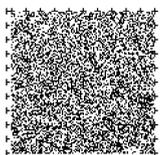
135人の方から、延べ168件の意見があった。

※同一意見などは記載省略しているため、掲載意見数とカッコ内の数字は一致しない。

※原則、原文のまま掲載している。

①サービス、制度について (25件)

年齢	障害	意見、要望
40～64歳	内部障害 (内臓等の障害)	台東区以外との福祉サービスの質の格差をなくすこと。全国基本的に同質(例えば補助金の金額など)になることを望みます。障害者補助支援クーポンやエアコン設置代の増額など、新しい制度や更新が施行された場合、すみやかに周知徹底が行われることを希望します。アンケートの機会を頂きありがとうございました。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 高次脳機能障害	交通事故から16年が経過してリハビリ等復帰に努力しております。装具・寝具(ベッド)・オムツへの支援がもう少し充実して頂ければありがたいと思います。外出の際は、2人のヘルパーに介護して頂いており、何とか活動、行動出来ております。(父)
40～64歳	音声・言語・ そしゃく機能障害、 肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	重度訪問介護は24時間欲しい。ヘルパーさんが居なかったら、本当に何も出来ないから。トイレに行くことすらさえ。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害	介護職の方が少な過ぎて、今来ているヘルパー会社のスタッフも高齢化しています。先々不安です。
18～39歳	難病(特定疾病)	高校を卒業しても必要な方には放課後デイサービスを続けられるようお願いしたい。生活介護での延長でも良いと思います。宜しくお願い致します。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	障害者支援について、等級によって受けられないものもあり、支援を諦めなければならないこともあるので、必要な人に届く要件で考えて欲しいと思う時があります。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	大阪から引っ越してきて半年ほど経ったが、障害者支援について、大阪の方が手厚かったと感ずることがあった。医療費の控除などは東京都の方が少なく自己負担が増えてしまった。また最近所得制限により医療証の対象から外れてしまい、医療費の継続的支払いに不安を感じている。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害	生活のために、家族が仕事をしています。生活介護から帰宅する時間が早すぎるので、夕方放課後デイサービスのようなものを早急に利用できると助かります。よろしく願います。
40～64歳	難病(特定疾病)	指定難病の受給者証があっても障害者割引が適用されない施設やサービスが多い。同様に取扱いしてほしい。



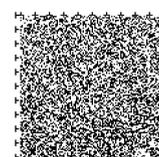
年齢	障害	意見、要望
18～39歳	内部障害 (内臓等の障害)	大阪府大阪市が運営している「オンデマンドバス」がとても便利で良かったので、ぜひ台東区でもこのようなサービスがあると有難いです。

②施設、設備の充実について (10件)

年齢	障害	意見、要望
40～64歳	知的障害	母の意見です。長年グループホーム（就労支援B型通所）で暮らして来たが、認知症発症のため、暮らせなくなり、一年前2024年11月に家に引き取った。以降、生活介護を利用して家族と暮らしているが、今後、母も歳を取り、介護することが出来なくなることがあり得る。知的障害者の人達が認知症になっても台東区（生まれ育った）で生きて人生をまっとう出来るためには、高齢者施設では介護が難しく思う。知的障害者の人達のための高齢者施設の設置を、作って欲しいです。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害	在宅ですが、グループホーム（区内）を希望しています。グループホームの充実をお願いします。必要な時に、必要な人が使える緊急一時保護の場所、ショートステイの場所の充実をお願いします。同時に人材確保も宜しくお願い致します。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害、発達障害	訪問介助などを利用しながら1人で暮らす体験ができる施設を提供して欲しい。たいとう寮のような施設を増やして利用しやすくして欲しいです。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害	医療ケアがあっても、ショートステイが出来るような場所が台東区に欲しい。医療ケアがあってもグループホーム的な場所を作って欲しい。障害があっても就労するための勉強（パソコン等）を教えてくれる、この子に合った物を一緒に探してくれるような場所が欲しい。台東区でポッチャ大会をしてくれるのですが、もう少し練習が出来るといい。ビーチバレーをやりたいのですが、同じ位の子と出来るといい。リバーサイドでやっているが、そこに参加するのは少し難しそう。この様にアンケートで伝えられる場が出来て嬉しいですよ。
18～39歳	難病（特定疾病）	私の子供も心機能障害を持っていて、医療的ケアを受けています。外出するのも少し大変です（酸素ボンベの扱い等）。そういった医ケア児を安心して預けられる施設がもっと増えたら、私自身も医ケア児を持つ親御さんも生きやすくなるかなと思います。

③情報提供、相談支援体制について (15件)

年齢	障害	意見、要望
18～39歳	難病（特定疾病）	特定疾病を受けている人でも障害福祉サービスを受ける事が出来る事を知りませんでした。認知して行って欲しいです。情報が少な過ぎます。健常者に見える障害者が一番辛いと思います。理解してもらえない事があるので…。
40～64歳	音声・言語・ そしゃく機能障害	台東区X公式アカがあることを知ったので、フォローしました。多方面の情報発信をしてください。
65～74歳	難病（特定疾病）	“たいとう”等でマメに情報が展開されているとは思いますが、連絡先や状況判断の助けになる情報が防水ペーパー（またはラミネートパック）で1枚になっているものがあると便利だと思います。

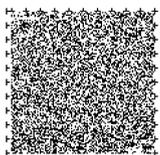


第2章 調査の結果

年齢	障害	意見、要望
18～39歳	視覚障害	障がい者のことを知ろうとしてくださいまして、ありがとうございます。アンケート多くて驚きました。web回答もあり良かったです。プル型の通知ではなくプッシュ型の通知があると良いなあと思うことはあります。自分が関係する、興味がある行政案内を選択して、それがLINEで届く等。(関係ない、興味のない通知が多いと結局見なくなってしまう可能性が高いので)
40～64歳	精神障害	様々な支援などを知っている人と知らない人では受ける事が出来るサービスや支援に大きな差が出る事は不平等であり、会話や読み書きに障害があれば知る事も不可能である。家族にサポートできる人が居ないと、他人がこの様な人の状態を知ること、支援者無しに社会で生きることは難しい。相談出来る場やサポート内容の広さが欲しい。
18～39歳	視覚障害	困り事について、担当する部署に繋げてくれる相談窓口が欲しい。人手不足なのかデパート等、買い物の際に従業員による館内案内を断られることがある。移動支援がない場合(仕事終わりの買い物など)について、案内して欲しい。
40～64歳	精神障害、 難病(特定疾病)	気軽に困り事を相談できる場所が身近にあり、そこから困り事に対応してくれる支援に繋がってくると生きやすくなる。様々な部署へ自ら相談に行くのは難しい。
65～74歳	精神障害	悩みを抱えていても、どこに相談したらよいかわからない。友達がいなくて、話し相手がいらないため、孤独で不安。引きこもりで思うように外出出来ない。障害者のためにある支援について知りたい!

④障害に対する理解について(16件)

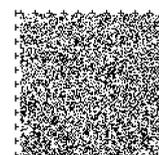
年齢	障害	意見、要望
40～64歳	視覚障害	白杖や黄杖(聴覚障害者)の認知度が低いいため、障害者だと気付かれないことにより、不当な扱いを受けることがある。
18～39歳	聴覚・平衡機能障害	ただの感想になってしまいますが…。「障害者施策」とひとくちに言っても、世の中の反応やこちらのアンケートなどを見ると、精神・発達障害の存在感が大きいのだなと、身体障害者だからこそ?少しびっくりします。精神(発達)、身体それぞれに難しさはありますが、私個人の感想としては、聴覚障害への理解が進んで、筆談や読唇しやすい話し方で応じてくれる方々が増えたこと以外で、公的な物質的な配慮・支援が豊かになったと思ったことがあまりないです。だからと言って、どうだとは思わないのですが、しいて言うなら、道の歩きやすさとか、エスカレーター・エレベーターの設置(公共交通手段への)など、障害のあるなしに関わらず、広い層の人々が恩恵を受けられる整備等の拡充に期待したいです。
65～74歳	発達障害、精神障害	障害者と聞くとステレオタイプを想定する人はいるが、個別の事情や障害の現れ方には、個性があることをみんなに知って欲しいし、理解もして欲しい。関心を持ってもらうことからして難しいと感じる。



年齢	障害	意見、要望
75歳以上	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 その他	電動車椅子の認識がなく、急に前を横切ったり、タクシーから車椅子を降ろして頂く時、傾斜が強い歩道でタクシーの方を向けて置くとか。電動車椅子にはクラッチ合わせもなく、出発時タクシーの方へ動く。電動車椅子にはバックミラー、クラッチ合わせ、ブレーキがない(移動時)事など、知って欲しい。私は車椅子をしっかり守りますが、他人やタクシーに傷を付ける事がいつも心配です。
18～39歳	知的障害	障害のある方への支援をする方が疲れ過ぎないように(自分を責めたり、どう接してあげることが良いか?理解したらどう支援したら良いか?)することは大事だと感じます!短時間でも良いから彼らが(障害のある方が)、過ごせる場所を“増やせたら”と願っております!“障害のある人”との関わりは一筋縄ではいかないことも多々あります。やはり書面だけでなく、実際に話したり、見たり、関わったりする事が一番分かりやすいかと思えます(といってもなかなか難しいですが(笑))。私達親子は色々な方とふれ合い、知って頂く!!(存在を!)。自然に接し合える社会になっていけることを願いつつ過ごしております!障害のある、なしに関わらず、お互いが思いやりの気持ちで接し合える“世界”になればと思います。(世界平和であれ!)
65～74歳	難病(特定疾病)	見知らぬ人からの観察で声掛けをして頂き、ありがたく思っています。鉄道やバスでの席の譲り合いも時々して頂き、助かっています。

⑤経済的問題について(12件)

年齢	障害	意見、要望
40～64歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	自分は障害を負って20年以上になるので、日常生活で困る事はない。もっと障害者支援に関わる方々の賃金を上げるべきだと思っている。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	所得制限の撤廃を進めてください。本当に生活が苦しいです。
75歳以上	難病(特定疾病)	難病に対する金銭的負担への支援が少ない。医療的ケアの充実と施設での負担を軽減して欲しい。
18～39歳	視覚障害	介護者用の公共交通機関の無料パスが欲しい。名古屋市では介護者にも支給される。詳細は名古屋市の福祉特別乗車券を調べて欲しい。無料で乗れる公共交通機関が増えることにより、趣味の外出にもつながる。受給者証や決定通知の点字版や拡大文字版があると良い。タクシー券は100円単位の支給でおつりが出ない。そのため、電子マネーのカードタイプのものを導入し、丁度の金額を支払えるようにして欲しい。まる障の提示により、医療証が1割負担となるが、所得にかかわらず、自己負担額をゼロにして欲しい。自己負担が生じることを考え、病院に行き渋ることがある。
18～39歳	内部障害 (内臓等の障害)	物価が高くなっているため、タクシー券の支給のハードルを少し下げる等、経済支援が時代に合っているとありがたい。



第2章 調査の結果

⑥行政の対応について（5件）

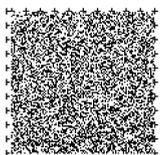
年齢	障害	意見、要望
40～64歳	聴覚・平衡機能障害、 肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	台東区も社会福祉議会も、手話の出来る人を必要！！
18～39歳	聴覚・平衡機能障害	台東区役所の職員自身が障害者を蔑むような対応を過去に何度も受けており、人間不信に陥りました 障害者にアンケートする前に、職員に対しての教育を徹底してほしい

⑦バリアフリーについて（12件）

年齢	障害	意見、要望
40～64歳	内部障害 (内臓等の障害)、 難病（特定疾病）	歩行中、ちょっとした段差が危険に感じる。
40～64歳	聴覚・平衡機能障害	重度の難聴で特にアナウンスなどのスピーカや機械を通した音声は全く聴こえないので… 災害時や電車の故障や事故などの際には、電光掲示板にて、理由や案内などを文字で書き出して欲しい。
40～64歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 難病（特定疾病）	駅にエレベーターが少なく困っています。
40～64歳	視覚障害、 難病（特定疾病）	公共施設のエレベーター内のボタンを見やすいようにして欲しい（暗くて見えないことも多い）。狭い歩道でのスピードを出した自転車の運転者に対して、もっと注意・指導をして欲しい。

⑧災害時・緊急時の支援体制について（7件）

年齢	障害	意見、要望
75歳以上	内部障害 (内臓等の障害)	週2回程度の人工透析が必要。災害時にもこれを維持できるか不安。
18～39歳	精神障害、 高次脳機能障害、 その他	病気の後遺症により、走ることができない。その為、災害時に迅速な移動ができないため不安。建物の耐震補強を多くしてほしい。（台東区は地盤が悪い箇所が多いため）
40～64歳	精神障害、 高次脳機能障害、 その他	災害があった時、安心して過ごせる場所の確保。特に女性は男性と違い、自分の身を守ることが出来ません。あと、自分の病気の薬など、病気を持っている方の薬の確保などをしっかりしてもらえたらありがたいです。あとは、お年寄りの方に限らず、オムツも支援してもらえたらありがたいです。女性は月のものがあるかわからないためです。
75歳以上	内部障害 (内臓等の障害)	「避難行動要支援者名簿」について。以下の理由で登録していません。理由1. 連絡先（個人情報）の管理が適切になされるのか不明なため。理由2. 連絡先（個人情報）の更新確認が適切になされるのか不明なため。理由3. 大災害発生時、実際に避難行動の支援を受けられるのか不明なため。理由4. 名簿に登録することでどのような支援をいつ受けることができるのか不明なため。

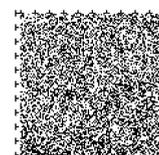


⑨手続きについて（7件）

年齢	障害	意見、要望
40～64歳	音声・言語・ そしゃく機能障害、 精神障害、 高次脳機能障害	一人きりの障害者なので、契約更新の時など、色々窓口が多く、ハンディがあるので重荷になっています…。職場探しもハローワークしか出来ない程度です。障害者の更新手続きは1ヶ所で済ますことが出来たらと願っています。
18～39歳	難病（特定疾病）	支援を受ける上での手続きについて、保健所や区役所など、自分で平日の営業時間内に行わなければならないので、インターネットか休日にも窓口があると良いと思います。更新の頻度ももう少し減らしてもらえると嬉しいです。
40～64歳	視覚障害	あらゆる申請手続きが煩雑すぎる。簡素化、無償をお願いしたい。
18～39歳	精神障害、 難病（特定疾病）	保健所窓口にて、毎年各種申請・手続きをしています。精神障害系の手続きは窓口でかなり柔軟に対応していただけるので困る事は少ないのですが、難病医療費助成の手続きの際は手続き自体の難易度が少し高く、質問をしながら記入する項目が多く、精神障害がある事への配慮を求め辛いので、困る事があります。
40～64歳	視覚障害、 聴覚・平衡機能障害	身体障害者手帳をお持ちの方に対して、本人の届出を待つのではなく、例えば、支援金のような物を頂けるのであれば、申請が済んでいない場合、ご一報頂けるとありがたいです。
18～39歳	視覚障害	前の質問でも回答したが、役所からの書類について、紙での送付は障がい上負担になるため電子化してほしい。マイナンバーカードのパスワード設定において、現状は入力画面が見えない場合は役所の職員さんに代理入力を依頼しなければならない状況。セキュリティ上大問題であるし、正しく設定されているのか、こちらから確認する術がないのも問題。キーボード入力を可能にするなど、早急に対応してほしい。障害者手帳とマル障がなどをマイナンバーカードに紐付けられるようにしてほしい。

⑩将来の不安について（3件）

年齢	障害	意見、要望
40～64歳	肢体不自由 （手足の欠損や麻痺等）、 精神障害	自身が障害者で高齢の両親の今後の面倒を見ていかななくてはならない不安があるが、どうして良いか分からない
18～39歳	肢体不自由 （手足の欠損や麻痺等）、 内部障害 （内臓等の障害）、 知的障害	親もだんだん高齢になりつつあり、体調面でも経過観察中の疾病があり、いつ入院が必要な状態になるのかの不安やいつまで在宅で生活の面倒をみられるのか、その時の預け先はあるのかと言う所の不安が大きいです。親の緊急事態の時の対応方法も教えてくださいたいです。



第2章 調査の結果

⑪就労について（9件）

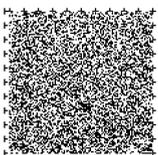
年齢	障害	意見、要望
18～39歳	発達障害、精神障害	問16-7で「仕事をしない理由はなぜか」という質問があります。1～16の選択肢には、障害者個人の意思や気分で働かない理由の候補です。ですが、私は働かないと働けと言われ、働くと言われと役立たずと言われました。では、どうすればいいのでしょうか？社会に障害者を受け入れる環境があるとは思えません。（母）本人の悩みや本当に困っている事が親であってもなかなか分かってあげられず、忸怩たる思いです。どのような形でもいいので、社会と繋がって欲しいと願っています。これからも分かりやすい情報発信をお願いします。
40～64歳	肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）、内部障害（内臓等の障害）	難しいですが、安くてもしょうがないので、障害に合う仕事を作って、障害者の見合った仕事を紹介していただけたら、社会に参加できる満足感と安心感と仲間が増えて生活に張りが出て来ると思います。

⑫調査について（18件）

年齢	障害	意見、要望
18～39歳	肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）、知的障害	本人が話をする事が出来ないで、アンケートに回答出来ないところが多くなりました。申し訳ございません。
40～64歳	精神障害	郵便ポストから、福祉封筒が大き過ぎて目立ってしまって、障害者だと他人に分かってしまいます。小さくするか、福祉と書かないか、台東区の普通の色の封筒でお願い致します。
18～39歳	音声・言語・そしゃく機能障害、肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）	『台東区障害者等アンケート』についての感想です。設問数が多いと思いました。今後は、もう少し設問数を減らしていただけると助かります。よろしく願いいたします。
40～64歳	肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）	このアンケートはWeb回答可能だったので良かった。片麻痺で書字困難であるため、書類を書かなければならないと分かった時点でサービスの利用を諦める事もある。そういう人も居るということを理解してほしい。

⑬その他（29件）

年齢	障害	意見、要望
65～74歳	精神障害	6月からの猛暑、ゲリラ豪雨、更に値上げ続きでの物価高騰により、障害のある方々は健常者の方々よりも多大なストレスを感じていると思います。医療・介護関連の人手不足の酷い状況にあることは存じ上げておりますが、自助や互助に留まらず、充実した共助と公助を続けて頂けることを望みます。報道を見てもこれからの福祉が不安で仕方がありません。
18～39歳	聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害	障害を持っている方が孤立しないように見守ってほしい。
65～74歳	精神障害	知らない支援や制度やサービス機関があることに驚きました。少しずつ勉強していこうと思います。



II 障害児調査

1. 基本的属性

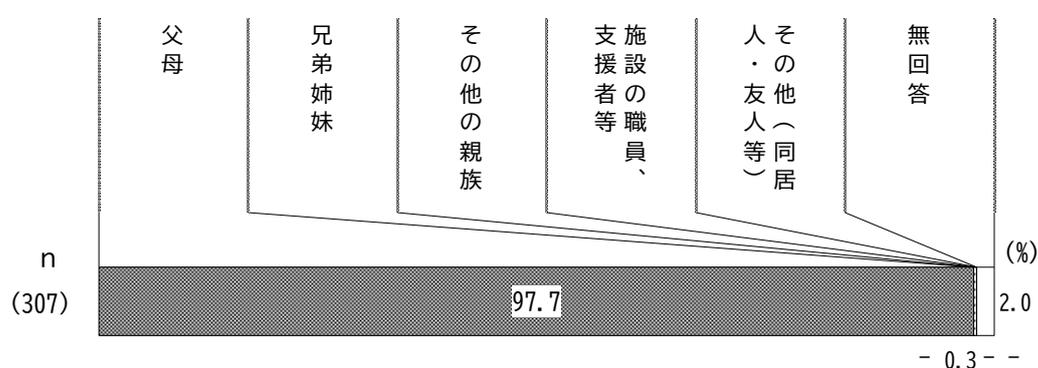
(1) 調査回答者

問1 はじめに、このアンケートにご回答いただく方はどなたですか。(1つに○)

調査回答者は、「父母」が97.7%を占めている。

障害別にみると、いずれの障害も「父母」が最も高くなっている。

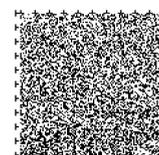
<図表Ⅱ-1-1 調査回答者(全体)>



<図表Ⅱ-1-2 調査回答者(障害別)>

	回答者数 (n)	父母	兄弟姉妹	その他の親族	施設の職員、支援者等	その他(同居人・友人等)	無回答
全体	307	97.7	-	0.3	-	-	2.0
身体障害	34	100.0	-	-	-	-	-
知的障害	67	100.0	-	-	-	-	-
発達障害	56	100.0	-	-	-	-	-
精神障害	6	100.0	-	-	-	-	-
高次脳機能障害	2	100.0	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	9	100.0	-	-	-	-	-
手帳未取得	162	98.1	-	0.6	-	-	1.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



2. お子さん自身について

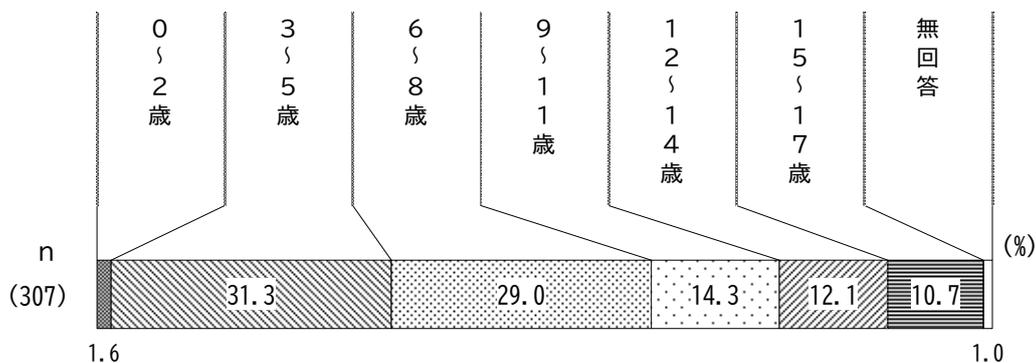
(1) 年齢

問2 お子さんの令和7年9月1日現在の年齢をお答えください。(記入回答)

年齢は「3～5歳」が31.3%で最も高く、「6～8歳」が29.0%、「9～11歳」が14.3%で続いている。

障害別にみると、身体障害では「12～14歳」が32.4%で最も高く、知的障害と発達障害では「6～8歳」がそれぞれ28.4%、26.8%と高くなっている。一方で手帳未取得は「3～5歳」が42.0%を占めている。

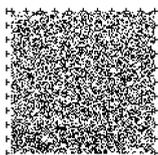
<図表Ⅱ-2-1 年齢(全体)>



<図表Ⅱ-2-2 年齢(障害別)>

障害別	回答者数 (n)	年齢 (%)						
		0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12～14歳	15～17歳	無回答
全体	307	1.6	31.3	29.0	14.3	12.1	10.7	1.0
身体障害	34	2.9	17.6	20.6	11.8	32.4	14.7	-
知的障害	67	1.5	16.4	28.4	11.9	19.4	22.4	-
発達障害	56	1.8	19.6	26.8	16.1	19.6	16.1	-
精神障害	6	16.7	-	33.3	16.7	-	33.3	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-
難病(特定疾病)	9	11.1	-	22.2	33.3	-	33.3	-
手帳未取得	162	1.9	42.0	32.7	14.8	6.2	1.9	0.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

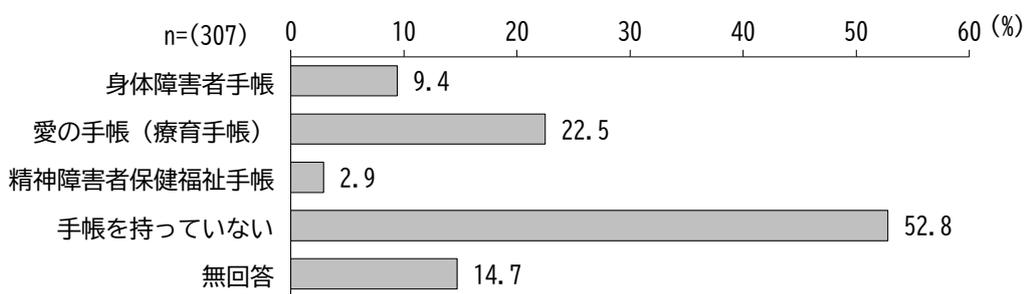


(2) 手帳の種類と等級

問3 お子さんは障害者手帳をお持ちですか。(あてはまるものすべてに○)
 お持ちの場合、手帳の等級はどれですか。(あてはまるものすべてに等級を記載)

手帳の種類は、『手帳を持っている』割合（全体から「手帳を持っていない」と「無回答」を除いたもの）は32.5%となっている。具体的な手帳の種類は、「愛の手帳（療育手帳）」が22.5%で最も高くなっている。

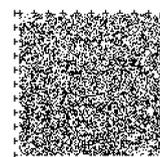
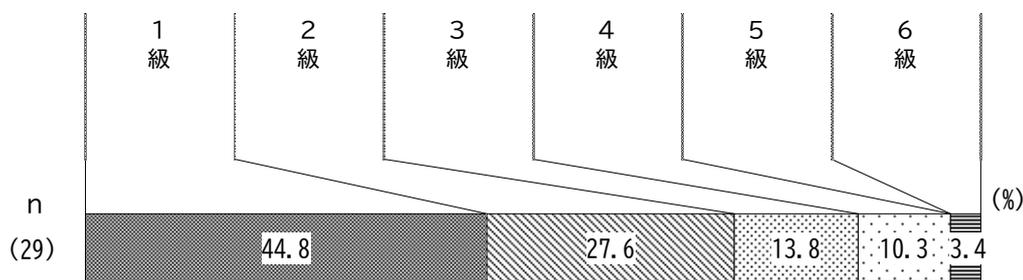
<図表Ⅱ-3-1 手帳の種類（全体）>



身体障害者手帳

身体障害者手帳の等級は、「1級」が44.8%で最も高く、「2級」が27.6%、「3級」が13.8%で続いている。

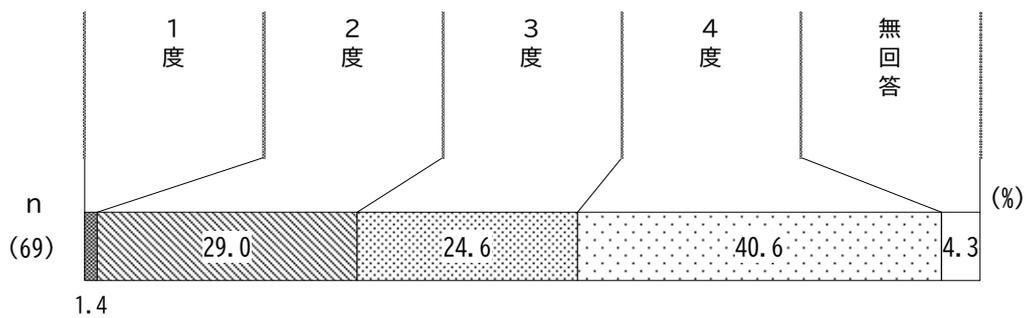
<図表Ⅱ-3-2 身体障害者手帳の等級（全体）>



愛の手帳（療育手帳）

愛の手帳の等級は、「4度」が40.6%で最も高く、「2度」が29.0%、「3度」が24.6%が続いている。

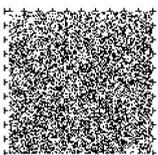
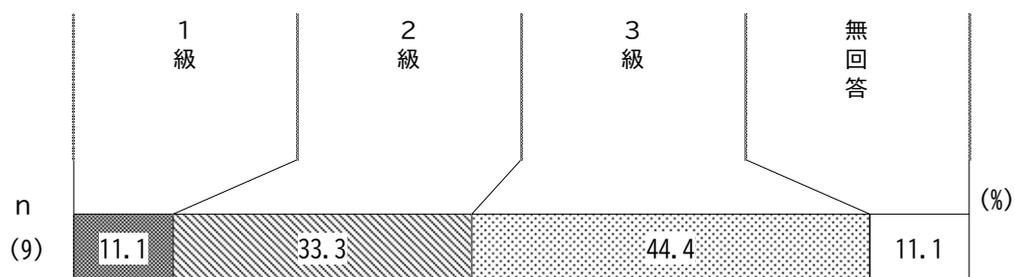
<図表Ⅱ-3-3 愛の手帳（療育手帳）の等級（全体）>



精神障害者保健福祉手帳

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「3級」が44.4%で最も高く、「2級」が33.3%、「1級」が11.1%が続いている。

<図表Ⅱ-3-4 精神障害者保健福祉手帳の等級（全体）>



(3) 手帳の取得年齢

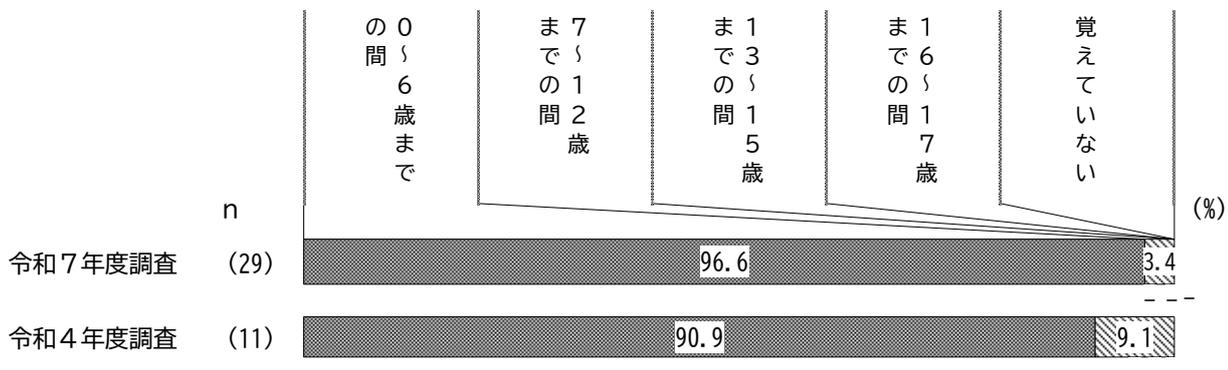
【問3-1と問3-2は、問3で「1」～「3」(手帳を持っている) に○をした方におたずねします。】

問3-1 お子さんがはじめて手帳を取得したのは何歳のときですか。(手帳ごとに○は1つ)

身体障害者手帳

身体障害者手帳を取得した年齢は、「0～6歳までの間」が96.6%を占めている。

<図表Ⅱ-4-1 身体障害者手帳の取得時期(全体)>



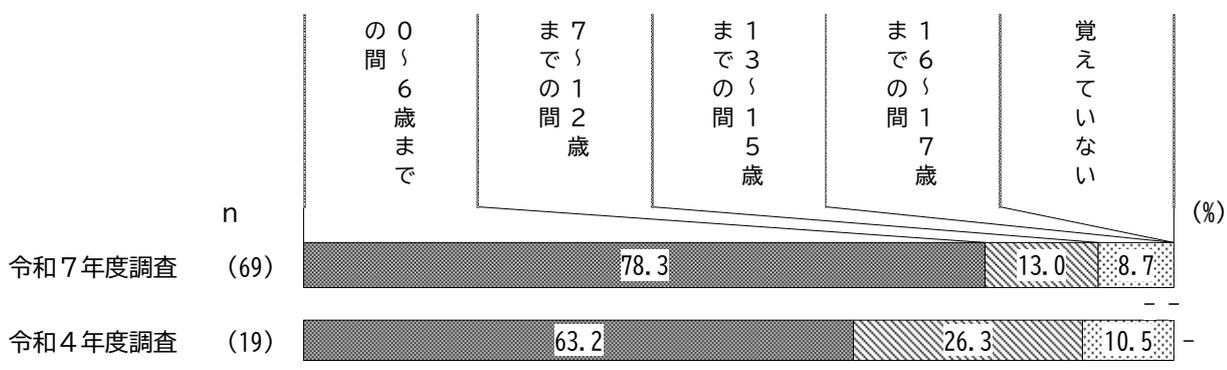
※令和7年度調査より、選択肢「覚えていない」が追加された。

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

愛の手帳(療育手帳)

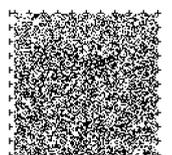
愛の手帳(療育手帳)を取得した年齢は、「0～6歳までの間」が78.3%で最も高く、「7～12歳までの間」が13.0%、「13～15歳までの間」が8.7%で続いている。

<図表Ⅱ-4-2 愛の手帳(療育手帳)の取得時期(全体)>



※令和7年度調査より、選択肢「覚えていない」が追加された。

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

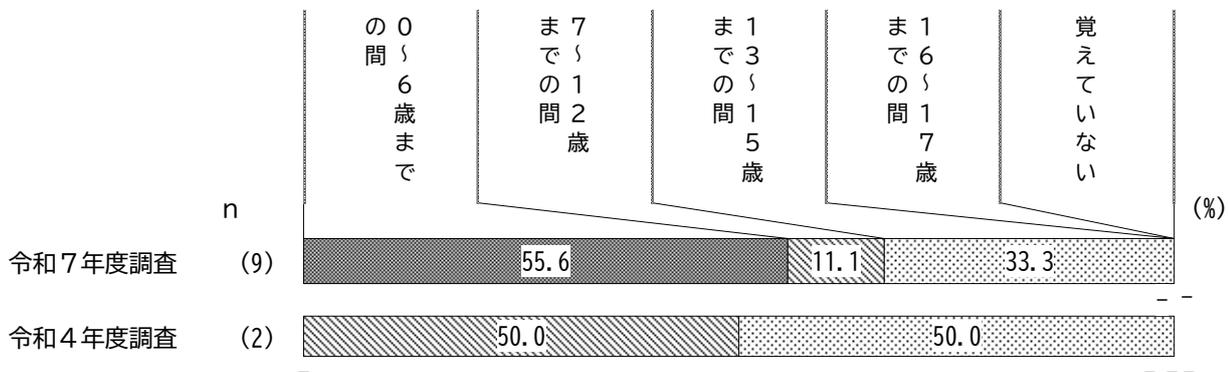


第2章 調査の結果

精神障害者保健福祉手帳

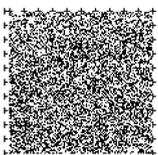
精神障害者保健福祉手帳を取得した年齢は、「0～6歳までの間」が55.6%で最も高く、「13～15歳までの間」が33.0%、「7～12歳までの間」が11.1%が続いている。

<図表Ⅱ-4-3 精神障害者保健福祉手帳の取得時期（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「覚えていない」が追加された。

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



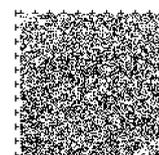
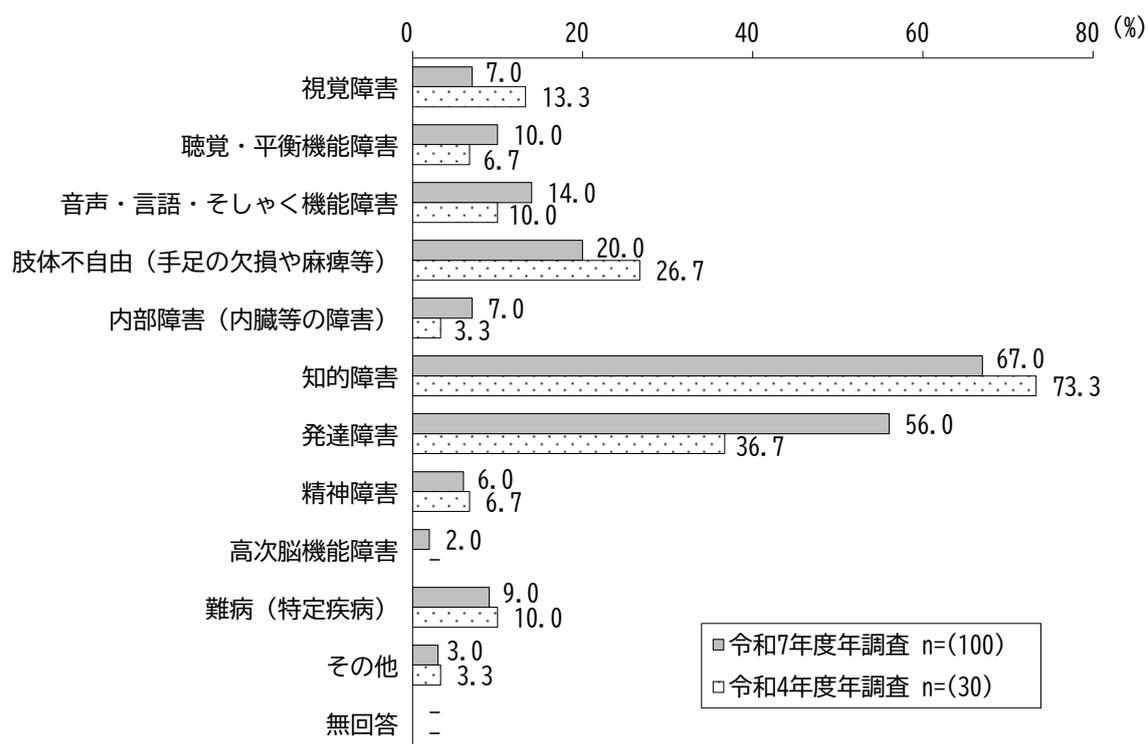
(4) 障害の種類

問3-2 お子さんの障害（疑いを含む）は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

障害の種類は、「知的障害」が67.0%で最も高く、「発達障害」が56.0%、「肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）」が20.0%、「音声・言語・そしゃく機能障害」が14.0%で続いている。

前回調査と比較すると、「発達障害」が19.3ポイント増加している。

<図表Ⅱ-5-1 障害の種類（全体）>



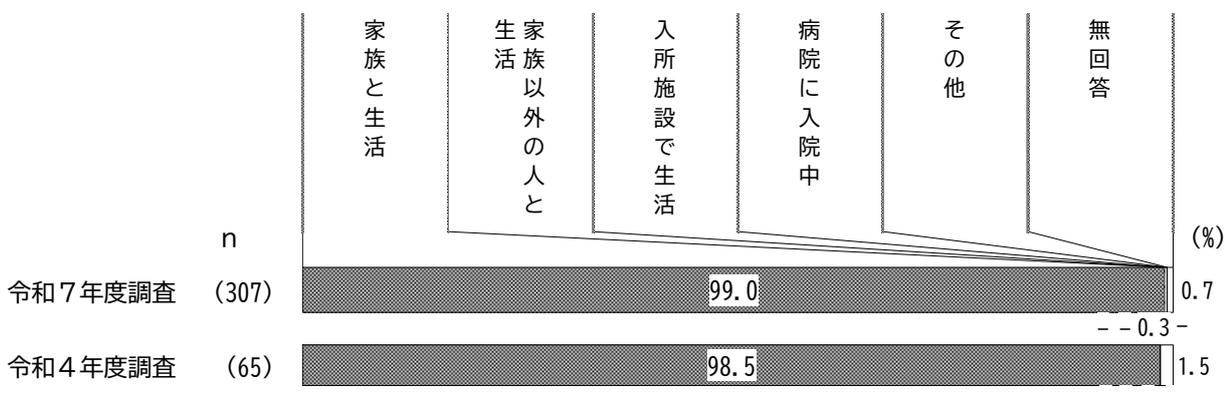
3. 暮らし方について

(1) 現在の暮らし方

問4 お子さんは現在、どのような暮らし方をしていますか。(1つに○)

現在の暮らし方は、「家族と生活」が99.0%を占めている。
 前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。
 障害別にみると、いずれの障害も「家族と生活」が最も高くなっている。

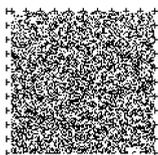
<図表Ⅱ-6-1 現在の暮らし方(全体)>



<図表Ⅱ-6-2 現在の暮らし方(障害別)>

	回答者数(n)	家族と生活	家族以外の人と生活	入所施設で生活	病院に入院中	その他	無回答
単位：%							
全体	307	99.0	-	-	0.3	-	0.7
身体障害	34	100	-	-	-	-	-
知的障害	67	100	-	-	-	-	-
発達障害	56	100	-	-	-	-	-
精神障害	6	100	-	-	-	-	-
高次脳機能障害	2	100	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	9	88.9	-	-	11.1	-	-
手帳未取得	162	100	-	-	-	-	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

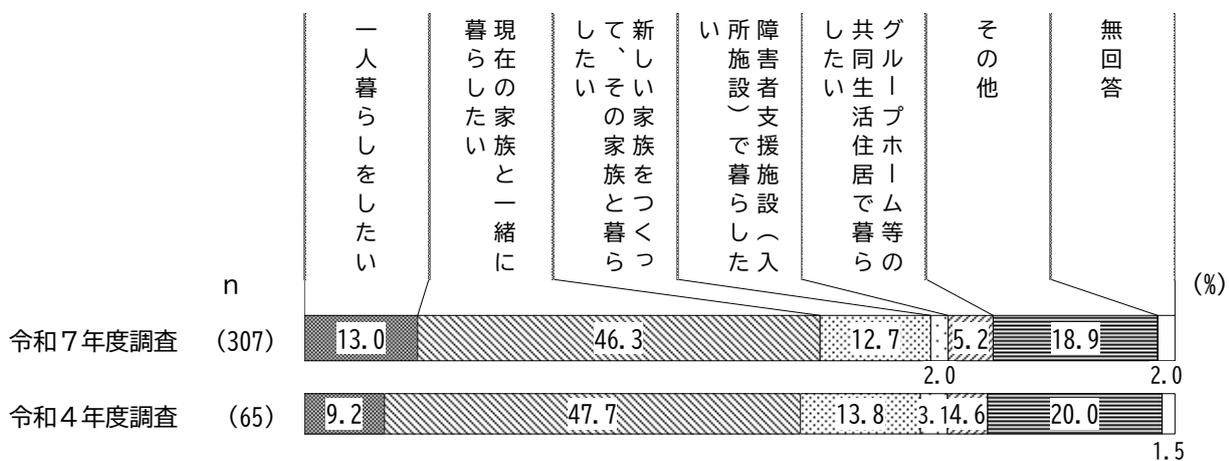


(2) 将来希望する暮らし方

問5 お子さんは将来、どのような暮らし方を望んでいますか。(1つに○)

将来望む暮らし方は、「現在の家族と一緒に暮らしたい」が46.3%と最も高く、「一人暮らしをしたい」が13.0%、「新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい」が12.7%が続いている。前回調査と比較すると、「一人暮らしをしたい」が3.8ポイント増加している。障害別にみると、いずれの障害も「現在の家族と一緒に暮らしたい」が最も高くなっている。「グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」では知的障害が他の障害よりも高くなっている。

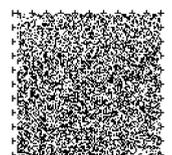
<図表Ⅱ-7-1 将来希望する暮らし方（全体）>



<図表Ⅱ-7-2 将来希望する暮らし方（障害別）>

	回答者数 (n)	一人暮らしをしたい (%)	現在の家族と一緒に暮らしたい (%)	新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい (%)	障害者支援施設（入所施設）で暮らしたい (%)	グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	307	13.0	46.3	12.7	2.0	5.2	18.9	2.0
身体障害	34	5.9	55.9	5.9	2.9	8.8	20.6	-
知的障害	67	7.5	41.8	4.5	6.0	13.4	25.4	1.5
発達障害	56	5.4	50.0	10.7	5.4	3.6	21.4	3.6
精神障害	6	16.7	33.3	16.7	-	-	33.3	-
高次脳機能障害	2	-	100.0	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	9	-	55.6	-	33.3	-	11.1	-
手帳未取得	162	16.0	47.5	16.0	-	-	19.8	0.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



4. 日常生活について

(1) 生活の支援者

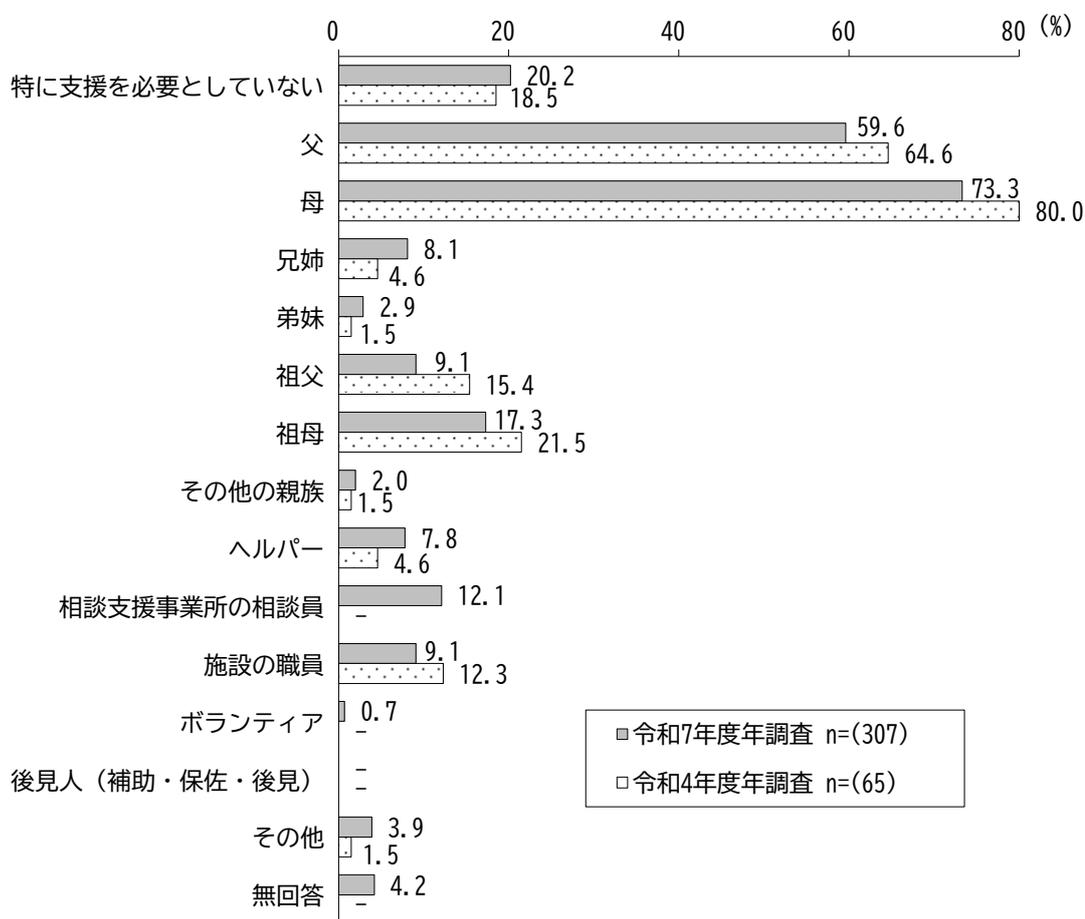
問6 日常生活を送るうえで、お子さんの生活の支援をしている方はいますか。
(あてはまるものすべてに○)

生活の支援者は、『支援者がいる』割合（全体から「特に支援を必要としていない」と「無回答」を除いたもの）は75.6%となっている。具体的な支援者は、「母」が73.3%で最も高くなっている。

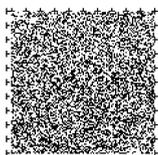
前回調査と比較すると、『支援者がいる』割合は5.9ポイント減少し、「母」は6.7ポイント減少している。

障害別にみると、いずれの障害も「母」が最も高く、次いで「父」となっている。

<図表Ⅱ－8－1 生活の支援者（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「相談支援事業所の相談員」、「後見人（補助・保佐・後見）」が追加された。

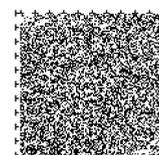


<図表Ⅱ-8-2 生活の支援者(障害別)>

	回答者数 (n)	特に支援を必要と していない	父	母	兄 姉	弟 妹	祖父	祖母	その他の 親族	ヘルパー	相談 支援 事業所の 相 談 員
単位：%											
全体	307	20.2	59.6	73.3	8.1	2.9	9.1	17.3	2.0	7.8	12.1
身体障害	34	2.9	76.5	97.1	14.7	2.9	14.7	29.4	2.9	23.5	20.6
知的障害	67	4.5	74.6	92.5	13.4	4.5	14.9	23.9	3.0	23.9	25.4
発達障害	56	7.1	66.1	85.7	12.5	1.8	12.5	21.4	3.6	17.9	19.6
精神障害	6	-	66.7	83.3	33.3	-	33.3	50.0	16.7	33.3	16.7
高次脳機能障害	2	-	100.0	100.0	-	-	-	50.0	-	100.0	50.0
難病(特定疾病)	9	-	66.7	100.0	11.1	-	-	22.2	-	22.2	33.3
手帳未取得	162	31.5	52.5	66.0	5.6	0.6	6.8	14.2	1.9	0.6	6.8

	回答者数 (n)	施設の職員	ボランティア	後見人(補助・保 佐・後見)	その他	無回答
単位：%						
全体	307	9.1	0.7	-	3.9	4.2
身体障害	34	23.5	2.9	-	8.8	-
知的障害	67	20.9	-	-	4.5	-
発達障害	56	17.9	1.8	-	7.1	1.8
精神障害	6	33.3	16.7	-	16.7	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	-	-
難病(特定疾病)	9	44.4	-	-	11.1	-
手帳未取得	162	4.3	0.6	-	2.5	1.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 生活の支援者の年齢

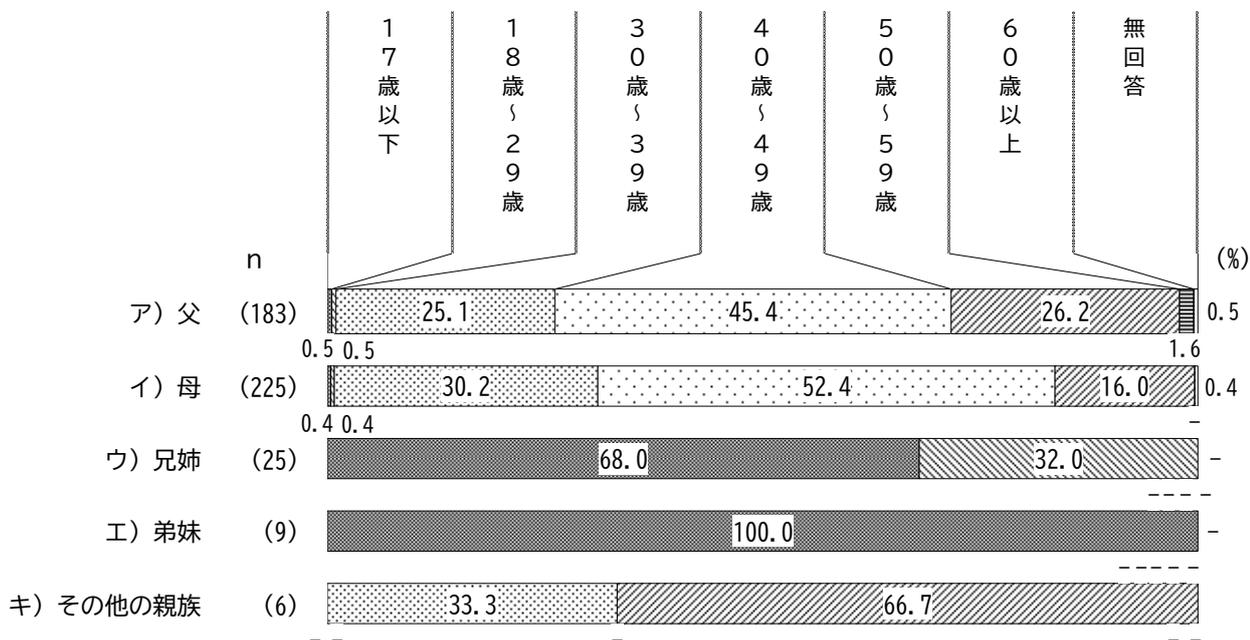
【問6-1と問6-2は、問6で「2」～「14」(支援者がいる)に○をした方におたずねします。】

問6-1 お子さんの生活の支援をしている方の年齢はいくつですか。

(問6で○をした支援者についてあてはまるもの1つに○)

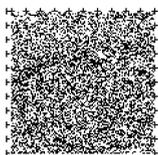
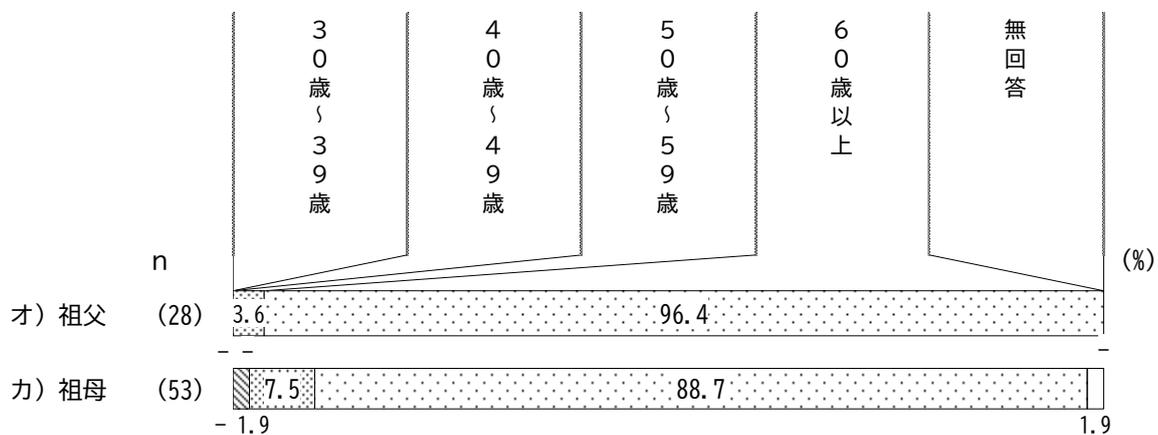
生活の支援者の年齢は、父と母でみると、「40歳～49歳」が約半数を占めている。

<図表Ⅱ-9-1 生活の支援者の年齢(全体)>



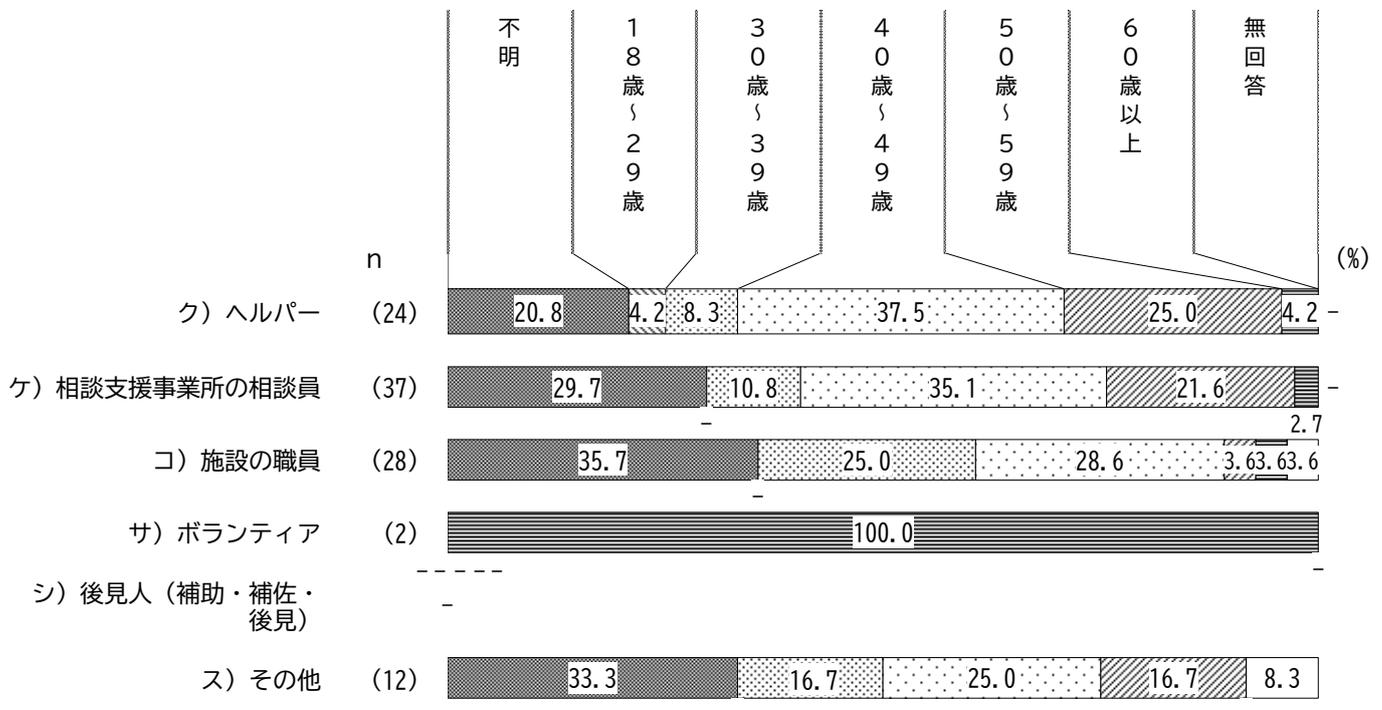
祖父、祖母でみると、「60歳以上」では祖父が96.4%、祖母が88.7%で最も高くなっている。

<図表Ⅱ-9-2 生活の支援者の年齢(全体)>



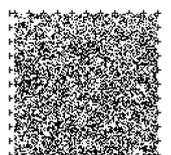
相談支援事業所の相談員でみると、「40歳～49歳」が35.1%で最も高くなっている。

<図表Ⅱ-9-3 生活の支援者の年齢（全体）>



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

※令和7年度調査より、選択肢「相談支援事業所の相談員」、「後見人（補助・保佐・後見）」が追加された。



(3) 支援の内容

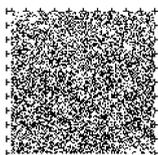
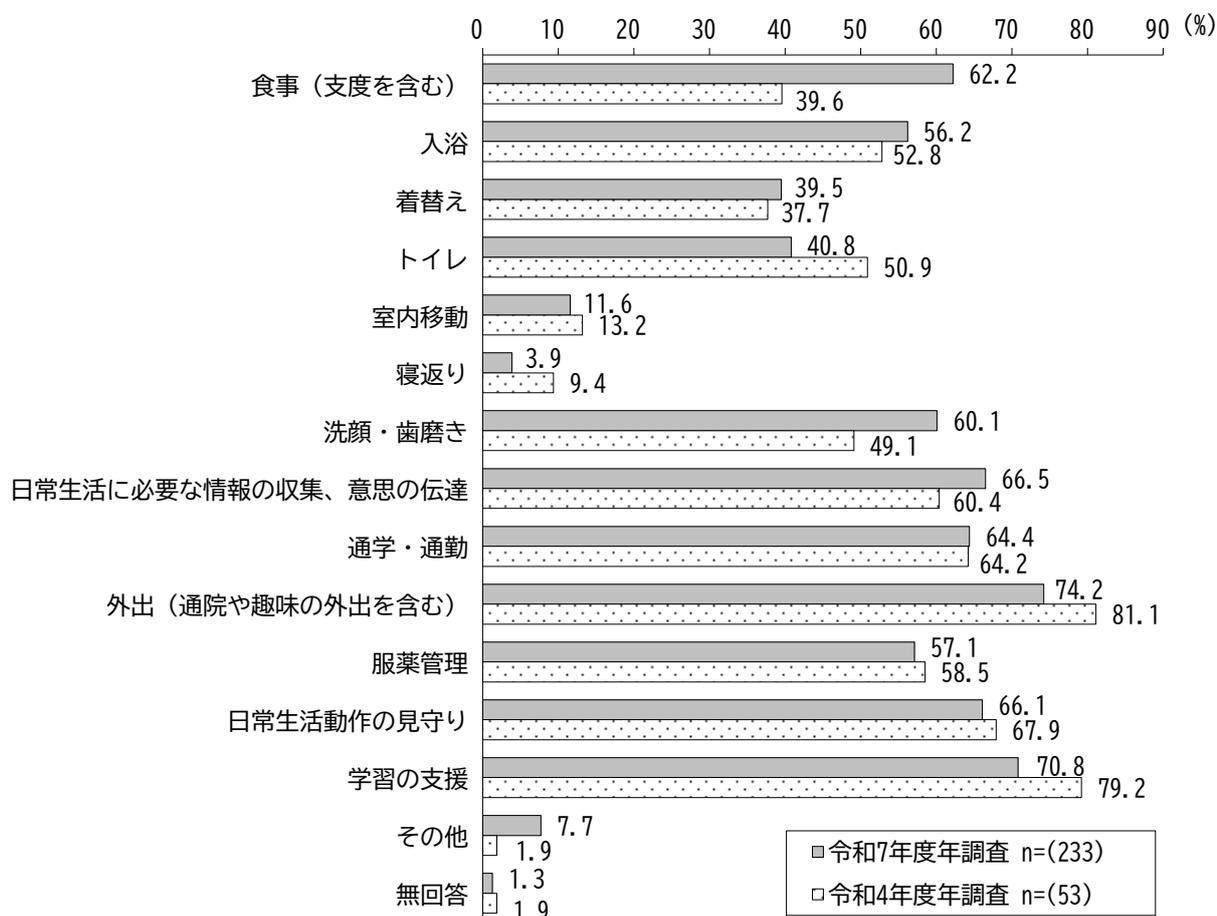
問6-2 お子さんに必要な支援の内容はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

支援の内容は、「外出（通院や趣味の外出を含む）」が74.2%で最も高く、「学習の支援」が70.8%、「日常生活に必要な情報の収集、意思の伝達」が66.5%で続いている。

前回調査と比較すると、「食事（支度を含む）」は22.6ポイント増加している。

障害別にみると、発達障害では「学習の支援」が86.3%、身体障害では「外出（通院や趣味の外出を含む）」が84.8%と高くなっている。

<図表Ⅱ-10-1 支援の内容（全体）>

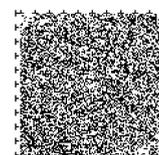


<図表Ⅱ-10-2 支援の内容（障害別）>

	回答者数（n）	食事（支度を含む）	入浴	着替え	トイレ	室内移動	寝返り	洗顔・歯磨き	日常生活に必要な情報の収集、意思の伝達	通学・通勤	外出（通院や趣味の外出を含む）
単位：%											
全体	233	62.2	56.2	39.5	40.8	11.6	3.9	60.1	66.5	64.4	74.2
身体障害	33	81.8	78.8	66.7	72.7	45.5	21.2	81.8	69.7	81.8	84.8
知的障害	64	75.0	73.4	51.6	62.5	18.8	4.7	76.6	75.0	82.8	84.4
発達障害	51	64.7	66.7	52.9	52.9	21.6	7.8	68.6	78.4	72.5	72.5
精神障害	6	66.7	50.0	50.0	33.3	16.7	16.7	66.7	100.0	83.3	100.0
高次脳機能障害	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
難病（特定疾病）	9	100.0	100.0	88.9	88.9	66.7	22.2	100.0	88.9	100.0	100.0
手帳未取得	109	57.8	47.7	30.3	29.4	2.8	0.9	54.1	65.1	56.0	70.6

	回答者数（n）	服薬管理	日常生活動作の見守り	学習の支援	その他	無回答
単位：%						
全体	233	57.1	66.1	70.8	7.7	1.3
身体障害	33	78.8	75.8	72.7	15.2	-
知的障害	64	68.8	79.7	78.1	9.4	1.6
発達障害	51	64.7	78.4	86.3	9.8	2.0
精神障害	6	83.3	100.0	100.0	33.3	-
高次脳機能障害	2	100.0	100.0	100.0	-	-
難病（特定疾病）	9	100.0	88.9	66.7	44.4	-
手帳未取得	109	52.3	65.1	72.5	6.4	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(4) 外出頻度

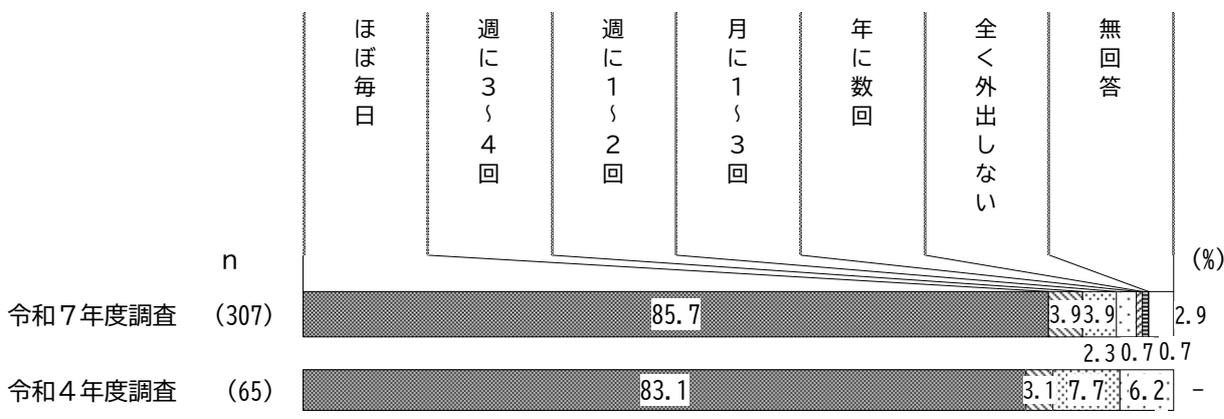
問7 通院を含め、お子さんの外出の頻度は、どのくらいですか。(1つに○)

外出頻度は、「ほぼ毎日」が85.7%で最も高く、次いで「週3～4回」と「週1～2回」が共に3.9%となっている。

前回調査と比較すると、「週1～2回」は3.8ポイント減少している。

障害別にみると、いずれの障害も「ほぼ毎日」が最も高く、身体障害では「週に3～4回」が他の障害よりも高くなっている。

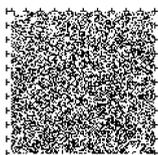
<図表Ⅱ-11-1 外出頻度(全体)>



<図表Ⅱ-11-2 外出頻度(障害別)>

	回答者数(n)	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～3回	年に数回	全く外出しない	無回答
全体	307	85.7	3.9	3.9	2.3	0.7	0.7	2.9
身体障害	34	85.3	11.8	2.9	-	-	-	-
知的障害	67	88.1	6.0	3.0	-	1.5	-	1.5
発達障害	56	82.1	3.6	3.6	5.4	1.8	-	3.6
精神障害	6	100.0	-	-	-	-	-	-
高次脳機能障害	2	100.0	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	9	66.7	22.2	-	-	-	11.1	-
手帳未取得	162	90.7	3.1	3.7	0.6	0.6	0.6	0.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(5) 外出における困りごと

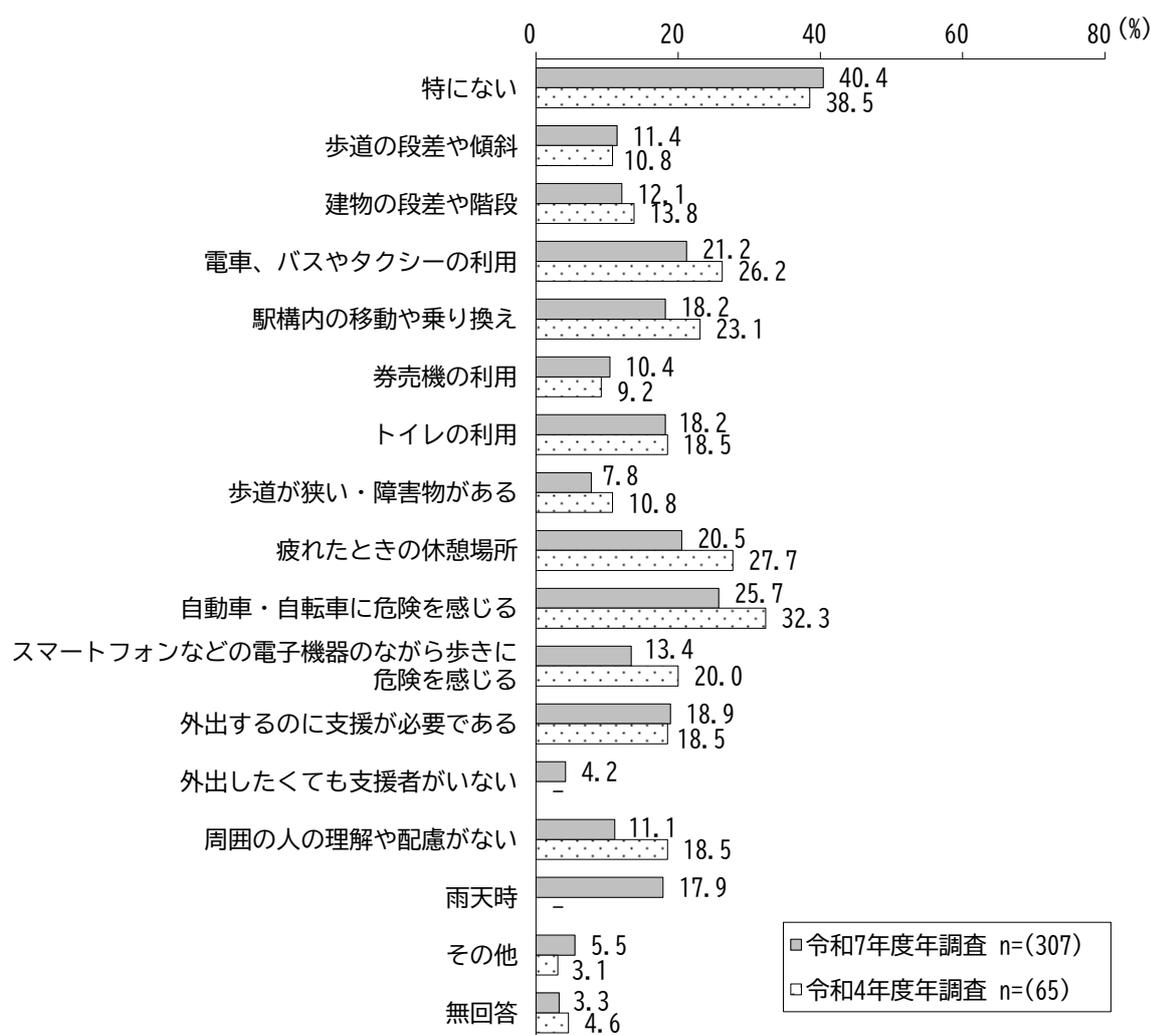
問8 お子さんとの外出について困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

外出における困りごとは、『困りごとがある』割合（全体から「特にない」と「無回答」を除いたもの）は56.3%となっている。具体的な困りごとは「自動車・自転車に危険を感じる」が25.7%で最も高く、「電車、バスやタクシーの利用」が21.2%、「疲れたときの休憩場所」が20.5%で続いている。

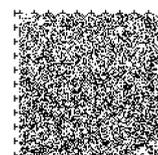
前回調査と比較すると、「歩道や段差の傾斜」、「券売機の利用」、「外出するのに支援が必要である」、「外出したくても支援者がいない」が増加している。

障害別にみると、身体障害、発達障害では「駅構内の移動や乗り換え」、知的障害では「電車、バスやタクシーの利用」、手帳未取得では「自動車・自転車に危険を感じる」が最も高くなっている。

<図表Ⅱ-12-1 外出における困りごと（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「雨天時」が追加された。



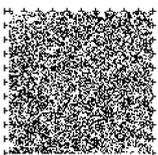
第2章 調査の結果

<図表Ⅱ-12-2 外出における困りごと（障害別）>

	回答者数（n）	特 に な い	歩 道 の 段 差 や 傾 斜	建 物 の 段 差 や 階 段	電 車 、 バ ス や タ ク シ ー の 利 用	駅 構 内 の 移 動 や 乗 り 換 え	券 売 機 の 利 用	ト イ レ の 利 用	歩 道 が 狭 い ・ 障 害 物 が あ る	疲 れ た と き の 休 憩 場 所	自 動 車 ・ 自 転 車 に 危 険 を 感 じ る
全体	307	40.4	11.4	12.1	21.2	18.2	10.4	18.2	7.8	20.5	25.7
身体障害	34	8.8	55.9	58.8	55.9	61.8	14.7	58.8	26.5	44.1	38.2
知的障害	67	17.9	23.9	25.4	46.3	43.3	22.4	35.8	13.4	28.4	32.8
発達障害	56	23.2	25.0	25.0	39.3	41.1	21.4	33.9	17.9	26.8	35.7
精神障害	6	-	16.7	16.7	50.0	50.0	50.0	16.7	16.7	16.7	66.7
高次脳機能障害	2	-	100.0	100.0	100.0	100.0	-	50.0	100.0	50.0	-
難病（特定疾病）	9	-	77.8	77.8	77.8	66.7	22.2	77.8	33.3	44.4	22.2
手帳未取得	162	54.3	3.1	3.7	10.5	6.2	6.2	10.5	4.3	18.5	22.8

	回答者数（n）	ス マ ー ト フ ォ ン な ど の 電 子 機 器 の な が ら 歩 き に 危 険 を 感 じ る	外 出 す る の に 支 援 が 必 要 な る	外 出 し た く て も 支 援 者 が い な い	周 囲 の 人 の 理 解 や 配 慮 が な い	雨 天 時	そ の 他	無 回 答
全体	307	13.4	18.9	4.2	11.1	17.9	5.5	3.3
身体障害	34	32.4	26.5	14.7	23.5	52.9	2.9	2.9
知的障害	67	25.4	38.8	10.4	28.4	32.8	10.4	1.5
発達障害	56	28.6	37.5	12.5	30.4	28.6	8.9	1.8
精神障害	6	50.0	16.7	-	50.0	33.3	-	-
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	50.0	-	100.0	-	-
難病（特定疾病）	9	22.2	66.7	11.1	11.1	66.7	22.2	-
手帳未取得	162	11.1	9.9	1.9	5.6	10.5	3.1	1.9

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) まちのバリアフリー対応の満足度

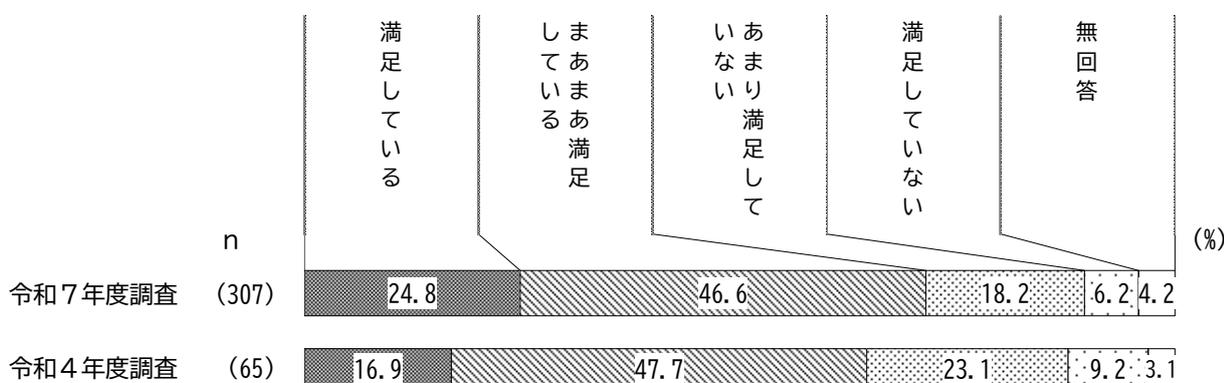
問9 まちのバリアフリー対応について、満足していますか。(1つに○)

まちのバリアフリー対応の満足度については、「満足している」の24.8%と「まあまあ満足している」の46.6%をあわせた『満足している』が71.4%を占めている。

前回調査と比較すると、「満足している」は7.9ポイント増加している。

障害別にみると、『満足している』は、手帳未取得が84.5%で最も高く、発達障害が62.5%、知的障害が58.2%で続いている。

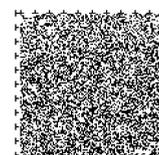
<図表Ⅱ-13-1 まちのバリアフリー対応の満足度(全体)>



<図表Ⅱ-13-2 まちのバリアフリー対応の満足度(障害別)>

	回答者数 (n)	満足している (%)	まあまあ満足している (%)	あまり満足していない (%)	満足していない (%)	無回答 (%)
全体	307	24.8	46.6	18.2	6.2	4.2
身体障害	34	8.8	26.5	29.4	29.4	5.9
知的障害	67	17.9	40.3	26.9	10.4	4.5
発達障害	56	23.2	39.3	21.4	12.5	3.6
精神障害	6	16.7	33.3	16.7	33.3	-
高次脳機能障害	2	-	-	-	50.0	50.0
難病(特定疾病)	9	-	44.4	11.1	44.4	-
手帳未取得	162	30.2	54.3	12.3	1.9	1.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



5. 生活を支援している方の仕事について

(1) 支援者の現在の就業状況

問10 現在の就業状況を教えてください。(あてはまるものに○)

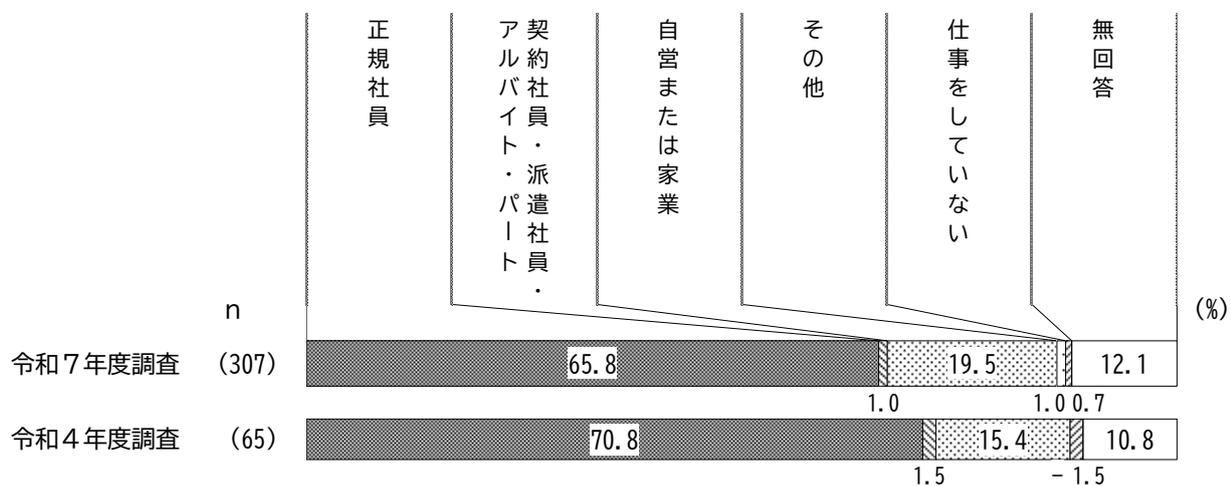
父の現在の就業状況

父の現在の就業状況は、「正規社員」が65.8%で最も高く、次いで「自営または家業」が19.5%となっている。

前回調査と比較すると、「正規社員」が5.0ポイント減少している。

障害別にみると、いずれの障害も「正規社員」が最も高くなっている。

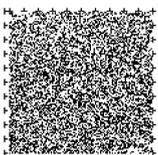
<図表Ⅱ-14-1 父の現在の就業状況（全体）>



<図表Ⅱ-14-2 父の現在の就業状況（障害別）>

	回答者数 (n)	正規社員	契約社員・パート社員・派遣社員	自営または家業	その他	仕事をしていない	無回答
単位：%							
全体	307	65.8	1.0	19.5	1.0	0.7	12.1
身体障害	34	73.5	-	14.7	-	-	11.8
知的障害	67	68.7	-	17.9	1.5	1.5	10.4
発達障害	56	57.1	-	21.4	-	1.8	19.6
精神障害	6	50.0	-	16.7	-	-	33.3
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	-	-	50.0
難病（特定疾病）	9	88.9	-	11.1	-	-	-
手帳未取得	162	66.0	1.9	21.6	1.2	0.6	8.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



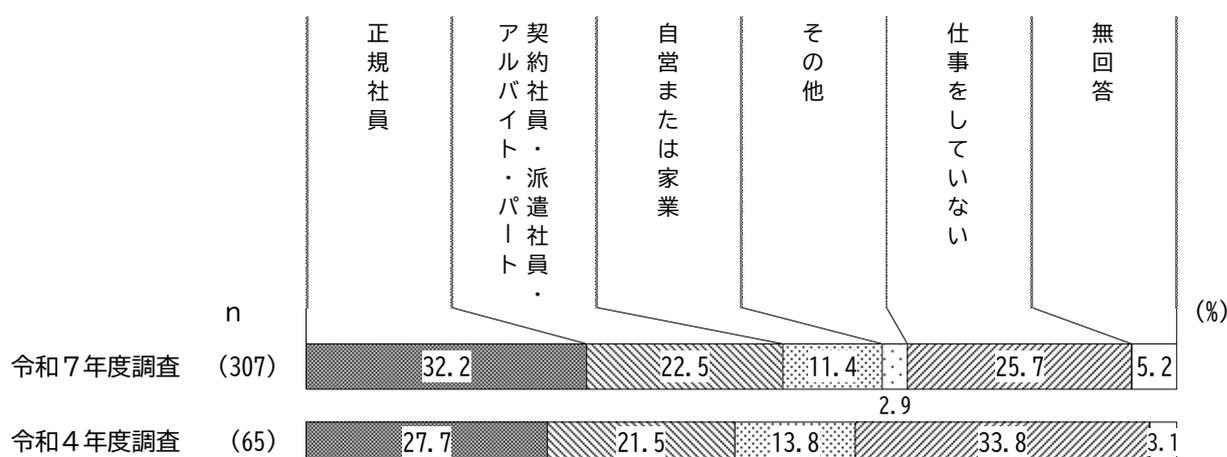
母の現在の就業状況

母の現在の就業状況は、「正規社員」が32.2%で最も高く、次いで「仕事をしていない」が25.7%となっている。

前回調査と比較すると、「仕事をしていない」が8.1ポイント減少している。

障害別にみると、発達障害では「仕事をしていない」が最も高いが、その他の障害では「正規社員」が最も高くなっている。

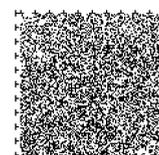
<図表Ⅱ-14-3 母の現在の就業状況（全体）>



<図表Ⅱ-14-4 母の現在の就業状況（障害別）>

	回答者数 (n)	正規社員	契約社員・パート・派遣社員	自営または家業	その他	仕事をしていない	無回答
全体	307	32.2	22.5	11.4	2.9	25.7	5.2
身体障害	34	32.4	20.6	5.9	2.9	29.4	8.8
知的障害	67	32.8	20.9	9.0	3.0	29.9	4.5
発達障害	56	19.6	28.6	12.5	3.6	30.4	5.4
精神障害	6	-	50.0	-	16.7	16.7	16.7
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	50.0	50.0
難病（特定疾病）	9	22.2	11.1	-	11.1	55.6	-
手帳未取得	162	35.2	18.5	12.3	3.1	27.8	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

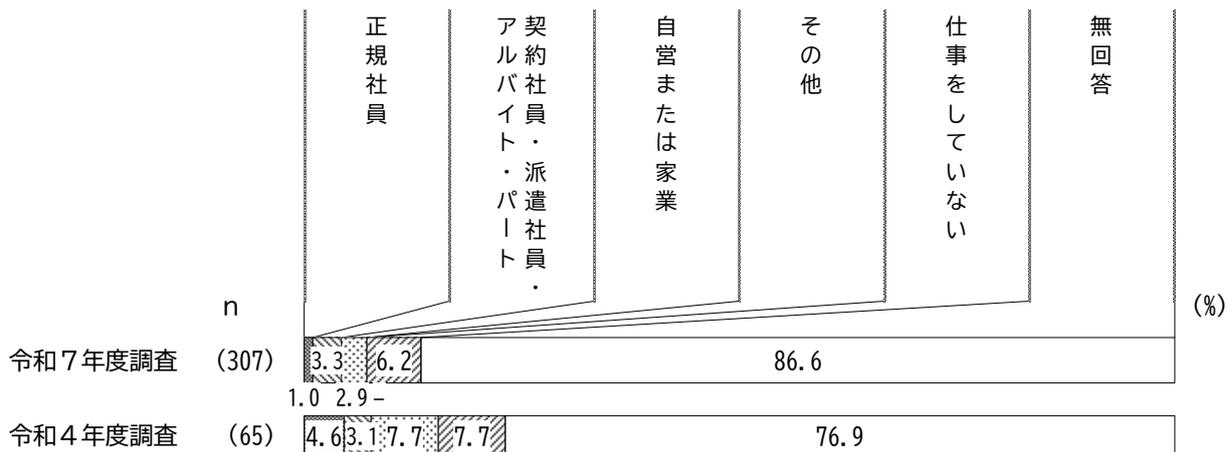


その他の養育者の現在の就業状況

その他の養育者の現在の就業状況は、「仕事をしていない」が6.2%で最も高くなっている。前回調査と比較すると、「自営または家業」は4.8ポイント減少している。

障害別にみると、「仕事をしていない」を除き、身体障害では「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が最も高く、知的障害と発達障害では「自営または家業」が高くなっている。

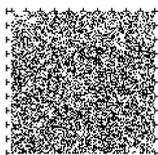
<図表Ⅱ-14-5 その他の養育者の現在の就業状況（全体）>



<図表Ⅱ-14-6 その他の養育者の現在の就業状況（障害別）>

	回答者数 (n)	正規社員	契約社員・派遣社員・アルバイト・パート	自営または家業	その他	仕事をしていない	無回答
単位：%							
全体	307	1.0	3.3	2.9	-	6.2	86.6
身体障害	34	2.9	5.9	-	-	8.8	82.4
知的障害	67	3.0	3.0	4.5	-	6.0	83.6
発達障害	56	1.8	1.8	3.6	-	7.1	85.7
精神障害	6	-	16.7	33.3	-	-	50.0
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	-	100.0
難病（特定疾病）	9	-	-	-	-	11.1	88.9
手帳未取得	162	0.6	3.1	3.1	-	6.2	87.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 支援者の週の就労時間

【問10で「1」～「4」（仕事をしている）に○をした方におたずねします。】

問10-1 働いているのは、週に何時間くらいですか。（あてはまるものに○）

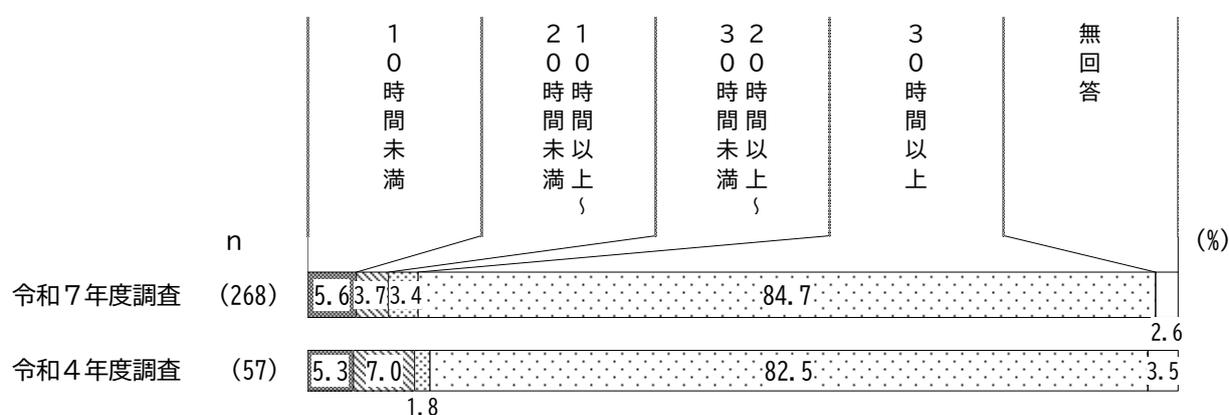
父の週の就労時間

父の週の就労時間は、「30時間以上」が84.7%で最も高く、次いで「10時間未満」が5.6%となっている。

前回調査と比較すると、「10時間以上～20時間未満」は3.3ポイント減少している。

障害別にみると、いずれの障害も「30時間以上」が80%を超えて最も高くなっている。

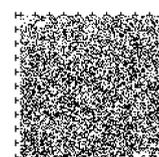
<図表Ⅱ-15-1 父の週の就労時間（全体）>



<図表Ⅱ-15-2 父の週の就労時間（障害別）>

	回答者数 (n)	10時間未満 (%)	20時間未満以上 (%)	30時間以上 (%)	無回答 (%)
全体	268	5.6	3.7	84.7	2.6
身体障害	30	6.7	-	86.7	-
知的障害	59	3.4	-	89.8	1.7
発達障害	44	2.3	4.5	86.4	2.3
精神障害	4	25.0	-	50.0	-
高次脳機能障害	1	100.0	-	-	-
難病（特定疾病）	9	11.1	-	88.9	-
手帳未取得	147	5.4	4.1	84.4	2.0

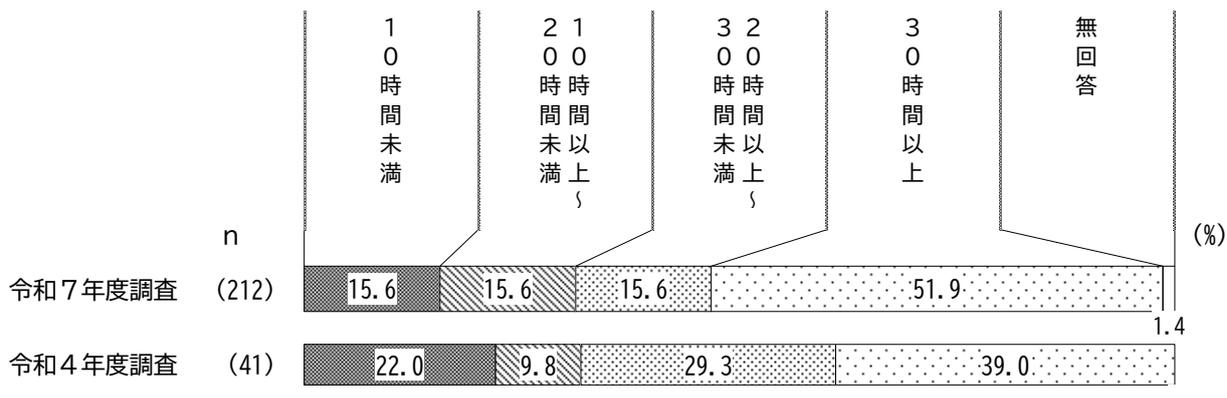
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



母の週の就労時間

母の週の就労時間は、「30時間以上」が51.9%で最も高くなっている。
 前回調査と比較すると、「20時間以上～30時間未満」は13.7ポイント減少している。
 障害別にみると、いずれの障害も「30時間以上」が50%を超えて最も高くなっている。

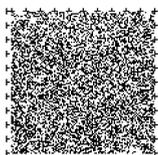
<図表Ⅱ-15-3 母の週の就労時間（全体）>



<図表Ⅱ-15-4 母の週の就労時間（障害別）>

	回答者数 (n)	10時間未満 (%)	20時間以上～30時間未満 (%)	30時間以上～40時間未満 (%)	40時間以上 (%)	無回答 (%)
単位：%						
全体	212	15.6	15.6	15.6	51.9	1.4
身体障害	21	9.5	4.8	28.6	57.1	-
知的障害	44	11.4	13.6	15.9	59.1	-
発達障害	36	13.9	16.7	16.7	52.8	-
精神障害	4	25.0	-	-	75.0	-
高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	4	25.0	-	25.0	50.0	-
手帳未取得	112	15.2	17.9	14.3	51.8	0.9

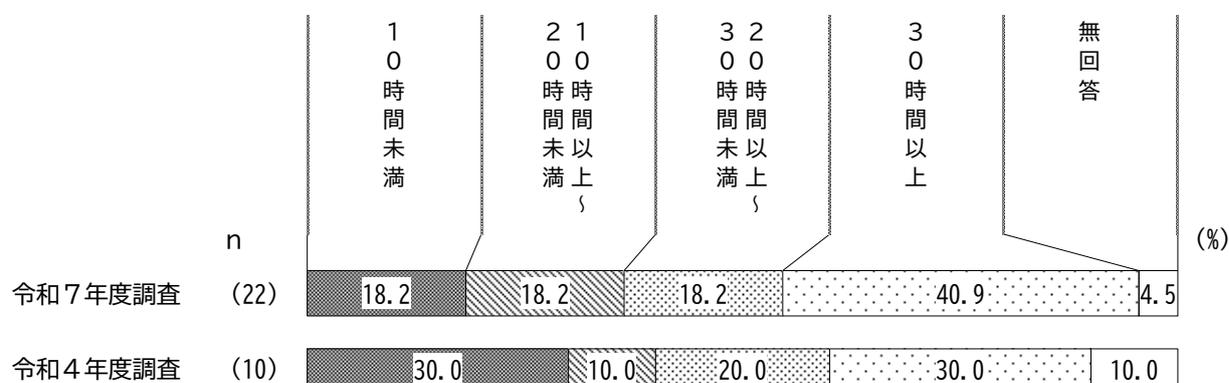
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



その他の養育者の週の就労時間

その他の養育者の週の就労時間は、「30時間以上」が40.9%で最も高くなっている。

<図表Ⅱ-15-5 その他の養育者の週の就労時間（全体）>

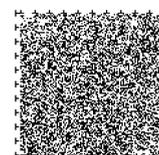


<図表Ⅱ-15-6 その他の養育者の週の就労時間（障害別）>

	回答者数 (n)	10時間未満	21時間未満以上	32時間未満以上	30時間以上	無回答
全体	22	18.2	18.2	18.2	40.9	4.5
身体障害	3	-	66.7	-	33.3	-
知的障害	7	14.3	14.3	14.3	57.1	-
発達障害	4	25.0	25.0	-	50.0	-
精神障害	3	33.3	33.3	-	33.3	-
高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	-	-	-	-	-	-
手帳未取得	11	27.3	18.2	18.2	36.4	-

単位：%

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



6. 療育・教育について

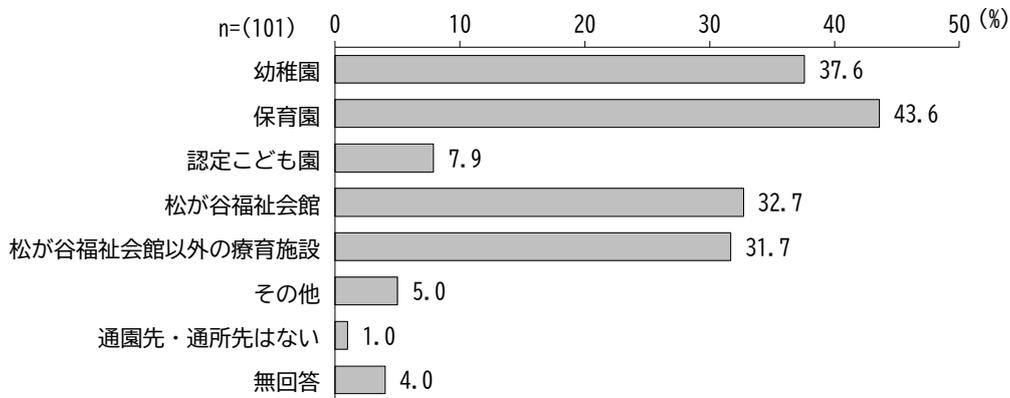
(1) 日中の活動の場

問11 お子さんは、平日の日中、どこで過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

就学前の日中の活動の場は、「保育園」が43.6%で最も高く、「幼稚園」が37.6%、「松が谷福祉会館」が32.7%で続いている。

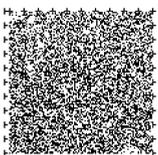
障害別でみると、手帳未取得では「幼稚園」が43.7%で最も高く、「保育園」が42.3%、「松が谷福祉会館以外の療育施設」が32.4%で続いている。

<図表Ⅱ-16-1 日中の活動の場（就学前-全体）>



<図表Ⅱ-16-2 日中の活動の場（就学前-障害別）>

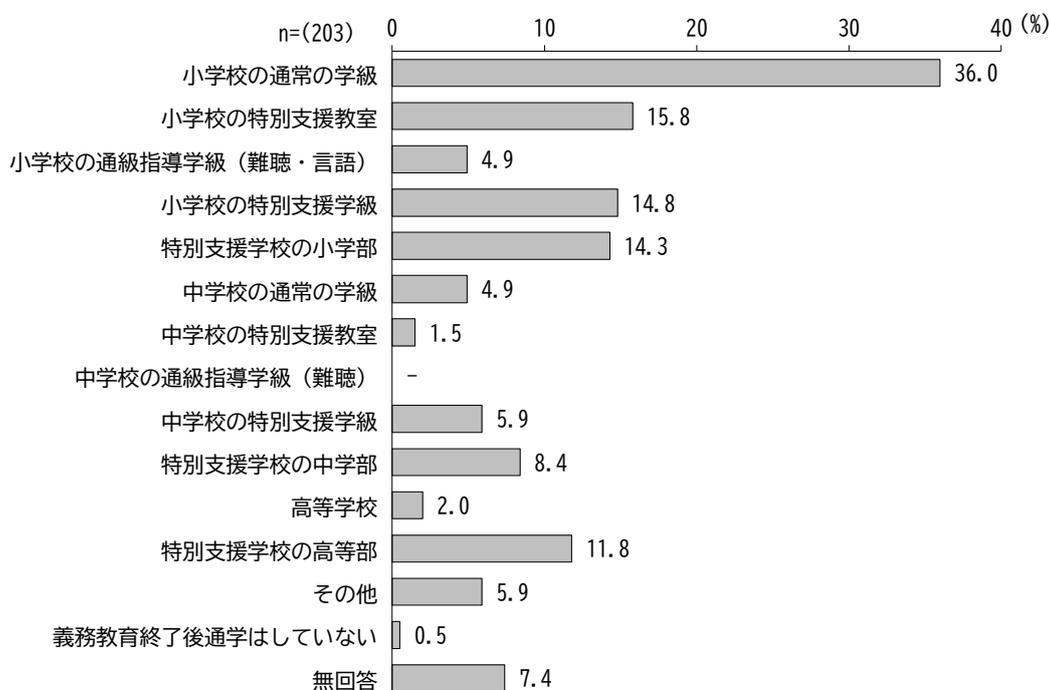
	回答者数 (n)	幼稚園	保育園	認定こども園	松が谷福祉会館	松が谷福祉会館以外の療育施設	その他	通園先・通所先はない	無回答
単位：%									
全体	101	37.6	43.6	7.9	32.7	31.7	5.0	1.0	4.0
身体障害	7	14.3	42.9	-	42.9	42.9	-	-	14.3
知的障害	14	42.9	21.4	14.3	57.1	57.1	-	-	7.1
発達障害	18	22.2	50.0	11.1	50.0	33.3	11.1	-	5.6
精神障害	1	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-
高次脳機能障害	1	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-
難病（特定疾病）	2	-	50.0	-	50.0	50.0	-	-	-
手帳未取得	71	43.7	42.3	7.0	31.0	32.4	4.2	1.4	1.4



就学期以降の日中の活動の場は、「小学校の通常の学級」が36.0%で最も高く、「小学校の特別支援教室」が15.8%、「小学校の特別支援学級」が14.8%が続いている。

障害別にみると、手帳未取得では「小学校の通常の学級」が61.1%で最も高くなっている。

<図表Ⅱ-16-3 日中の活動の場（就学期以降-全体）>

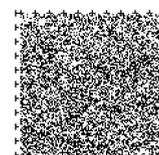


※令和7年度調査より、選択肢「小学校の通級指導学級（難聴・言語）」、「中学校の通級指導学級（難聴）」が追加された。

<図表Ⅱ-16-4 日中の活動の場（就学期以降-障害別）>

	回答者数 (n)	小学校の通常の学級	小学校の特別支援教室	小学校の通級指導学級 (難聴・言語)	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	中学校の通常の学級	中学校の特別支援教室	中学校の通級指導学級 (難聴)	中学校の特別支援学級	特別支援学校の中学部	高等学校	特別支援学校の高等部	その他	義務教育終了後通学はしていない	無回答
全体	203	36.0	15.8	4.9	14.8	14.3	4.9	1.5	-	5.9	8.4	2.0	11.8	5.9	0.5	7.4
身体障害	34	11.8	-	-	11.8	26.5	2.9	-	-	2.9	26.5	-	29.4	-	-	5.9
知的障害	70	4.3	5.7	1.4	21.4	37.1	1.4	2.9	-	11.4	18.6	4.3	25.7	2.9	-	2.9
発達障害	56	16.1	10.7	5.4	23.2	25.0	1.8	1.8	-	8.9	10.7	3.6	19.6	-	-	3.6
精神障害	5	-	-	-	60.0	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-
高次脳機能障害	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
難病（特定疾病）	8	12.5	-	-	12.5	50.0	-	-	-	-	25.0	-	12.5	12.5	-	-
手帳未取得	90	61.1	26.7	8.9	12.2	-	8.9	1.1	-	2.2	-	-	-	7.8	1.1	10.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 放課後の過ごし方

【問11のB（就学期以降）で「8」～「20」に○をした方におたずねします。】

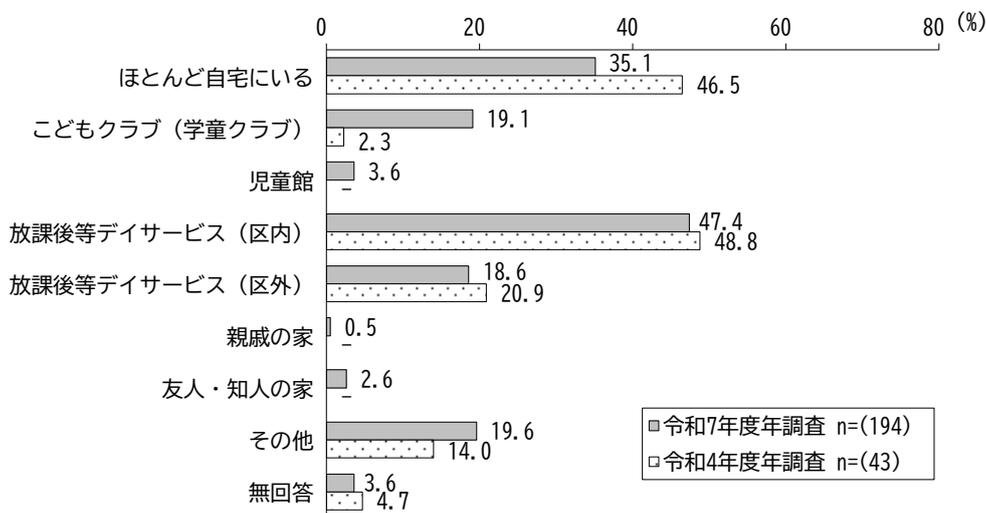
問11-1 お子さんは学校が終わった後、どこで過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

放課後の過ごし方は、「放課後等デイサービス（区内）」が47.4%で最も高く、次いで「ほとんど自宅にいる」が35.1%となっている。

前回調査と比較すると、「こどもクラブ（学童クラブ）」が16.8ポイント増加している。

障害別にみると、知的障害、発達障害、手帳未取得では「放課後等デイサービス（区内）」が最も高くなっている。

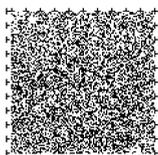
<図表Ⅱ-17-1 放課後の過ごし方（全体）>



<図表Ⅱ-17-2 放課後の過ごし方（障害別）>

	回答者数（n）	ほとんど自宅にいる	こどもクラブ（学童クラブ）	児童館	放課後等デイサービス（区内）	放課後等デイサービス（区外）	親戚の家	友人・知人の家	その他	無回答
全体	194	35.1	19.1	3.6	47.4	18.6	0.5	2.6	19.6	3.6
身体障害	25	48.0	8.0	4.0	32.0	28.0	-	4.0	4.0	-
知的障害	54	27.8	11.1	1.9	53.7	27.8	-	-	14.8	1.9
発達障害	43	30.2	16.3	4.7	60.5	14.0	-	2.3	14.0	-
精神障害	5	40.0	40.0	20.0	60.0	-	-	20.0	-	-
高次脳機能障害	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	8	25.0	-	-	37.5	37.5	-	-	12.5	-
手帳未取得	85	34.1	24.7	5.9	50.6	16.5	1.2	4.7	27.1	3.5

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(3) 休日や余暇時間の過ごし方

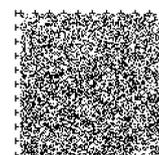
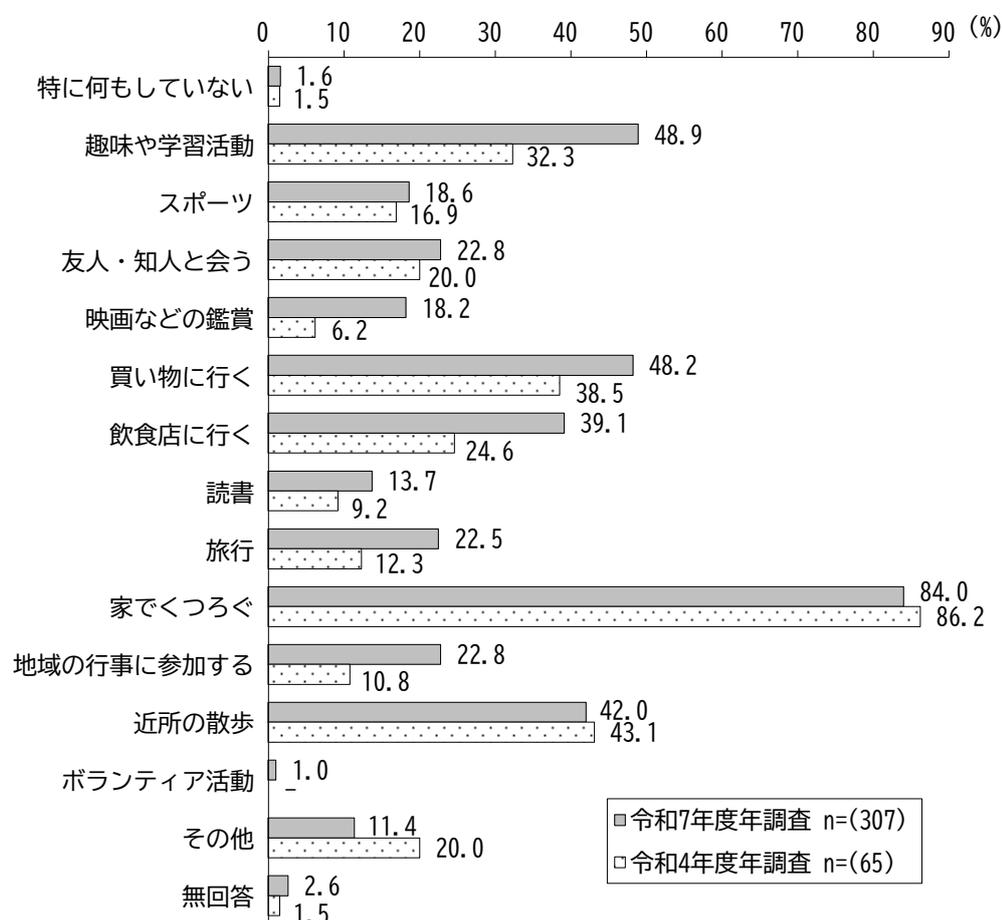
問12 お子さんは、休日や時間的余裕のあるとき、どのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

休日や余暇時間の過ごし方は、「家でくつろぐ」が84.0%で最も高く、「趣味や学習活動」が48.9%、「買い物に行く」が48.2%で続いている。

前回調査と比較すると、「家でくつろぐ」、「近所の散歩」以外の項目で増加しており、「趣味や学習活動」は16.6ポイント増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「家でくつろぐ」が最も高くなっている。

<図表Ⅱ-18-1 休日や余暇時間の過ごし方(全体)>



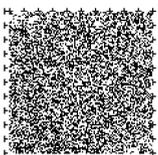
第2章 調査の結果

<図表Ⅱ-18-2 休日や余暇時間の過ごし方(障害別)>

	回答者数(n)	特に何もしていない	趣味や学習活動	スポーツ	友人・知人と会う	映画などの鑑賞	買い物に行く	飲食店に行く	読書	旅行	家でくつろぐ
単位：%											
全体	307	1.6	48.9	18.6	22.8	18.2	48.2	39.1	13.7	22.5	84.0
身体障害	34	2.9	32.4	5.9	14.7	26.5	47.1	44.1	17.6	23.5	82.4
知的障害	67	3.0	26.9	9.0	13.4	14.9	37.3	28.4	4.5	9.0	80.6
発達障害	56	3.6	30.4	12.5	12.5	8.9	35.7	23.2	8.9	10.7	78.6
精神障害	6	16.7	16.7	33.3	16.7	33.3	50.0	33.3	16.7	33.3	83.3
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
難病(特定疾病)	9	11.1	11.1	-	11.1	22.2	22.2	22.2	11.1	-	77.8
手帳未取得	162	0.6	59.9	24.1	27.8	20.4	51.9	45.1	17.9	29.6	88.3

	回答者数(n)	地域の行事に参加する	近所の散歩	ボランティア活動	その他	無回答
単位：%						
全体	307	22.8	42.0	1.0	11.4	2.6
身体障害	34	20.6	55.9	2.9	5.9	2.9
知的障害	67	16.4	44.8	-	9.0	1.5
発達障害	56	12.5	57.1	-	17.9	1.8
精神障害	6	50.0	33.3	-	16.7	-
高次脳機能障害	2	-	50.0	-	-	-
難病(特定疾病)	9	22.2	44.4	-	11.1	-
手帳未取得	162	27.2	42.0	0.6	8.6	1.9

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(4) 成長や発達について気がかり・心配になったきっかけ

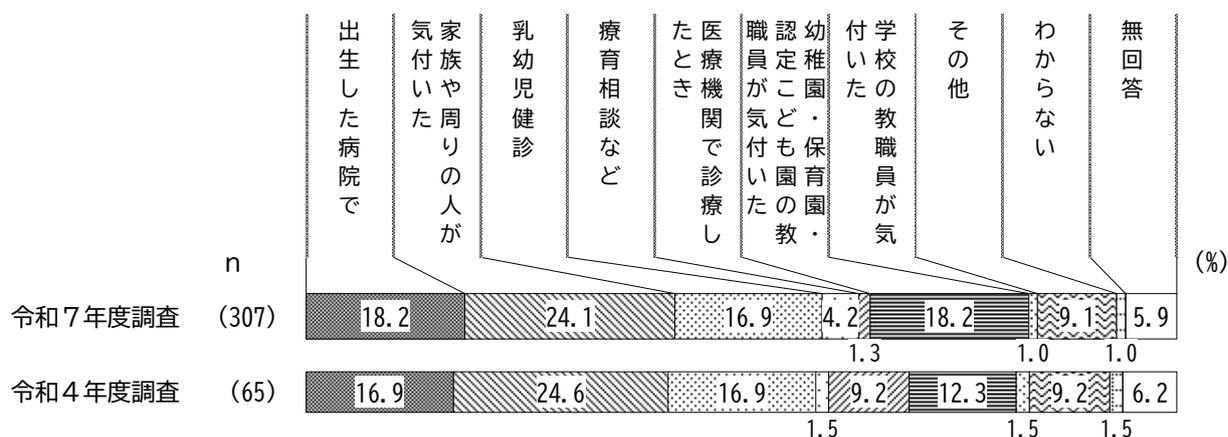
問13 お子さんの成長や発達について、最初に気がかりなこと・心配なことがあったのはどのようなときでしたか。(1つに○)

成長や発達について気がかり・心配になったきっかけは、「家族や周りの人が気付いた」が24.1%で最も高く、次いで「出生した病院で」と「幼稚園・保育園・認定こども園の教職員が気付いた」が共に18.2%となっている。

前回調査と比較すると、「医療機関で診療したとき」は7.9ポイント減少している。

障害別にみると、身体障害では「出生した病院で」が50.0%で最も高く、手帳未取得では「家族や周りの人が気付いた」が29.0%となっている。

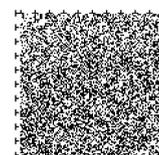
<図表Ⅱ-19-1 成長や発達について気がかり・心配になったきっかけ(全体)>



<図表Ⅱ-19-2 成長や発達について気がかり・心配になったきっかけ(障害別)>

	回答者数(n)	出生した病院で	家族や周りの人が気付いた	乳幼児健診	療育相談など	医療機関で診療したとき	幼稚園・保育園・認定こども園の教職員が気付いた	学校の教職員が気付いた	その他	わからない	無回答
全体	307	18.2	24.1	16.9	4.2	1.3	18.2	1.0	9.1	1.0	5.9
身体障害	34	50.0	8.8	11.8	2.9	2.9	2.9	-	14.7	-	5.9
知的障害	67	25.4	19.4	20.9	9.0	1.5	7.5	1.5	11.9	1.5	1.5
発達障害	56	17.9	19.6	21.4	8.9	1.8	8.9	1.8	16.1	1.8	1.8
精神障害	6	-	33.3	16.7	-	-	-	16.7	16.7	16.7	-
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	9	66.7	11.1	-	-	11.1	-	-	11.1	-	-
手帳未取得	162	6.2	29.0	17.9	3.7	1.2	27.2	1.2	8.6	0.6	4.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(5) 成長や発達について気がかり・心配になった時期

【問13で「1」～「8」(気がかりなこと等があった)に○をした方におたずねします。】

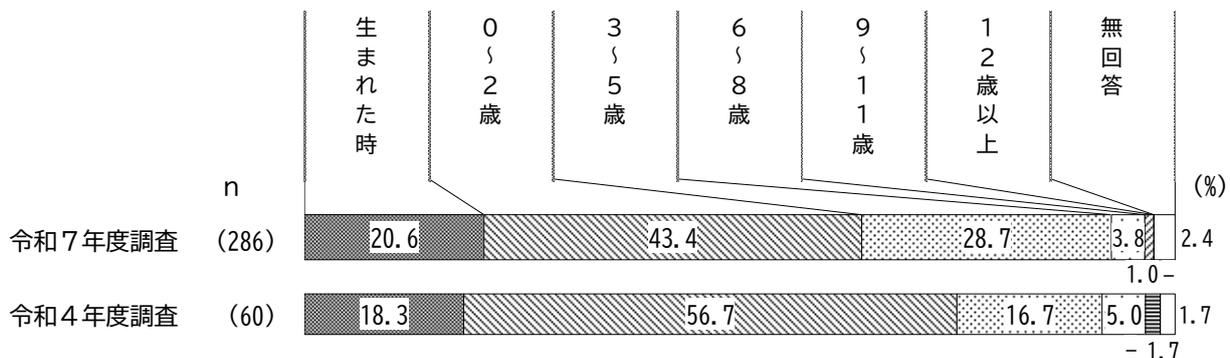
問13-1 その時期はいつですか。生まれた時でない場合は「2」を選択し、その時の年齢をお答えください。(1つに○)

成長や発達について気がかり・心配になった時期は、「0～2歳」が43.4%で最も高く、「3～5歳」が28.7%、「生まれた時」が20.6%が続いている。

前回調査と比較すると、「0～2歳」が13.3ポイント減少している。

障害別にみると、身体障害では「生まれた時」が、発達障害、知的障害、手帳未取得では「0～2歳」が最も高くなっている。

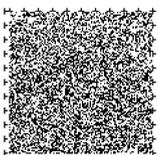
<図表Ⅱ-20-1 成長や発達について気がかり・心配になった時期(全体)>



<図表Ⅱ-20-2 成長や発達について気がかり・心配になった時期(障害別)>

	回答者数(n)	生まれた時	0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12歳以上	無回答
全体	286	20.6	43.4	28.7	3.8	1.0	-	2.4
身体障害	32	56.3	34.4	3.1	3.1	-	-	3.1
知的障害	65	29.2	47.7	15.4	4.6	-	-	3.1
発達障害	54	24.1	48.1	20.4	1.9	1.9	-	3.7
精神障害	5	-	40.0	40.0	20.0	-	-	-
高次脳機能障害	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0
難病(特定疾病)	9	77.8	22.2	-	-	-	-	-
手帳未取得	154	7.8	48.1	40.3	3.2	0.6	-	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) 成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先

【問13で「1」～「8」（気がかりなこと等があった）に○をした方におたずねします。】

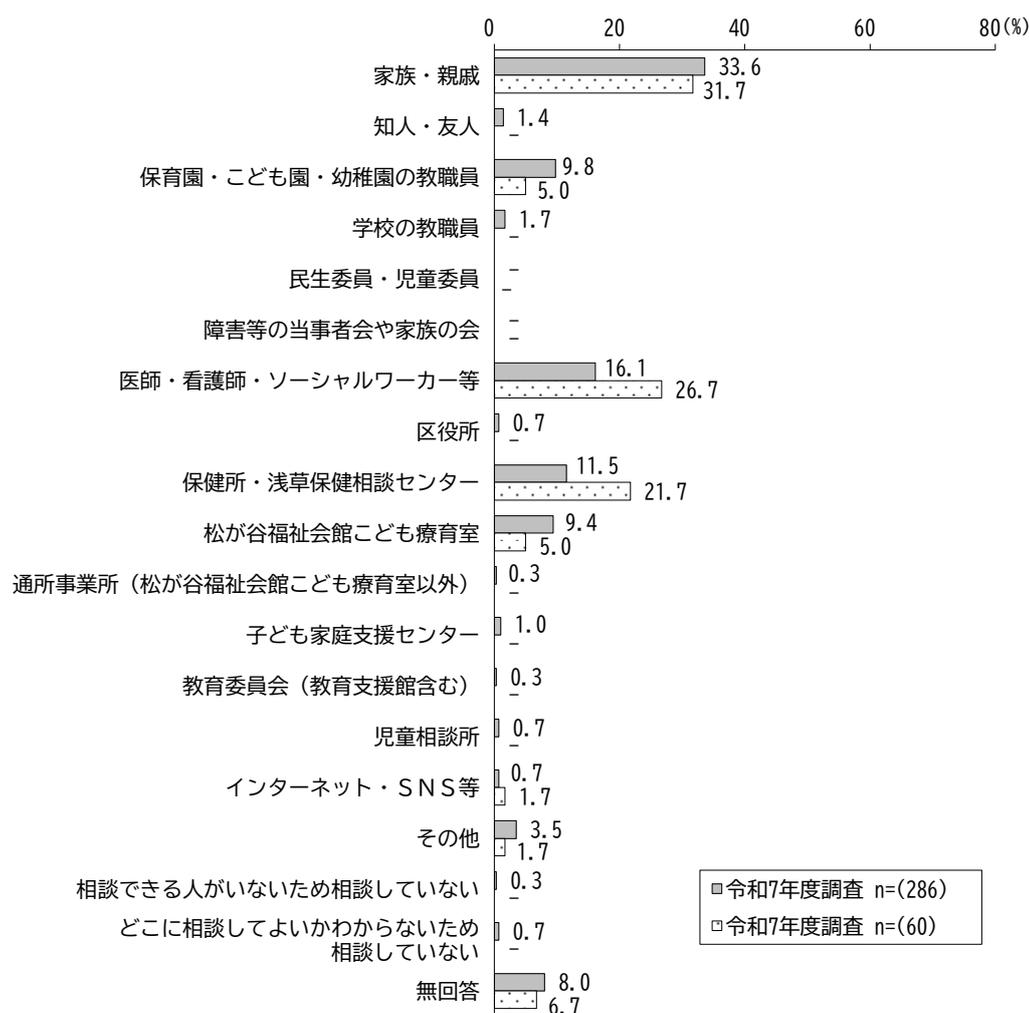
問13-2 お子さんの成長や発達について最初に気がかりなこと・心配なことがあったとき、相談した相手はだれですか。（1つに○）

成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先は、「家族・親戚」が33.6%で最も高く、「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」が16.1%、「保健所・浅草保健相談センター」が11.5%で続いている。

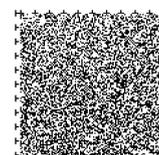
前回調査と比較すると、「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」が10.6ポイント減少している。

障害別にみると、身体障害では「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」、知的障害、発達障害、手帳未取得では「家族・親戚」が最も高くなっている。

<図表Ⅱ-21-1 成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「通所事業所（松が谷福祉会館こども療育室以外）」が追加された。



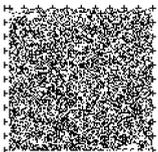
第2章 調査の結果

<図表Ⅱ-21-2 成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先（障害別）>

	回答者数（n）	家族・親戚	知人・友人	保育園・こども園・幼稚園の教職員	学校の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	医師・看護師・ソーシャルワーカー等	区役所	保健所・浅草保健相談センター	松が谷福祉社会館こども療育室
全体	286	33.6	1.4	9.8	1.7	-	-	16.1	0.7	11.5	9.4
身体障害	32	21.9	-	3.1	-	-	-	40.6	-	9.4	-
知的障害	65	32.3	1.5	4.6	3.1	-	-	23.1	-	13.8	6.2
発達障害	54	35.2	1.9	9.3	-	-	-	18.5	-	11.1	3.7
精神障害	5	20.0	-	20.0	-	-	-	20.0	-	20.0	-
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	9	11.1	-	-	-	-	-	55.6	-	-	-
手帳未取得	154	38.3	1.3	13.6	1.3	-	-	9.7	0.6	11.7	13.6

	回答者数（n）	外 通所事業所（松が谷福祉社会館こども療育室以外）	子ども家庭支援センター	（教育委員会（教育支援館含む）	児童相談所	インターネット・SNS等	その他	相談できる人がいないため相談していない	どこに相談してよいか分からないため相談していない	無回答
全体	286	0.3	1.0	0.3	0.7	0.7	3.5	0.3	0.7	8.0
身体障害	32	-	-	-	3.1	-	12.5	-	-	9.4
知的障害	65	-	-	1.5	1.5	1.5	6.2	-	-	4.6
発達障害	54	-	-	-	1.9	1.9	9.3	-	-	7.4
精神障害	5	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0
難病（特定疾病）	9	-	-	-	11.1	-	22.2	-	-	-
手帳未取得	154	-	1.9	-	0.6	0.6	2.6	0.6	0.6	2.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(7) 育児における悩みや不安

問14 お子さんの育児をするにあたり、悩みや不安はありますか。(あてはまるものすべてに○)

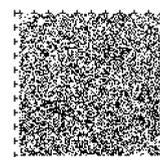
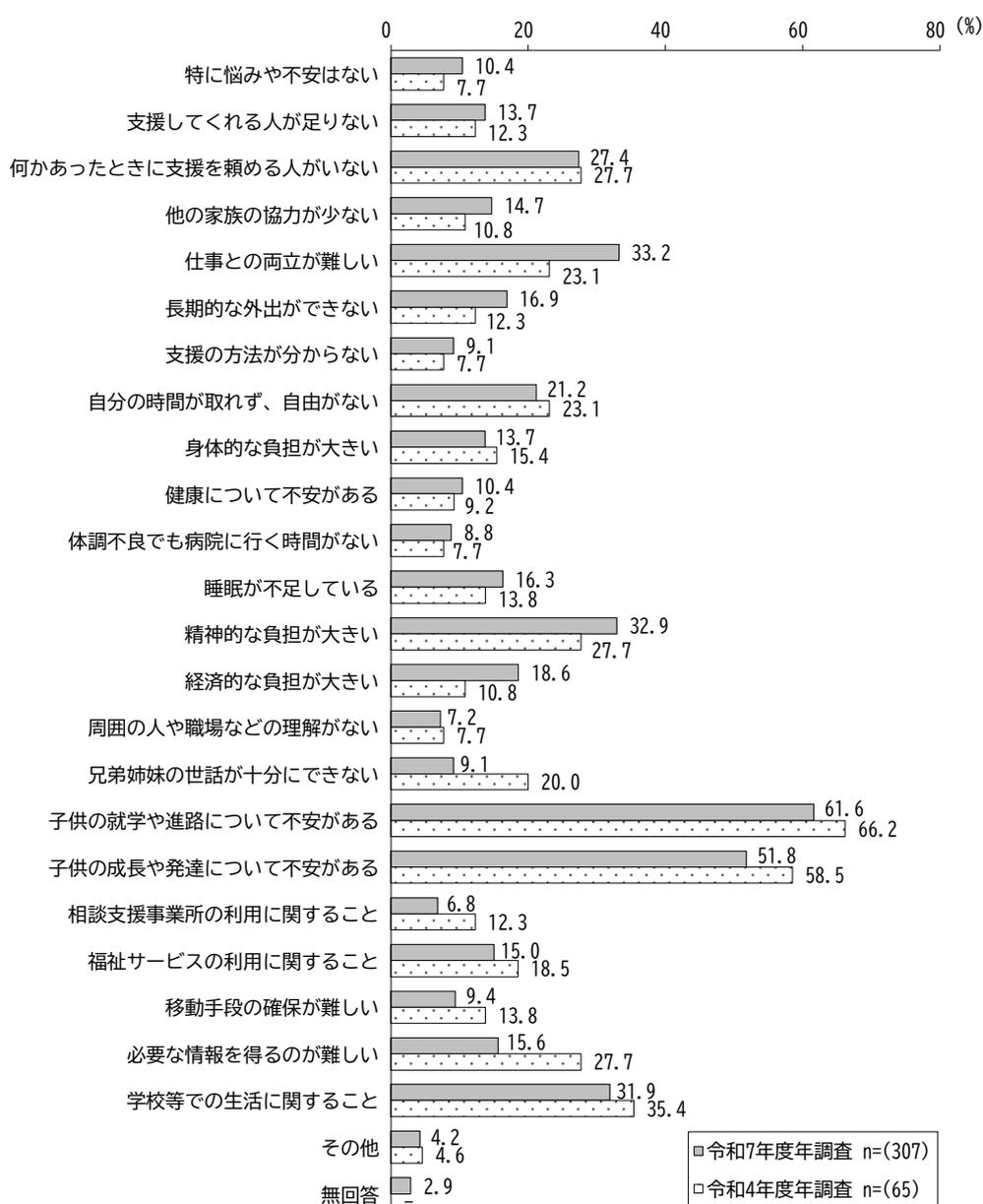
育児における悩みや不安は、「子供の就学や進路について不安がある」が61.6%で最も高く、「子供の成長や発達について不安がある」が51.8%、「仕事との両立が難しい」が33.2%で続いている。

前回調査と比較すると、「仕事との両立が難しい」、「経済的な負担が大きい」、「精神的な負担が大きい」などが増加している。

障害別にみると、知的障害、発達障害、手帳未取得では「子供の就学や進路について不安がある」、身体障害では「何かあったときに支援を頼める人がいない」が最も高くなっている。

年齢別にみると、中高生と就学期で「子供の就学や進路について不安がある」、未就学児で「子供の成長や発達について不安がある」が最も高くなっている。

<図表Ⅱ-22-1 育児における悩みや不安(全体)>



第2章 調査の結果

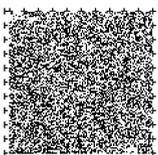
<図表Ⅱ-22-2 育児における悩みや不安(障害別)>

回答者数(n)	特に悩みや不安はない	支援してくれる人が足りない	何かあったときに頼める人がいない	他の家族の協力が少ない	仕事との両立が難しい	長期的な外出ができない	支援の方法が分からない	自分の時間が取れず、自由がない	身体的な負担が大きい	健康について不安がある	
全体	307	10.4	13.7	27.4	14.7	33.2	16.9	9.1	21.2	13.7	10.4
身体障害	34	5.9	38.2	61.8	29.4	44.1	35.3	5.9	32.4	47.1	26.5
知的障害	67	7.5	26.9	44.8	16.4	43.3	32.8	17.9	22.4	23.9	17.9
発達障害	56	10.7	26.8	46.4	21.4	39.3	32.1	19.6	35.7	25.0	14.3
精神障害	6	-	33.3	33.3	33.3	66.7	50.0	-	33.3	16.7	-
高次脳機能障害	2	-	50.0	100.0	50.0	50.0	100.0	-	50.0	50.0	-
難病(特定疾病)	9	-	22.2	77.8	22.2	66.7	88.9	22.2	44.4	66.7	44.4
手帳未取得	162	9.9	6.2	19.1	14.2	31.5	8.0	8.0	17.3	6.2	4.3

回答者数(n)	体調不良でも病院に行く時間がない	睡眠が不足している	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	周囲の人や職場などの理解がない	兄弟姉妹の世話が十分にできない	子供の就学や進路について不安がある	子供の成長や発達について不安がある	相談支援事業所の利用に関すること	福祉サービスの利用に関すること	
全体	307	8.8	16.3	32.9	18.6	7.2	9.1	61.6	51.8	6.8	15.0
身体障害	34	20.6	35.3	44.1	35.3	14.7	14.7	52.9	47.1	14.7	38.2
知的障害	67	11.9	20.9	38.8	26.9	6.0	14.9	67.2	49.3	16.4	34.3
発達障害	56	12.5	30.4	42.9	32.1	10.7	17.9	64.3	51.8	16.1	35.7
精神障害	6	16.7	33.3	-	50.0	-	-	50.0	50.0	33.3	50.0
高次脳機能障害	2	-	50.0	50.0	100.0	-	-	-	50.0	50.0	50.0
難病(特定疾病)	9	22.2	44.4	66.7	55.6	33.3	33.3	55.6	55.6	22.2	33.3
手帳未取得	162	7.4	11.7	29.6	11.7	6.2	6.8	64.2	57.4	3.7	8.0

回答者数(n)	移動手段の確保が難しい	必要な情報を得るのが難しい	学校等での生活に関すること	その他	無回答	
全体	307	9.4	15.6	31.9	4.2	2.9
身体障害	34	29.4	20.6	23.5	8.8	2.9
知的障害	67	25.4	23.9	23.9	3.0	3.0
発達障害	56	23.2	26.8	32.1	3.6	1.8
精神障害	6	33.3	33.3	16.7	16.7	-
高次脳機能障害	2	100.0	-	-	-	-
難病(特定疾病)	9	55.6	22.2	11.1	11.1	-
手帳未取得	162	3.1	11.7	37.0	3.7	1.9

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



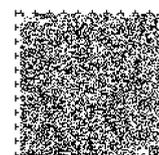
<図表Ⅱ-22-3 育児における悩みや不安(年齢別)>

	回答者数(n)	特に悩みや不安はない	支援してくれる人が足りない	何かあったときに支援を頼める人がいない	他の家族の協力が少ない	仕事との両立が難しい	長期的な外出ができない	支援の方法が分からない	自分の時間が取れず、自由がない	身体的な負担が大きい	健康について不安がある
単位：%											
全体	307	10.4	13.7	27.4	14.7	33.2	16.9	9.1	21.2	13.7	10.4
未就学児	101	14.9	6.9	27.7	14.9	38.6	8.9	7.9	16.8	10.9	3.0
就学期	133	6.8	16.5	27.1	13.5	33.8	18.0	11.3	25.6	12.8	11.3
中高生	70	11.4	17.1	28.6	15.7	22.9	25.7	7.1	18.6	18.6	18.6

	回答者数(n)	体調不良でも病院に行く時間がない	睡眠が不足している	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	周囲の人や職場などの理解がない	兄弟姉妹の世話が十分にできない	子供の就学や進路について不安がある	子供の成長や発達について不安がある	相談支援事業所の利用に関すること	福祉サービスの利用に関すること
単位：%											
全体	307	8.8	16.3	32.9	18.6	7.2	9.1	61.6	51.8	6.8	15.0
未就学児	101	8.9	15.8	28.7	12.9	5.9	7.9	57.4	60.4	4.0	12.9
就学期	133	7.5	15.0	36.8	22.6	7.5	8.3	62.4	55.6	7.5	13.5
中高生	70	11.4	20.0	31.4	20.0	8.6	12.9	65.7	31.4	10.0	21.4

	回答者数(n)	移動手段の確保が難しい	必要な情報を得るのが難しい	学校等での生活に関すること	その他	無回答
単位：%						
全体	307	9.4	15.6	31.9	4.2	2.9
未就学児	101	6.9	13.9	31.7	3.0	3.0
就学期	133	9.8	16.5	40.6	5.3	2.3
中高生	70	12.9	15.7	17.1	2.9	4.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(8) 育児における悩みや不安の相談先

【問14で「2」～「24」（悩みや不安がある）に○をした方におたずねします。】

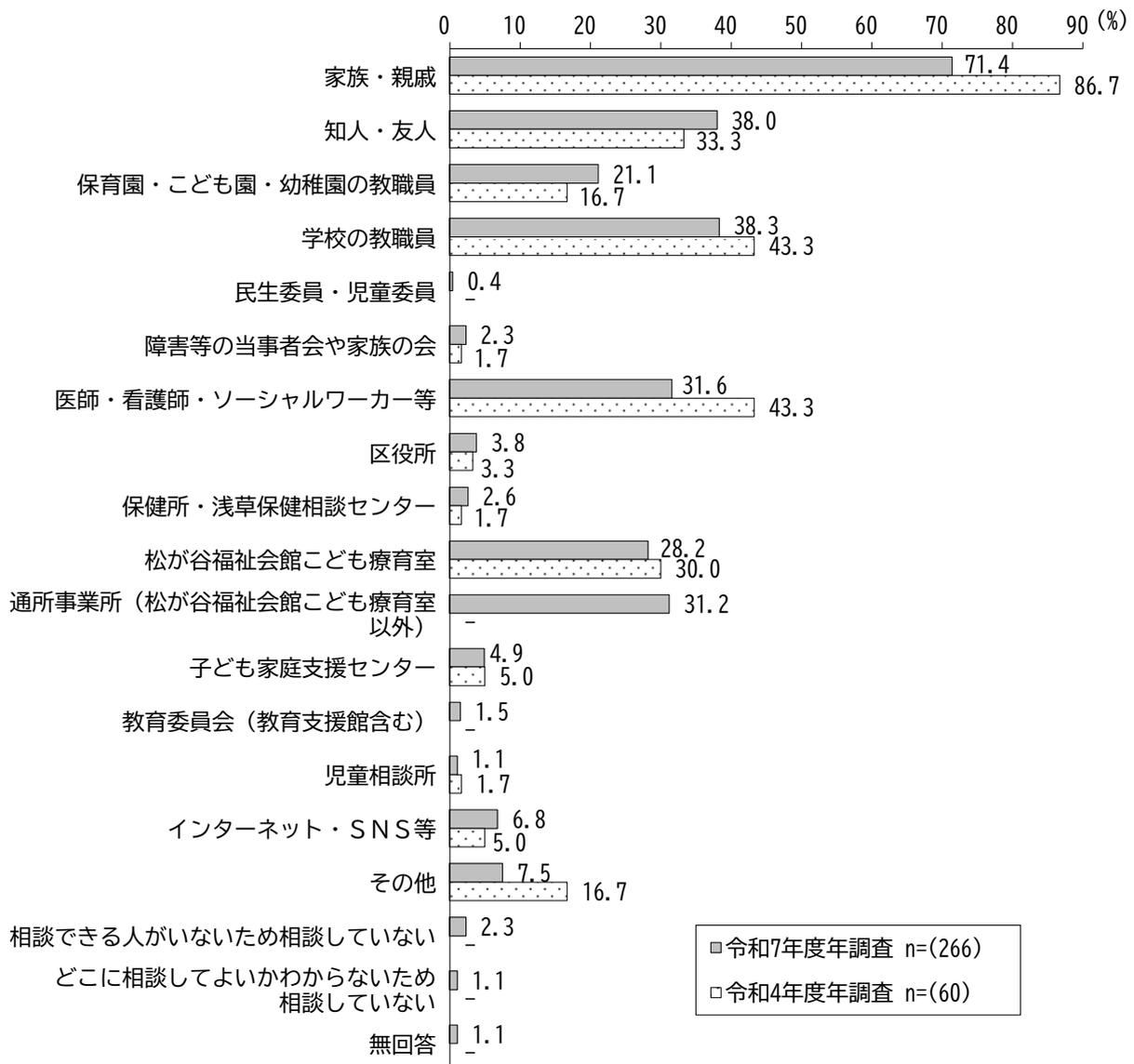
問14-1 お子さんの育児をするにあたり、悩みや困っていることを相談する相手はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

育児における悩みや不安の相談先は、「家族・親戚」が71.4%で最も高く、「学校の教職員」が38.3%、「知人・友人」が38.0%が続いている。

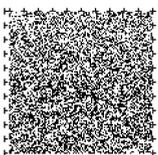
前回調査と比較すると、「家族・親戚」が15.3ポイント減少している。

障害別にみると、いずれの障害も「家族・親戚」が最も高くなっている。

<図表Ⅱ-23-1 育児における悩みや不安の相談先（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「通所事業所（松が谷福祉会館こども療育室以外）」が追加された。

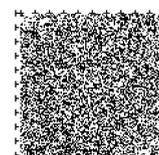


<図表Ⅱ-23-2 育児における悩みや不安の相談先（障害別）>

	回答者数（n）	家族・親戚	知人・友人	保育園・こども園・幼稚園の 教職員	学校の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	医師・看護師・ソーシャル ワーカー等	区役所	保健所・浅草保健相談セン ター	松が谷福祉会館こども療育室
単位：%											
全体	266	71.4	38.0	21.1	38.3	0.4	2.3	31.6	3.8	2.6	28.2
身体障害	31	71.0	25.8	6.5	41.9	3.2	-	51.6	9.7	-	6.5
知的障害	60	73.3	30.0	6.7	50.0	1.7	6.7	40.0	6.7	-	16.7
発達障害	49	71.4	30.6	8.2	42.9	2.0	2.0	38.8	12.2	-	18.4
精神障害	6	50.0	33.3	-	66.7	-	-	50.0	16.7	-	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-
難病（特定疾病）	9	77.8	33.3	-	44.4	-	11.1	66.7	11.1	-	11.1
手帳未取得	143	69.2	41.3	30.8	34.3	-	-	25.2	2.1	4.2	37.1

	回答者数（n）	通所事業所（松が谷福祉会館 こども療育室以外）	子ども家庭支援センター	教育委員会 （教育支援館含む）	児童相談所	インターネット・SNS等	その他	相談できる人がいないため相 談していない	どこに相談してよいかかわら ないため相談していかない	無回答
単位：%										
全体	266	31.2	4.9	1.5	1.1	6.8	7.5	2.3	1.1	1.1
身体障害	31	12.9	9.7	-	-	6.5	12.9	-	3.2	-
知的障害	60	21.7	5.0	1.7	-	8.3	13.3	3.3	-	1.7
発達障害	49	18.4	4.1	-	-	6.1	12.2	4.1	-	2.0
精神障害	6	16.7	-	-	-	-	16.7	-	-	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	9	11.1	-	-	-	11.1	44.4	-	-	-
手帳未取得	143	40.6	4.2	2.1	2.1	7.0	5.6	1.4	0.7	1.4

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



7. コミュニケーション・意思疎通について

(1) 利用する意思疎通手段・支援

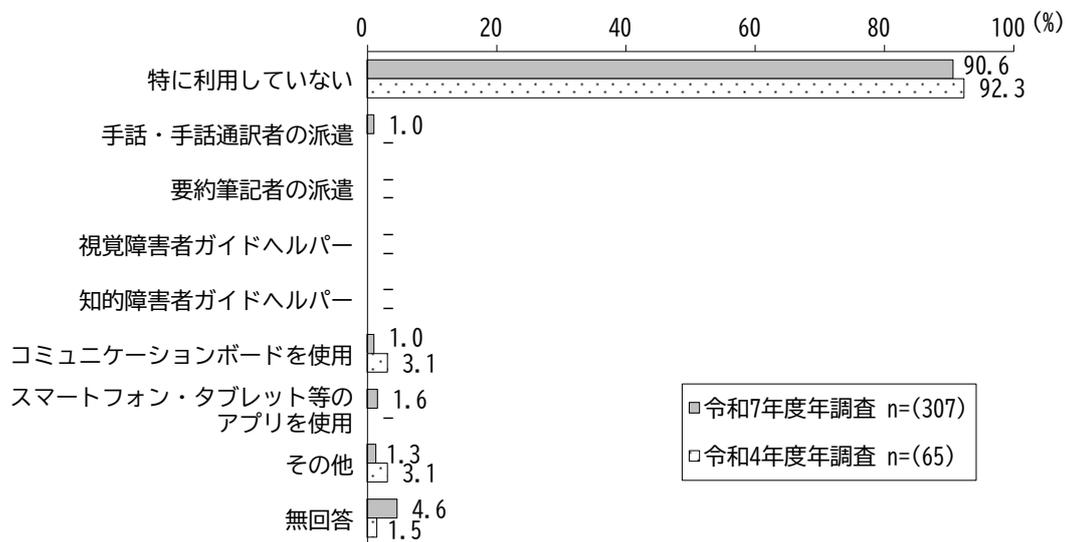
問15 お子さんは、家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとるときに、どのような意思疎通手段・支援を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

利用する意思疎通手段・支援は、『利用している』割合（全体から「特に利用していない」と「無回答」を除いたもの）は4.8%となっている。具体的な意思疎通手段・支援は、「スマートフォン・タブレット等のアプリを使用」が1.6%で最も高くなっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、「コミュニケーションボードを使用」では知的障害が3.0%、発達障害が3.6%となっている。

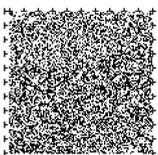
<図表Ⅱ-24-1 利用する意思疎通手段・支援（全体）>



<図表Ⅱ-24-2 利用する意思疎通手段・支援（障害別）>

	回答者数 (n)	特に利用していない	手話・手話通訳者の派遣	要約筆記者の派遣	視覚障害者ガイドヘルパー	知的障害者ガイドヘルパー	コミュニケーションボードを使用	スマートフォン・タブレット等のアプリを使用	その他	無回答
全体	307	90.6	1.0	-	-	-	1.0	1.6	1.3	4.6
身体障害	34	85.3	2.9	-	-	-	2.9	2.9	-	5.9
知的障害	67	89.6	-	-	-	-	3.0	1.5	-	6.0
発達障害	56	89.3	-	-	-	-	3.6	1.8	-	5.4
精神障害	6	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0
難病（特定疾病）	9	88.9	-	-	-	-	11.1	-	-	-
手帳未取得	162	95.1	-	-	-	-	0.6	0.6	0.6	3.1

※回答数 (n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 充実を希望する情報媒体

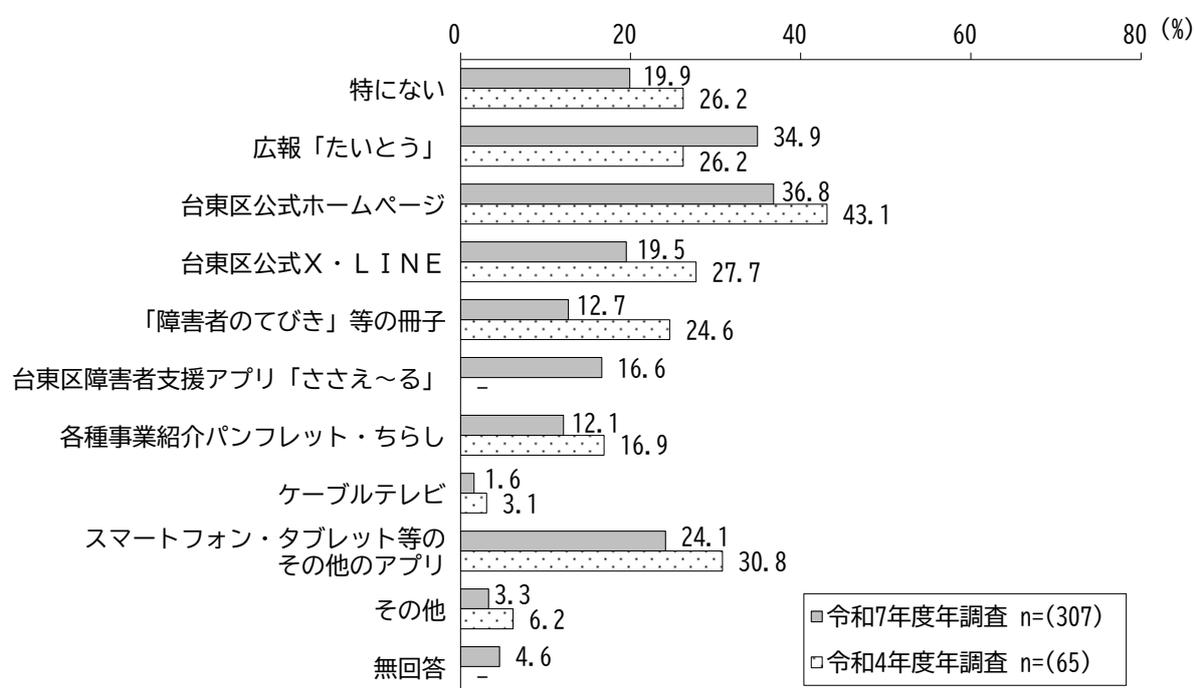
問16 障害福祉に関する情報の入手方法について、今後、充実を希望するものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

充実を希望する情報媒体は、「台東区公式ホームページ」が36.8%で最も高く、「広報「たいとう」」が34.9%、「スマートフォン・タブレット等のその他のアプリ」が24.1%が続いている。

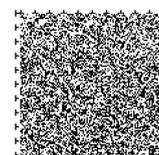
前回調査と比較すると、「広報「たいとう」」以外の項目が減少している。

障害別にみると、身体障害では「台東区障害者支援アプリ「ささえ～る」」、知的障害と発達障害では「広報「たいとう」」、手帳未取得では「台東区公式ホームページ」が最も高くなっている。

<図表Ⅱ-25-1 充実を希望する情報媒体（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「台東区障害者支援アプリ「ささえ～る」」が追加された。



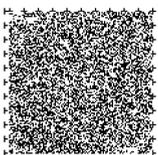
第2章 調査の結果

<図表Ⅱ-25-2 充実を希望する情報媒体（障害別）>

	回答者数（n）	特 に な い	広 報 「 た い と う 」	台 東 区 公 式 ホ ー ム ペ ー ジ	台 東 区 公 式 X ・ L I N E	「 障 害 者 の て び き 」 等 の 冊 子	台 東 区 障 害 者 支 援 ア プ リ 「 さ さ え く る 」	各 種 事 業 紹 介 パ ン フ レ ッ ト ・ ち ら し	ケ ー ブ ル テ レ ビ	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の そ の 他 の ア プ リ	そ の 他
単位：%											
全体	307	19.9	34.9	36.8	19.5	12.7	16.6	12.1	1.6	24.1	3.3
身体障害	34	14.7	29.4	26.5	8.8	17.6	32.4	14.7	-	20.6	5.9
知的障害	67	11.9	43.3	35.8	20.9	23.9	37.3	16.4	3.0	23.9	3.0
発達障害	56	10.7	55.4	44.6	25.0	26.8	30.4	25.0	3.6	23.2	3.6
精神障害	6	-	83.3	50.0	33.3	16.7	33.3	33.3	16.7	33.3	-
高次脳機能障害	2	-	100.0	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-
難病（特定疾病）	9	22.2	55.6	11.1	-	22.2	44.4	11.1	-	-	-
手帳未取得	162	22.8	31.5	38.3	22.2	5.6	8.0	8.6	1.9	25.9	3.7

	回答者数（n）	無 回 答
単位：%		
全体	307	4.6
身体障害	34	5.9
知的障害	67	4.5
発達障害	56	5.4
精神障害	6	-
高次脳機能障害	2	-
難病（特定疾病）	9	-
手帳未取得	162	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



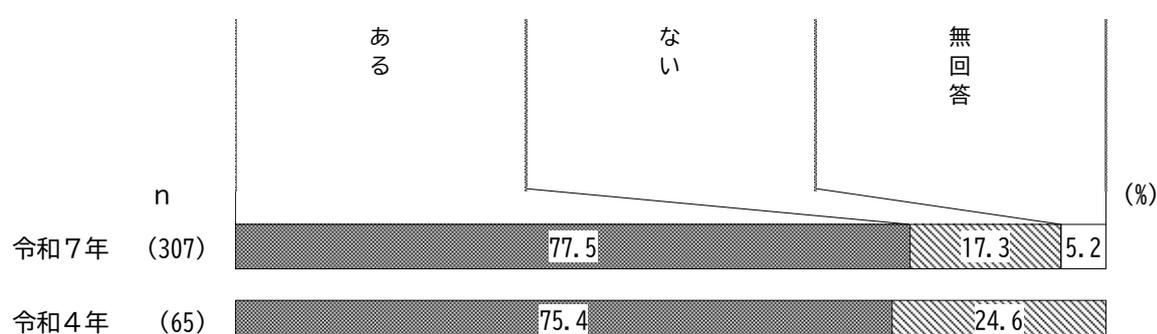
8. 福祉サービスについて

(1) 福祉サービスの利用状況

問17 お子さんは現在、利用している福祉サービスはありますか。(1つに○)

福祉サービスの利用状況は「ある」が77.5%を占めている。
 前回調査と比較すると、「ない」が7.3ポイント減少している。
 障害別にみると、いずれの障害も「ある」が最も高くなっている。

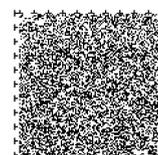
<図表Ⅱ-26-1 福祉サービスの利用状況(全体)>



<図表Ⅱ-26-2 福祉サービスの利用状況(障害別)>

	回答者数 (n)	ある	ない	無回答
単位：%				
全体	307	77.5	17.3	5.2
身体障害	34	67.6	26.5	5.9
知的障害	67	82.1	13.4	4.5
発達障害	56	78.6	12.5	8.9
精神障害	6	66.7	16.7	16.7
高次脳機能障害	2	100.0	-	-
難病(特定疾病)	9	88.9	11.1	-
手帳未取得	162	83.3	13.6	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



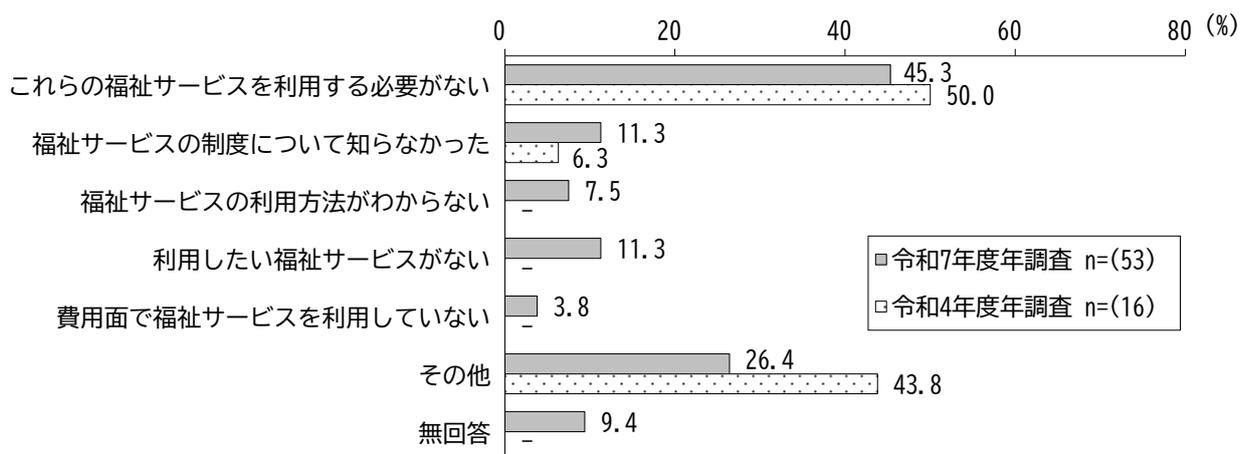
(2) 福祉サービスを利用していない理由

【問17で「2. ない」に○をした方におたずねします。】

問17-1 利用していない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

福祉サービスを利用していない理由は、「これらの福祉サービスを利用する必要がない」が45.3%で最も高くなっている。

<図表Ⅱ-27-1 福祉サービスを利用していない理由（全体）>

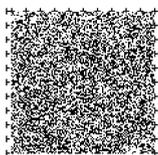


※令和7年度調査より、選択肢「福祉サービスの利用方法がわからない」、「利用したい福祉サービスがない」、「費用面で福祉サービスを利用していない」が追加された。

<図表Ⅱ-27-2 福祉サービスを利用していない理由（障害別）>

	回答者数 (n)	これらの福祉サービスが必要ない	福祉サービスの制度について知らなかった	福祉サービスの利用方法がわからない	利用したい福祉サービスがない	費用面で福祉サービスを利用していない	その他	無回答
全体	53	45.3	11.3	7.5	11.3	3.8	26.4	9.4
身体障害	9	55.6	11.1	11.1	11.1	11.1	-	11.1
知的障害	9	44.4	33.3	22.2	-	11.1	33.3	-
発達障害	7	42.9	28.6	14.3	14.3	-	42.9	-
精神障害	1	-	100.0	100.0	-	-	-	-
高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	1	100.0	-	-	-	-	-	-
手帳未取得	22	40.9	4.5	4.5	18.2	-	31.8	4.5

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



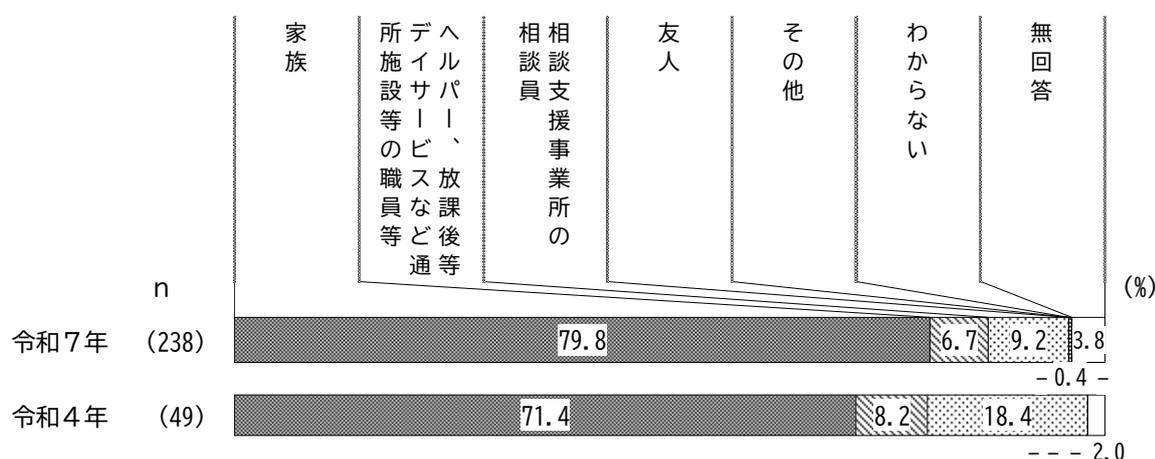
(3) サービスを利用するための支援者

【問17-2から問17-3は、問17で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

問17-2 お子さんがサービスを利用するにあたって、申請手続きや事業者との連絡・調整を行っているのは主にどなたですか。(1つに○)

サービスを利用するための支援者は、「家族」が79.8%で最も高く、「相談支援事業所の相談員」が9.2%、「ヘルパー、放課後等デイサービスなど通所施設等の職員等」が6.7%が続いている。前回調査と比較すると、「相談支援事業所の相談員」は9.2ポイントの減少となっている。障害別にみると、いずれの障害も「家族」が最も高くなっている。

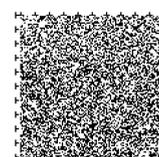
<図表Ⅱ-28-1 サービスを利用するための支援者（全体）>



<図表Ⅱ-28-2 サービスを利用するための支援者（障害別）>

	回答者数 (n)	家族	所施設等の職員等	ヘルパー、放課後等	相談支援事業所の相談員	友人	その他	わからない	無回答
全体	238	79.8	6.7	9.2	-	-	0.4	3.8	
身体障害	23	56.5	4.3	39.1	-	-	-	-	
知的障害	55	72.7	7.3	18.2	-	-	-	1.8	
発達障害	44	68.2	6.8	25.0	-	-	-	-	
精神障害	4	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-	
高次脳機能障害	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	
難病（特定疾病）	8	50.0	-	50.0	-	-	-	-	
手帳未取得	135	88.9	5.2	2.2	-	-	0.7	3.0	

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(4) 障害児支援利用計画の作成者

【問17-2から問17-3は、問17で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

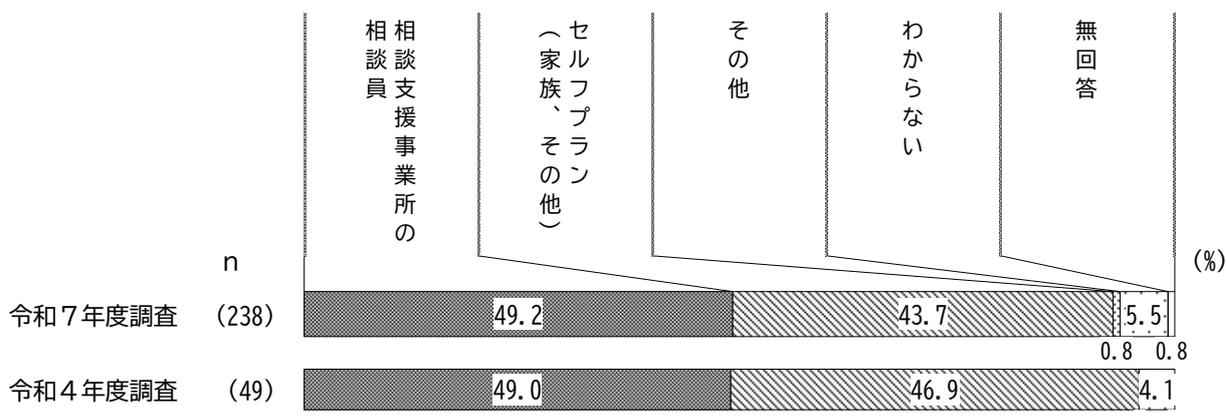
問17-3 お子さんの障害児支援利用計画は、どなたが作成していますか。(1つに○)

障害児支援利用計画の作成者は、「相談支援事業所の相談員」が49.2%で最も高く、次いで「セルフプラン（家族、その他）」が43.7%となっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。「セルフプラン（家族、その他）」は3.2ポイント減少している。

障害別にみると、身体障害、知的障害、発達障害では「相談支援事業所の相談員」、手帳未取得では「セルフプラン（家族、その他）」が最も高くなっている。

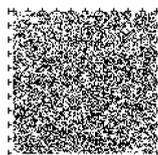
<図表Ⅱ-29-1 障害児支援利用計画の作成者（全体）>



<図表Ⅱ-29-2 障害児支援利用計画の作成者（障害別）>

	回答者数 (n)	相談支援事業所の相談員 (%)	セルフプラン（家族、その他） (%)	その他 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
単位：%						
全体	238	49.2	43.7	0.8	5.5	0.8
身体障害	23	69.6	26.1	-	4.3	-
知的障害	55	52.7	38.2	-	9.1	-
発達障害	44	47.7	38.6	2.3	11.4	-
精神障害	4	25.0	50.0	-	25.0	-
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	-	-	-
難病（特定疾病）	8	87.5	12.5	-	-	-
手帳未取得	135	45.9	49.6	-	3.7	0.7

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



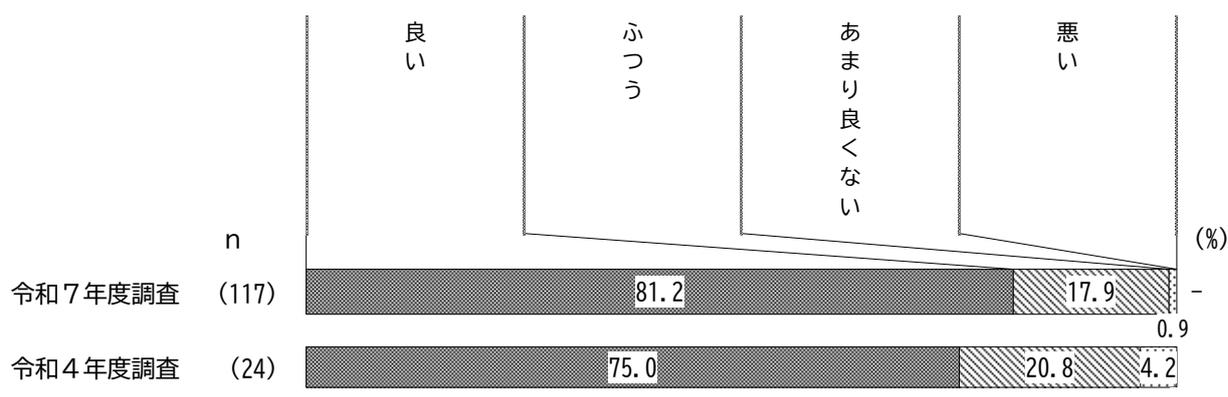
(5) 相談支援事業所利用の満足度

【問17-3で「1.相談支援事業所の相談員」に○をした方におたずねします。】

問17-3-1 相談支援事業所を利用して、どのように感じていますか。(1つに○)

相談支援事業所利用の満足度は「良い」が81.2%で最も高くなっている。

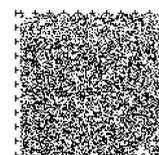
<図表Ⅱ-30-1 相談支援事業所利用の満足度(全体)>



<図表Ⅱ-30-2 相談支援事業所利用の満足度(障害別)>

障害別	回答者数 (n)	良い (%)	ふつう (%)	あまり良くない (%)	悪い (%)
全体	117	81.2	17.9	0.9	-
身体障害	16	81.3	18.8	-	-
知的障害	29	82.8	13.8	3.4	-
発達障害	21	81.0	14.3	4.8	-
精神障害	1	100.0	-	-	-
高次脳機能障害	1	100.0	-	-	-
難病(特定疾病)	7	100.0	-	-	-
手帳未取得	62	87.1	12.9	-	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) セルフプランを選んだ理由

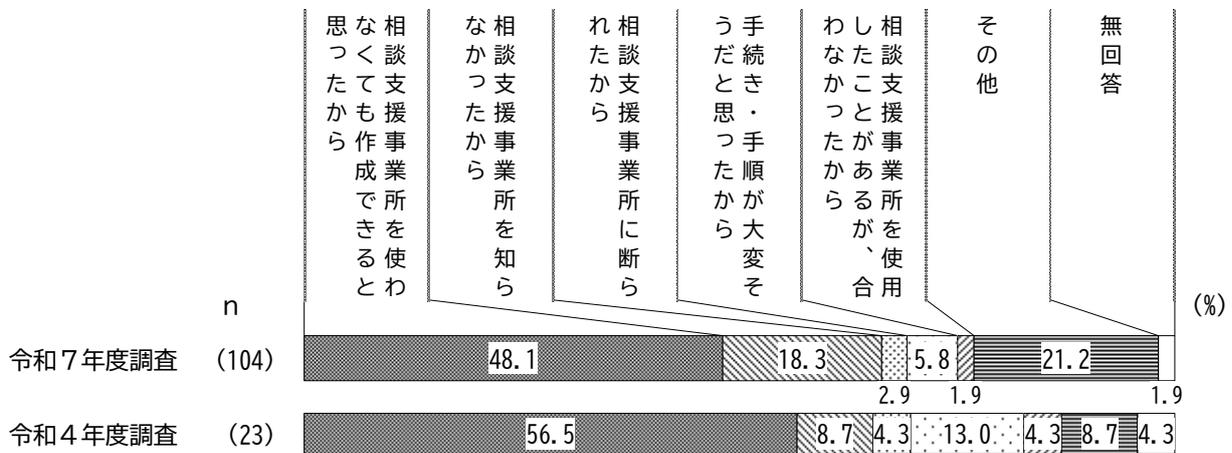
【問17-3で「2.セルフプラン」に○をした方におたずねします。】

問17-3-2 なぜ、セルフプランを選びましたか。(1つに○)

セルフプランを選んだ理由は、「相談支援事業所を使わなくても作成できると思ったから」が48.1%で最も高く、次いで「相談支援事業所を知らなかったから」が18.3%となっている。

障害別にみると、手帳未取得では「相談支援事業所を使わなくても作成できると思ったから」が52.2%で最も高くなっている。

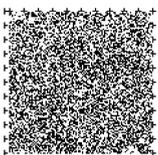
<図表Ⅱ-31-1 セルフプランを選んだ理由(全体)>



<図表Ⅱ-31-2 セルフプランを選んだ理由(障害別)>

	回答者数(n)	相談支援事業所を使わなくても作成できると思ったから	相談支援事業所を知らなかったから	相談支援事業所に断られたから	手続き・手順が大変そうだったから	相談支援事業所が、使用できなかったから	その他	無回答
単位：%								
全体	104	48.1	18.3	2.9	5.8	1.9	21.2	1.9
身体障害	6	50.0	16.7	16.7	-	-	16.7	-
知的障害	21	52.4	19.0	9.5	4.8	4.8	9.5	-
発達障害	17	35.3	23.5	5.9	5.9	-	23.5	5.9
精神障害	2	-	-	-	-	-	100.0	-
高次脳機能障害	1	100.0	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	1	-	-	-	100.0	-	-	-
手帳未取得	67	52.2	20.9	-	4.5	1.5	20.9	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(7) 事業者の対応の満足度

【引き続き問17で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

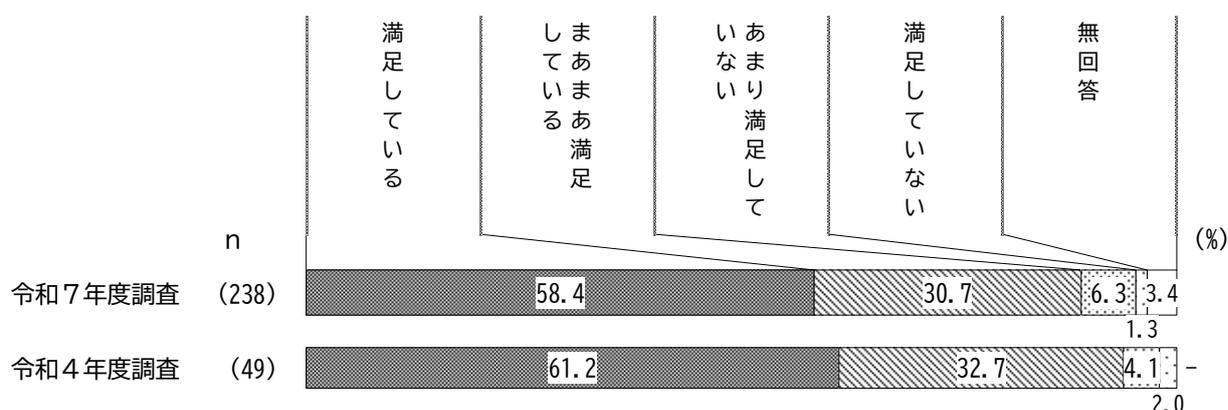
問17-4 福祉サービスを提供する事業者の対応について、満足していますか。(1つに○)

事業者の対応の満足度は、「満足している」が58.4%で最も高く、「まあまあ満足している」は30.7%、「あまり満足していない」と「満足していない」をあわせた『満足していない』は7.6%で続いている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、「満足している」と「まあまあ満足している」をあわせた『満足している』は、手帳未取得が91.9%で最も高くなっている。

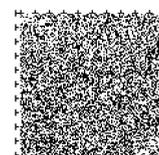
<図表Ⅱ-32-1 事業者の対応の満足度(全体)>



<図表Ⅱ-32-2 事業者の対応の満足度(障害別)>

	回答者数 (n)	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答
全体	238	58.4	30.7	6.3	1.3	3.4
身体障害	23	43.5	34.8	13.0	4.3	4.3
知的障害	55	49.1	38.2	10.9	1.8	-
発達障害	44	50.0	34.1	13.6	2.3	-
精神障害	4	25.0	50.0	25.0	-	-
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	-	-	-
難病(特定疾病)	8	62.5	37.5	-	-	-
手帳未取得	135	65.2	26.7	5.9	-	2.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(8) 苦情や不満があったときの事業者の対応状況

【引き続き問17で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

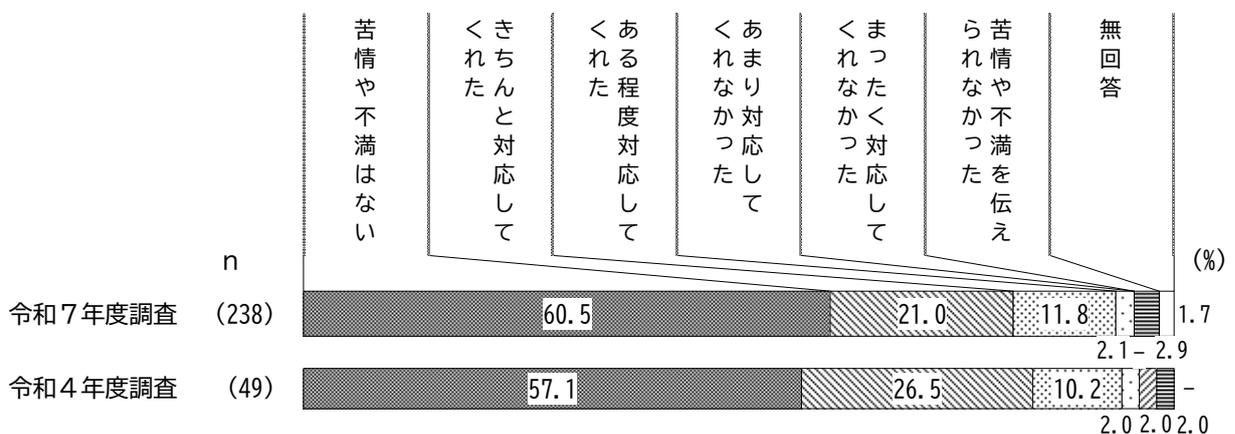
問17-5 福祉サービスを提供する事業者に苦情や不満を伝えたとき、その事業者は十分に内容を聞きお子さんに何らかの対応をしてくれましたか。(1つに○)

苦情や不満があったときの事業者の対応状況は、「苦情や不満はない」が60.5%で最も高く、「きちんと対応してくれた」の21.0%と「ある程度対応してくれた」の11.8%をあわせた『対応してくれた』が32.8%となっている。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる。

障害別にみると、手帳未取得では「苦情や不満はない」が71.1%で最も高くなっている。

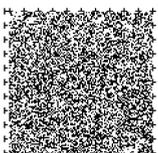
<図表Ⅱ-33-1 苦情や不満があったときの事業者の対応状況（全体）>



<図表Ⅱ-33-2 苦情や不満があったときの事業者の対応状況（障害別）>

	回答者数 (n)	苦情や不満はない	きちんと対応してくれた	ある程度対応してくれた	あまり対応しなかった	まったく対応しなかった	苦情や不満を伝えなかった	無回答
全体	238	60.5	21.0	11.8	2.1	-	2.9	1.7
身体障害	23	39.1	34.8	17.4	4.3	-	-	4.3
知的障害	55	43.6	32.7	12.7	9.1	-	1.8	-
発達障害	44	47.7	25.0	13.6	11.4	-	2.3	-
精神障害	4	50.0	50.0	-	-	-	-	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-
難病（特定疾病）	8	62.5	25.0	12.5	-	-	-	-
手帳未取得	135	71.1	17.0	7.4	-	-	3.0	1.5

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



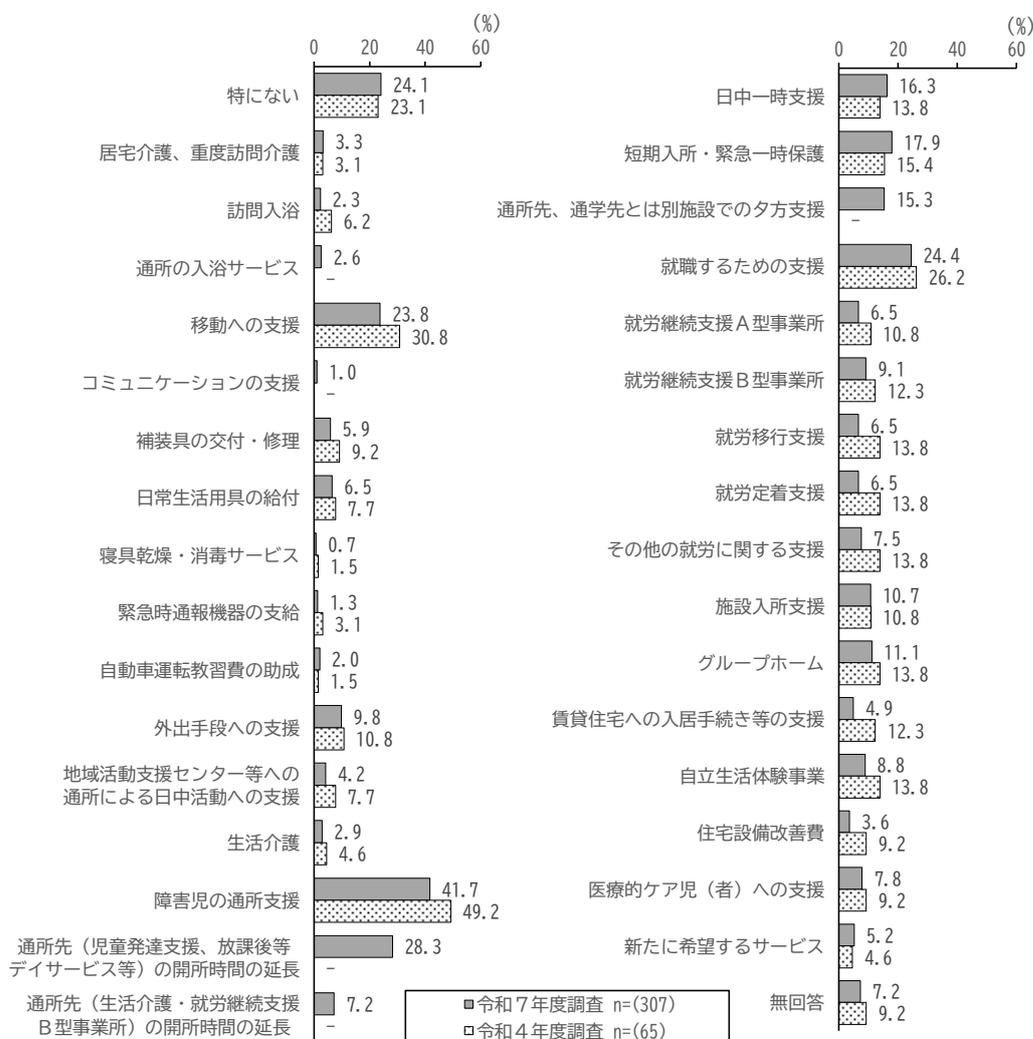
(9) 今後、充実を希望するサービス

問18 今後、充実を希望するサービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

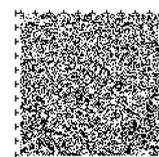
今後、充実を希望するサービスに関して、全体から「特にない」の24.1%と「無回答」を除いた68.7%が何らかのサービスの充実を希望している。「障害児の通所支援」が41.7%で最も高く、「通所先（児童発達支援、放課後等デイサービス等）の開所時間の延長」が28.3%、「就職するための支援」が24.4%で続いている。

前回調査と比較すると、「日中一時支援」、「短期入所・緊急一時保護」が共に2.5ポイント増加している。障害別にみると、いずれの障害も「障害児の通所支援」が最も高くなっている。年齢別にみると、就学期の「障害児の通所支援」が46.6%で最も高くなっている。

<図表Ⅱ-34-1 今後、充実を希望するサービス（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「通所の入浴サービス」、「通所先（児童発達支援、放課後等デイサービス等）の開所時間の延長」、「通所先（生活介護・就労継続支援B型事業所）の開所時間の延長」「通所先、通学先とは別施設での夕方支援」が追加された。



第2章 調査の結果

<図表Ⅱ-34-2 今後、充実を希望するサービス（障害別）>

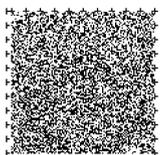
単位：%	回答者数（n）	特 に な い	居 宅 介 護、 重 度 訪 問 介 護	訪 問 入 浴	通 所 の 入 浴 サ ー ビ ス	移 動 へ の 支 援	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン の 支 援	補 装 具 の 交 付・ 修 理	日 常 生 活 用 具 の 給 付	寝 具 乾 燥・ 消 毒 サ ー ビ ス	緊 急 時 通 報 機 器 の 支 給
全体	307	24.1	3.3	2.3	2.6	23.8	1.0	5.9	6.5	0.7	1.3
身体障害	34	2.9	23.5	17.6	23.5	38.2	5.9	41.2	35.3	5.9	2.9
知的障害	67	9.0	7.5	6.0	6.0	52.2	-	9.0	13.4	3.0	4.5
発達障害	56	7.1	8.9	8.9	8.9	37.5	-	8.9	14.3	3.6	3.6
精神障害	6	-	16.7	16.7	16.7	66.7	-	16.7	16.7	-	16.7
高次脳機能障害	2	-	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	50.0	50.0
難病（特定疾病）	9	11.1	33.3	33.3	44.4	55.6	-	33.3	33.3	11.1	11.1
手帳未取得	162	35.2	-	-	-	11.7	-	-	1.2	-	0.6

単位：%	回答者数（n）	自 動 車 運 転 教 習 費 の 助 成	外 出 手 段 へ の 支 援	地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー 等 へ の 通 所 に よ る 日 中 活 動 へ の 支 援	生 活 介 護	障 害 児 の 通 所 支 援	通 所 先 （ 放 課 後 等 デ イ の 開 所 サ ー ビ ス 等 ） の 開 所 時 間 の 延 長	通 所 先 （ 児 童 発 達 支 援 等 ） の 開 所 時 間 の 延 長	通 所 先 （ 生 活 介 護・ 就 労 支 援 等 ） の 開 所 時 間 の 延 長	日 中 一 時 支 援	短 期 入 所 ・ 緊 急 一 時 保 護	通 所 先 施 設 で の 夕 方 と 支 援
全体	307	2.0	9.8	4.2	2.9	41.7	28.3	7.2	16.3	17.9	15.3	15.3
身体障害	34	-	26.5	8.8	8.8	61.8	41.2	23.5	41.2	47.1	35.3	35.3
知的障害	67	1.5	17.9	6.0	7.5	53.7	46.3	14.9	38.8	43.3	32.8	32.8
発達障害	56	5.4	19.6	8.9	7.1	53.6	41.1	7.1	32.1	35.7	26.8	26.8
精神障害	6	16.7	16.7	-	-	50.0	33.3	-	33.3	50.0	-	-
高次脳機能障害	2	-	100.0	50.0	-	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0
難病（特定疾病）	9	-	33.3	11.1	11.1	77.8	44.4	22.2	33.3	66.7	33.3	33.3
手帳未取得	162	1.2	3.7	3.7	0.6	38.3	22.2	0.6	8.6	6.8	8.0	8.0

単位：%	回答者数（n）	就 職 す る た め の 支 援	A 就 労 支 援 所	B 就 労 支 援 所	就 労 移 行 支 援	就 労 定 着 支 援	そ の 他 の 就 労 支 援	施 設 入 所 支 援	グ ル ー プ ホ ー ム	入 居 手 続 等 の 支 援	賃 貸 住 宅 へ の 支 援	自 立 生 活 体 験 事 業
全体	307	24.4	6.5	9.1	6.5	6.5	7.5	10.7	11.1	4.9	8.8	8.8
身体障害	34	23.5	8.8	14.7	5.9	2.9	11.8	29.4	20.6	8.8	11.8	11.8
知的障害	67	40.3	20.9	31.3	11.9	11.9	13.4	23.9	29.9	9.0	16.4	16.4
発達障害	56	42.9	16.1	19.6	10.7	10.7	12.5	23.2	16.1	10.7	14.3	14.3
精神障害	6	50.0	16.7	16.7	16.7	16.7	-	16.7	16.7	33.3	33.3	33.3
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-
難病（特定疾病）	9	22.2	-	33.3	11.1	11.1	11.1	66.7	55.6	-	11.1	11.1
手帳未取得	162	16.0	1.9	1.2	3.1	3.7	4.3	2.5	1.9	2.5	3.1	3.1

単位：%	回答者数（n）	住 宅 設 備 改 善 費	医 療 的 ケ ア （ 者 ） へ の 支 援	新 た に 希 望 す る サ ー ビ ス	無 回 答
全体	307	3.6	7.8	5.2	7.2
身体障害	34	8.8	32.4	5.9	8.8
知的障害	67	6.0	16.4	6.0	3.0
発達障害	56	5.4	14.3	3.6	5.4
精神障害	6	16.7	16.7	16.7	-
高次脳機能障害	2	-	50.0	-	-
難病（特定疾病）	9	11.1	55.6	11.1	-
手帳未取得	162	0.6	2.5	5.6	6.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



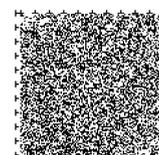
<図表Ⅱ-34-3 今後、充実を希望するサービス（年齢別）>

	回答者数 (n)	特 に な い	居 宅 介 護 、 重 度 訪 問 介 護	訪 問 入 浴	通 所 の 入 浴 サ ー ビ ス	移 動 へ の 支 援	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 支 援	補 装 具 の 交 付 ・ 修 理	日 常 生 活 用 具 の 給 付	寝 具 乾 燥 ・ 消 毒 サ ー ビ ス	緊 急 時 通 報 機 器 の 支 給
全体	307	24.1	3.3	2.3	2.6	23.8	1.0	5.9	6.5	0.7	1.3
未就学児	101	29.7	2.0	1.0	3.0	21.8	-	4.0	6.9	-	-
就学期	133	24.8	2.3	2.3	2.3	22.6	-	2.3	3.0	0.8	1.5
中高生	70	14.3	7.1	4.3	2.9	30.0	4.3	15.7	12.9	1.4	2.9

	回答者数 (n)	自 動 車 運 転 教 習 費 の 助 成	外 出 手 段 へ の 支 援	地 域 活 動 支 援 セ ン ター 等 へ の 通 所 に よ る 日 中 活 動 へ の 支 援	生 活 介 護	障 害 児 の 通 所 支 援	通 所 先 （ 児 童 発 達 支 援 、 放 課 後 等 デイ サ ー ビ ス 等 ） の 開 所 時 間 の 延 長	通 所 先 （ 生 活 介 護 ・ 就 業 支 援 B 型 事 業 所 ） の 開 所 時 間 の 延 長	日 中 一 時 支 援	短 期 入 所 ・ 緊 急 一 時 保 護	通 所 先 、 通 学 先 と は 別 施 設 で の 夕 方 支 援
全体	307	2.0	9.8	4.2	2.9	41.7	28.3	7.2	16.3	17.9	15.3
未就学児	101	1.0	7.9	5.0	1.0	43.6	30.7	3.0	18.8	17.8	12.9
就学期	133	2.3	11.3	3.0	3.0	46.6	30.1	3.0	11.3	15.0	13.5
中高生	70	2.9	10.0	5.7	5.7	30.0	20.0	20.0	21.4	22.9	21.4

	回答者数 (n)	就 職 す る た め の 支 援	A 就 業 支 援 所	B 就 業 支 援 所	就 業 移 行 支 援	就 業 定 着 支 援	そ の 他 の 就 業 に 関 する 支 援	施 設 入 所 支 援	ム グ ル ー プ ホ ー ル	賃 貸 住 宅 へ の 入 居 手 続 き 等 の 支 援	自 立 生 活 体 験 事 業
全体	307	24.4	6.5	9.1	6.5	6.5	7.5	10.7	11.1	4.9	8.8
未就学児	101	15.8	4.0	3.0	3.0	3.0	4.0	5.0	5.0	4.0	4.0
就学期	133	24.1	7.5	7.5	6.0	6.8	4.5	10.5	9.0	2.3	6.0
中高生	70	37.1	8.6	20.0	11.4	10.0	18.6	18.6	22.9	11.4	20.0

	回答者数 (n)	住 宅 設 備 改 善 費	医 療 的 ケ ア （ 者 ） へ の 支 援	新 た に 希 望 す る サ ー ビ ス	無 回 答
全体	307	3.6	7.8	5.2	7.2
未就学児	101	1.0	5.0	4.0	7.9
就学期	133	4.5	9.0	6.8	7.5
中高生	70	5.7	10.0	4.3	5.7



9. 医療的ケアについて

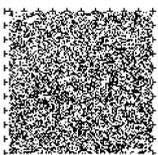
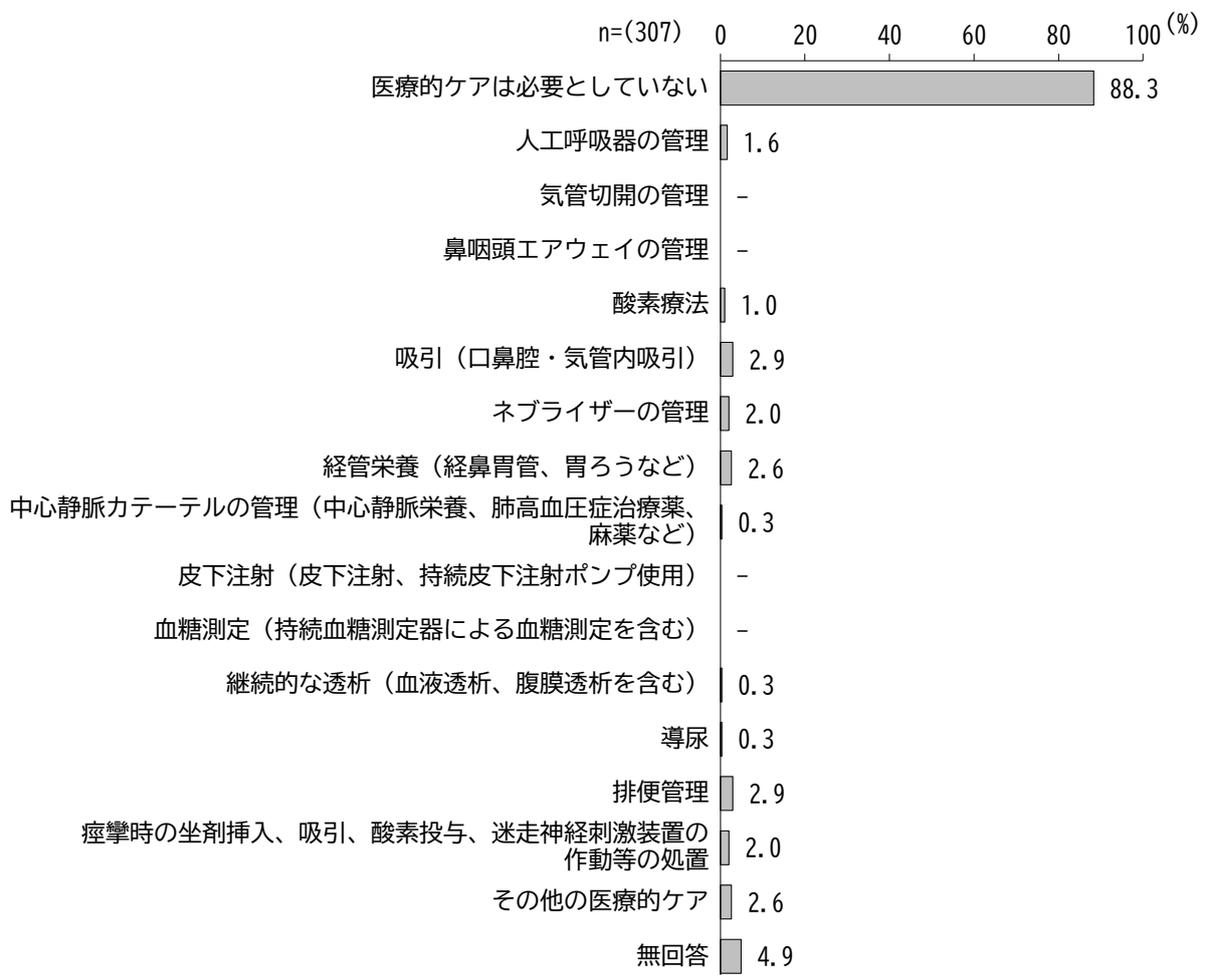
(1) 必要とする医療的ケア

問19 お子さんは、次のような医療的ケアを必要としていますか。
(必要としているものすべてに○)

必要とする医療的ケアは、全体から「医療的ケアは必要としない」の88.3%と「無回答」を除いた6.8%が何らかの医療的ケアを必要としている。「吸引（口鼻腔・気管内吸引）」と「排便管理」が共に2.9%で高くなっている。

障害別にみると、医療的ケアを必要としている割合は、身体障害が他の障害よりも高くなっている。

<図表Ⅱ-35-1 必要とする医療的ケア（全体）>

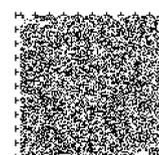


<図表Ⅱ-35-2 必要とする医療的ケア（障害別）>

	回答者数 (n)	医療的ケアは必要としない	人工呼吸器の管理	気管切開の管理	鼻咽頭エアウェイの管理	酸素療法	吸引（口鼻腔・気管内吸）	ネブライザーの管理	経管栄養（経鼻胃管、胃ろうなど）	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など）	皮下注射（皮下注射、持続皮下注射ポンプ使用）
全体	307	88.3	1.6	-	-	1.0	2.9	2.0	2.6	0.3	-
身体障害	34	50.0	8.8	-	-	8.8	17.6	11.8	17.6	2.9	-
知的障害	67	85.1	1.5	-	-	1.5	4.5	1.5	4.5	-	-
発達障害	56	82.1	1.8	-	-	1.8	7.1	1.8	5.4	-	-
精神障害	6	83.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-
難病（特定疾病）	9	33.3	33.3	-	-	22.2	33.3	33.3	44.4	-	-
手帳未取得	162	94.4	-	-	-	-	0.6	-	-	-	-

	回答者数 (n)	血糖測定（持続血糖測定器による血糖測定を含む）	継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）	導尿	排便管理	痙攣時の坐剤挿入、吸引装置の酸素投与、迷走神経刺激等の処置	その他の医療的ケア	無回答
全体	307	-	0.3	0.3	2.9	2.0	2.6	4.9
身体障害	34	-	2.9	2.9	17.6	14.7	17.6	8.8
知的障害	67	-	-	1.5	4.5	4.5	4.5	4.5
発達障害	56	-	-	1.8	5.4	5.4	5.4	5.4
精神障害	6	-	-	-	-	-	16.7	-
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	50.0	50.0	-
難病（特定疾病）	9	-	-	11.1	44.4	11.1	22.2	-
手帳未取得	162	-	-	-	0.6	0.6	1.2	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



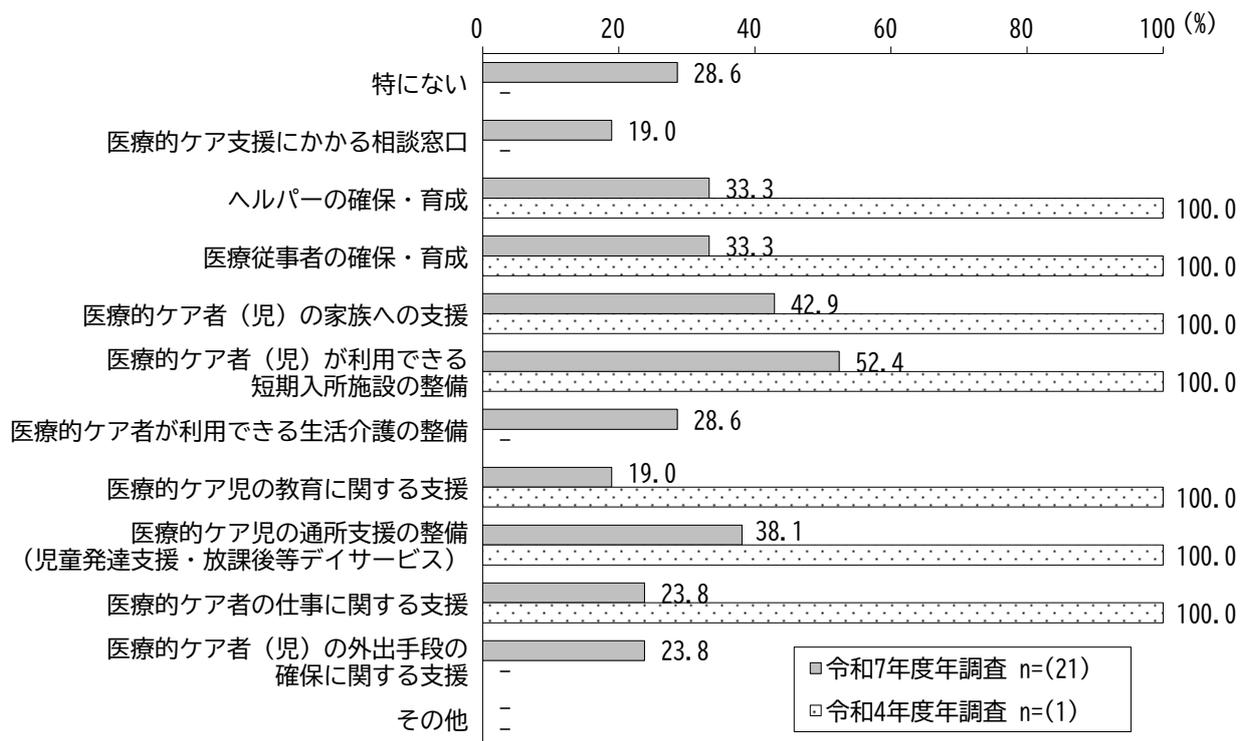
(2) 医療的ケアの充実に必要な支援

【問19で「2」～「16」に○をした方におたずねします。】

問19-1 医療的ケアに関して、どのような支援の充実が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

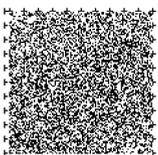
医療的ケアの充実に必要な支援は、「医療的ケア者（児）が利用できる短期入所施設の整備」が52.4%で最も高く、次いで「医療的ケア者（児）の家族への支援」が42.9%となっている。

<図表Ⅱ-36-1 医療的ケアの充実に必要な支援（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「医療的ケア支援にかかる相談窓口」が追加された。

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



10. 障害者の権利擁護、虐待、差別について

(1) 虐待を受けた経験

問20 お子さんは、いままでに自分の体や心を傷つけられたことや財産を侵害されたこと（虐待されたこと）はありますか。（1つに○）

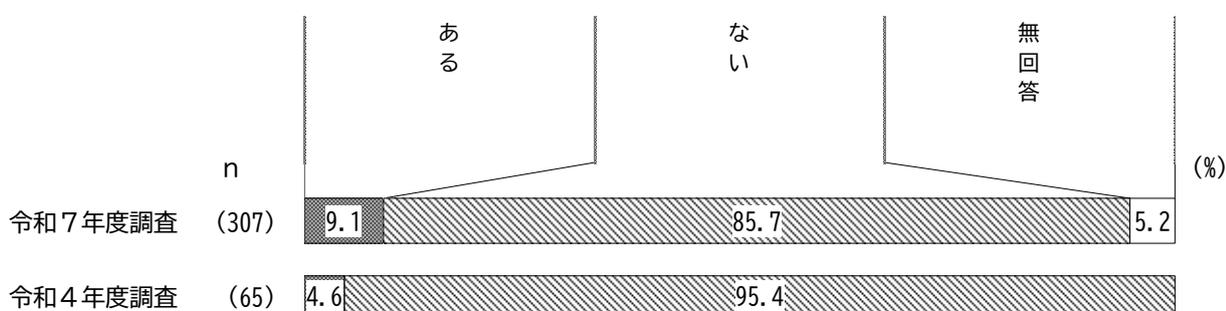
虐待を受けた経験は、「ない」が85.7%となっている。

前回調査と比較すると、「ある」が4.5ポイント増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「ない」が80%を超えている。

年齢別にみると、中高生では「ある」が24.3%で他の年齢よりも高くなっている。

<図表Ⅱ-37-1 虐待を受けた経験（全体）>



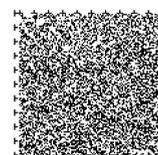
<図表Ⅱ-37-2 虐待を受けた経験（障害別）>

障害別	回答者数 (n)	ある (%)	ない (%)	無回答 (%)
全体	307	9.1	85.7	5.2
身体障害	34	8.8	85.3	5.9
知的障害	67	11.9	85.1	3.0
発達障害	56	10.7	83.9	5.4
精神障害	6	16.7	83.3	-
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	-
難病（特定疾病）	9	-	100.0	-
手帳未取得	162	8.0	88.3	3.7

<図表Ⅱ-37-3 虐待を受けた経験（年齢別）>

年齢別	回答者数 (n)	ある (%)	ない (%)	無回答 (%)
全体	307	9.1	85.7	5.2
未就学児	101	3.0	92.1	5.0
就学期	133	6.0	88.7	5.3
中高生	70	24.3	70.0	5.7

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



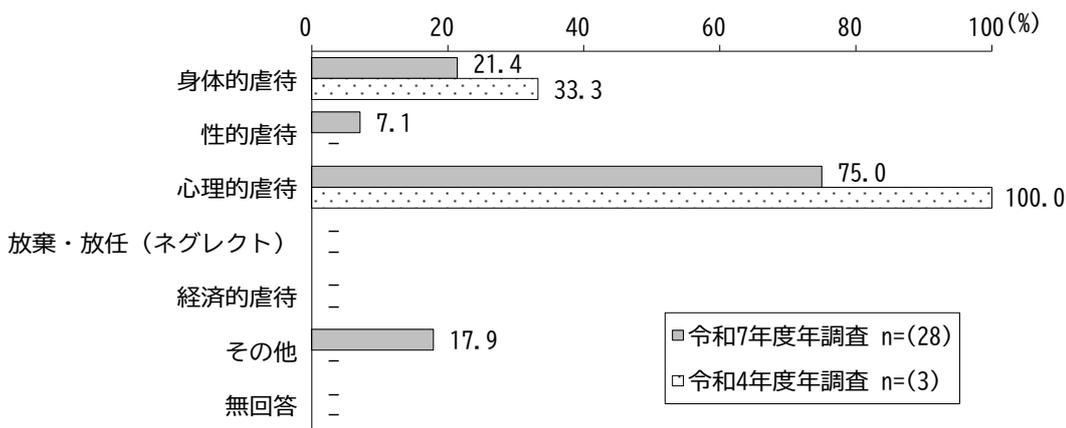
(2) 虐待の内容

【問20-1から問20-3は、問20で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

問20-1 虐待の内容はどのような内容ですか。(あてはまるものすべてに○)

虐待の内容は、「心理的虐待」が75.0%で最も高く、「身体的虐待」が21.4%、「性的虐待」が7.1%で続いている。

<図表Ⅱ-38-1 虐待の内容(全体)>



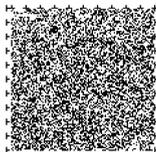
<図表Ⅱ-38-2 虐待の内容(障害別)>

	回答者数(n)	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	(放棄・放任 ネグレクト)	経済的虐待	その他	無回答
全体	28	21.4	7.1	75.0	-	-	17.9	-
身体障害	3	-	-	100.0	-	-	-	-
知的障害	8	25.0	12.5	87.5	-	-	-	-
発達障害	6	-	16.7	83.3	-	-	-	-
精神障害	1	-	-	100.0	-	-	-	-
高次脳機能障害	1	-	-	100.0	-	-	-	-
難病(特定疾病)	-	-	-	-	-	-	-	-
手帳未取得	13	30.8	7.7	76.9	-	-	15.4	-

<図表Ⅱ-38-3 虐待の内容(年齢別)>

	回答者数(n)	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	(放棄・放任 ネグレクト)	経済的虐待	その他
全体	28	21.4	7.1	75.0	-	-	17.9
未就学児	3	-	-	33.3	-	-	66.7
就学期	8	50.0	12.5	87.5	-	-	-
中高生	17	11.8	5.9	76.5	-	-	17.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



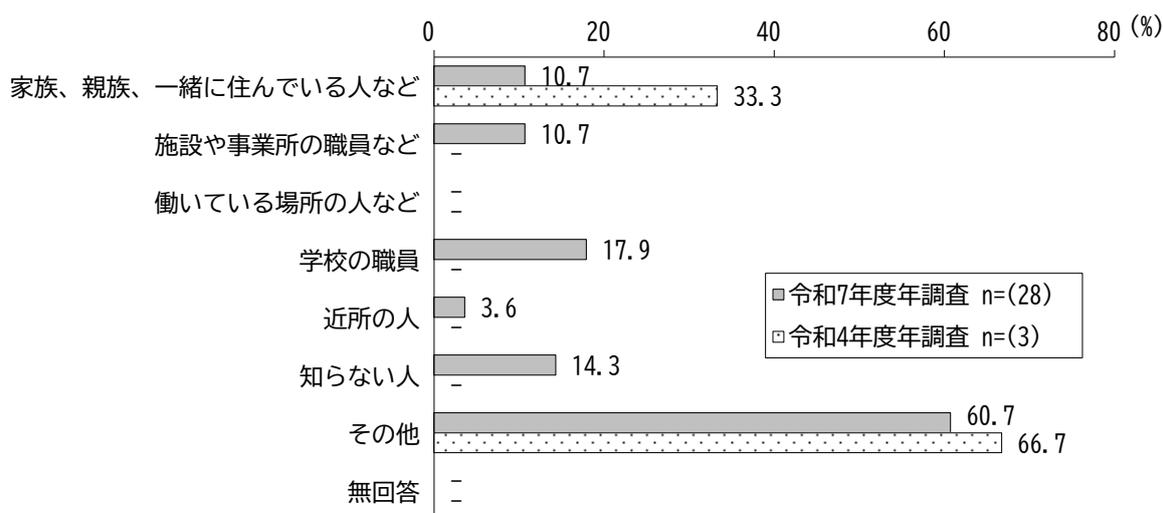
(3) 虐待を受けた人（誰から虐待を受けたか）

【問20-1から問20-3は、問20で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

問20-2 誰から虐待を受けましたか。（あてはまるものすべてに○）

虐待を受けた人（誰から虐待を受けたか）は、「その他」が60.7%で最も高く、その他の具体的内容としては、「学校の同級生」などとなっている。

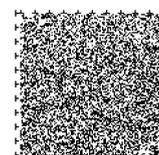
<図表Ⅱ-39-1 虐待を受けた人（全体）>



<図表Ⅱ-39-2 虐待を受けた人（障害別）>

	回答者数 (n)	家族、親族、一緒に住んでいる人など	施設や事業所の職員など	働いている場所の人など	学校の職員	近所の人	知らない人	その他	無回答
全体	28	10.7	10.7	-	17.9	3.6	14.3	60.7	-
身体障害	3	-	33.3	-	33.3	-	33.3	66.7	-
知的障害	8	12.5	25.0	-	25.0	-	37.5	25.0	-
発達障害	6	-	16.7	-	33.3	-	50.0	33.3	-
精神障害	1	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-
高次脳機能障害	1	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-
難病（特定疾病）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手帳未取得	13	15.4	7.7	-	7.7	7.7	7.7	69.2	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



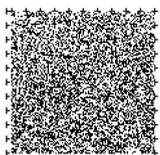
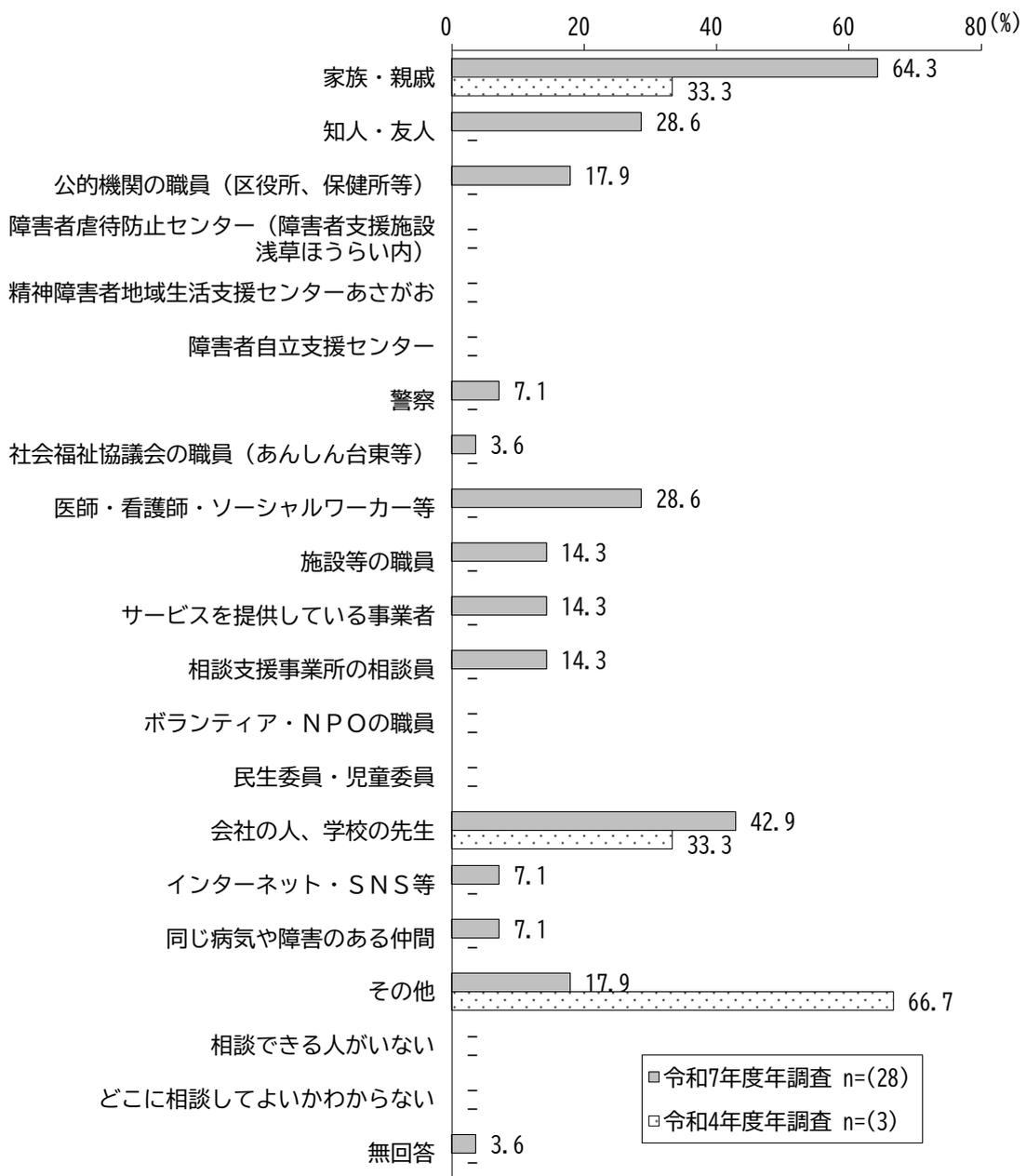
(4) 虐待を受けた際の相談先

【問20-1から問20-3は、問20で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

問20-3 虐待を受けたとき、だれ（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

虐待を受けた際の相談先は、「家族・親戚」が64.3%で最も高く、次いで「会社の人、学校の先生」が42.9%となっている。

<図表Ⅱ-40-1 虐待を受けた際の相談先（全体）>



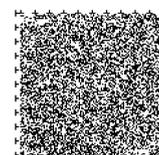
<図表Ⅱ-40-2 虐待を受けた際の相談先(障害別)>

	回答者数(n)	家族・親戚	知人・友人	公的機関の職員 (区役所、保健所等)	障害者虐待防止センター (障害者支援施設浅草ほ うらい内)	精神障害者地域生活支援 センターあさがお	障害者自立支援センター	警察	社会福祉協議会の職員 (あんしん台東等)	医師・看護師・ソシヤ ルワーカー等	施設等の職員
全体	28	64.3	28.6	17.9	-	-	-	7.1	3.6	28.6	14.3
身体障害	3	100.0	33.3	66.7	-	-	-	-	-	33.3	-
知的障害	8	100.0	25.0	25.0	-	-	-	12.5	-	-	-
発達障害	6	83.3	33.3	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-
精神障害	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高次脳機能障害	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手帳未取得	13	53.8	38.5	15.4	-	-	-	7.7	7.7	46.2	23.1

	回答者数(n)	サービスを提供している 事業者	相談支援事業所の相談員	ボランティア・NPOの 職員	民生委員・児童委員	会社の人、学校の先生	インターネット・SNS 等	同じ病気や障害のある仲 間	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいかわ からない
全体	28	14.3	14.3	-	-	42.9	7.1	7.1	17.9	-	-
身体障害	3	-	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-
知的障害	8	12.5	12.5	-	-	12.5	-	-	-	-	-
発達障害	6	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-
精神障害	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
高次脳機能障害	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手帳未取得	13	15.4	15.4	-	-	61.5	15.4	7.7	30.8	-	-

	回答者数(n)	無回答
全体	28	3.6
身体障害	3	-
知的障害	8	-
発達障害	6	-
精神障害	1	-
高次脳機能障害	1	-
難病(特定疾病)	-	-
手帳未取得	13	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(5) 虐待場面に遭遇した経験

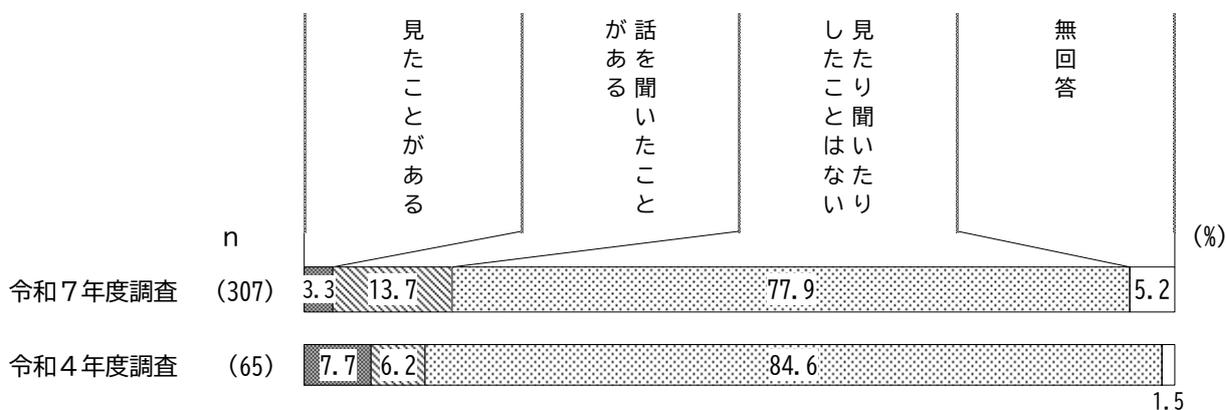
問21 お子さんの身の回りで、障害者に対する虐待を見たり聞いたりしたことはありますか。
(1つに○)

虐待場面に遭遇した経験は、「見たり聞いたりしたことはない」が77.9%で最も高く、「話を聞いたことがある」が13.7%、「見たことがある」が3.3%が続いている。

前回調査と比較すると、「話を聞いたことがある」は7.5ポイント増加している。

障害別にみると、いずれの障害も「見たり聞いたりしたことはない」が最も高くなっている。

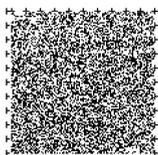
<図表Ⅱ-41-1 虐待場面に遭遇した経験（全体）>



<図表Ⅱ-41-2 虐待場面に遭遇した経験（障害別）>

	回答者数 (n)	見たことがある	話を聞いたことがある	見たり聞いたりしたことはない	無回答
単位：%					
全体	307	3.3	13.7	77.9	5.2
身体障害	34	8.8	26.5	58.8	5.9
知的障害	67	7.5	14.9	74.6	3.0
発達障害	56	12.5	14.3	67.9	5.4
精神障害	6	16.7	16.7	66.7	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	50.0	-
難病（特定疾病）	9	-	22.2	77.8	-
手帳未取得	162	0.6	9.3	85.8	4.3

※回答数 (n)が30未満の項目は参考値とする。



(6) 障害者虐待防止法の認知度

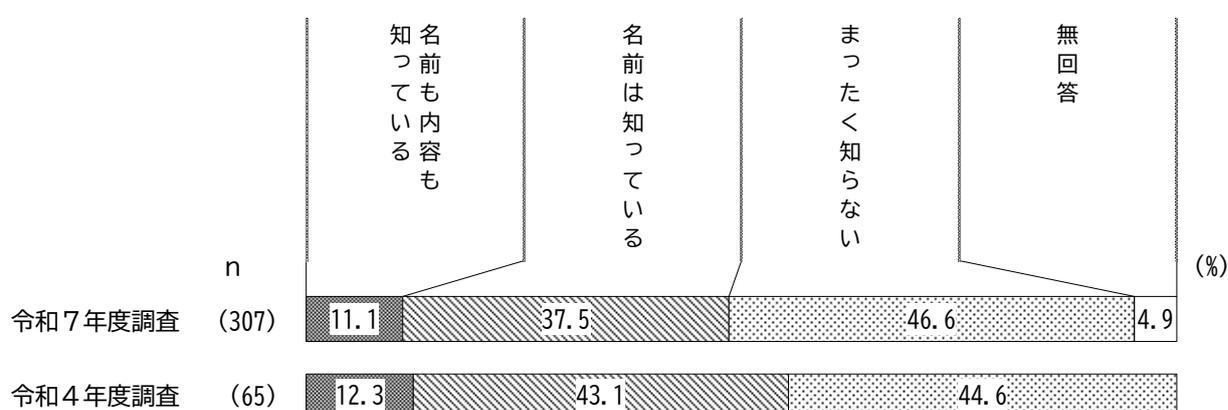
問22 障害者への虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取り組み等を定めた「障害者虐待防止法」について知っていますか。(1つに○)

障害者虐待防止法の認知度は、「名前も内容も知っている」の11.1%と「名前は知っている」の37.5%をあわせた『知っている』が48.6%となっている。

前回調査と比較すると、「名前は知っている」が5.6ポイント減少している。

障害別にみると、『知っている』は、身体障害が67.7%で最も高く、知的障害が65.7%、発達障害が53.6%、手帳未取得が39.5%で続いている。

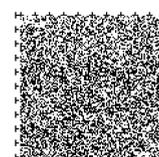
<図表Ⅱ-42-1 障害者虐待防止法の認知度(全体)>



<図表Ⅱ-42-2 障害者虐待防止法の認知度(障害別)>

	回答者数(n)	知っている (%)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	307	48.6	11.1	37.5	46.6	4.9
身体障害	34	67.7	26.5	41.2	26.5	5.9
知的障害	67	65.7	20.9	44.8	31.3	3.0
発達障害	56	53.6	17.9	35.7	41.1	5.4
精神障害	6	33.3	33.3	33.3	33.3	-
高次脳機能障害	2	100.0	100.0	-	-	-
難病(特定疾病)	9	33.3	33.3	55.6	11.1	-
手帳未取得	162	39.5	8.0	31.5	57.4	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(7) 障害者虐待防止センターの認知度

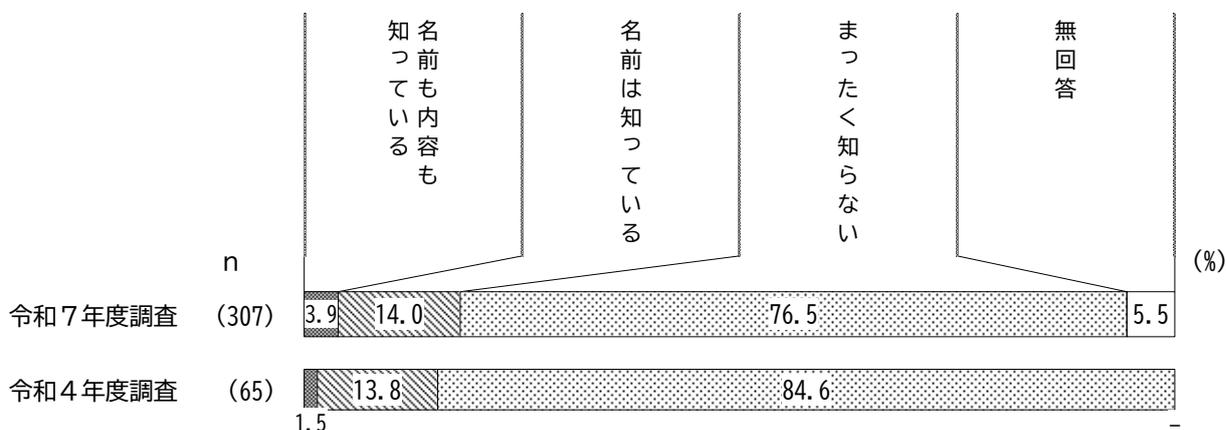
問23 「障害者虐待防止法」の施行をうけ、区では虐待防止に関する24時間対応の相談や一時的な保護の提供等を行う「障害者虐待防止センター」を開設しています。このことについて知っていますか。(1つに○)

障害者虐待防止センターの認知度は、「名前も内容も知っている」の3.9%と「名前は知っている」の14.0%をあわせた『知っている』が17.9%となっている。

前回調査と比較すると、「まったく知らない」が8.1ポイント減少している。

障害別にみると、『知っている』は、知的障害が31.3%で最も高く、身体障害が26.4%、発達障害が23.2%、手帳未取得が13.6%で続いている。

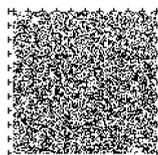
<図表Ⅱ-43-1 障害者虐待防止センターの認知度(全体)>



<図表Ⅱ-43-2 障害者虐待防止センターの認知度(障害別)>

	回答者数(n)	名前も内容も知っている	名前は知っている	まったく知らない	無回答
全体	307	3.9	14.0	76.5	5.5
身体障害	34	8.8	17.6	64.7	8.8
知的障害	67	10.4	20.9	65.7	3.0
発達障害	56	8.9	14.3	71.4	5.4
精神障害	6	33.3	16.7	50.0	-
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	-	-
難病(特定疾病)	9	11.1	11.1	77.8	-
手帳未取得	162	2.5	11.1	83.3	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(8) 障害者差別解消法の認知度

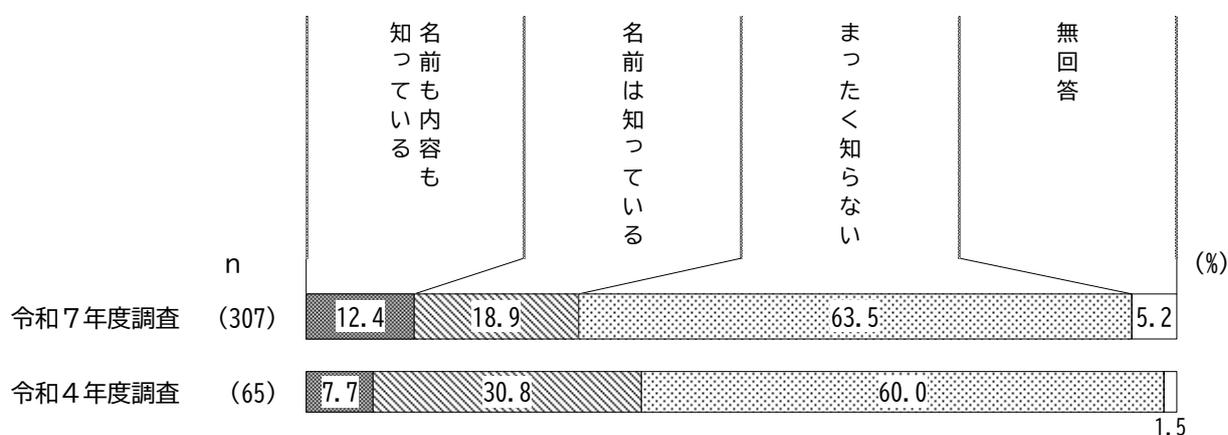
問24 障害者に対する「不当な差別的取扱い」や「合理的配慮の不提供」の禁止について規定した「障害者差別解消法」を知っていますか。(1つに○)

障害者差別解消法の認知度は、「名前も内容も知っている」の12.4%と「名前は知っている」の18.9%をあわせた『知っている』が31.3%となっている。

前回調査と比較すると、「名前は知っている」は11.9ポイント減少している。

障害別にみると、『知っている』は、知的障害が44.8%で最も高く、発達障害が39.3%、身体障害が35.3%、手帳未取得が27.2%で続いている。

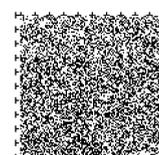
<図表Ⅱ-44-1 障害者差別解消法の認知度（全体）>



<図表Ⅱ-44-2 障害者差別解消法の認知度（障害別）>

	回答者数 (n)	知っている (%)	名前も内容も知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	307	31.3	12.4	63.5	5.2
身体障害	34	35.3	26.5	55.9	8.8
知的障害	67	44.8	22.4	52.2	3.0
発達障害	56	39.3	17.9	55.4	5.4
精神障害	6	33.3	33.3	50.0	-
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	50.0	-
難病（特定疾病）	9	66.7	33.3	66.7	-
手帳未取得	162	27.2	7.4	69.8	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(9) 障害を理由とする差別を受けた経験

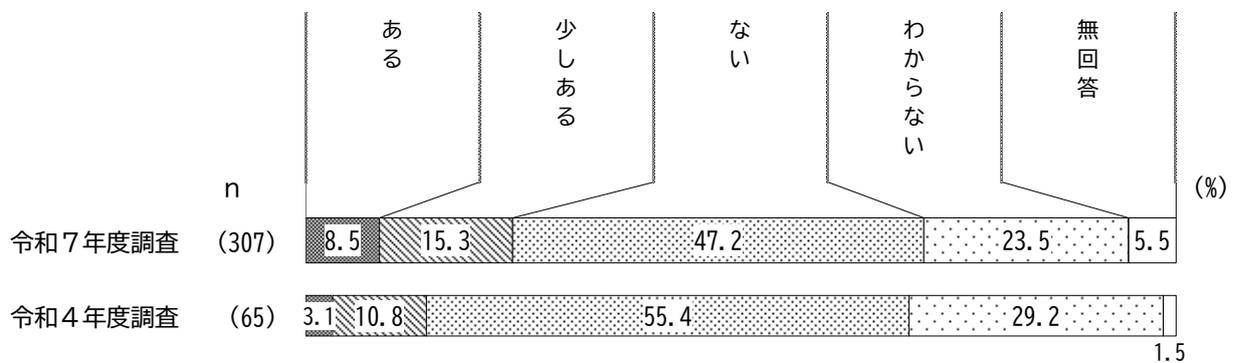
問25 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたことがありますか。(1つに○)

障害を理由とする差別を受けた経験は、「ある」の8.5%と「少しある」の15.3%をあわせた『ある』が23.8%で、「ない」が47.2%となっている。

前回調査と比較すると、『ある』が、9.9ポイント増加している。

障害別にみると、『ある』は、身体障害が50.0%で最も高く、知的障害が47.7%、発達障害が44.6%、手帳未取得が11.7%で続いている。

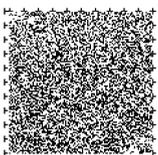
<図表Ⅱ-45-1 障害を理由とする差別を受けた経験(全体)>



<図表Ⅱ-45-2 障害を理由とする差別を受けた経験(障害別)>

	回答者数 (n)	ある	少しある	ない	わからない	無回答
単位：%						
全体	307	8.5	15.3	47.2	23.5	5.5
身体障害	34	29.4	20.6	20.6	20.6	8.8
知的障害	67	14.9	32.8	22.4	26.9	3.0
発達障害	56	12.5	32.1	23.2	26.8	5.4
精神障害	6	16.7	33.3	33.3	16.7	-
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	-	-	-
難病(特定疾病)	9	11.1	33.3	11.1	44.4	-
手帳未取得	162	4.3	7.4	61.7	22.8	3.7

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(10) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面

【問25-1と問25-2は、問25で「1.ある」または「2.少しある」に○をした方におたずねします。】

問25-1 どのようなときに不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じますか。

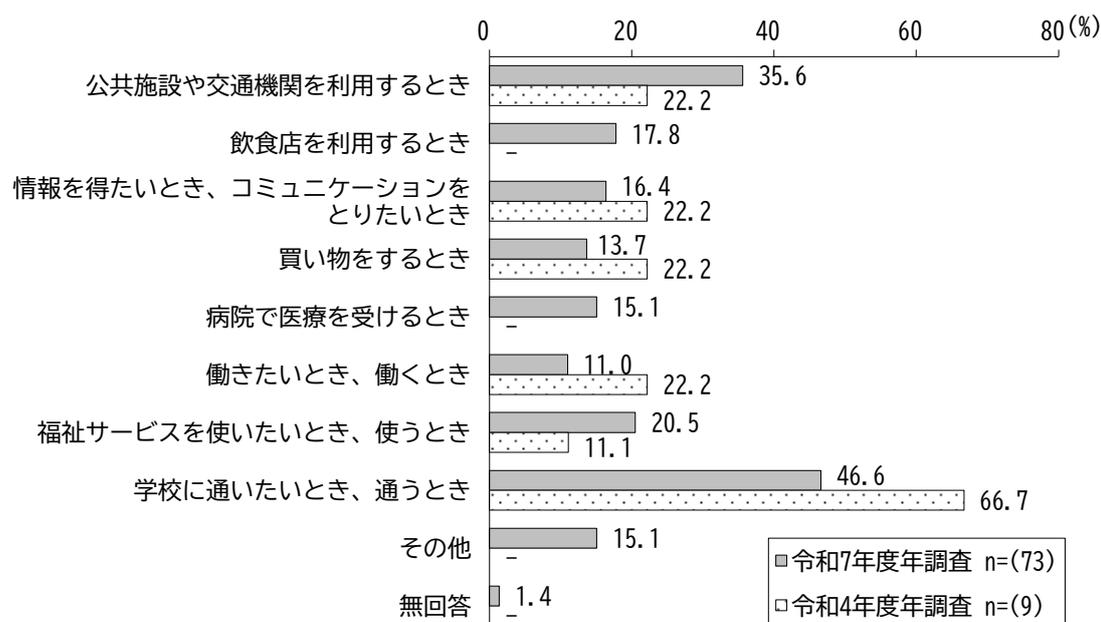
(あてはまるものすべてに○)

不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面は、「学校に通いたいとき、通うとき」が46.6%で最も高く、「公共施設や交通機関を利用するとき」が35.6%、「福祉サービスを使いたいとき、使うとき」が20.5%で続いている。

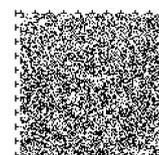
前回調査と比較すると、「公共施設や交通機関を利用するとき」、「病院で医療を受けるとき」、「福祉サービスを使いたいとき、使うとき」が増加している。

障害別にみると、知的障害では「公共施設や交通機関を利用するとき」が59.4%で最も高くなっている。

<図表Ⅱ-46-1 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「飲食店を利用するとき」が追加された。

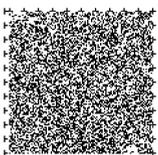


第2章 調査の結果

<図表Ⅱ-46-2 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面（障害別）>

	回答者数（n）	公共施設や交通機関を利用するとき	飲食店を利用するとき	情報を得たいとき、コミュニケーションをとりたいとき	買い物をするとき	病院で医療を受けるとき	働きたいとき、働くとき	福祉サービスを使いたいとき、使うとき	学校に通いたいとき、通うとき	その他	無回答
全体	73	35.6	17.8	16.4	13.7	15.1	11.0	20.5	46.6	15.1	1.4
身体障害	17	58.8	35.3	23.5	17.6	11.8	5.9	17.6	23.5	5.9	-
知的障害	32	59.4	37.5	15.6	31.3	25.0	15.6	18.8	31.3	12.5	-
発達障害	25	52.0	36.0	28.0	32.0	28.0	16.0	28.0	32.0	16.0	-
精神障害	3	66.7	66.7	66.7	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	-
高次脳機能障害	2	100.0	50.0	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	-	-
難病（特定疾病）	4	75.0	50.0	25.0	-	-	25.0	-	25.0	-	-
手帳未取得	19	15.8	-	10.5	-	-	15.8	26.3	68.4	21.1	5.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



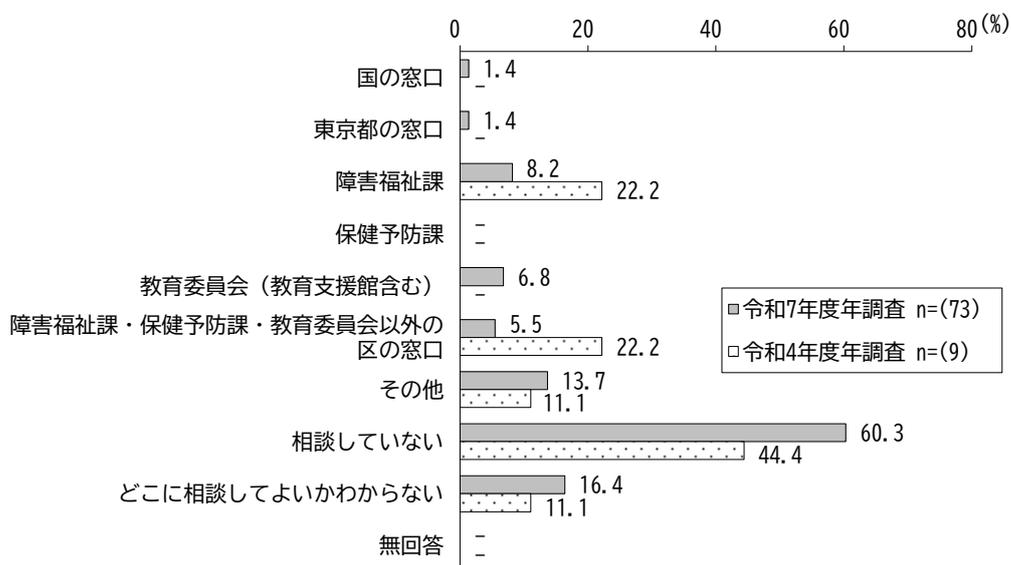
(11) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先

【問25-1と問25-2は、問25で「1.ある」または「2.少しある」に○をした方におたずねします。】
 問25-2 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときに、どこに相談しましたか。
 (あてはまるものすべてに○)

不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先は、全体から「相談していない」の60.3%と「どこに相談してよいかわからない」の16.4%を除いた23.3%が何らかの相談をしており、「障害福祉課」が8.2%で最も高く、「教育委員会（教育支援館含む）」が6.8%、「障害福祉課・保健予防課・教育委員会以外の区の窓口」が5.5%で続いている。

障害別にみると、知的障害では「相談していない」が62.5%と最も高くなっている。

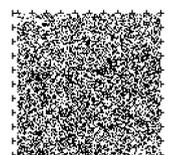
<図表Ⅱ-47-1 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先（全体）>



<図表Ⅱ-47-2 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先（障害別）>

	回答者数 (n)	国の窓口	東京都の窓口	障害福祉課	保健予防課	(教育委員会 教育支援館含む)	外防障 の課害 の区・福 窓社 口教 口委 員 会 以 予	その他	相談 して いな い	かど こに 相 談 し て よ い	無 回 答
全体	73	1.4	1.4	8.2	-	6.8	5.5	13.7	60.3	16.4	-
身体障害	17	-	-	5.9	-	5.9	5.9	5.9	64.7	17.6	-
知的障害	32	-	-	12.5	-	9.4	6.3	12.5	62.5	12.5	-
発達障害	25	-	-	12.0	-	8.0	4.0	12.0	52.0	20.0	-
精神障害	3	-	-	33.3	-	33.3	-	33.3	33.3	-	-
高次脳機能障害	2	-	-	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-	-
難病（特定疾病）	4	-	-	-	-	-	-	-	75.0	25.0	-
手帳未取得	19	5.3	5.3	5.3	-	5.3	5.3	15.8	68.4	10.5	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



11. 災害・緊急時のことについて

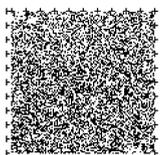
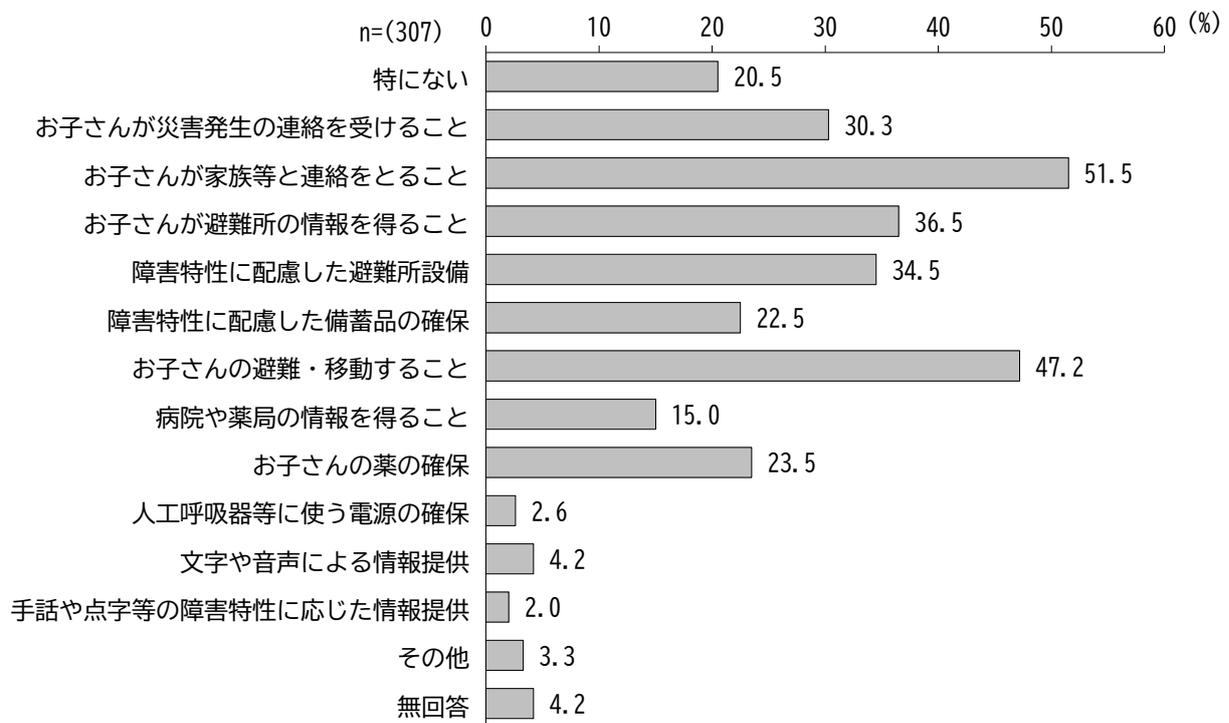
(1) 災害時の困難・不安

問26 災害（地震等）が発生したときに、お子さんにとって困ることや不安に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

災害時に困ることや不安としては、「お子さんが家族等と連絡をとること」が51.5%で最も高く、「お子さんの避難・移動すること」が47.2%、「お子さんが避難所の情報を得ること」が36.5%で続いている。

障害別にみると、身体障害、知的障害、発達障害では「お子さんの避難・移動すること」が、手帳未取得では「お子さんが家族等と連絡をとること」が最も高くなっている。

<図表Ⅱ-48-1 災害時の困難・不安（全体）>

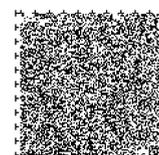


<図表Ⅱ-48-2 災害時の困難・不安（障害別）>

	回答者数 (n)	特 に な い	お 子 さ ん が 災 害 発 生 の 連 絡 を 受 け る こ と	お 子 さ ん が 家 族 等 と 連 絡 を と る こ と	お 子 さ ん が 避 難 所 の 情 報 を 得 る こ と	障 害 特 性 に 配 慮 し た 避 難 所 設 備	障 害 特 性 に 配 慮 し た 備 蓄 品 の 確 保	お 子 さ ん の 避 難 ・ 移 動 す る こ と	病 院 や 薬 局 の 情 報 を 得 る こ と	お 子 さ ん の 薬 の 確 保	人 工 呼 吸 器 等 に 使 う 電 源 の 確 保
全体	307	20.5	30.3	51.5	36.5	34.5	22.5	47.2	15.0	23.5	2.6
身体障害	34	2.9	35.3	47.1	35.3	58.8	55.9	76.5	29.4	52.9	17.6
知的障害	67	6.0	44.8	68.7	58.2	74.6	46.3	71.6	34.3	34.3	6.0
発達障害	56	14.3	37.5	64.3	57.1	69.6	50.0	69.6	37.5	32.1	7.1
精神障害	6	-	50.0	66.7	50.0	100.0	33.3	100.0	83.3	50.0	-
高次脳機能障害	2	-	-	50.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0
難病（特定疾病）	9	-	33.3	55.6	44.4	100.0	88.9	100.0	44.4	44.4	33.3
手帳未取得	162	29.0	24.1	43.2	25.9	17.9	10.5	36.4	6.8	18.5	-

	回答者数 (n)	文 字 や 音 声 に よ る 情 報 提 供	手 話 や 点 字 等 の 障 害 特 性 に 応 じ た 情 報 提 供	そ の 他	無 回 答
全体	307	4.2	2.0	3.3	4.2
身体障害	34	5.9	8.8	-	5.9
知的障害	67	9.0	3.0	6.0	3.0
発達障害	56	7.1	1.8	7.1	5.4
精神障害	6	16.7	-	16.7	-
高次脳機能障害	2	-	-	-	-
難病（特定疾病）	9	-	11.1	-	-
手帳未取得	162	3.1	0.6	3.7	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



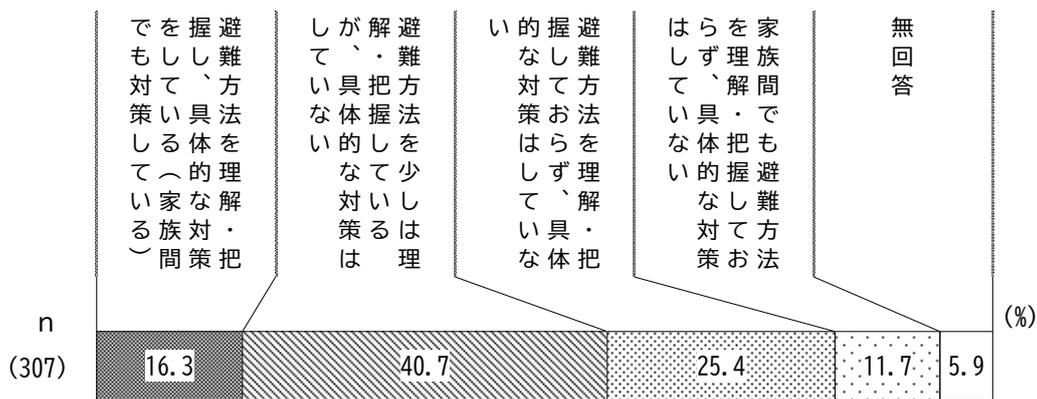
(2) 災害時の避難方法の理解・把握

問27 お子さんは、災害（地震等）が発生したときの避難方法を理解・把握していますか。
（1つに○）

災害時の避難方法の理解・把握は、「避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない」が40.7%で最も高く、「避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない」が25.4%、「避難方法を理解・把握し、具体的な対策をしている（家族間でも対策している）」が16.3%で続いている。

障害別にみると、身体障害、知的障害では「避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない」が、発達障害、手帳未取得では「避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない」が最も高くなっている。

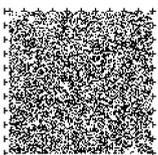
<図表Ⅱ-49-1 災害時の避難方法の理解・把握（全体）>



<図表Ⅱ-49-2 災害時の避難方法の理解・把握（障害別）>

	回答者数 (n)	避難方法を理解・把握し、具体的な対策をしている（家族間でも対策している）	避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない	避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない	無回答	無回答
全体	307	16.3	40.7	25.4	11.7	5.9
身体障害	34	26.5	20.6	35.3	8.8	8.8
知的障害	67	11.9	31.3	38.8	10.4	7.5
発達障害	56	14.3	33.9	30.4	14.3	7.1
精神障害	6	33.3	33.3	16.7	16.7	-
高次脳機能障害	2	-	-	-	50.0	50.0
難病（特定疾病）	9	22.2	-	66.7	11.1	-
手帳未取得	162	17.3	46.9	20.4	12.3	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



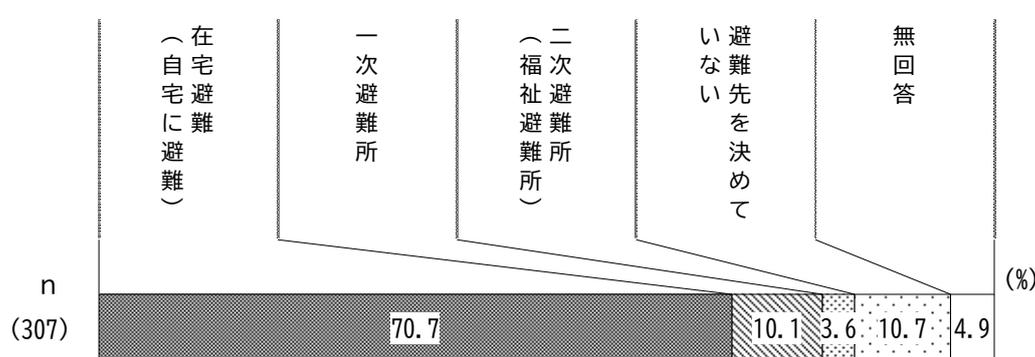
(3) 災害時の希望避難場所

問28 あなたは、災害（地震等）が発生した時に、お子さんと、どこに避難したいですか。
（1つに○）

災害時の希望避難場所は、「在宅避難（自宅に避難）」が70.7%で最も高く、「避難先を決めていない」が10.7%、「一次避難所」が10.1%が続いている。

障害別にみると、いずれの障害も「在宅避難（自宅に避難）」が最も高くなっている。

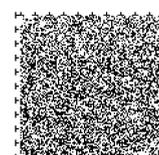
<図表Ⅱ-50-1 災害時の希望避難場所（全体）>



<図表Ⅱ-50-2 災害時の希望避難場所（障害別）>

	回答者数 (n)	在宅避難（自宅に避難）	一次避難所	二次避難所（福祉避難所）	避難先を決めていない	無回答
全体	307	70.7	10.1	3.6	10.7	4.9
身体障害	34	76.5	8.8	2.9	5.9	5.9
知的障害	67	67.2	13.4	9.0	7.5	3.0
発達障害	56	69.6	7.1	8.9	8.9	5.4
精神障害	6	83.3	-	-	16.7	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	50.0	-
難病（特定疾病）	9	77.8	-	11.1	11.1	-
手帳未取得	162	75.3	11.1	0.6	9.9	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



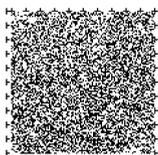
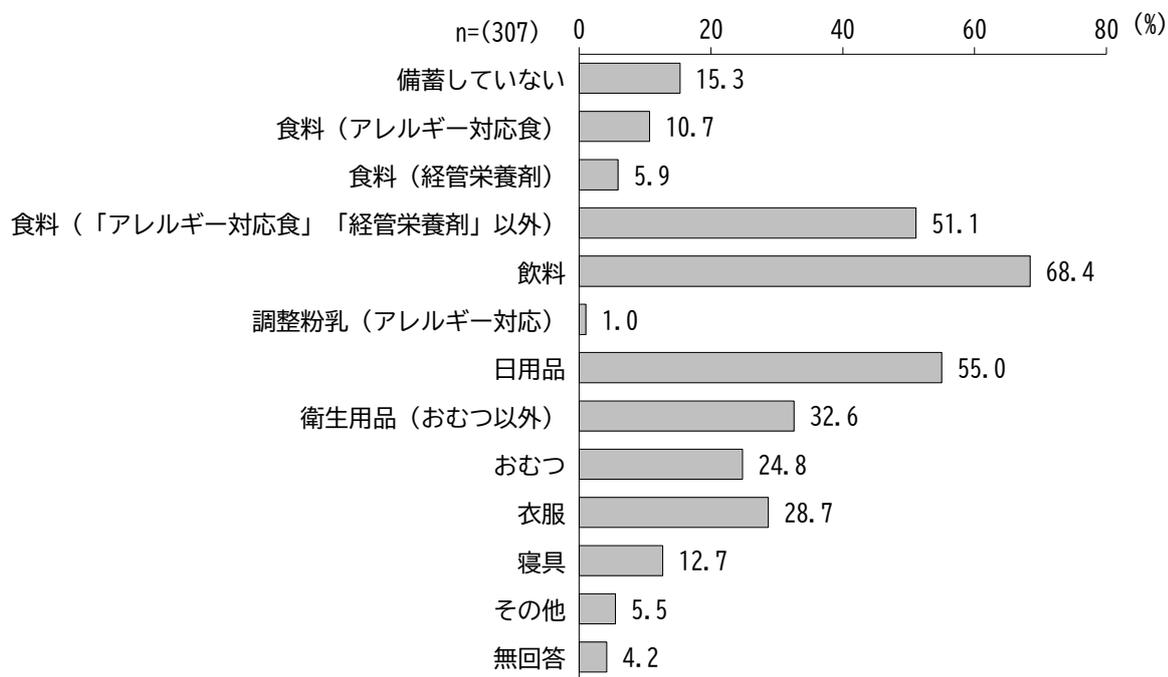
(4) 災害対応用の備蓄物資

問29 あなたは、災害（地震等）時に備えて、お子さんに必要なものとして何を備蓄していますか。（あてはまるものすべてに○）

災害対応用の物資を備蓄している割合（全体から「備蓄していない」と無回答を引いたもの）は80.5%となっている。備蓄物資としては、「飲料」が68.4%で最も高く、「日用品」が55.0%、「食料（「アレルギー対応食」「経管栄養剤」以外）」が51.1%で続いている。

障害別にみると、いずれの障害も「飲料」が最も高くなっている。

<図表Ⅱ-51-1 災害対応用の備蓄物資（全体）>

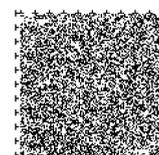


<図表Ⅱ-51-2 災害対応用の備蓄物資（障害別）>

	回答者数 (n)	備蓄していない	食料 (アレルギー対応食)	食料 (経管栄養剤)	食料 (「アレルギー対応食」 「経管栄養剤」以外)	飲料	調整粉乳 (アレルギー対応)	日用品	衛生用品 (おむつ以外)	おむつ	衣服
単位：%											
全体	307	15.3	10.7	5.9	51.1	68.4	1.0	55.0	32.6	24.8	28.7
身体障害	34	11.8	20.6	20.6	38.2	64.7	-	50.0	29.4	52.9	41.2
知的障害	67	20.9	14.9	7.5	47.8	62.7	-	55.2	37.3	38.8	29.9
発達障害	56	26.8	17.9	10.7	41.1	51.8	-	48.2	28.6	30.4	25.0
精神障害	6	-	16.7	-	83.3	100.0	-	83.3	33.3	16.7	50.0
高次脳機能障害	2	-	-	-	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0
難病（特定疾病）	9	11.1	11.1	33.3	66.7	88.9	-	55.6	55.6	88.9	55.6
手帳未取得	162	10.5	8.0	3.7	57.4	77.8	0.6	58.0	35.8	18.5	28.4

	回答者数 (n)	寝具	その他	無回答
単位：%				
全体	307	12.7	5.5	4.2
身体障害	34	17.6	14.7	5.9
知的障害	67	11.9	4.5	3.0
発達障害	56	10.7	7.1	5.4
精神障害	6	16.7	33.3	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	-
難病（特定疾病）	9	11.1	22.2	-
手帳未取得	162	13.0	2.5	3.1

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



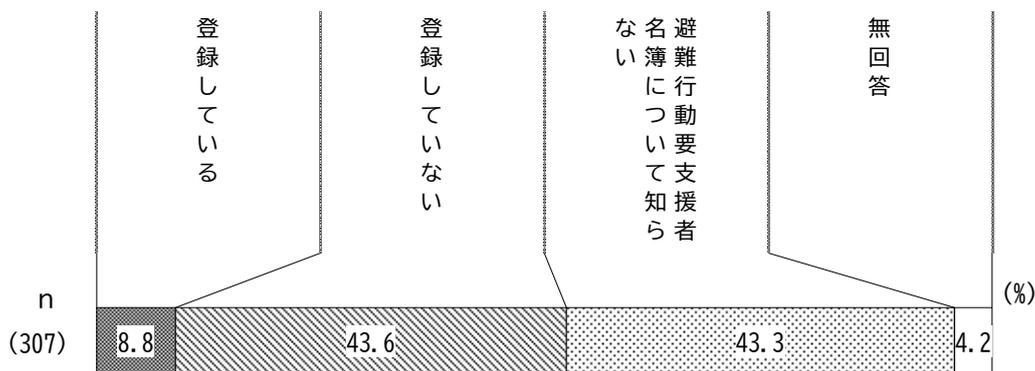
(5) 避難行動要支援者名簿の登録状況

問30 お子さんを、避難行動要支援者名簿に登録していますか。(1つに○)

避難行動要支援者名簿の登録状況は、「登録していない」が43.6%で最も高く、次いで「避難行動要支援者名簿について知らない」が43.3%となっている。

障害別にみると、身体障害では「登録している」が41.2%で最も高くなっている。

<図表Ⅱ-52-1 避難行動要支援者名簿の登録状況(全体)>

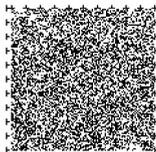


<図表Ⅱ-52-2 避難行動要支援者名簿の登録状況(障害別)>

	回答者数 (n)	登録している	登録していない	避難行動要支援者名簿について知らない	無回答
全体	307	8.8	43.6	43.3	4.2
身体障害	34	41.2	26.5	26.5	5.9
知的障害	67	25.4	35.8	35.8	3.0
発達障害	56	19.6	41.1	33.9	5.4
精神障害	6	50.0	16.7	33.3	-
高次脳機能障害	2	100.0	-	-	-
難病(特定疾病)	9	66.7	22.2	11.1	-
手帳未取得	162	-	43.8	53.1	3.1

単位: %

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



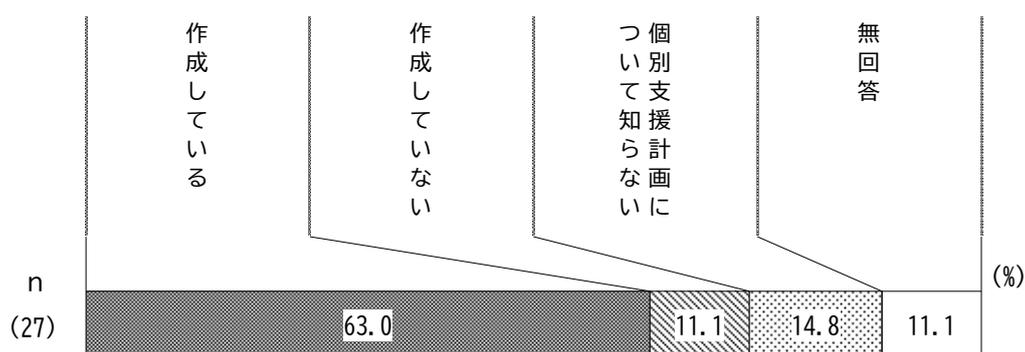
(6) 個別支援計画の作成状況

【問30で「1.登録している」に○をした方におたずねします。】

問30-1 お子さんの個別支援計画を作成していますか。(1つに○)

個別支援計画の作成状況は、「作成している」が63.0%で最も高く、「個別支援計画について知らない」が14.8%、「作成していない」が11.1%で続いている。

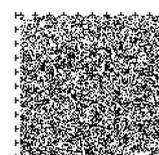
<図表Ⅱ-53-1 個別支援計画の作成状況(全体)>



<図表Ⅱ-53-2 個別支援計画の作成状況(障害別)>

障害別	回答者数 (n)	作成している (%)	作成していない (%)	個別支援計画について知らない (%)	無回答 (%)
全体	27	63.0	11.1	14.8	11.1
身体障害	14	71.4	14.3	-	14.3
知的障害	17	70.6	-	17.6	11.8
発達障害	11	63.6	9.1	18.2	9.1
精神障害	3	66.7	33.3	-	-
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	50.0
難病(特定疾病)	6	83.3	-	16.7	-
手帳未取得	-	-	-	-	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



12. 台東区への要望等について

(1) 障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策

問31 お子さんが地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

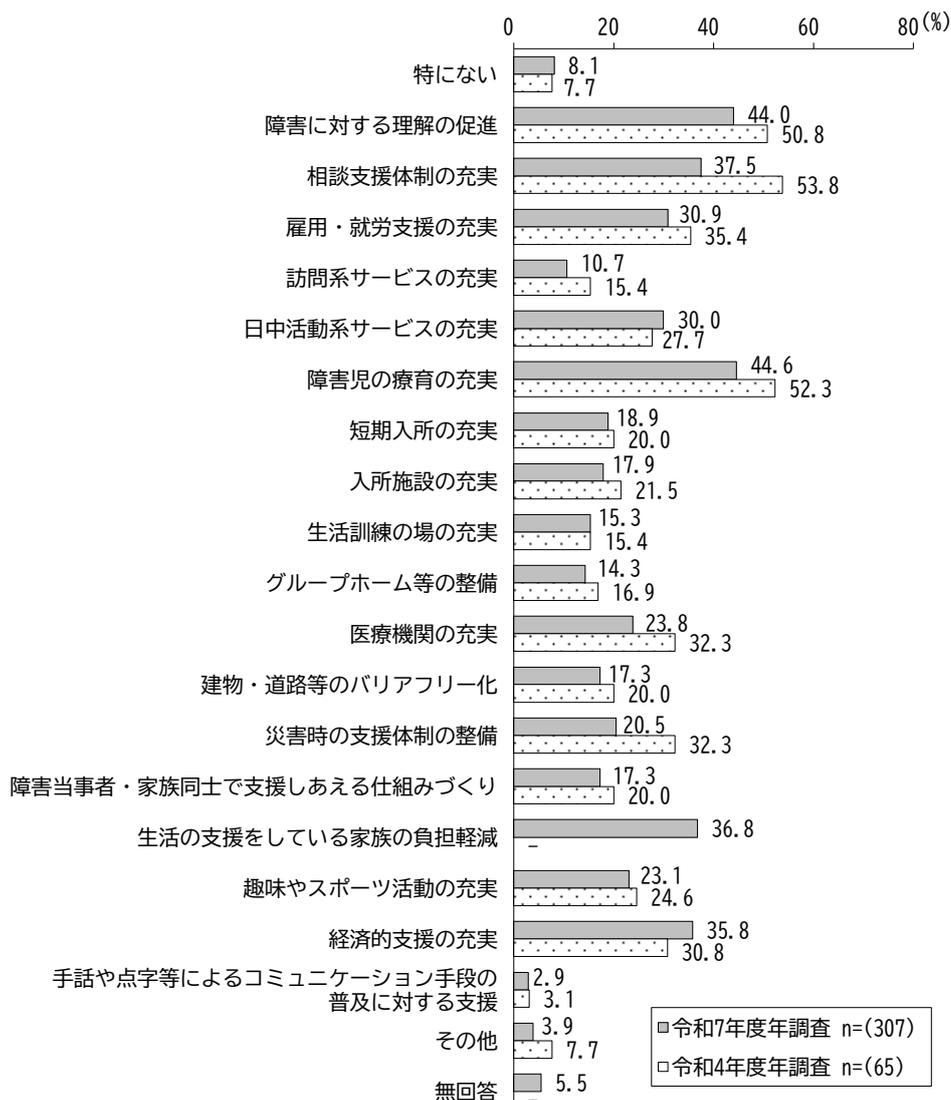
障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策は、「障害児の療育の充実」44.6%が最も高く、「障害に対する理解の促進」が44.0%、「相談支援体制の充実」が37.5%で続いている。

前回調査と比較すると、「日中活動系サービスの充実」、「経済的支援の充実」が増加している。

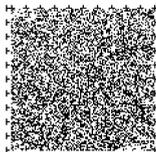
障害別にみると、身体障害、知的障害、発達障害では「障害に対する理解の促進」、手帳未取得では「障害児の療育の充実」が最も高くなっている。

年齢別にみると、中高生の「障害に対する理解の促進」が55.7%で最も高くなっている。

<図表Ⅱ-54-1 障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（全体）>



※令和7年度調査より、選択肢「生活の支援をしている家族の負担軽減」が追加された。



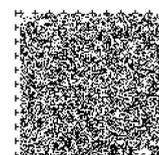
<図表Ⅱ-54-2 障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（障害別）>

	回答者数 (n)	特 に な い	障 害 に 対 す る 理 解 の 促 進	実 相 談 支 援 体 制 の 充	充 雇 用 ・ 就 労 支 援 の	充 訪 問 系 サ ー ビ ス の	日 中 活 動 系 サ ー ビ ス の 充 実	実 障 害 児 の 療 育 の 充	短 期 入 所 の 充 実	入 所 施 設 の 充 実	実 生 活 訓 練 の 場 の 充
全体	307	8.1	44.0	37.5	30.9	10.7	30.0	44.6	18.9	17.9	15.3
身体障害	34	-	55.9	26.5	20.6	38.2	52.9	44.1	50.0	44.1	14.7
知的障害	67	3.0	64.2	44.8	49.3	23.9	52.2	53.7	44.8	40.3	37.3
発達障害	56	3.6	66.1	50.0	46.4	23.2	46.4	62.5	41.1	37.5	33.9
精神障害	6	-	83.3	66.7	50.0	16.7	66.7	83.3	50.0	16.7	66.7
高次脳機能障害	2	-	50.0	50.0	-	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0	50.0
難病（特定疾病）	9	-	66.7	55.6	33.3	55.6	55.6	66.7	66.7	77.8	44.4
手帳未取得	162	12.3	34.6	37.7	24.1	3.7	21.6	43.8	8.0	6.2	9.3

	回答者数 (n)	備 グ ル ー プ ホ ー ム 等 の 整	医 療 機 関 の 充 実	フ 建 物 ・ 道 路 等 の バ リ ア ー 化	備 災 害 時 の 支 援 体 制 の 整	づ で 支 援 し あ え る 仕 組 み づ く り	家 族 の 負 担 軽 減	生 活 の 支 援 を し て い る	充 趣 味 や ス ポ ー ツ 活 動 の	経 済 的 支 援 の 充 実	の 普 及 に 対 す る 支 援 手 段 の 充 実	手 話 や 点 字 等 に よ る コ ミュ ニ ケー ション 手 段 の 充 実	そ の 他
全体	307	14.3	23.8	17.3	20.5	17.3	36.8	23.1	35.8	2.9	3.9		
身体障害	34	20.6	23.5	47.1	41.2	26.5	52.9	14.7	47.1	8.8	2.9		
知的障害	67	34.3	29.9	25.4	34.3	31.3	47.8	28.4	49.3	6.0	4.5		
発達障害	56	25.0	28.6	23.2	37.5	32.1	50.0	25.0	44.6	7.1	1.8		
精神障害	6	-	50.0	16.7	50.0	66.7	50.0	33.3	66.7	16.7	-		
高次脳機能障害	2	-	50.0	50.0	50.0	100.0	100.0	-	100.0	-	-		
難病（特定疾病）	9	44.4	44.4	66.7	44.4	44.4	77.8	11.1	44.4	-	-		
手帳未取得	162	4.9	19.1	9.9	11.7	12.3	30.2	24.1	30.2	1.2	4.3		

	回答者数 (n)	無 回 答
全体	307	5.5
身体障害	34	8.8
知的障害	67	4.5
発達障害	56	5.4
精神障害	6	-
高次脳機能障害	2	-
難病（特定疾病）	9	-
手帳未取得	162	4.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



第2章 調査の結果

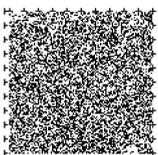
<図表Ⅱ-54-3 障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（年齢別）>

	回答者数（n）	特 に な い	進 障 害 に 対 す る 理 解 の 促	相 談 支 援 体 制 の 充 実	雇 用 ・ 就 労 支 援 の 充 実	訪 問 系 サ ー ビ ス の 充 実	日 中 活 動 系 サ ー ビ ス の 充 実	障 害 児 の 療 育 の 充 実	短 期 入 所 の 充 実	入 所 施 設 の 充 実	生 活 訓 練 の 場 の 充 実
単位：%											
全 体	307	8.1	44.0	37.5	30.9	10.7	30.0	44.6	18.9	17.9	15.3
未就学児	101	8.9	37.6	40.6	20.8	10.9	30.7	52.5	14.9	13.9	15.8
就学期	133	8.3	42.9	37.6	30.8	10.5	26.3	43.6	18.8	14.3	14.3
中高生	70	5.7	55.7	32.9	45.7	11.4	35.7	34.3	24.3	30.0	15.7

	回答者数（n）	備 グ ル ー プ ホ ー ム 等 の 整	医 療 機 関 の 充 実	フ 建 物 ・ 道 路 等 の バ リ ア ー 化	備 災 害 時 の 支 援 体 制 の 整	づ 障 害 当 事 者 ・ 家 族 同 士 で 支 援 し あ え る 仕 組 み づ く り	家 族 の 負 担 軽 減	生 活 の 支 援 を し て い る	充 趣 味 や ス ポ ー ツ 活 動 の	経 済 的 支 援 の 充 実	の 普 及 に 対 す る 支 援	手 話 や 点 字 等 に よ る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 手 段	そ の 他
単位：%													
全 体	307	14.3	23.8	17.3	20.5	17.3	36.8	23.1	35.8	2.9	3.9		
未就学児	101	8.9	18.8	14.9	19.8	15.8	35.6	21.8	31.7	2.0	5.9		
就学期	133	9.8	23.3	14.3	18.8	17.3	37.6	21.8	34.6	3.0	3.0		
中高生	70	30.0	31.4	27.1	24.3	18.6	37.1	27.1	44.3	4.3	2.9		

	回答者数（n）	無 回 答
単位：%		
全 体	307	5.5
未就学児	101	5.0
就学期	133	6.8
中高生	70	4.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。



(2) 自由意見

問32 その他、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。※ご本人の意見以外にも、ご家族やお近くの方からお聞きしたことなど、どのようなことでもお書きください。

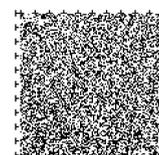
72人の方から、延べ102件の意見があった。

※同一意見などは記載省略しているため、掲載意見数とカッコ内の数字は一致しない。

※原則、原文のまま掲載している。

①サービス、制度について (23件)

年齢	障害	意見、要望
6～8歳	知的障害、発達障害	台東区は他区に比べて、放課後デイサービス事務所、保育所等訪問支援事業所が少なく、利用したくても利用出来ない障害児が多くいます。どうか、その様な児童が少なくなるようにしてください。宜しくお願いします。
6～8歳	—	うちは一人っ子なので、今までグループに入っても同級生がほとんどでしたが、放課後等デイサービスでは年上のお兄さん達と関わったりして、良い刺激になっているようです。1年前はこの様なサービスがあることも知らなかったのもので、大変感謝しています。安心して預けられるのが何よりです。
3～5歳	—	放課後デイサービスがどこも定員オーバーで、週5同じ事務所に入れないと聞いています。また、送迎がなかったり、預かり時間が短いため、仕事との両立ができません。現在、正社員で10年以上勤務していますが、在宅ができない部署のため、仕事を辞めなければいけない状況です。障害児の親はキャリアを捨てて専業主婦か短時間のパートをするしかありません。将来、自分の老後に加え、子供にもお金を残さなければいけないので、このまま正社員で働こうと考えていたのに悔しいです。不安しかありません。また、放デイの情報収集にも苦労しています。さきえーるでは何も役に立ちません。もっと働きやすく、子供のための事業所を見つけやすい、入りやすい環境になることを強く願います。墨田区の方が放デイも多いので、引っ越しも考えています。
3～5歳	音声・言語・そしゃく機能障害、知的障害、発達障害	ほうらいでのいっとき保育が利用できないためシッターの時間が288時間でも足りなく負担が発生しているため、改善したい。
6～8歳	知的障害、その他	学習の支援をしてくれる放課後デイサービスを増やして欲しいです。
3～5歳	—	松が谷福祉会館こども療育室で発達検査を行っていただけることを大変ありがたく思います。民間療育にも通うことができ、通常の園でも著しいトラブルを起こさずに済んでいるように思われます。就学以降の対応について検討中ですが、必ずしも医師による確定診断がなくても放課後デイサービスを利用可能なような形態がもし可能であれば、ありがたいと感じております。



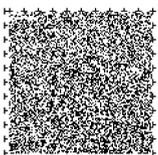
第2章 調査の結果

②施設、設備の充実について（8件）

年齢	障害	意見、要望
3～5歳	知的障害	我が子が離乳食の進みが遅く、区にもし療育園があれば通わせてみたかったです。
15～17歳	視覚障害、肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）、知的障害	台東区内の生活介護に通いたいですが、親が歳を取るの、グループホームで生活しながら通えるのが子供にとって幸せだと思います。施設が充実するとありがたいです。
3～5歳	—	専門的な療育施設が少ない。医療的な発達相談を定期的にできるクリニックが少ない。
0～2歳	視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害、肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）、知的障害、発達障害、精神障害、高次脳機能障害、難病（特定疾病）	台東区には重度障害児の療育施設や病院、学校、預かり先が少なく、隣やそれ以外の区のお世話になることが多々あります。どれか1つでもあると嬉しいので、下谷小学校の跡地が高齢者や子供のリハビリ施設になったらいいなと思っています。短期入所の施設とリハビリが1番ありがたいです。よろしくお願いします。

③情報提供、相談支援体制について（17件）

年齢	障害	意見、要望
6～8歳	—	下の子も療育に通っています。松が谷の親子グループには、発達の度合い的には入れず、民間の事業所を利用していますが、行政側からのアドバイスも欲しいと思っています。軽めの子も気軽に相談出来るような場所もあると嬉しいです。
12～14歳	—	支援が必要な状態なのに、適切な支援がわからず、そこにかかる費用も大きい。小学生の成長する大事な時期なので、必要な事をやらせたいが、何が必要なのか、どういう支援が一番良いのか、具体的なアドバイスをしてくれる所がなく、何の知識もない親が手探り状態で、選択してやっている。病院も途中から自費になり、気軽に相談出来なくなる。
6～8歳	無回答	子供の発達支援が就学と同時に終了し、支援の手がぷつりと途絶えてしまうことを改善して欲しいです（もう遅いですが）。福祉から教育に管理区分が変わるのかもしれませんが、シームレスに相談出来る人がいてくれたら良かったのと思っています。子はひきこもってしまい、不登校で、外に出るのを恐れるようになりました。学校以外に、家以外に安心出来る場所を作るのを助けて欲しいです。
6～8歳	知的障害	全てのサービスについて知れていない不安はあります。友人を伝ってくる情報が多く、もっと積極的に色んなサービスの開示をして頂きたい。英語版があれば助かります。パンフレット等を頂いていますが、どれが適用できるか具体的なアドバイスがございましたらお願いしたいです。
3～5歳	—	我が子に発達障害がある、と診断まで欲しいとは思ってないです。しかしながらこのまま育てていくことも不安です。こういった状況の方と情報交換したいです。孤独に感じます。



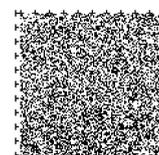
年齢	障害	意見、要望
6～8歳	—	生活の場である学校の先生の障害理解が深まるとありがたいです。また情報がなく、現在も手探りで子供に合う環境を整えています。定期的に情報発信していただきたいです。相談先はあってもコーディネートするのは親です。調整してくれる方がいるとありがたいです。色々な場所で何十回と同じお話をしており、大変に感じました。
3～5歳	知的障害、発達障害	障害福祉系のサービスに関しては、シニア層の介護と一緒にしている事が多く、もっと障害児に向けたサポートが必要ではないかと感じています。シニア向けのものが殆どで、使いにくいです。児童・発達支援・学校に関しては、普通の子供でもなく、医療的ケアが必要というわけでもない、発達障害児に対するサポートが手薄に感じます。もっと支援内容と支援先がマッチするように、最適化させてほしいです。なにより、縦割りでしか動けない台東区の体制に不満を感じます。(相談支援が機能していない)もっと課を横断して、プッシュ型で情報提供や支援していただけることを望みます。
6～8歳	—	未就学児の頃には松が谷こども療育室での相談や支援が受けられて早期療育を受けることができたが、就学後は支援がなくなってしまい、小学校での困りごとを気軽に相談できる相手がいなくなりました。例えば放デイや支援級についての情報発信や保護者交流会などの開催など就学期以降も継続的に繋がっていくことで進路の選択肢が増えたり、保護者の心のケアにもなると思う。
6～8歳	知的障害、発達障害	就学前に放デイを探しはじめて空きがなく苦勞している方や、手帳の取得の手続きに時間がかかることを知って驚いている方が知人に複数います。子どもの発達に不安を感じて相談をして時点で、利用できるサービスや制度、必要な手続きを時期ごとに体系的に理解できる機会や資料があると助かります。(例えば、松が谷福祉会館で、福祉サービスに関するガイダンスを実施するなど。)

④障害に対する理解について（7件）

年齢	障害	意見、要望
15～17歳	発達障害	発達障害者(児)への理解が少ないので 理解が増える環境がほしい。

⑤経済的問題について（8件）

年齢	障害	意見、要望
3～5歳	発達障害	保育所でてんかんの診断書を提出して欲しい旨のお話を頂き、通院先（大学病院）で記入依頼をしたところ、6千6百円（1通3千3百円×2種類）とのことだった。保育所と連携するための大切な書類であることは分かるので、とても大切なのだが高額なため、毎年となると負担が大きい。区で助成頂きたい。



第2章 調査の結果

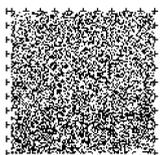
年齢	障害	意見、要望
6～8歳	音声・言語・ そしゃく機能障害、 肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害、発達障害	学童と比較し、放課後デイサービスの料金が高いので、負担の軽減をお願いしたい。また物価高騰によりオムツも値段が上がっており、オムツ券も増やして欲しい。
6～8歳	知的障害、発達障害	各サービスを利用する際、所得制限にかかって利用料金の上限が3万円以上になってしまうことに困っております。特に我が家は学区の問題で放課後等デイサービスの送迎を使えないため移動支援サービスを使っており、その分もお金がかかります。この物価高の世の中でそれほど余裕があるわけではありません。また、子どもに障害があるとイレギュラーも多いため両親ともがフルタイムで働くことも難しいです。所得が一定以下だと4千円台、それを少しでも超えると3万円を超える（しかも利用するサービスごとにかかる）のはあまりにも負担が違いすぎると思います。他の自治体では放課後等デイサービス利用料への補助は一律（所得制限がない）というところもあると聞いています。台東区でも検討いただけないでしょうか。どうぞよろしく願いいたします。

⑥行政の対応について（4件）

年齢	障害	意見、要望
9～11歳	聴覚・平衡機能障害	両親共に仕事をしています。支援学校までは電車で通うのが原則。祖母に送迎をお願いしていた。小学校に上がり、移動支援を利用させてもらったが、役所では冊子を渡され、自分で探すように言われ、全て断られた。2回ずつ連絡したが見つからず、3回目の電話でようやくお願いすることができた。学級に通っているお子さんも、クラブまでのヘルパーさん探しに苦労していると聞きます。見つけるまでのサポートをお願いしたい。電車通学は特に嫌がられます。現状を把握して頂けることを願います。

⑦療育、教育について（21件）

年齢	障害	意見、要望
3～5歳	—	小学校で特別支援学級に進学したとしても、普通級に編入を目指せる支援をお願いしたいと思います。
無回答	無回答	学力面で心配です。放課後の勉強面、補習など行って欲しいです。
6～8歳	—	療育を始めてから母親がそれまでのペースで仕事を続けられなくなった。子どものために仕方ないと割り切ったが、家族の負担が大きいことは問題だと思う。
6～8歳	—	幼児期（3～5歳位まで）に松が谷福祉会館の療育に通っていましたが、子供の今出来る事、出来ない事はたくさん教えてもらいましたが、それに対しての具体的な対処法（例えば、ひらがなを教えてくれる、少しでも書けるようにしてくれるなど）はありませんでした。何か子供にしてあげなければならない事はないですか？と質問しても、このままで大丈夫です、のような回答があったので、特別、他の療育も探すことなく過ごしていました。就学前になって、IQ、DQテストの結果で支援学級をお勧めするという流れになりましたが、納得がいかず、普通学級に進みました。幼児期に松が谷さんの方からその子供に合った他の療育施設を紹介してくれるなり、何かもう少し子供が出来るようになる事をやって頂けていれば、自分の中でも納得出来ていたと思います。何のための療育施設なの??と疑問に思いました。



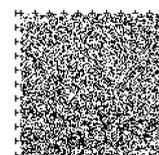
年齢	障害	意見、要望
3～5歳	—	小学校の情緒級が少なすぎるので増やしてほしいです。
6～8歳	—	子供が保育園に通ってる時は、毎週松ヶ谷福祉会館に療育に行っていました。子供達への授業もとても充実していましたが、先生方は皆とても親切で親身になって相談になってくださいました。それが、その当時とても不安だった私には暖かい心のケアになりました。とても感謝しています。今は、小学生になったので松ヶ谷福祉会館ではなく、放課後デイサービスをうけているので、時々松ヶ谷福祉会館の先生方のことを思い出すと心が温まります。
0～2歳	—	息子は未就学児です。日中に行く場所の選択肢が限られており、孤独感や不便さを感じています。児童館や区の遊び場やプレ幼稚園などは、周囲の子供とトラブルを起こしがちで行けません。公園の遊具は対象年齢でなく遊べません。道を普通に歩くお散歩はすぐ逃亡するので危険すぎてできません。力が強くなり、暴れたら怪我をするくらいなので、私と息子だけでの外遊びは無理で、ベビーカーから降ろせません。松が谷の療育室で、遊ぶ日を設けてくださったことがあり、とても良かったです。職員の方の見守りがある中、同じく発達で悩む親子のみがいる場をとても有り難く思いました。うちのようにコミュニケーションが難しい子が日常的に安心して利用できる遊び場がひとつでもあれば、と望んでしまいます。

⑧手続きについて（4件）

年齢	障害	意見、要望
3～5歳	—	どのサービスを利用するにも、いちいち松が谷福祉会館へ行き、対面で書類の提出をする体制を変えて欲しい。電子申請や電話の聞き取りでもOKという形であれば、利用や更新がしやすい。申請者自身が対面で相談しながら書類作成をしたいとか、視覚障害があるとかでフォローが欲しいので対面希望などの理由があれば別だが、申請者が一人で作成し、提出出来るのなら対面でない方式で手続きを済ませたい。
6～8歳	—	受給者証（水色）のみでは福祉サービス、割引などを受けられない事が多く、不便を感じる。アプリ「ミライロ」等にも登録出来ないため、公共サポートの少なさを感じている。未就学児から療育等で支援を受けている人は、小学校に上がる時に、もっと自動でデイサービスなどにエントリーできる簡単な仕組みを考えて欲しい。アプリで申請（希望）ボタンを押せば、就学児に必要な支援へのエントリーができるなど。
6～8歳	発達障害	手帳の更新するのに子供同伴、家に訪問は今は負担になっている。家ではない所、親のみなどに変わって欲しい。

⑨将来の不安について（3件）

年齢	障害	意見、要望
15～17歳	聴覚・平衡機能障害、 肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	親亡き後が心配です。家政婦やヘルパーを雇えばよいですが、一般的な収入では厳しそうです。今ですら福祉サービスは何もありません。安心して生活できるようお願いします。



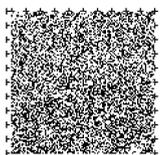
第2章 調査の結果

⑩就労について（1件）

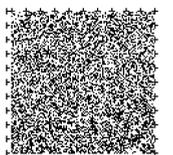
年齢	障害	意見、要望
15～17歳	知的障害、発達障害	区内に特別支援学校がないからなのか（支援級も少な過ぎ）、障害者への地域の方の理解が低いし、医療機関やヘルパー、スポーツ施設、就労先など、他区に比べても利用しにくいし、施設が少な過ぎる。受給者証を取得出来ても、利用出来る事業所を探すことが難しく、何のためのサービスか分からない。家族（特に母親）へのしわよせになるため、改善して欲しい。就労先（B型）ももう少し多人数で、給食（温かい食事）を提供してもらえる事業所がないことがとても残念です。区内より他区に通所してもらいたい気持ちが強くなってしまいます。どうしても比べてしまいがちです。

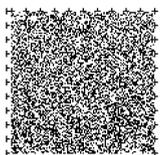
⑪その他（6件）

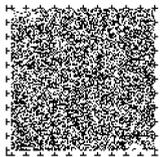
年齢	障害	意見、要望
3～5歳	—	いつも療育施設等を利用させていただき、子どもの発達面で多くのサポートを受けていることに心から感謝しております。ただ一方で、子どもの課題に焦点が当たることが多く、障害児を育てる親自身の精神面に対するフォローの機会がもっと増えるとありがたいと感じています。健常児を育てるママ友とは悩みの内容や性質が異なるため、オープンに相談しづらく孤独を感じることもあります。そのため、特性の似たお子さんを育てる保護者同士が交流できる機会があれば、とても心強く嬉しく思います。



第3章 調査票







問4 あなたがお持ちの手帳の等級はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 身体障害者手帳 (赤色手帳) ⇒ () 級
- 2. 愛の手帳 (療育手帳) (黄色手帳) ⇒ () 度
- 3. 精神障害者保健福祉手帳 (緑色手帳) ⇒ () 級
- 4. 手帳は持っていない → 問5へすすむ

【問4で「1」～「3」(手帳を持っている)に○をした方におたずねします。】

問4-1 あなたがはじめて手帳を取得したのは何歳のときですか。(手帳ごと、1つに○)

0歳までの間	1歳から5歳までの間	6歳から17歳まで	18歳から29歳まで	30歳から39歳まで	40歳から64歳まで	65歳以上	覚えていない
身体障害者手帳	1	2	3	4	5	6	
愛の手帳 (療育手帳)	1	2	3	4	5	6	
精神障害者保健福祉手帳	1	2	3	4	5	6	

◆あなた自身の暮らし方について、おたずねします。

問5 あなたは現在、どのような暮らし方をしていますか。(1つに○)

- 1. 一人暮らし
- 2. 家族と生活
- 3. 家族以外の人と生活
- 4. 入所施設で生活 ()
- 5. グループホーム等共同生活
- 6. 病院に入院中
- 7. その他 ()

問6 あなたは将来、どのような暮らし方を望んでいますか。(1つに○)

- 1. 一人暮らしをしたい
- 2. 現在の家族と一緒に暮らしたい
- 3. 新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい
- 4. 障害者支援施設 (入所施設) で暮らしたい (グループホームを希望する方は「5」に○)
- 5. グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい
- 6. その他 ()

【問6で「4. 障害者支援施設 (入所施設) で暮らしたい」、「5. グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」に○をした方におたずねします。】

問6-1 いくつかから障害者支援施設 (入所施設)、グループホーム等の共同生活住居で暮らしたいですか。(1つに○)

- 1. 今すぐに入居したい
- 2. 1～2年以内に入居したい
- 3. 3～4年以内に入居したい
- 4. 5～9年以内に入居したい
- 5. 10年以上先でいいので入居したい
- 6. 現在住んでいる、障害者支援施設 (入所施設)、グループホーム等の共同生活住居に住み続けたい
- 7. その他 ()

問7 あなたは現在、台東区に住んでいますか。(1つに○)

- 1. はい → 問7-2へすすむ
- 2. いいえ

【問7-1は、問7で「2. いいえ」に○をした方におたずねします。】

問7-1 あなたは現在、どちらに住んでいますか。(1つに○)

- 1. 台東区外 (東京都内)
- 2. 東京都外

【問7-2は、問7で「1. はい」または「2. いいえ」に○をした方におたずねします。】

問7-2 将来、住みたい地域はどこですか。(1つに○)

- 1. 今住んでいるところ
- 2. 台東区
- 3. その他 ()

◆日常生活について、おたずねします。

問B 日常生活を送るうえで、あなたの生活の支援をしている方はいますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1. 特に支援が必要としない → 7ページの問9へすすむ
- 2. 父 6. その他の親族 10. ボランティア
- 3. 母 7. ハルパー 11. 後見人(補助・保佐・後見)
- 4. 配偶者 8. 相談支援事業所の相談員 12. その他
- 5. 子 9. 施設の職員 ()

【問8-1から問8-4は、問8で「12」(支援者がいる)に○をした方におたずねします。】

問8-1 あなたの生活の支援をしている方の年齢はいくつですか。
(問8で○をした支援者についてあてはまるもの1つに○)

	不明	17歳以下	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳以上
ア)父			1	4	6	7	8	5	5	5	5	5	5	5	5
イ)母			1	1	2	3	4	5	6	6	6	6	6	6	6
ウ)配偶者		1	2	3	4	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6
エ)子		1	2	3	4	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6

▼問8で「6」～「12」と回答された方は、更に支援をしている方についてお答えください。

カ)その他の親族	1	2	3	4	5	6
キ)ハルパー	1	2	3	4	5	6
ク)相談支援事業所の相談員	1	2	3	4	5	6
ケ)施設の職員	1	2	3	4	5	6
コ)ボランティア	1	2	3	4	5	6
コ)後見人(補助・保佐・後見)	1	2	3	4	5	6
カ)その他 ()	1	2	3	4	5	6

次ページの問8-2～問8-4へ

問8-2 支援が必要な時間帯はいつですか。(あてはまるものすべてに○)

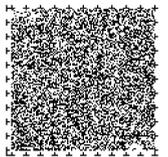
- 1. 一日中 2. 早朝 3. 日中 4. 夜間

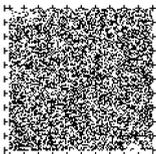
問8-3 支援が必要となるのは週に何日くらいですか。(1つに○)

- 1. 1～2日 2. 3～6日 3. 毎日

問8-4 支援の内容はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 食事(支援を含む)
- 2. 入浴
- 3. 着替え
- 4. トイレ
- 5. 室内移動
- 6. 掃除・洗濯
- 7. 買い物
- 8. 通学・通勤
- 9. 外出(通院や趣味の外出を含む)
- 10. 服薬管理
- 11. 医療的ケア
- 12. お金の管理のこと
- 13. 役所や銀行、職場や事業所等の手続き
- 14. 日常生活に必要な情報の収集、意思の伝達
- 15. 日常生活動作の見守り
- 16. その他 ()





問9 悩みごとや困りごとはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特になし
2. 教育・学習のこと
3. リハビリのこと
4. 経済的なこと
5. お金の管理のこと
6. 手帳・受給者証・医療証等の管理のこと
7. 家庭生活のこと
8. 現在の支援(介護)のこと
9. 将来の支援(介護)のこと
10. 保護者等支援者が高齢となったときのこと
11. 仕事のこと
12. 趣味や土きがいに関すること
13. 医療のこと
14. 健康のこと
15. 相談支援事業所を探すこと
16. 障害福祉サービス事業所を探すこと
17. 福祉サービスの申請・契約のこと
18. 福祉サービスの申請・契約のこと
19. 住まいのこと
20. 必要な情報を得ること
21. ご近所の方の理解を得ること
22. 発達や相談相手に関すること
23. 結婚のこと
24. 子供のこと
25. 社会参加のこと
26. その他 ()

問10 悩みや困りごとを相談する相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族・親戚
2. 知人・友人
3. 会社の人、学校の先生
4. 民生委員・児童委員
5. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等
6. 施設等の職員
7. 公的機関の職員(区役所、保健所等)
8. 社会福祉協議会の職員(あんしん台東等)
9. 同じ病气や障害のある仲間
10. ボランティア・NPOの職員
11. サービスを提供している事業者
12. 相談支援事業所の相談員
13. インターネット・SNS等
14. その他 ()
15. 相談できる人がいない
16. どこに相談しよいかわからない

7

問11 平日(月曜日から金曜日)の日中は、主によろしく過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事(一般就労)をしている
2. 生活介護に通っている
3. 就労移行支援に通っている
4. 就労継続支援A型に通っている
5. 就労継続支援B型に通っている
6. 地域活動(生活)支援センターに通っている
7. 趣味の活動等をしている ()
8. 趣味等で外出している
9. 病院に入院している
10. 病院に入院している
11. 施設に入所して過ごしている
12. 自宅やグループホームで過ごしている
13. その他 ()

問12 今後、平日(月曜日から金曜日)の日中は、主によろしく過ごしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特になし
2. 仕事(一般就労)をしたい
3. 生活介護に通いたい
4. 就労移行支援に通いたい
5. 就労継続支援A型に通いたい
6. 就労継続支援B型に通いたい
7. 地域活動(生活)支援センターに通いたい
8. 趣味の活動をしたい
9. 外出をしたい
10. 施設に入所して過ごしたい
11. 自宅やグループホームで過ごしたい
12. その他 ()

問13 通院を含め、外出の頻度は、どのくらいですか。(1つに○)

1. ほぼ毎日
2. 週に3~4回
3. 週に1~2回
4. 月に1~3回
5. 年に数回
6. 全く外出しない

8

前4 あなたは、外出について困りごとはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特にな 2. 歩道の段差や傾斜 3. 建物の段差や階段 4. 電車、バスやタクシーの利用 5. 駅構内の移動や乗り換え 6. 券売機の利用 7. トイレの利用 8. 歩道が狭い・障害物がある 9. 疲れたときの休憩場所	10. 自動車・自転車に危険を感じる 11. スマートフォンなどの電子機器のながら歩きに危険を感じる 12. 外出するのに支障が必要である 13. 外出したくても支援者がいない 14. 周囲の人の理解や配慮がない 15. 雨天時 16. その他 ()
--	--

前5 あなたは区内の公共施設や道路などのバリアフリー対応について、満足していますか。(1つに○)

1. 満足している 2. まあまあ満足している	3. あまり満足していない 4. 満足していない
----------------------------	-----------------------------

★差し支えなければ、理由を記入してください

前6 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

1. 仕事をしている 2. 今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい → 11ページの問16-6へすすむ 3. 仕事をしておらず、今後も仕事をするつもりはない → 12ページの問16-7へすすむ

前16-1 から前16-5は、前16で「1. 仕事をしている」に○をした方におたずねします。

前16-1 どのような働き方をしていますか。(1つに○)

1. 正社員 2. 契約社員・派遣社員・アルバイト・パート 3. 自営または家族に従事している 4. 就労継続支援A型事業所 5. 就労継続支援B型事業所 6. その他 ()

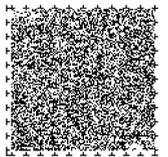
前16-2 働いているのは、週に何時間くらいですか。(1つに○)

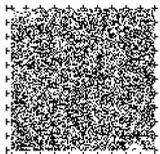
1. 10時間未満 2. 10時間以上～20時間未満 3. 20時間以上～30時間未満 4. 30時間以上
--

前16-3 ひと月あたりの仕事による収入は、平均してどれくらいですか。(1つに○)

1. 2,999円以下 2. 3,000円～10,000円 3. 10,001円～24,000円 4. 24,001円～40,000円 5. 40,001円～80,000円 6. 80,001円～100,000円 7. 100,001円～200,000円 8. 200,001円以上
--

次ページ問16-4～問16-6へ





問16-4 今の仕事について、悩みごとや困りごとはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

1. 悩みや不満はない
 2. 仕事に難しさを感じる
 3. 仕事が多すぎる
 4. 内容が自分の能力や希望にあっていない
 5. 障害に対する理解が不足している

問16-5 あなたは、職場や作業所のバリアフリーについて満足していますか。
 (1つに○)

1. 満足している
 2. まあまあ満足している
 3. あまり満足していない
 4. 満足していない

★差し支えなければ、理由を記入してください

【問16で「1. 仕事をしている」、または「2. 今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい」に○をした方におたずねします。】

問16-6 今後は、どのような働き方をしたいですか。
 (あてはまるものすべてに○)

1. 正社員
 2. 契約社員・派遣社員・アルバイト・パート
 3. 自営または家族に従事したい
 4. 就労継続支援A型事業所
 5. 就労継続支援B型事業所
 6. その他 ()

問16-7 理由を次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特になし
 2. 重度の障害のため
 3. 病気のため
 4. 高齢のため
 5. 障害の程度にあった仕事がないため
 6. 自分の生活にあった仕事がないため
 7. 労働条件があわないため
 8. 通勤・通所が困難なため
 9. 仕事が見つからないため
 10. 家事のため
 11. 家族の面倒を見ているため
 12. 仕事を必要がないため
 13. なんとなく行きたくないため
 14. 自分の障害について理解を
 得られないため
 15. 自分の障害を知られたくないため
 16. その他 ()

問17 障害がある方が働きやすい環境にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特になし
 2. 周囲の人たちの障害への理解
 3. 仕事を始める前の訓練・相談
 4. 仕事を始めた後の定期的な面接や定着支援の充実
 5. 企業等での障害者雇用を進めること
 6. 職場におけるコミュニケーション手段（手話や弱視対応等）の確保
 7. 通勤や移動手段の確保
 8. 勤務時間を短くすること
 9. 通勤ラッシュの時間を外した通勤時間にする
 10. 個別の障害に対応した環境の整備（建物やトイレのバリアフリー化等）
 11. 通所や医療上の配慮があること
 12. その他 ()

◆コミュニケーション・意思疎通について、おたずねします。

問18 あなたは、ふだん、どのくらい家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとっていますか。(電話やメール等を含む) (1つに○)

- 1. ほぼ毎日 4. 月に1～2回
- 2. 2～3日に1回 5. ほとんどコミュニケーションをとっていない
- 3. 1週間に1回 6. その他 ()

問19 この1年間に、コミュニケーションに困った場所や場面はどこでしたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 特に困ったことはない 6. 電話
- 2. 役所や銀行の窓口 7. 通所先や勤務先
- 3. 医療機関 8. 自宅
- 4. 駅 9. その他 ()
- 5. 買い物や飲食店

問20 あなたは、家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとるときに、どのような意思疎通手段・支援を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 特に利用していない 6. コミュニケーションボードを使用
- 2. 手話・手話通訳者の派遣 7. スマートフォン・タブレット等のアプリを使用
- 3. 要約筆記者の派遣
- 4. 視覚障害者ガイドヘルパー 8. その他 ()
- 5. 知的障害者ガイドヘルパー

問21 障害福祉に関する情報の入手方法について、今後、充実を希望するものは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 特になし
- 2. 広報「たいどう」
- 3. 台東区公式ホームページ
- 4. 台東区公式 X・LINE
- 5. 「障害者のてびき」等の冊子
- 6. 台東区障害者支援アプリ「ささえ〜る」
- 7. 各種事業紹介パンフレット・ちらし
- 8. ケーブルテレビ
- 9. スマートフォン・タブレット等のその他のアプリ
- 10. その他 ()

◆障害福祉サービスについて、おたずねします。

※下記サービスを利用している場合には、あなたに受給者証(水色の冊子)が交付されていますので、サービス名がわからない場合には、受給者証をご確認ください。

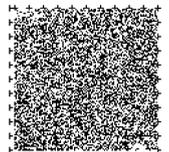
介護給付	居宅介護(ホームヘルプ)、重訪問介護、同行介護、行動介護、短期入所(ショートステイ)、療養介護、生活介護、施設入所支援
訓練等給付	自立訓練(機能訓練・生活訓練)、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労定着支援、共同生活援助(グループホーム)、自立生活援助、宿泊型自立訓練

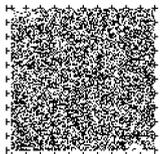
問22 あなたは現在、利用している障害福祉サービスはありますか。(1つに○)

1. ある 2. ない

→ 問22-2へ進む

問22-1へ





【問22 で 「2. ない」 に○をした方におたずねします。】

問22-1 利用していない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. これらの障害福祉サービスを利用する必要がない
2. 介護保険サービスを利用している
3. 障害福祉サービスの制限について知らなかった
4. 障害福祉サービスの利用方法がわからない
5. 利用したい障害福祉サービスがない
6. 費用面で障害福祉サービスを利用していない
7. その他 ())

18 ページの
問23へすすむ

【問22-2～問22-7は、問22で「1. ある」に○をした方におたずねします。】

問22-2 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。受けている場合は、その区分にも○をしてください。

1. 受けている → 区分 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6)

2. 受けていない

3. わからない

問22-3 あなたがサービスを利用するにあたって、申請手続きや事業者との連絡・調整を行っているのは主にどなたですか。(1つに○)

1. あなた (あて名のご本人)
2. 家族
3. ヘルパー、グループホームの世話人、入所施設の職員等
4. 相談支援事業所の相談員
5. 友人
6. その他 ()
7. わからない

問22-4 あなたのサービス等利用計画は、どなたが作成していますか。(1つに○)

1. 相談支援事業所の相談員
2. セルフプラン (本人、家族、友人、その他)
3. 介護保険のケアマネジャー
4. その他 ())
5. わからない

次ページの問22-5へすすむ

【問22-4で「1. 相談支援事業所の相談員」に○をした方におたずねします。】

問22-4-1 相談支援事業所を利用して、どのように感じていますか。(1つに○)

1. 良い 2. ふつう 3. あまり良くない 4. 悪い

★差し支えなければ、理由を記入してください

問22-4-2 なぜ、セルフプランを選びましたか。(1つに○)

1. 自分で使うサービスは自分で決めたかったから
2. 相談支援事業所を知らなかったから
3. 相談支援事業所に断られたから
4. 手続き・手帳が大変そうだと感じたから
5. 相談支援事業所を使用したことがあるが、自分には合わなかったから
6. その他 ()

問23 今後、あなたが充実を希望するサービスはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

<p>1. 特になし</p> <p>2. 居宅介護 (ホームヘルプ)、重症訪問介護</p> <p>3. 訪問入浴</p> <p>4. 通所入浴サービス (在宅障害者支援)</p> <p>5. 移動への支援 (ガイドヘルプ、通学支援等)</p> <p>6. コミュニケーションの支援 (手話通訳者の派遣、視覚障害者ガイドヘルパーの利用等)</p> <p>7. 補装具の交付・修理 (白杖、補聴器、義手、義足、車いす等)</p> <p>8. 日常生活用具の給付</p> <p>9. 療育乾燥・消毒サービス</p> <p>10. 緊急時通報機種の支給</p> <p>11. 自動車運転教習費・改造費の助成</p> <p>12. 外出手段への支援 (リフト付きタクシー費の助成、福祉タクシー利用券の交付、自動車燃料費の助成等)</p> <p>13. 地域活動支援センター等への通所による日中活動への支援</p> <p>14. 生活介護</p> <p>15. 通所先の開所時間の延長</p> <p>16. 通所先とは別施設での夕方支援(トワイライトステイ)</p> <p>17. 日中一時支援 (日帰りのショートステイ)</p> <p>18. 短期入所 (ショートステイ)・緊急一時保護</p> <p>19. 就職するための支援</p> <p>20. 就労継続支援A型事業所</p> <p>21. 就労継続支援B型事業所 (福祉作業所)</p> <p>22. 就労移行支援</p> <p>23. 就労定着支援</p> <p>24. その他の就労に関する支援</p>	<p>日常生活のこと</p>	<p>通所のこと</p>	<p>短期預かりのこと</p>	<p>仕事のこと</p>
---	----------------	--------------	-----------------	--------------

【引き続き問22で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

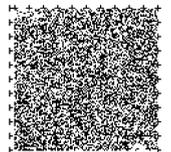
問22-5 あなたは、ご自身の障害福祉サービスの支給決定内容(量)について、どのように感じていますか。(1つに○)

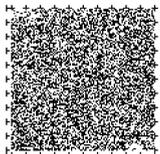
1. 多い 2. ちょうど良い 3. 少ない
- 問22-6 あなたは、障害福祉サービス事業者の対応について、満足していますか。(1つに○)

1. 満足している 3. あまり満足していない
2. まあまあ満足している 4. 満足していない
- ★差し支えなければ、理由を記入してください

問22-7 障害福祉サービス事業者に苦情や不満を伝えたととき、その事業者は、十分に内容を聞き、あなたに何らかの対応をしてくれましたか。(1つに○)

1. 苦情や不満はない 4. あまり対応してくれなかった
2. きちんと対応してくれた 5. まったく対応してくれなかった
3. ある程度対応してくれた 6. 苦情や不満を伝えられなかった





※前ページの問23の続きです。

施設や住まいのこと	25. 施設入所支援 26. グループホーム 27. 賃貸住宅への入居手続き等の支援（単身生活サポート） 28. 自立生活体験事業 29. 住宅設備改善費
医療的ケアのこと	30. 医療的ケア者への支援
その他のこと	31. 新たに希望するサービス（ ）

【充実内容について具体的なご意見がありましたら、ご記入ください】

問24 介護保険サービスを利用している方はその内容を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

1. 利用していない	⇒ 次ページの問25へすすむ
2. 訪問介護（ホームヘルプサービス）	8. 短期入所（ショートステイ）
3. 訪問入浴介護	9. 介護予防サービス
4. 訪問リハビリテーション	10. 福祉用具レンタル・購入
5. 訪問看護	11. その他（ ）
6. 通所介護（デイサービス）	
7. 通所リハビリテーション（デイケア）	

19
次ページの問24-1へ

【問24で、「2」～「11」（利用している）に○をつけた方におたずねします。】

問24-1 あなたは、介護保険サービスの移行後のサービス内容について満足していますか。（1つに○）

満足している	3. あまり満足していない
2. まあまあ満足している	4. 満足していない

★差し支えなければ、理由を記入してください

◆医療的ケアについて、おたずねします。

問25 あなたは、次のような医療的ケアを必要としていますか。（必要としているものすべてに○）

1. 医療的ケアは必要としない	⇒ 次ページの問26へ
2. 人工呼吸器の管理	14. 導尿
3. 気管切開の管理	15. 排便管理
4. 鼻咽喉エアウェイの管理	16. その他の医療的ケア（ ）
5. 酸素療法	
6. 吸引（口鼻腔・気管内吸引）	
7. ネブライザーの管理	
8. 経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう、食道ろう、持続経管注入ポンプ使用）	
9. 中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など）	
10. 皮下注射（皮下注射（インスリン、麻薬など）、持続皮下注射ポンプ使用）	
11. 血糖測定（持続血糖測定器による血糖測定を含む）	
12. 継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）	
13. 座薬時の坐剤挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置	

20
次ページの問25-1へ

【問25で、12～16】(医療的ケアが必要)に○をつけた方におたずねします。
 問25-1 医療的ケアに関して、どのような支援の充実が必要かと思いませんか。
 (あてはまるものすべてに○)

1. 特になし
2. 医療的ケア支援にかかる相談窓口
3. ヘルパーの確保・育成
4. 医療従事者の確保・育成
5. 医療的ケア者の家族への支援
6. 医療的ケア者が利用できる短期入所施設の整備
7. 医療的ケア者が利用できるグループホームの整備
8. 医療的ケア者が利用できる生活介護の整備
9. 医療的ケア者の仕事に関する支援
10. 医療的ケア者の外出手段の確保に関する支援
11. その他 ()

◆障害者の権利擁護、虐待、差別について、おたずねします。

問26 あなたは、知的障害、精神障害、認知症等により、判断能力が十分ではない方の権利を守る「成年後見制度」について知っていますか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は知っている
3. まったく知らない

問27 あなたは、成年後見制度を利用したいですか。(1つに○)

1. 利用したい
2. 利用したいとは思わない
3. 既に利用している
4. 制度を利用する必要がある
5. わからない

問28 あなたは、いままで、いままでに自分の体や心を傷つけられたことや財産を侵害されたこと(虐待されたこと)はありますか。(1つに○)

1. ある
 2. ない
- ⇒ 次ページの間29へすすむ

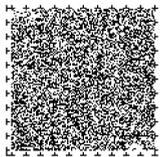
【問28-1～問28-3は、問28で「1. ある」に○をした方におたずねします。】

- 問28-1 虐待の内容は次のどれに当たりますか。(あてはまるものすべてに○)
1. 殴る、蹴る、縛り付ける、閉じ込める、必要のない薬を飲ませるなど
(身体的虐待)
 2. 性的行為の強要、身体への接触、裸にする、いやらしい話をするなど
(性的虐待)
 3. 怒鳴る、悪口を言う、仲間に入れない、わざと無視するなど(心理的虐待)
 4. 十分な食事を与えない、不潔な住環境で生活させるなど
(放棄・放任(ネグレクト))
 5. 必要なお金を与えない、勝手にあなたのお金を使うなど(経済的虐待)
 6. その他 ()

問28-2 誰から虐待を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族、親族、一緒に住んでいる人など
2. 施設や事業所の職員など
3. 働いている場所の人など
4. 学校の職員
5. 近所の人
6. 認識のない人
7. その他 ()

⇒ 次ページの間28-3へ



問28-3 虐待を受けたとき、だれ（どこ）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

1. 家族・親戚
2. 知人・友人
3. 公的機関の職員（区役所、保健所等）
4. 障害者虐待防止センター（障害者支援施設や草ほうらい内）
5. 精神障害者地域生活支援センターあさがお
6. 障害者自立支援センター
7. 警察
8. 社会福祉協議会の職員（あんしん台東等）
9. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等
10. 施設等の職員
11. サービスを提供している事業者
12. 相談支援事業所の相談員
13. ボランティア・NPOの職員
14. 民生委員・児童委員
15. 会社の人、学校の先生
16. インターネット・SNS等
17. 同じ病気や障害のある仲間
18. その他（ ）
19. 相談できる人がいない
20. どこに相談してよいかわからない

問29 あなたの身の回り、障害者に対する虐待を見たか聞いたりしたことはありますか。（1つに○）

1. 見たことがある
2. 話を聞いたことがある
3. 見たか聞いたかはない

問30 あなたは、障害者への虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取り組み等を定めた「障害者虐待防止法」について知っていますか。
（1つに○）

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は知っている
3. まったく知らない

問31 「障害者虐待防止法」の施行をうけ、区では虐待防止に関する24時間対応の相談や一時的な保護の提供等を行う「障害者虐待防止センター」※を開設しています。あなたはこのことについて知っていますか。（1つに○）

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は知っている
3. まったく知らない

身体障害・知的障害

※障害者虐待防止センター
（障害者支援施設や草ほうらい内）

電話 | 03 (5808) 0067
FAX | 03 (5824) 5631

精神障害

※精神障害者地域生活支援センター

電話 | 070 (1555) 8910
FAX | 03 (5823) 4299

あさがお

問32 あなたは、障害者に対する「不当な差別的取扱い」※1や「合理的配慮の不提供」※2の禁止について規定した「障害者差別解消法」を知っていますか。
（1つに○）

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は知っている
3. まったく知らない

※1 不当な差別的取扱いとは、正当な理由がないのに、障害があることで、サービスの利用を拒否したり、提供場所や時間帯を制限することなどをいいます。

※2 合理的配慮の不提供とは、障害者から手助けや必要な配慮についての意思が伝えられたときに、必要な配慮を行わないことなどをいいます。

問33 あなたは、**不当な差別的取扱い**や**合理的配慮の不提供**を感じたことが
ありますか。(1つに○)

1. ある
2. 少しある
3. ない
4. わからない

次ページ問94へすすむ

(問33-1と問33-2は、問33で「1.ある」または「2.少しある」に○をした方
におたずねします。)

問33-1 どのようなときに**不当な差別的取扱い**や**合理的配慮の不提供**を
感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 公共施設や交通機関を利用するとき
2. 飲食店を利用するとき
3. 情報を得たいとき、コミュニケーションをとりたいとき
4. 買い物をするとき
5. 病院で医療を受けるとき
6. 働きたいとき、働くとき
7. 福祉サービスを使いたいとき、使うとき
8. その他 ()

問33-2 あなたは、**不当な差別的取扱い**や**合理的配慮の不提供**を感じたとき
に、どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 国の窓口
2. 東京都の窓口
3. 障害福祉課
4. 保健予防課
5. 障害福祉課・保健予防課以外の区の窓口
6. その他 ()
7. どこに相談したらいいかわからない
8. 相談していない

◆災害・緊急時のことについて、おたずねします。

問34 災害(地震等)が発生したときに、あなたが困ることや不安に思うことは
何ですか。(あてはまるものすべてに○)

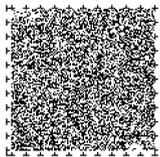
1. 特にない
2. 災害発生との連絡を受けること
3. 家族等と連絡をとること
4. 避難所の情報を得ること
5. 障害特性に配慮した避難所設備
6. 障害特性に配慮した備蓄品の確保
7. 避難・移動すること ()
8. 病院や薬局の情報を得ること
9. 薬の確保
10. 人工呼吸器等に使う電源の確保
11. 文字や音声による情報提供
12. 手話や点字等の障害特性に応じた
情報提供
13. その他 ()

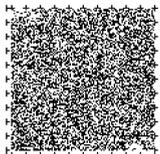
問35 あなたは、災害(地震等)が発生したときの避難方法を理解・把握していますか。
(1つに○)

1. 避難方法を理解・把握し、具体的な対策をしている
2. 避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない
3. 避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない

問36 あなたは、災害(地震等)が発生した時に、どこに避難したいですか。
(1つに○)

1. 在宅避難(自宅に避難)
2. 一次避難所
3. 二次避難所(福祉避難所)
4. 避難先を決めていない





問37 あなたは、災害（地震等）時に備えて、荷を備蓄していますか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 備蓄していない | 7. 衛生用品（おむつ以外） |
| 2. 食料（アレルギー対応食） | 8. おむつ |
| 3. 食料（総合栄養剤） | 9. 衣服 |
| 4. 食料（上記「2」、「3」以外） | 10. 寝具 |
| 5. 飲料 | 11. その他 |
| 6. 日用品 | （
） |

問38 あなたは、避難行動要支援者名簿に登録していますか。（1つに○）

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1. 登録している | 3. 避難行動要支援者名簿について知らない |
| 2. 登録していない | |

【問38で「1.登録している」に○をした方におたずねします。】

問38-1 あなたは、個別支援計画を作成していますか。

- | | |
|------------|-------------------|
| 1. 作成している | 3. 個別支援計画について知らない |
| 2. 作成していない | |

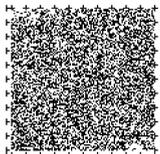
◆その他、台東区への要望等について、おたずねします。

問39 随言者が地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1. 持にない | 12. 建物・道路等のバリアフリー化 |
| 2. 障言に対する理解の促進 | 13. 災害時の支援体制の整備 |
| 3. 相談支援体制の充実 | 14. 障言当事者・家族同士で支援しあえる仕組みづくり |
| 4. 雇用・就労支援の充実 | 15. 生活の支援をしている家族の負担軽減 |
| 5. 訪問系サービスの充実 | 16. 趣味やスポーツ活動の充実 |
| 6. 日中活動系サービスの充実 | 17. 経済的支援の充実 |
| 7. 短期入所の充実 | 18. 手話や点字等によるコミュニケーション手段の普及に対する支援 |
| 8. 入所施設の充実 | 19. その他 |
| 9. 生活訓練の場の充実 | （
） |
| 10. グループホーム等の整備 | |
| 11. 医療機関の充実 | |

問40 その他、ご意見・ご要望等ございましたら、ご自由にお書きください。
※ご本人の意見以外にも、ご家族やお近くの方からお聞きしたことなど、どのようなことでもお書きください。

—ご協力ありがとうございました—



問3-2 お子さんの障害(疑いを含む)は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 視覚障害
- 2. 聴覚・平衡機能障害
- 3. 音声・言語・そしゃく機能障害
- 4. 肢体不自由(手足の欠損や麻痺等)
- 5. 内臓障害(内臓等の障害)
- 6. 知的障害
- 7. 発達障害
- 8. 精神障害
- 9. 高次脳機能障害
- 10. 難病(特定疾病)
- 11. その他 ()

◆お子さん自身の暮らし方について、おたずねします。

問4 お子さんは現在、どのような暮らし方をしていますか。(1つに○)

- 1. 家族と生活
- 2. 家族以外の人と生活
- 3. 入所施設で生活
- 4. 病院に入院中
- 5. その他 ()

問5 お子さんは将来、どのような暮らし方を望んでいますか。(1つに○)

- 1. 一人暮らしをしたい
- 2. 現在の家族と一緒に暮らしたい
- 3. 新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい
- 4. 障害者支援施設(入所施設)で暮らしたい(グループホームを希望する方は「5」に○)
- 5. グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい
- 6. その他 ()

◆日常生活について、おたずねします。

問6 日常生活を送るうえで、お子さんの生活の支援をしている方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 特に支援を必要としていない → **次ページの問7へすすむ**
- 2. 父
- 3. 母
- 4. 兄弟
- 5. 弟・妹
- 6. 祖父
- 7. 祖母
- 8. その他の親族
- 9. ヘルパー
- 10. 相談支援事業所の相談員
- 11. 施設の職員
- 12. ボランティア
- 13. 後見人(補助・保佐・後見)
- 14. その他 ()

【問6-1と問6-2は、問6で「12」～「14」(支援者がいる)に○をした方におたずねします。】

問6-1 お子さんの生活の支援をしている方の年齢はいくつですか。(問6で○をした支援者についてあてはまるもの1つに○)

	不明	17歳以下	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上
ア)父		1	2	3	4	5	6	6
イ)母		1	2	3	4	5	6	6
ウ)兄弟姉妹		1	2	3	4	5	6	6
エ)祖父		1	2	3	4	5	6	6
オ)祖母					1	2	3	4
カ)祖母				1	2	3	4	4

【問10で「1」～「4」（仕事をしている）に○をした方におたずねします。】

問10-1 働いているのは、週に何時間くらいですか。（あてはまるものに○）

	10時間未満	10時間以上 20時間未満	20時間以上 30時間未満	30時間以上 30時間以上
ア)父	1	2	3	4
イ)母	1	2	3	4
ウ)その他の養育者*	1	2	3	4

*養育者：父、母以外で子どもを養育している方

◆原育・教育について、おたずねします。

問11 お子さんは、平日の日中、どこで過ごしていますか。

（あてはまるものすべてに○）

A 就学前

1. 幼稚園
2. 保育園
3. 認定こども園
4. 松が谷福祉会館
5. 松が谷福祉会館以外の療育施設
（児童発達支援事業所等）
6. その他（ ）
7. 通園先・通所先はない

B 就学期以降

8. 小学校の通常の学級
9. 小学校の特別支援教室
10. 小学校の通級指導学級
（雑駁・言語）
11. 小学校の特別支援学級
12. 特別支援学校の小学部
13. 中学校の通常の学級
14. 中学校の特別支援教室
15. 中学校の通級指導学級
（雑駁）
16. 中学校の特別支援学級
17. 特別支援学校の中学部
18. 高等学校
19. 特別支援学校の高等部
20. その他（ ）
21. 義務教育終了後通学はしていない

※ページの問11-1へ

7

※ページの問12へすすむ

【問11のB（就学期以降）で「8」～「20」に○をした方におたずねします。】

問11-1 お子さんは学校が終わった後、どこで過ごしていますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. ほとんど自宅にいる
2. こどもクラブ（学童クラブ）
3. 児童館
4. 放課後等デイサービス（区内）
5. 放課後等デイサービス（区外）
6. 親戚の家
7. 友人・知人の家
8. その他（ ）

問12 お子さんは、休日や時間的余裕のあるとき、どのように過ごしていますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 特に何もしていない
2. 趣味や学習活動
3. スポーツ
4. 友人・知人と会う
5. 映画などの鑑賞
6. 買い物に行く
7. 飲食店に行く
8. 読書
9. 旅行
10. 家でくつろぐ
11. 地域の行事に参加する
12. 近所の散歩
13. ボランティア活動
14. その他（ ）

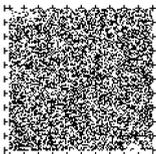
問13 お子さんの成長や発達について、最初に気がかりなこと・心配なことがあったのはどのようなときでしたか。（1つに○）

1. 出生した病院で
2. 家族や周りの人が気が付いた
3. 乳幼児健診
4. 療育相談など
5. 医療機関で診療したとき
6. 幼稚園・保育園・認定こども園の教職員が気が付いた
7. 学校の教職員が気が付いた
8. その他（ ）
9. わからない

※ページの問13-1、問13-2へ

8

※ページの問14へすすむ



【問13で「1」～「8」（気がかりなこと等があった）に○をした方におたずね
します。】

問13-1 その時期はいつですか。生まれた時でない場合は「2」を選択し、その
時の年齢をお書きください。(1つに○)

- 1. 生まれた時
- 2. 満 () 歳

問13-2 お子さんの成長や発達について最初に気がかりなこと・心配なことが
あったとき、相談した相手はどれですか。(1つに○)

- 1. 家族・親戚
- 2. 知人・友人
- 3. 保育園・こども園・幼稚園の教職員
- 4. 学校の教職員
- 5. 民生委員・児童委員
- 6. 障害等の当事者会や家族の会
- 7. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等
- 8. 区役所
- 9. 保健所・児童保健相談センター
- 10. 松が谷福祉会館こども療育室
- 11. 通所事業所 (松が谷福祉会館こども療育室以外)
- 12. 子ども家庭支援センター
- 13. 教育委員会 (教育支援館含む)
- 14. 児童相談所
- 15. インターネット・SNS等
- 16. その他 ()
- 17. 相談できる人がいないため相談していない
- 18. どこに相談してよいかわからなかったため相談していない

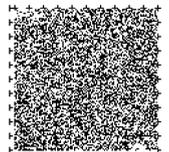
問14 お子さんの首尾をするにあたり、悩みや不安はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1. 特に悩みや不安はない → **次ページの問15へすすむ**
- 2. 支援してくれられる人が足りない
- 3. 何かあったときに支援を頼める人がいない
- 4. 他の家族の協力が少ない
- 5. 仕事との両立が難しい
- 6. 長期的な外出ができない
- 7. 支援の方法が分からない
- 8. 自分の時間が取れず、自由がない
- 9. 身体的な負担が大きい
- 10. 健康について不安がある
- 11. 体調不良でも病院に行く時間が少ない
- 12. 睡眠が不足している ()
- 13. 精神的な負担が大きい
- 14. 経済的な負担が大きい
- 15. 周囲の人や職場などの理解がない
- 16. 兄弟姉妹の世話が十分にできない
- 17. 子供の就学や進路について不安がある
- 18. 子供の成長や発達について不安がある
- 19. 相談支援事業所の利用に困ること
- 20. 福祉サービスの利用に困ること
- 21. 移動手段の確保が難しい
- 22. 必要な情報を得るのが難しい
- 23. 学校等での生活に困ること
- 24. その他 ()

【問14で「2」～「24」(悩みや不安がある)に○をした方におたずねします。】

問14-1 お子さんの育児をするにあたり、悩みや困っていることを相談する
相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 家族・親戚
- 2. 知人・友人
- 3. 保育園・こども園・幼稚園の教職員
- 4. 学校の教職員
- 5. 民生委員・児童委員
- 6. 障害等の当事者会や家族の会
- 7. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等
- 8. 区役所
- 9. 保健所・児童保健相談センター
- 10. 松が谷福祉会館こども療育室
- 11. 通所事業所 (松が谷福祉会館こども療育室以外)
- 12. 子ども家庭支援センター
- 13. 教育委員会 (教育支援館含む)
- 14. 児童相談所
- 15. インターネット・SNS等
- 16. その他 ()
- 17. 相談できる人がいないため相談していない
- 18. どこに相談してよいかわからなかったため相談していない



◆コミュニケーション・意思疎通について、おたずねします。

問15 お手さんは、家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとるときに、どのような意思疎通手段・支援を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特に利用していない
2. 手話・手話通訳者の派遣
3. 筆跡通訳者の派遣
4. 視覚障害者ガイドヘルパー
5. 知的障害者ガイドヘルパー
6. コミュニケーションボードを使用
7. スマートフォン・タブレット等のアプリを使用
8. その他 ()

問16 障害福祉に関する情報の入手方法について、今後、充実に希望するものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特になし
2. 広報「たいとう」
3. 台東区公式ホームページ
4. 台東区公式 X・LINE
5. 「障害者のてびき」等の冊子
6. 台東区障害者支援アプリ「ささえ〜る」
7. 各種事業紹介パンフレット・ちらし
8. ケーブルテレビ
9. スマートフォン・タブレット等の他のアプリ
10. その他 ()

◆福祉サービスについて、おたずねします。

※下記サービスを利用している場合には、お手さんに受給者証(水色の冊子)が交付されていますので、サービス名がわからない場合には、受給者証をご確認ください。

障害福祉サービス	居宅介護(ホームヘルプ)、重訪問介護、同行介護、行動支援、短期入所(ショートステイ)、介護介護、施設入所支援
障害児通所支援	児童発達支援、置居型児童発達支援、放課後等デイサービス、療育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児入所施設

問17 お手さんは現在、利用している福祉サービスはありますか。(1つに○)

1. ある
2. ない

【問17で「2. ない」に○をした方におたずねします。】

問17-1 利用していない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. これらの福祉サービスを利用する必要がある
2. 福祉サービスの制度について知らなかった
3. 福祉サービスの利用方法がわからない
4. 利用したい福祉サービスがない
5. 費用面で福祉サービスを利用していない
6. その他 ()

14ページの
問18へすすむ

【問17-2～問17-3は、問17で「1. ある」に○をした方におたずねします。】

問17-2 お手さんがサービスを利用するにあたって、申請手続きや事業者との連絡・調整を行っているのは主にどなたですか。(1つに○)

1. 家族
2. ヘルパー、放課後等デイサービス など通所施設等の職員等 ()
3. 相談支援事業所の相談員
4. 友人
5. その他
6. わからない

問17-3 お手さんの障害児支援利用計画は、どなたが作成していますか。(1つに○)

1. 相談支援事業所の相談員

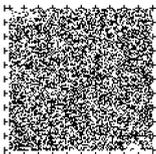
2. セルフプラン(家族、その他)

3. その他 ()
4. わからない

次ページの問17-3-2へすすむ

次ページの問17-4へすすむ

次ページの問17-3-1へ



【問17-3で「1. 相談支援事業所の相談員」に○をした方におたずねします。】
 問17-3-1 相談支援事業所を利用して、どのように感じていますか。
 (1つに○)

1. 良い 2. ふう 3. あまり良くない 4. 悪い
- ★差し支えなければ、理由を記入してください

問17-4へすすむ

【問17-3で「2. セルフプラン」に○をした方におたずねします。】
 問17-3-2 なぜ、セルフプランを選びましたか。(1つに○)

1. 相談支援事業所を使わなくても作成できると思ったから
 2. 相談支援事業所を知らなかったから
 3. 相談支援事業所に断られたから
 4. 手続き・手順が大変そうだと思ったから
 5. 相談支援事業所を使用したことがあるが、合わなかったから
 6. その他 ()

【引き続き問17で「1. ある」に○をした方におたずねします。】
 問17-4 福祉サービスを提供する事業者の対応について、満足していますか。
 (1つに○)

1. 満足している 3. あまり満足していない
 2. まあまあ満足している 4. 満足していない

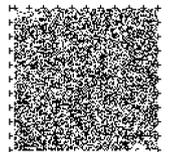
★差し支えなければ、理由を記入してください

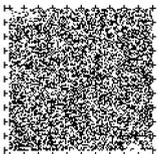
問17-5 福祉サービスを提供する事業者に苦情や不満を伝えたととき、その事業者は十分に内容を聞きお子さんに何らかの対応をしてくれましたか。
 (1つに○)

1. 苦情や不満はない 4. あまり対応してくれなかった
 2. きちんと対応してくれた 5. まったく対応してくれなかった
 3. ある程度対応してくれた 6. 苦情や不満を伝えられなかった

問18 今後、充実を希望するサービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

日常生活のこと	1. 特になし
	2. 居宅介護 (ホームヘルプ)、重度訪問介護 3. 訪問入浴 4. 通所入浴サービス (在宅障害者支援) 5. 移動への支援 (ガイドヘルプ、通学支援等) 6. コミュニケーションの支援 (手話通訳者の派遣、視覚障害者ガイドヘルパーの利用等) 7. 補綴員の交付・修理 (日杖、補聴器、義手、義足、車いす等) 8. 日常生活用具の給付 9. 寝具乾燥・消毒サービス 10. 緊急時通報機器の支給 11. 自動車運転教習費の助成 12. 外出手段への支援 (リフト付きタクシー費の助成、福祉タクシー利用券の交付、自動車燃料費の助成等)
通所のこと	13. 地域活動支援センター等への通所による日中活動への支援 14. 生活介護 15. 障害児の通所支援 (児童発達支援、放課後等デイサービス等) 16. 通所先 (児童発達支援、放課後等デイサービス等)の開所時間の延長 17. 通所先 (生活介護・就労継続支援B型事業所)の開所時間の延長





※前ページの続きです。

短期 種かり のこと	18. 日中一時支援（白滞りのシヨートステイ） 19. 短期入所（シヨートステイ）・緊急一時保護 20. 通所先、通学先とは別施設での夕方支援（トワイライトステイ）
仕事 のこと	21. 就職するための支援 22. 就労継続支援A型事業所 23. 就労継続支援B型事業所（福祉作業所） 24. 就労移行支援 25. 就労定着支援 26. その他の他の就労に関する支援
施設や 住まい のこと	27. 施設入所支援 28. グループホーム 29. 賃貸住宅への入居手続き等の支援（単身生活サポート） 30. 自立生活体験事業 31. 住宅設備改善費
医療的 ケアの こと	32. 医療的ケア児（者）への支援
その他 のこと	33. 新たに希望するサービス（ ）

【充実内容について具体的なご意見がありましたら、ご記入ください】

◆医療的ケアについて、おたずねします。

問19 お手さんは、次のような医療的ケアを必要としていますか。
(必要としているものすべてに○)

1. 医療的ケアは必要としていない	→ 18ページの問20へすすむ
2. 人工呼吸器の管理	
3. 気管切開の管理	
4. 鼻咽喉エアウェイの管理	
5. 酸素療法	
6. 吸引（口鼻腔・気管内吸引）	
7. ネブライザーの管理	
8. 経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう、 食道ろう、持続経管注入ポンプ使用）	
9. 中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、 麻薬など）	
10. 皮下注射（皮下注射（インスリン、麻薬など）、持続皮下注射ポンプ使用）	
11. 血糖測定（持続血糖測定器による血糖測定を含む）	
12. 継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）	
13. 導尿	
14. 排便管理	
15. 痙攣時の坐剤挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置	
16. その他の医療的ケア（ ）	

次ページの問19-1へ

◆被害者の権利擁護、虐待、差別について、おたずねします。

問20 お子さんは、いままでに自分の体や心を傷つけられたことや財産を侵害されたこと（虐待されたこと）はありますか。（1つに○）

- 1. ある
- 2. ない → 次ページの間21へすすむ

【問20-1～問20-3は、問20で「1.ある」に○をした方におたずねします。】

問20-1 虐待の内容はどのような内容ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 殴る、蹴る、縛り付ける、閉じ込める、必要のない薬を飲ませる など
(身体的虐待)
- 2. 性的行為の強要、身体への接触、裸にする、いやらしい話をする など
(性的虐待)
- 3. 怒罵る、悪口を言う、仲間に入れない、わざと無視する など
(心理的虐待)
- 4. 十分な食事を与えない、不潔な住環境で生活させる など
(放棄・放任（ネグレクト）)
- 5. 必要なお金を与えない、勝手にお子さんのお金を使う など
(経済的虐待)
- 6. その他 ()

問20-2 誰から虐待を受けましたか。（あてはまるものすべてに○）

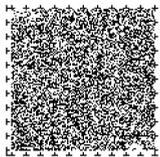
- 1. 家族、親族、一緒に住んでいる人など
- 2. 施設や事業所の職員など
- 3. 働いている場所の人など
- 4. 学校の職員
- 5. 近所の人
- 6. 知らない人
- 7. その他 ()

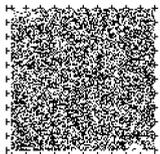
次ページの間20-3へ

【問19で「2」～「16」に○をした方におたずねします。】

問19-1 医療的ケアに関して、どのような支援の充実が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 特になし
- 2. 医療的ケア支援にかかる相談窓口
- 3. ヘルパーの確保・育成
- 4. 医療従事者の確保・育成
- 5. 医療的ケア者（児）の家族への支援
- 6. 医療的ケア者（児）が利用できる短期入所施設の整備
- 7. 医療的ケア者が利用できる生活介護の整備
- 8. 医療的ケア児の教育に関する支援
- 9. 医療的ケア児の通所支援の整備（児童発達支援・放課後等デイサービス）
- 10. 医療的ケア者の仕事に関する支援
- 11. 医療的ケア者（児）の外出行動の確保に関する支援
- 12. その他 ()





問20-3 虐待を受けたとき、だれ（どこ）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

1. 家族・親戚
2. 知人・友人
3. 公的機関の職員
（区役所、保健所等）
4. 障害者虐待防止センター
（障害者支援施設浅草ほうらい内）
5. 精神障害者地域生活支援センター
あさがお
6. 障害者自立支援センター
7. 警察
8. 社会福祉協議会の職員
（あんしん台東等）
9. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等
10. 施設等の職員
11. サービスを提供している事業者
12. 相談支援事業所の相談員
13. ボランティア・NPOの職員
14. 民生委員・児童委員
15. 会社の人、学校の先生
16. インターネット・SNS等
17. 同じ病気や障害のある仲間
18. その他
（ ）
19. 相談できる人がいない
20. どこに相談してよいかわからない

問21 お子さんの身の回りで、障害者に対する虐待を見たり聞いたりしたことはありますか。（1つに○）

1. 見たことがある
2. 話を聞いたことがある
3. 見たり聞いたりしたことはない

問22 障害者への虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取り組み等を定めた「障害者虐待防止法」について知っていますか。（1つに○）

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は知っている
3. まったく知らない

問23 「障害者虐待防止法」の施行をうけ、区では虐待防止に關する24時間対応の相談や一時的な保護の提供等を行う「障害者虐待防止センター」を開設しています。このことについて知っていますか。（1つに○）

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は知っている
3. まったく知らない

身体障害・知的障害

電話 | 03 (5808) 0067
FAX | 03 (5824) 5631

※障害者虐待防止センター
(障害者支援施設浅草ほうらい内)

精神障害

電話 | 070 (1555) 8910
FAX | 03 (5823) 4299

※精神障害者地域生活支援センター
あさがお

問24 障害者に対する「不当な差別的取扱い」※1や「合理的配慮の不提供」※2の禁止について規定した「障害者差別解消法」を知っていますか。（1つに○）

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は知っている
3. まったく知らない

※1 不当な差別的取扱いとは、正当な理由がないのに、障害があることで、サービスの利用を拒否したり、提供場所や時間帯を制限することなどをいいます。

※2 合理的配慮の不提供とは、障害者から手助けや必要な配慮についての意思が伝えられたときに、必要な配慮を行わないことなどをいいます。

問25 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたことがありますか。（1つに○）

1. ある
2. 少しある
3. ない
4. わからない

次ページの問25-2、問25-2へ

22ページ問26へ進む

【問25-1と同25-2は、問25で「1.ある」または「2.少しある」に○をした方がおたずねします。】

問25-1 どのようなときに不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 公共施設や交通機関を利用するとき
2. 飲食店を利用するとき
3. 情報を得たいとき、コミュニケーションをとりたいとき
4. 買い物をするとき
5. 病院で医療を受けるとき
6. 働きたいとき、働くとき
7. 福祉サービスを使いたいとき、使うとき
8. 学校に通いたいとき、通うとき
9. その他 ()

問25-2 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときに、どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 国の窓口
2. 東京都の窓口
3. 障害福祉課
4. 保健予防課
5. 教育委員会 (教育支援部含む)
6. 障害福祉課・保健予防課・教育委員会以外の区の窓口
7. その他 ()
8. 相談していない
9. どこに相談してよいかわからない

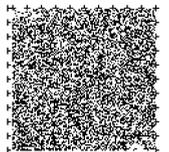
◆災害・緊急時のことについて、おたずねします。

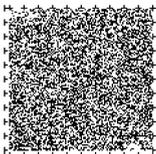
問26 災害(地震等)が発生したときに、お子さんにとって困ることや不安に思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特になし
2. お子さんが災害発生時の連絡を受けるとき
3. お子さんが家族等と連絡をとるとき
4. お子さんが避難所の情報を得るとき
5. 障害特性に配慮した避難所設備
6. 障害特性に配慮した備品品の確保
7. お子さんの避難・移動すること
8. 病院や薬局の情報を得ること
9. お子さんの薬の確保
10. 人工呼吸器等に使う電源の確保
11. 文字や音声による情報提供
12. 手話や点字等の障害特性に応じた情報提供
13. その他 ()

問27 お子さんは、災害(地震等)が発生したときの避難方法を理解・把握していますか。(1つに○)

1. 避難方法を理解・把握し、具体的な対策をしている(家族間でも対策している)
2. 避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない
3. 避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない
4. 家族間でも避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない





問28 あなたは、災害（地震等）が発生した時に、お子さんと、どこに避難したいですか。（1つに○）

1. 在宅避難（自宅に避難）
2. 一次避難所
3. 二次避難所（福祉避難所）
4. 避難先を決めていない

問29 あなたは、災害（地震等）時に備えて、お子さんに必要なものとして何を備えていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 備蓄していない
2. 食料（アレルギー対応食）
3. 食料（経口栄養剤）
4. 食料（上記「2」、「3」以外）
5. 飲料
6. 調整粉乳（アレルギー対応）
7. 日用品
8. 衛生用品（おむつ以外）
9. おむつ
10. 衣服
11. 寝具
12. その他（ ）

問30 お子さんを、避難行動要支援者名簿に登録していますか。（1つに○）

1. 登録している
2. 登録していない
3. 避難行動要支援者名簿について知らない

【問30で「1.登録している」に○をした方におたずねします。】

問30-1 お子さんの個別支援計画を作成していますか。（1つに○）

1. 作成している
2. 作成していない
3. 個別支援計画について知らない

◆その他、台東区への要望等について、おたずねします。

問31 お子さんが地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 待たない
2. 障害に対する理解の促進
3. 相談支援体制の充実
4. 雇用・就労支援の充実
5. 訪問系サービスの充実
6. 日中活動系サービスの充実
7. 障害児の療育の充実
8. 短期入所の充実
9. 入所施設の充実
10. 生活訓練の場の充実
11. グループホーム等の整備
12. 医療機関の充実
13. 建物・道路等のバリアフリー化
14. 災害時の支援体制の整備
15. 障害当事者・家族同士で支えあえる仕組みづくり
16. 生活の支援をしている家族の負担軽減
17. 趣味やスポーツ活動の充実
18. 経済的支援の充実
19. 手話や点字等によるコミュニケーション手段の普及に対する支援
20. その他（ ）

問32 その他、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

※ご本人の意見以外にも、ご家族やお近くの方からお聞きしたことなど、どのようなことでもお書きください。

— ご協力ありがとうございました —

台東区障害者実態調査報告書

令和7年12月

令和7年度登録第47号

編集・発行 台東区役所 福祉部 障害福祉課

〒110-8615台東区東上野4-5-6

電話 03-5246-1206

